

第3回自然環境保全基礎調査

# 動植物分布調査報告書

哺 乳 類

1988

環 境 庁

---

---







## 序

本報告書は、第3回自然環境保全基礎調査の一環として行われた動植物分布調査（全種調査）の結果を取りまとめたものである。

我が国に産する全ての動物種について、分布の現状とその時系列的变化を把握するためには、一つ一つの確実なデータ（いつ、どこに、何がいたか、それを誰が確認したか）を丹念に収集し、蓄積することが必要である。

しかし、動物は移動するものであり、身を守るため本能的に姿を隠す習性があるなど一般に人目に触れる機会が少なく、また形態等が類似しているものがあり、多くの種について確実なデータを得ることはなかなか容易ではない。

従って、全国にわたるこの種の調査を実施するためには、種の分類、同定に関する確かな知識と能力を有する専門研究者の永年にわたる協力が不可欠である。

幸にも、本調査にあたっては、学会等を中心に約2,200名の専門家の理解と協力が得られることとなり、動物分布の把握に向けての第一歩を踏み出すことができた。

この全種調査は、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、淡水魚類、昆虫類（トンボ類、チョウ類、セミ類、ガ類、甲虫類）、貝類（淡水産貝類及び陸産貝類）を対象として実施し、それらの結果を中間報告として9分冊の報告書にまとめたものである。

今回の調査では、約42万件の分布情報が寄せられ、およそ2,000枚の分布図が作成された。しかし、専門家の少なさや地域的偏在、あるいは調査期間の制約などの事情により、分布状況を的確に表現するに至らなかったものも相当数にのぼっている。このため検討会（分科会）において、それぞれの分布図毎に検討し、分布表現の程度を判定し、短いコメントを付すこととした。

このコメントは、今後調査を継続する際に、あるいは、本資料を活用する際に十分留意されるべきものである。

最後に、本調査の企画立案からまとめに至るまでご指導頂いた検討会の先生方並びに、貴重な時間をさいて分布情報の提供に御協力頂いた専門家の皆様に心から感謝の意を表する次第である。



## 発刊に寄せて

今泉吉典

日本から記録された全哺乳類の約80%に当る107種の分布図が出来上がり、この度発刊される運びになった。誠に喜ばしいことである。この分布図は大勢の専門家から提供された厩大な情報を事務局が取りまとめ、検討会が疑問点を検討した上で作製したもので、単純な間違い以外原情報を恣意的に取捨し、或いは訂正したものは一つもない。専門家の生の情報を集積した詳細な分布図は、わが国ではもちろん始めてのものであるが、諸外国にも類を見ないものではないかと思う。情報が得られなかった種の多くは、既に絶滅したらしいもの、これまで数回しか採集されていない稀種の一部、滅多にわが国に接岸しない海獣等であるから、この分布図は、現在わが国に棲息する哺乳類のほぼ全種にわたっていると見てよかろう。長年月に互る努力の結晶である貴重な情報を、学術の発展を願って快く提供された専門家各位に、僭越ながら担当者の一人として衷心から御礼申しあげる。

この分布図は、専門家自身が採集した標本の産地、および観察によって正確に判定できた種の目撃地点を集積したもので、同定が信頼に価することと、調査地域内の種をほぼ網羅していることから見て、学術的な価値が高いものと考えられる。利用者は種の分布図を地形図や植生図にてらし検討し、あるいは異なった種を組合せて分布パターンを子細に比較することによって、同処性異処性、高山性低山性、南方系北方系等の別、競合関係にあるかどうか、分布が拡張または縮小傾向にある、といった情報を随時読み取ることができ、それらを分布、生態、分類等の研究に直接または間接に役立て得ると信ずる。

小型哺乳類や翼手類の分布情報は、標本を採集し同定しない限り得られない。ところがその採集は、都市内ではもちろん、部落内や農耕地でも実施が難しいことが多い。また、中・大型種の多くは夜行性であるため、正確に同定できるまで容易に接近できない。このような事情のため、広汎な地域にわたって分布情報を入手することは、机上で考える程容易でない。今回の分布図の完成度が残念ながら概して低く、満足出来る程度に達したものが少ないのは、このような哺乳類特有の特殊事情によるところが大きい。

この種の分布図は、完成度が高まれば高まるほど、利用価値が飛躍的に増大

するから、誰しも完成度の極めて高いものを希求している筈である。種の分布境界が信頼できる程度の確率で読み取れるまで分布図の完成度を高めることが望ましいが、それには分布情報を大幅に増加する必要があり、より多くの専門家の御協力を仰がねばならない。今後、分布図改訂が行われるような際には、その学術的な重要性に免じて情報提供に関してなお一層の御協力を給るよう、専門家各位に衷心から御願ひ申し上げる。

目 次

序

発刊によせて

I 調査方法	1
1 動植物分布調査（全種調査）概要	1
2 取りまとめの方法	12
3 哺乳類の調査実施状況	20
II 調査結果	25
第1 分布図	27
第2 集計表	154
第3 考察	159
1 考察の総括	159
2 食虫目	162
3 翼手目	165
4 霊長目	167
5 ウサギ目・齧歯目	169
6 食肉目	179
7 鱗脚目	184
8 偶蹄目	185
第4 まとめ	187

### Ⅲ 資 料

1.	第3回自然環境保全基礎調査検討会及び分科会 .....	191
2.	第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査実施要綱 .....	192
3.	動植物分布調査票の記入のしかた .....	195
4.	調査対象種一覧表 .....	203
5.	調査協力者名簿 .....	210
6.	第3回自然環境保全基礎調査 動物分布調査のためのチェックリスト(抜粋).....	211
7.	分布図索引(和名50音順).....	227

# I 調査方法



## 1 動植物分布調査（全種調査）概要

### (1) 目的

本調査は、第3回自然環境保全基礎調査・動植物分布調査の一環として動物の主要分類群の全種（または一部の種）を対象に専門研究者の参加・協力を得て実施したものである。（図1-1）

自然環境保全基礎調査の目的は、全国的視点から我が国における自然環境の現状を科学的に把握し、自然環境保全施策の推進のための基礎資料を提供することである。

野生動物についていえば、人間を含むあらゆる動物は、大気・水・土地やその上に生育する植物（植生）等の環境に依存して生息するとともに、生態系を構成する一員としてそれを支えている側面があるが、中には、環境条件の変化等さまざまなインパクトにより絶滅の危機に頻している種もあり、一方、一部の帰化動物に代表されるように一定条件の下で分布域を著しく拡大するような種もある。

このため、野生動物に関する自然環境保全施策として、当面、絶滅のおそれのある種の保護や人間生活との関わりの中で適切な保護管理を要する種に対する施策が優先的に講じられているところである。

基礎調査の一環として行う動植物分布調査（全種調査）は、これら施策の対象となるべき種の洗い出しや、今後講ずべき施策の検討のための、基礎的かつ客観的資料を提供する目的で、究極的には我が国に産する動物群の全種に関する全国的分布の現状及び経年変化の状況を把握しようとするものである。

### (2) 調査の内容及び方法

全種調査は、究極的にはわが国に産する全ての動物種について、分布の現状を把握するとともに調査の積み重ねにより経年変化状況も把握しようとするものである。

このために必要な最小限の情報は「いつ、どこに、何が」いたかということである。また、必要に応じ情報源をたどるためには「誰が」報告したかということも重要である。

本調査では、調査対象種が多く、また、多数の調査員（専門研究者）の協力を得て実施するため、調査項目は上記に示すできるだけ単純かつ客観的な資料を得るためのものに絞りこんだ。

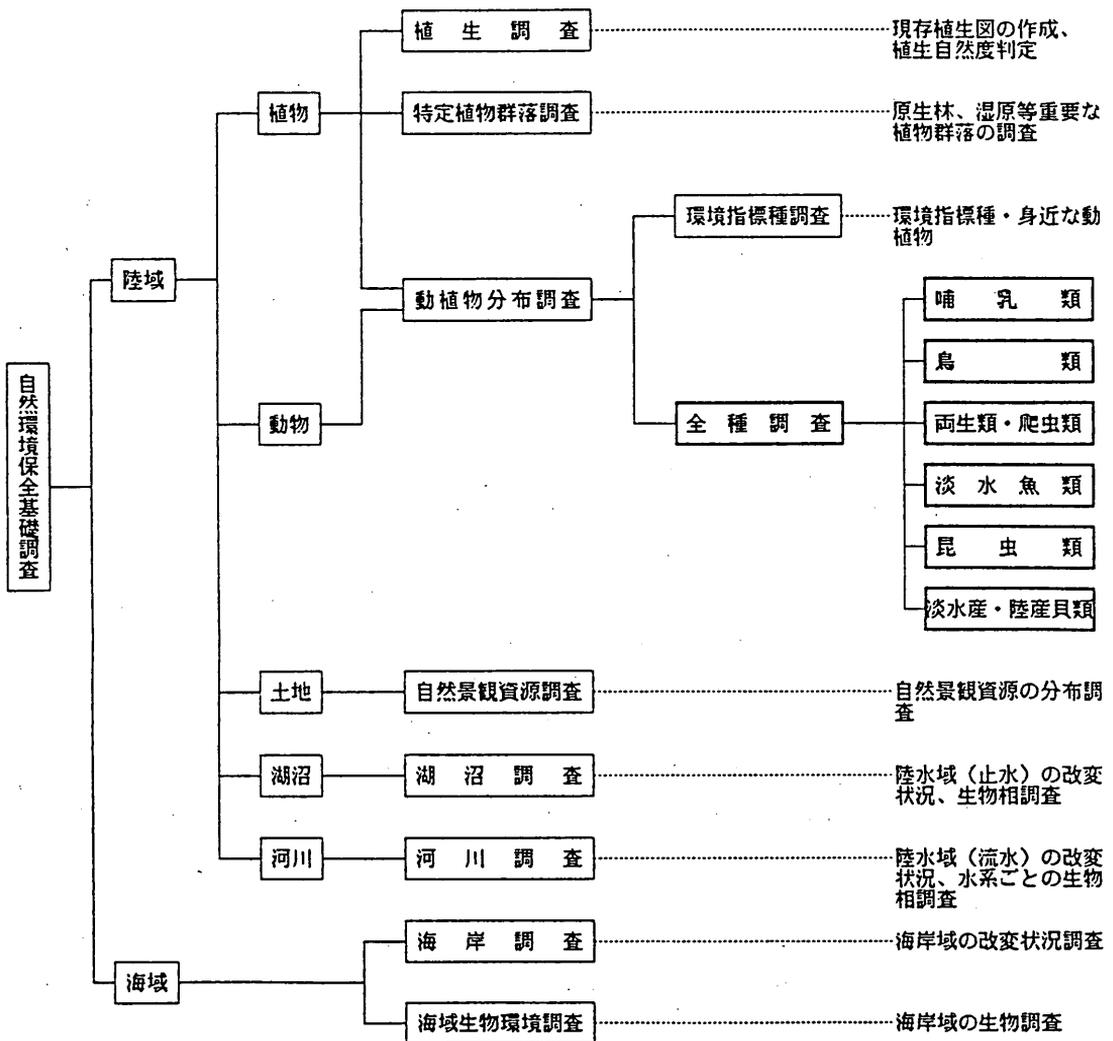
これらの調査項目に関する具体的な調査方法及び調査体制ならびに今回調査における調査対象種については、昭和56年度に実施した「第3回自然環境保全基礎調査（動物分布調査）における調査手法の検討調査」に引き続き、環境庁が設置した自然環境保全基礎調査検討会の下に動物の各分類群毎に設けた分科会（以下「分科会」という。）における検討作業を経て下記のとおり決定された。

#### ① 調査対象種

今回の調査では、生態系の主要な位置を占め、生物学的知見の蓄積がある等の要件を満たし、さらに調査実施体制の構築が可能という観点を加味して次の分類群に属する全部又は一部の種・亜種を対象とした。

- ア. 哺乳類 (全種)
- イ. 鳥類 ( " )
- ウ. 両生類・爬虫類 ( " )
- エ. 淡水魚類 ( " )
- オ. 昆虫類 (トンボ・チョウ・セミ類の全種及びガ・甲虫類の一部)
- カ. 陸産及び淡水産貝類 (全種)

図 I - 1 第 3 回自然環境保全基礎調査骨子



これらの調査対象種について、本調査における種名の呼称の統一をはかるとともに既存の知見を整理するため、調査に先立ち、分類群毎の種名目録等を「動物分布調査のためのチェックリスト」としてとりまとめた。

種名目録は、調査対象種の学名及び和名を対応させるとともに、電算処理のためのコード番号が付されている。(巻末資料参照)

## ② 分布地

調査対象種の分布地を記録する方法としては、地名呼称によるあいまいさを避け、電算処理を容易とするために、「標準地域メッシュ・システム」(昭48. 行政管理庁告示第143号「統計に用いる標準地域メッシュ及び標準地域メッシュコード」)による第3次地域区画(「標準地域メッシュ」または「3次メッシュ」ともいう。本報告書では以下「3次メッシュ」という。)を基本とした。この3次メッシュの大きさは、タテ(緯度差)30秒、ヨコ(経度差)45秒であり、概ね1km×1kmである。

なお、補助情報として従来どおりの地名による表記も採用し、メッシュコードのチェックが可能となるようにした。

なお、今回調査では、一部過去の記録も収集したため、3次メッシュの特定が不可能な場合には「第2次地域区画」(以下「2次メッシュ」という。約10km×10kmの範囲で、1/25,000地形図1枚分に対応する。)により記録した。

## ③ 調査時期

今回調査は、58年度より調査体制の構築を図り、全分類群について59年度に実施した。(さらに、とりまとめの段階で60年度以降のデータも若干補足されている。)

ただし、今回調査は、全種調査として第1回目のものであり、過去の記録、標本等であっても、現在の分布を反映していると考えられる情報については積極的に収集した。

調査年月日は、実際に記録(観察もしくは標本採集)された時点を調査票に記入し、過去の記録については、さらに調査票記入者名のほかに、観察または採集者名及び標本所蔵場所を明記することとした。

(なお、鳥類のみ59年12月～60年1月の期間に限定して一斉に現地調査が実施された。)

## ④ 調査体制

第3回基礎調査の動植物分布調査では、全国各地の調査員(専門研究者)が、自らのフィールドで得た情報を直接環境庁(鳥類については日本野鳥の会)に報告し、環境庁はこれらの報告を集大成して調査員に還元することにより、今後の継続的情報収集に資する調査網づくりと調査精度の向上を目指す調査体制を採用した。

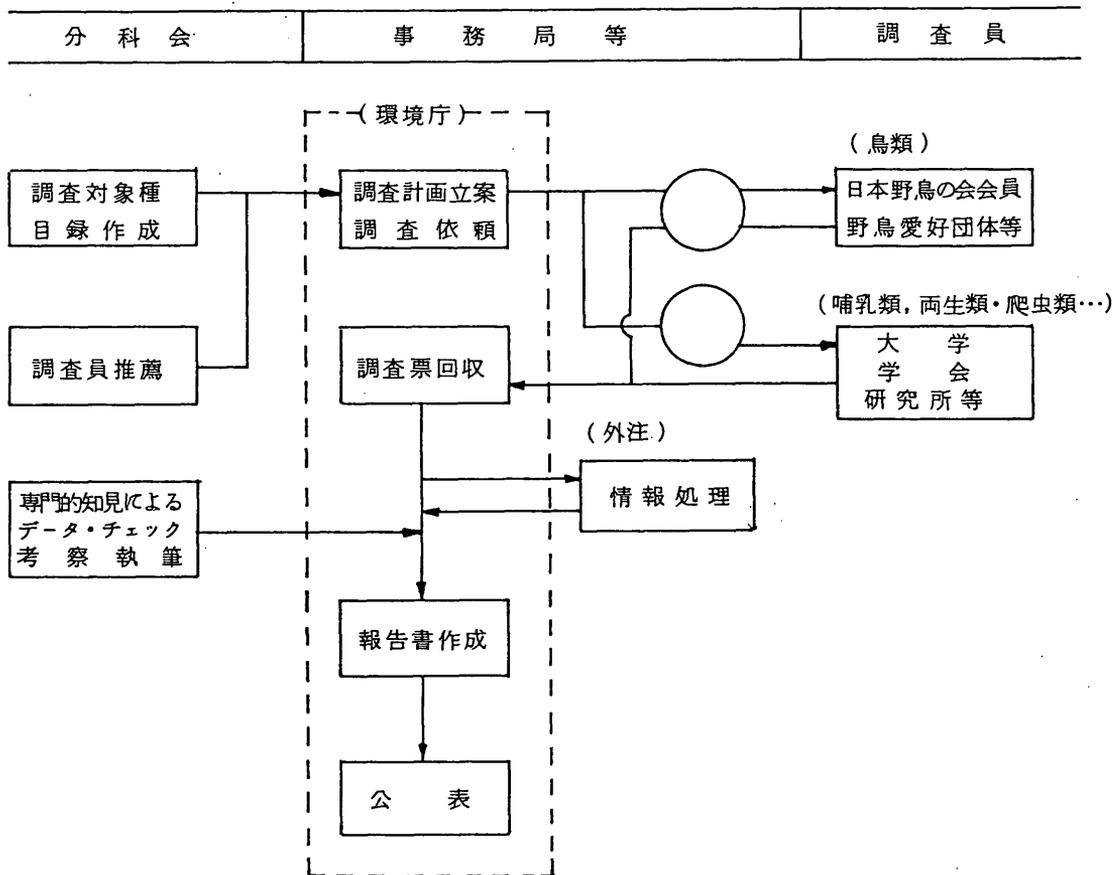
特に動物の分布調査においては、そもそも目指す動物との出会いの機会は偶然性に左右され、少数の調査員に限られた期間に十分なデータを収集することは困難であるため、継続的・反復的調査の必要性が高い。

また、本調査(全種調査)では、調査対象分類群が多岐に上ることから、調査員は、種の種類・同定に関する確かな知識と能力を備えていることが必須である。

このため、原則として分類群毎に、分科会検討員や学会等から推薦されただけ広範な専門研究者に対し、環境庁から直接、調査への協力要請を行い、承諾頂いた方々について調査員として依頼し、調査体制を作った。

調査員数は全分類群を通じ、延べ(2,225)名である。

図1-2 調査体制



注： ○ は、発送等の請負者を示す。

### ⑤ 実施方法

各調査員には、調査実施要綱等（巻末資料参照）のほか、次に示す調査票、メッシュ地形図を送付し、原則として昭和60年3月31日までに調査結果を環境庁あて返送するよう依頼した。

## ア. 調査票

調査票は、分類群別に、図1-3に示すような2種類の様式のものを使用した。これは、調査員の作業の便を考慮したもので、「調査地」毎の情報整理には、縦長の調査票、「種」毎の情報整理には、横長の調査票というように自由に選択して使用できることとした。

### イ. メッシュ地形図

調査地（分布地）のメッシュコードを読みとるために、環境庁が国土地理院の承認を得て、5万分の1地形図上に3次メッシュ区画線等を加刷した「1/5万メッシュ地形図」を作成し、各調査員より申告のあった調査地域分を配付した。（図1-4）

図 1-3-1

## 自然環境保全基礎調査動植物分布調査票

<b>E</b>		<b>7 4</b>	<b>哺乳類</b>
①	②-④	⑤	⑥
調査者名		調査者コード	
(姓) _____		_____	
(名) _____		_____	
カタカナ		メッシュコード	
_____		_____	
_____		_____	
調査年月日		年 月 日	
_____		_____	
_____		_____	
調査地		市区町村	
_____		_____	
_____		_____	

- |                      |                  |                    |
|----------------------|------------------|--------------------|
| 0001 アズミトガリネズミ       | 0025 カグラコウモリ     | 0049 リュウキュウビナガコウモリ |
| 0002 チビトガリネズミ        | 0026 クロアカコウモリ    | 0050 テングコウモリ       |
| 0003 カラフトヒメトガリネズミ    | 0027 モモジロコウモリ    | 0051 コテングコウモリ      |
| 0004 シントウトガリネズミ      | 0028 ドーベントンコウモリ  | 0052 クチバテングコウモリ    |
| 0005 アカシトガリネズミ       | 0029 ウスリホオヒゲコウモリ | 0053 オヒキコウモリ       |
| 0006 オオアシトガリネズミ      | 0030 オゼホオヒゲコウモリ  | 0054 ニホンザル         |
| 0007 コジネズミ           | 0031 ホオヒゲコウモリ    | 0055 タイワンザル        |
| 0008 オナガシネズミ         | 0032 シナノホオヒゲコウモリ | 0056 ナキウサギ         |
| 0009 シネズミ            | 0033 ヒメホオヒゲコウモリ  | 0057 アマミノクロウサギ     |
| 0010 オリイシネズミ         | 0034 コホオヒゲコウモリ   | 0058 ユキウサギ         |
| 0011 ジャコウネズミ         | 0035 カグヤコウモリ     | 0059 ノウサギ          |
| 0012 カワネズミ           | 0036 ノレンコウモリ     | 0060 カイウサギ         |
| 0013 ヒメヒミズ           | 0037 アブラコウモリ     | 0061 タイワンリス        |
| 0014 ヒミズ             | 0038 モリアブラコウモリ   | 0062 エゾリス          |
| 0015 ミズラモグラ          | 0039 オオアブラコウモリ   | 0063 ニホンリス         |
| 0016 モグラ             | 0040 ヒメホリカワコウモリ  | 0064 シマリス          |
| 0017 コウベモグラ          | 0041 クビワコウモリ     | 0065 ホンドモモンガ       |
| 0018 サドモグラ           | 0042 ヤマコウモリ      | 0066 エゾモモンガ        |
| 0019 クビワオオコウモリ       | 0043 コヤマコウモリ     | 0067 ムササビ          |
| 0020 オキナワオオコウモリ      | 0044 ヒナコウモリ      | 0068 ヤマネ           |
| 0021 オガサワラオオコウモリ     | 0045 トウヨウヒナコウモリ  | 0069 ミカドネズミ        |
| 0022 キクガシラコウモリ       | 0046 チチブコウモリ     | 0070 エゾヤチネズミ       |
| 0023 コキクガシラコウモリ      | 0047 ウサギコウモリ     | 0071 シコタンヤチネズミ     |
| 0024 イリオモテコキクガシラコウモリ | 0048 ニホンユビナガコウモリ | 0072 リシリムクゲネズミ     |

0073	ミヤマムクゲネズミ	0093	ヌートリア	0112	イエネコ(野生化)
0074	ニイガタヤチネズミ	0094	ヒグマ	0113	ツシマヤマネコ
0075	トウホクヤチネズミ	0095	ツキノワグマ	0114	イリオモテヤマネコ
0076	ワカヤマヤチネズミ	0096	アライグマ	0115	アシカ
0077	カゲネズミ	0097	タヌキ	0116	トド
0078	スミスネズミ	0098	キツネ	0117	オットセイ
0079	ハタネズミ	0099	イヌ(野犬)	0118	セイウチ
0080	マスクラット	0100	テン	0119	ゴマフアザラシ
0081	アカネズミ	0101	クロテン	0120	ゼニガタアザラシ
0082	ミヤケアカネズミ	0102	チョウセンイタチ	0121	ワモンアザラシ
0083	カラフトアカネズミ	0103	イタチ	0122	クラカケアザラシ
0084	ヒメネズミ	0104	イイズナ	0123	アゴヒゲアザラシ
0085	セスジネズミ	0105	オコジョ	0124	ニホンイノシシ
0086	カヤネズミ	0106	ミンク	0125	リュウキュウイノシシ
0087	ハツカネズミ	0107	アナグマ	0126	ニホンジカ
0088	オキナワハツカネズミ	0108	カワウソ	0127	ツシマジカ
0089	アマミトゲネズミ	0109	ラッコ	0128	エゾシカ
0090	クマネズミ	0110	ハクビシン	0129	ニホンカモシカ
0091	ドブネズミ	0111	インドマンゲース	0130	ヤギ(野生化)
0092	ケナガネズミ				

その他の確認種


環境庁自然保護局企画調整課自然環境調査室

### 自然環境保全基礎調査動植物分布調査票

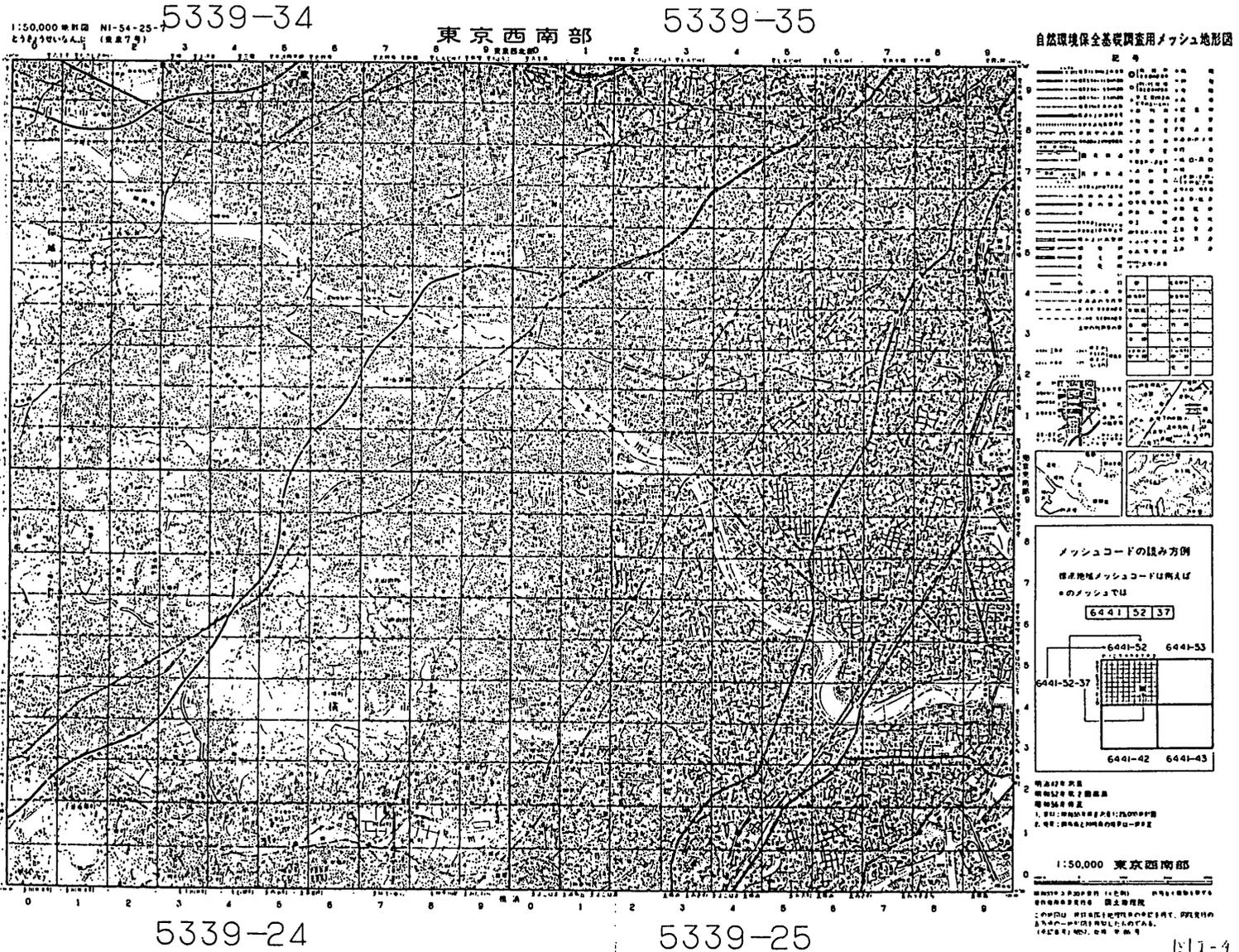
N		7	4	<b>哺乳類</b>
調査者名 (姓) _____ (名) _____ カタカナ	調査者コード _____	種名コード _____		

メッシュコード	調査地	年	月	日	生息環境
		1	9		
		1	9		
		1	9		
		1	9		
		1	9		
		1	9		
		1	9		
		1	9		

		1	9		
		1	9		
		1	9		
		1	9		
		1	9		
		1	9		
		1	9		
		1	9		
		1	9		
		1	9		
		1	9		
		1	9		

標本所蔵場所

図1-4



## 2. 取りまとめの方法

### (1) 情報処理の内容と方法

情報処理は図 I - 5 の手順で進められた。

#### ① 入 力

調査員より返送された調査票は、記入の不備等を点検した上で、分類群別、調査票種別（タテ型、ヨコ型）毎に整理番号を付し、分類群別マスターファイル（MT）を作成した。

なお、調査地（分布地）のメッシュコードは、前述のとおり行政管理庁告示の「標準地域メッシュシステム」に則り、日本工業規格（JIS C 6304）として指定されている区分方法（経緯度法）を用いている。（図 I - 6 参照）

#### ② データの点検

データの記入ミスあるいは調査対象種の誤認等を訂正するため、次に示す3通りの方法でデータの点検を行い、必要に応じ調査者に照会するなどにより、所要の訂正を行った。

なお、本作業を行うにあたっては、マスターファイルを編集し、作業用ファイルを作成するとともに、分布図出力及び調査票検索システムを作成した。

点検の結果、訂正等を要するデータについては、マスターファイルに遡って訂正した。

##### ア. 論理チェック

データの中にあってはならない空白もしくは許されたもの以外の数字、符号、文字がないかどうかを点検するとともに、各項目のコード番号として用いられている範囲（レンジ）外のコード番号がないかどうかを点検した。

##### イ. メッシュコードの点検

国土数値情報（KS-200：土地利用面積ファイル）との照合を行い、明らかに陸地（内水面を含む）を含まないメッシュコードの記入された調査票を検索し、調査票記入の調査地（地名）もしくは調査者への照会に基づき訂正を行った。

##### ウ. 専門家による点検

各分類群毎の分科会検討委員等によって抽出された、分布図上で、明らかに誤りと考えられるデータ、これまでの知見に照らして疑問のあるデータ、1960年以前のデータ（淡水魚類のみ）について、調査票に遡って点検を行い、必要に応じ調査員、鳥類については日本野鳥の会各支部等に照会を行った上で所要の訂正または削除を行った。

#### ③ 分布図及び集計表の出力

上記の作業を経た訂正後のマスターファイルを再編集し、本報告書掲載の分布図及び集計表の出力を行った。

### (2) 調査結果の検討及び考察

調査結果については、分類群毎に分科会で下記のとおり検討を行った。

#### ① 分布図の表示単位

本調査の原データは、前述の通り3次メッシュ（約1 km×1 km）単位で収集されたが、今回のとりまとめにおいて作成する分布図は次の観点から2次メッシュ（約10 km×10 km）単

位で表示することとした。

ア. 全国的分布図として見る場合、見易いものであること。

イ. 生息地の公表による乱獲を防止するため、生息地が特定されないようにできるだけ広い単位であること。

ウ. 各種開発に当たり、配慮すべき地域（貴重種の生息地等）に関する基礎的情報をあらかじめ提供することは、自然環境保全上重要であるので、上記イ. の観点も踏まえ公表可能な表示単位であること。

## ② 公表を控えるべきデータの取り扱い

第2回自然環境保全基礎調査・動物分布調査では、上記①-イ. の観点から、分布地を全て非公表とした調査対象種もあった。

今回調査でも、調査員からの申し出により、3次メッシュでの公表を差し控えるべきデータが若干数報告されたが、上記①-ウ. の趣旨に則り、調査員の了解が得られたデータについては、2次メッシュ情報のみ入力し、分布図に表示することとした。

## ③ 分布図についてのコメント

今回調査では、調査の期間が限られており、又分類群あるいは地域によっては、十分な調査員数が確保できなかったこと等から、調査対象種の全てについて従来から知られている分布パターンを十分表わした分布図が作成されたわけではない。

そこで、分布図の誤った解釈や不適切な引用を避けるために、各分科会検討員によりそれぞれの調査対象種がどの程度従来から知られている分布パターンを表現できているかについて類型区分の判定を行い、分布図上に短いコメントとして明記することとした。

## ④ 考 察

調査結果に関する考察は、各分科会において選出された担当者により執筆された。

図 I - 5 情報処理の手順

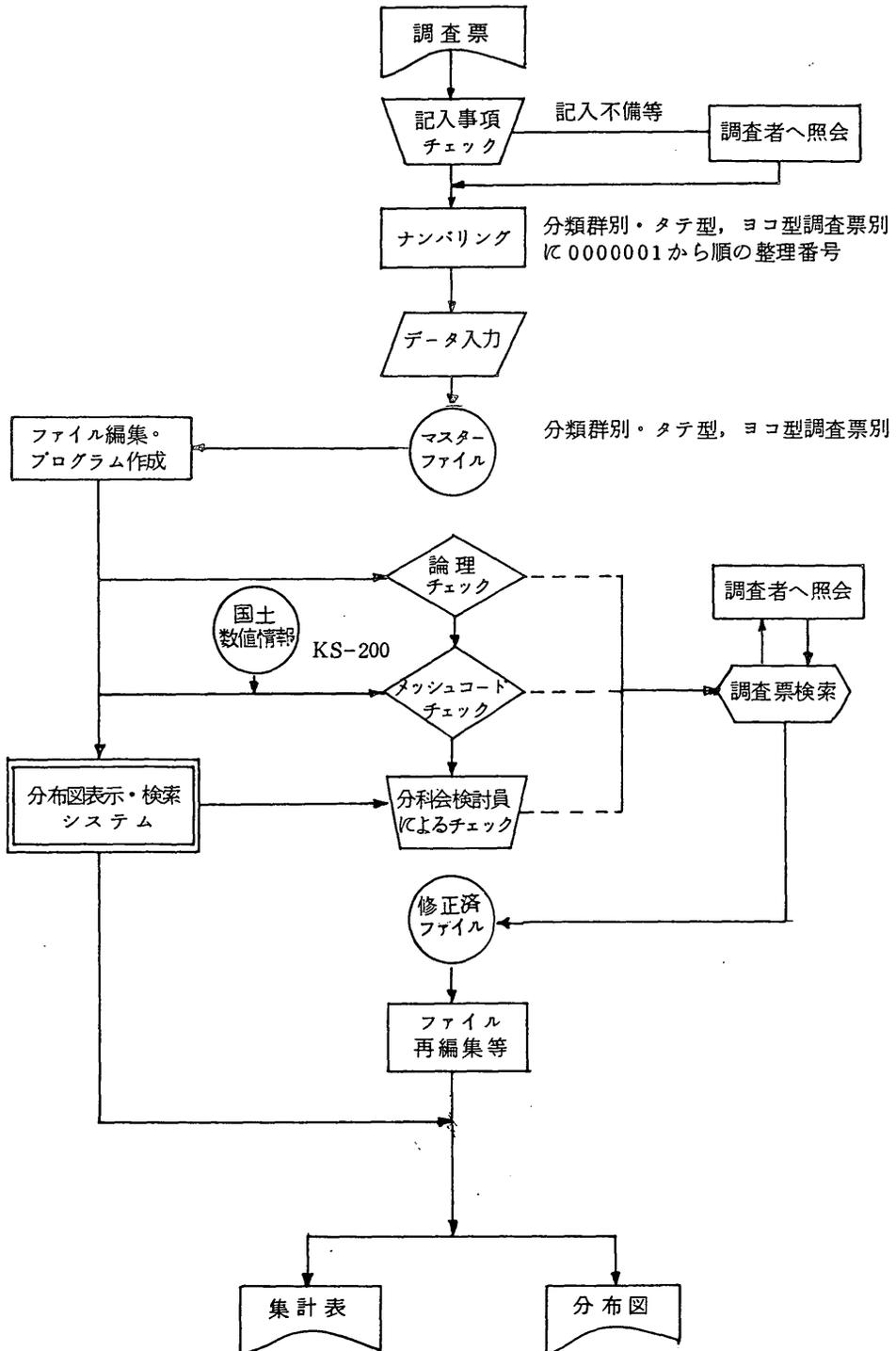
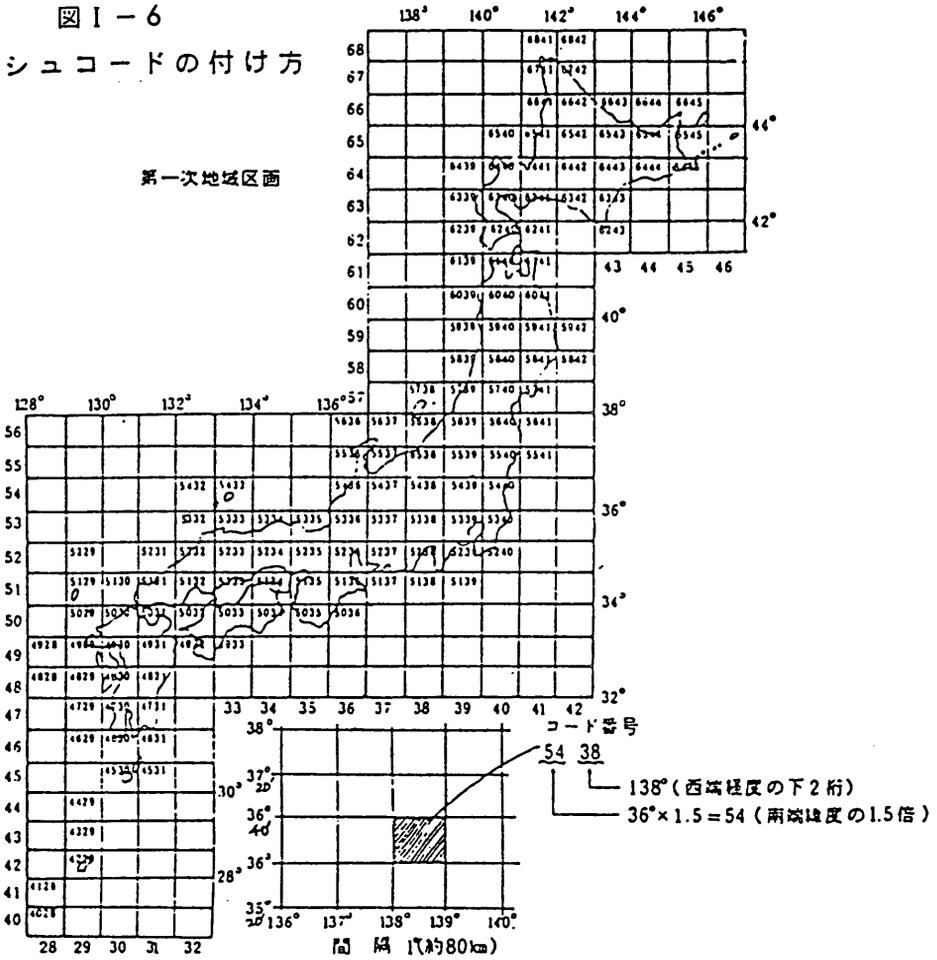
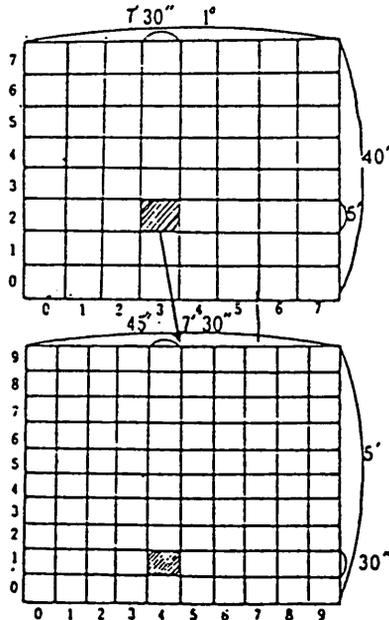


図 I - 6  
メッシュコードの付け方



第一次地域区画

第一次地域区画のコード番号の付け方



第2次地域区画

第二次地域区画は、第一次地域区画を8分割したもので、国土地理院1/25万地形図の1枚に当る。大きさは5' x 7'30"で約10 x 10 kmである。コード番号は、

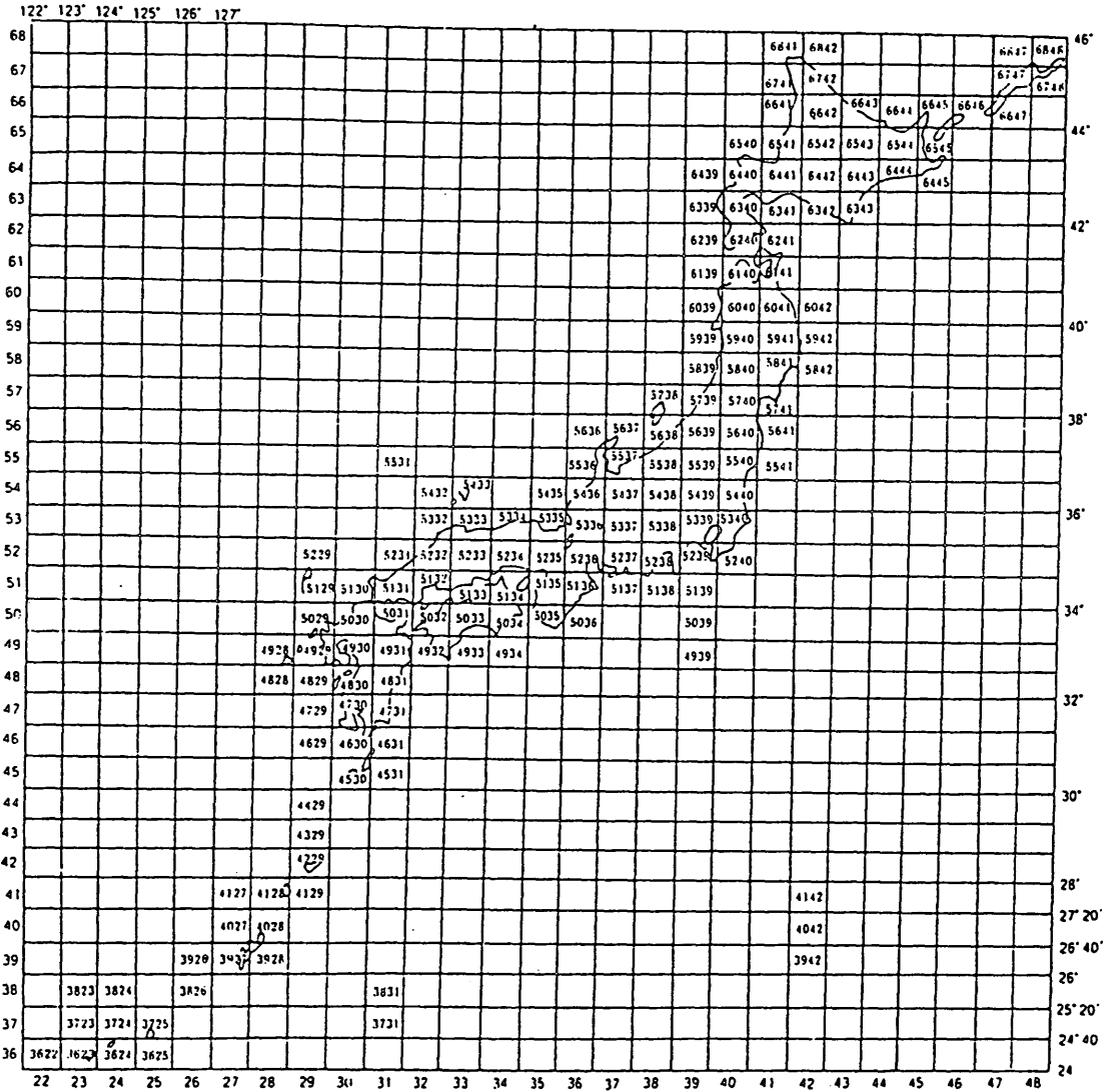
5438 - 23  
└─ 第二次地域区画のコード番号  
└─ 第一次地域区画のコード番号

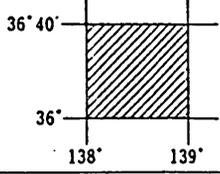
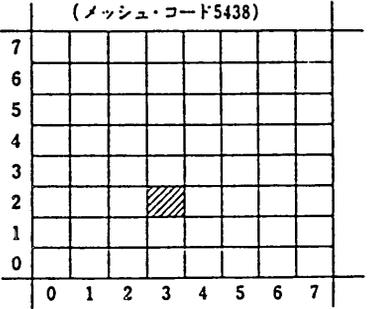
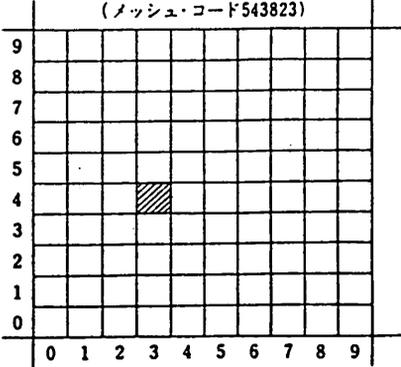
第三次地域区画

(基準メッシュ、1kmメッシュ)  
第二次地域区画を10分割したもので、大きさは30" x 45"で、約1 x 1 kmである。コード番号は、

5438 - 23 - 14  
一次 二次 三次

# 第 1 次地域区画图



	メッシュ・コードのけた数	メッシュ・コードの付け方	例
第1次地域区画	4けた	<u>上2けた</u> (南端緯度)×1.5  <u>下2けた</u> (西端経度の下2けた)	<南端緯度36°, 西端経度138°の場合> (上2けた) = 36×1.5 = 54 (下2けた) = 38 ↓ メッシュ・コードは5438 
第2次地域区画	6けた	<u>上4けた</u> 第1次地域区画のメッシュ・コード  <u>5けた目</u> 第1次地域区画の縦の等分区画に南から0～7の番号を付け、これをそれぞれの区画を示す数字とする。  <u>6けた目</u> 第1次地域区画の横の等分区画に西から0～7の番号を付け、これをそれぞれの区画を示す数字とする。	 <p>  の地域のメッシュ・コードは543823            第1次地域区画            (メッシュ・コード5438)         </p>
基準地域メッシュ (第3次地域区画)	8けた	<u>上6けた</u> 第2次地域区画のメッシュ・コード  <u>7けた目</u> 第2次地域区画の縦の等分区画に南から0～9の番号を付け、これをそれぞれの区画を示す数字とする。  <u>8けた目</u> 第2次地域区画の横の等分区画に西から0～9の番号を付け、これをそれぞれの区画を示す数字とする。	 <p>  の地域のメッシュ・コードは54382343            第2次地域区画            (メッシュ・コード543823)         </p>

(3) 分類群別の調査状況

分類群別の調査状況を表 I - 1 に示す。

表 I - 1 分類群別調査状況

分類群	(1) 調査対象 種数	(2) 報告のあった 種数	(3) 延べ報告件数 (分布情報総数)	(4) 延べ報告 メッシュ数 (3次メッシュ)	(5) 報告 メッシュ数 (2次メッシュ)	(6) 調査員数
哺乳類	129	107	3,997	3,330	508	41
鳥類	538	321	21,667	183,236	2,401	1,619
両生類・爬虫類	144	126	8,164	7,002	1,152	59
淡水魚類	195	158	20,161	14,109	1,058	40
昆虫類						
トンボ類	203	169	19,203	14,980	1,092	57
チョウ類	286	258	91,405	70,223	19,666	186
セミ類	32	32	1,581	1,394	388	28
ガ類	251	230	21,598	14,246	630	59
甲虫類	104	55	1,792	1,346	308	27
陸産及び淡水産貝類						109
陸産貝類	647	511	32,825	25,901	19,499	(102)
淡水産貝類	117	100	5,130	4,405	823	(80)
計	2,646	2,067	422,534	340,172	122,750 (全国 4,730 メッシュ)	2,225

注：( )内は参考

注

- (1) 調査対象種数： 各報告書の巻末資料に示された調査対象種(亜種)(コード番号が付されたもの)の数である。
- (2) 報告のあった種数： 本調査の結果、分布図が作成された種(亜種)の数である。
- (3) 延べ報告件数： 各調査票に記載された報告を、「種-調査者-メッシュコード-調査年月」(分布情報総数)という単位で整理して得られた分布情報の総数である。
- (4) 延べ報告メッシュ数： 上記(3)の分布情報から、同一種、同一メッシュにおける報告を統合し、(3次メッシュ)「種-メッシュコード」という単位で整理して得られた数である。  
(各報告書Ⅱ-2「集計表」に示された「種別・都道府県別集計表」の総合計の数。)

(5) 報告メッシュ数： 当該分類群において、いずれかの種の報告が得られた2次メッシュの数である。  
(2次メッシュ)

(各報告書 I-3, 図 I-7 に表示されたメッシュ数。)

(6) 調査員数： 各分類群毎に、報告を寄せられた調査員の数。

(但し、陸産及び淡水産貝類は、重複する調査員が大半を占めるため、まとめて示した。)

### 3 哺乳類の調査実施状況

#### (1) 調査対象種

日本産の既知の哺乳類129種の全種につき、種レベルで調査対象とした。

#### (2) 調査員

分科会検討員より推薦された専門研究者の中から、41名が参加・協力した。

調査員の居住地（都道府県）別人数は、表I-2のとおりである。

表I-2 調査員居住地（都道府県）別人数

北海道	6	東京	7	滋賀	0	香川	0	
青森	1	神奈川	2	京都	0	愛媛	0	
岩手	7	新潟	0	大阪	1	高知	0	
宮城	1	富山	0	兵庫	0	福岡	1	
秋田	0	石川	0	奈良	0	佐賀	0	
山形	1	福井	0	和歌山	0	長崎	0	
福島	0	山梨	0	鳥取	0	熊本	1	
茨城	0	長野	1	島根	0	大分	0	
栃木	0	岐阜	1	岡山	0	宮崎	0	
群馬	0	静岡	2	広島	0	鹿児島	1	
埼玉	1	愛知	4	山口	0	沖縄	2	
千葉	1	三重	0	徳島	0			
							計	41

#### (3) 調査状況

##### ① 全国の調査状況

哺乳類に係る調査状況は表I-3のとおりである。

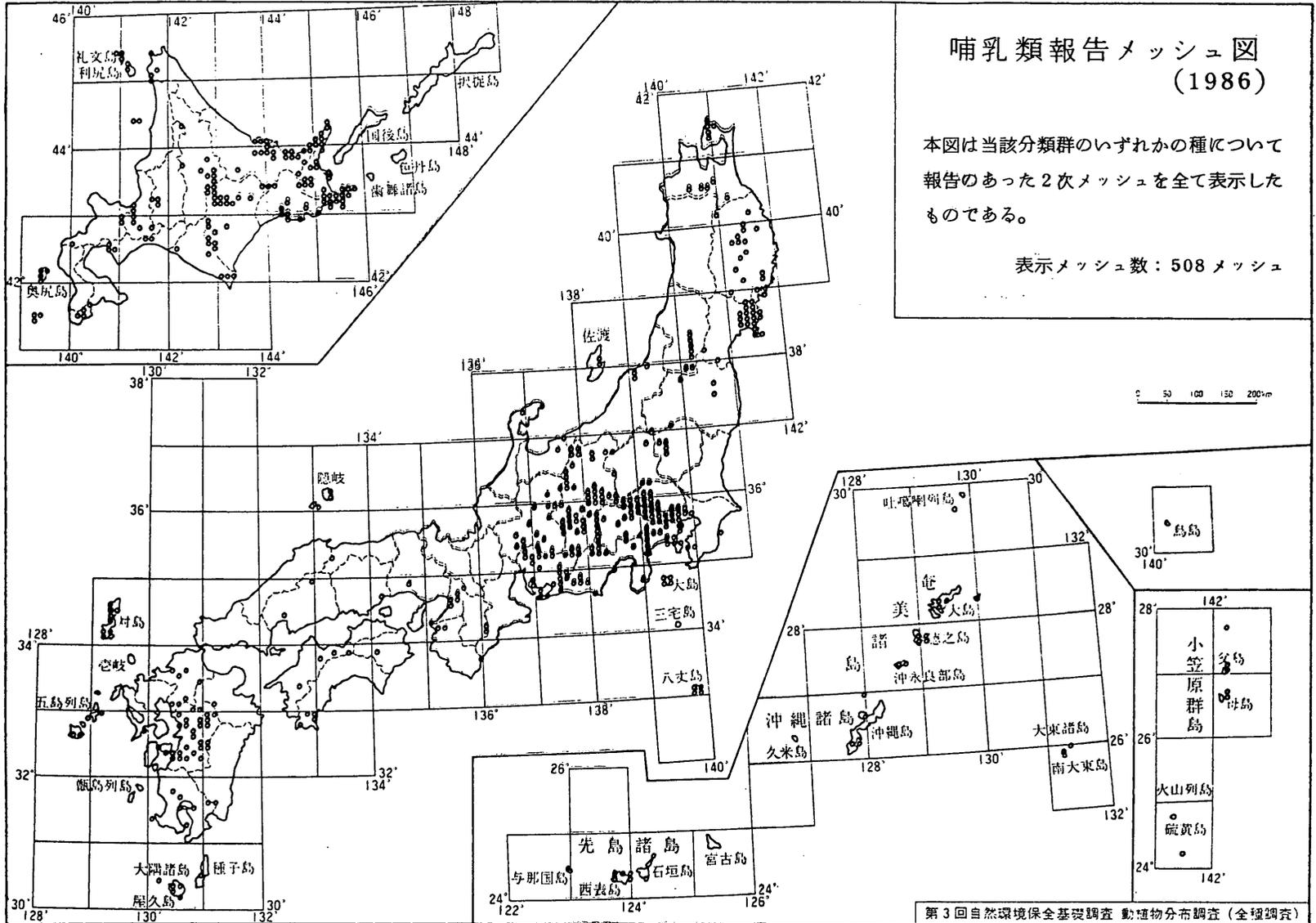
また、当該分類群のいずれかの種について報告のあった2次メッシュを全て表示したものを図I-7に示す。

表I-3

哺乳類調査状況総括表	
調査対象種数	129
報告のあった種数	107
調査員数	41
延べ報告件数*1	3,997
延べ報告メッシュ数(3次メッシュ)*2	3,330
"(2次メッシュ)*3	2,143
哺乳類報告メッシュ数(3次メッシュ)*4	1,286
"(2次メッシュ)*5	508

- \* 1 「ある調査員」から「ある調査対象種」について「あるメッシュ」において「ある調査年月日」に記録された報告を1件としてカウントされた数の総合計
- \* 2 \*1のうち、同一種、同一メッシュ（3次メッシュ）における情報を統合して得られた延べ数
- \* 3 \*1のうち、同一種、同一メッシュ（2次メッシュ）における情報を統合して得られた延べ数  
（種別分布図に記されたプロット数の総合計）
- \* 4 当該分類群のいずれかの種について報告のあった3次メッシュ数
- \* 5 " 2次メッシュ数

図 1-7



② 分布図データの年代別状況

分布図に表示されたデータの調査年代別の内訳は表1-4のとおりである。但し、この表では、全報告データのうち、同一種、同一2次メッシュの報告については、最新のデータをもって代表させている。

表1-4 分布図データの年代別状況

昭和20年以前	1	0.0%
昭和20年代	13	0.6
昭和30年代	89	4.2
昭和40-44年	98	4.6
昭和45-49年	94	4.4
昭和50-54年	413	19.3
昭和55年以降	1,424	66.4
調査年代無記入	11	0.5
合計	2143	100.0



## II 調查結果



## 第1 分布図

調査対象種のうち、原則として、1件でも報告のあった種・亜種について分布図を作成した。配列は、巻末資料「調査対象種一覧表」に示された調査対象種・亜種の順である。

- 注(1) 分布図の表示単位は、2次メッシュ(1/25,000地形図1枚分の区画に相当する。およそ10 km×10 km)である。
- (2) ○印は、当該種が生息するという報告のあった2次メッシュの中心の位置を示すものであり、必ずしも分布地の中心を示すものではないことに留意されたい。

### 〔分布図上のコメント類型区分について〕

それぞれの分布図の種名・学名及びメッシュ数欄の下には、「序」及び「I 調査方法(ページ)」でも触れたとおり、類型化された短いコメントを表示してある。これは、今回調査の結果が必ずしも全ての調査対象種について、専門家の知見に照らして従来から知られている分布パターンを十分表わしているわけではないことから、分布図の誤った解釈、不適切な引用を避けるために、各分科会検討員により、当該分布図が、どの程度従来から知られている分布パターンを表現できているかについて類型区分を行ったものである。

類型区分の種類と、その意味する内容は下記のとおりである。

#### 1. 「分布パターンを表わしている」

従来から知られている当該種の分布パターンをほぼ表わす情報が収集されたもの。なお、広域分布種については、必ずしも稠密な報告が寄せられたか否かを判定基準とはせず、全体の輪郭が把握されたものは、この類型に含めた。

#### 2. 「やや情報不足」

従来から知られている当該種の分布パターンをかなり表わしてはいるが、一部の地域からの情報が欠けているなど、完全に表わしたとはいえず、今後なお情報空白地域の解消に努める必要があるもの。

#### 3. 「情報不足」

広域分布種であるにも拘らず、限られた地域からの情報しか得られなかったもの。

あるいは、模式産地等重要な分布地又はその周辺地域からの情報が無いなど、当該種の分布を物語る上で極めて不十分な情報しか得られなかったもの。

4. 以上のほか、従来から知られている自然分布地とは異なる地域からの情報が得られており、その原因が明らかまたは推定できるものについては、下記のとおり類型化したコメントを用いた。

「国内における移殖」(淡水魚類、両生類・爬虫類)

「国外からの移殖」(淡水魚類、両生類・爬虫類、哺乳類)

「迷鳥」(鳥類)

「夏鳥・旅鳥の越冬と思われる」( " )

「野生化飼養鳥類」( " )

「家畜・ペット等が野生化したもの」(哺乳類)

「増殖・放獣されたもの」( " )

5. この他にも、特に注意を要するものについては個別に短いコメントを付した。

# 哺乳類分布図

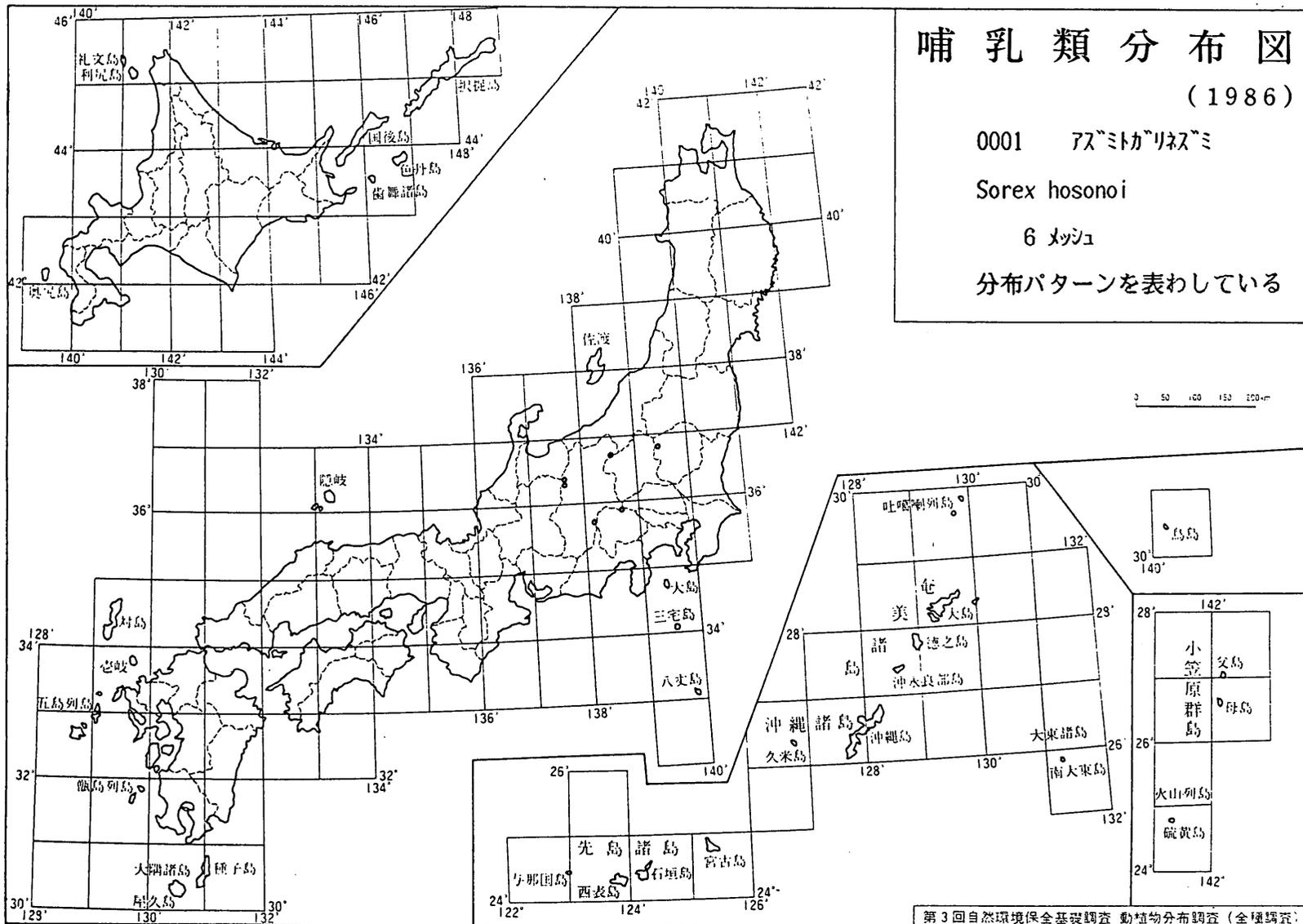
(1986)

0001 アズミカリスミ

*Sorex hosonoi*

6 メッシュ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

(1986)

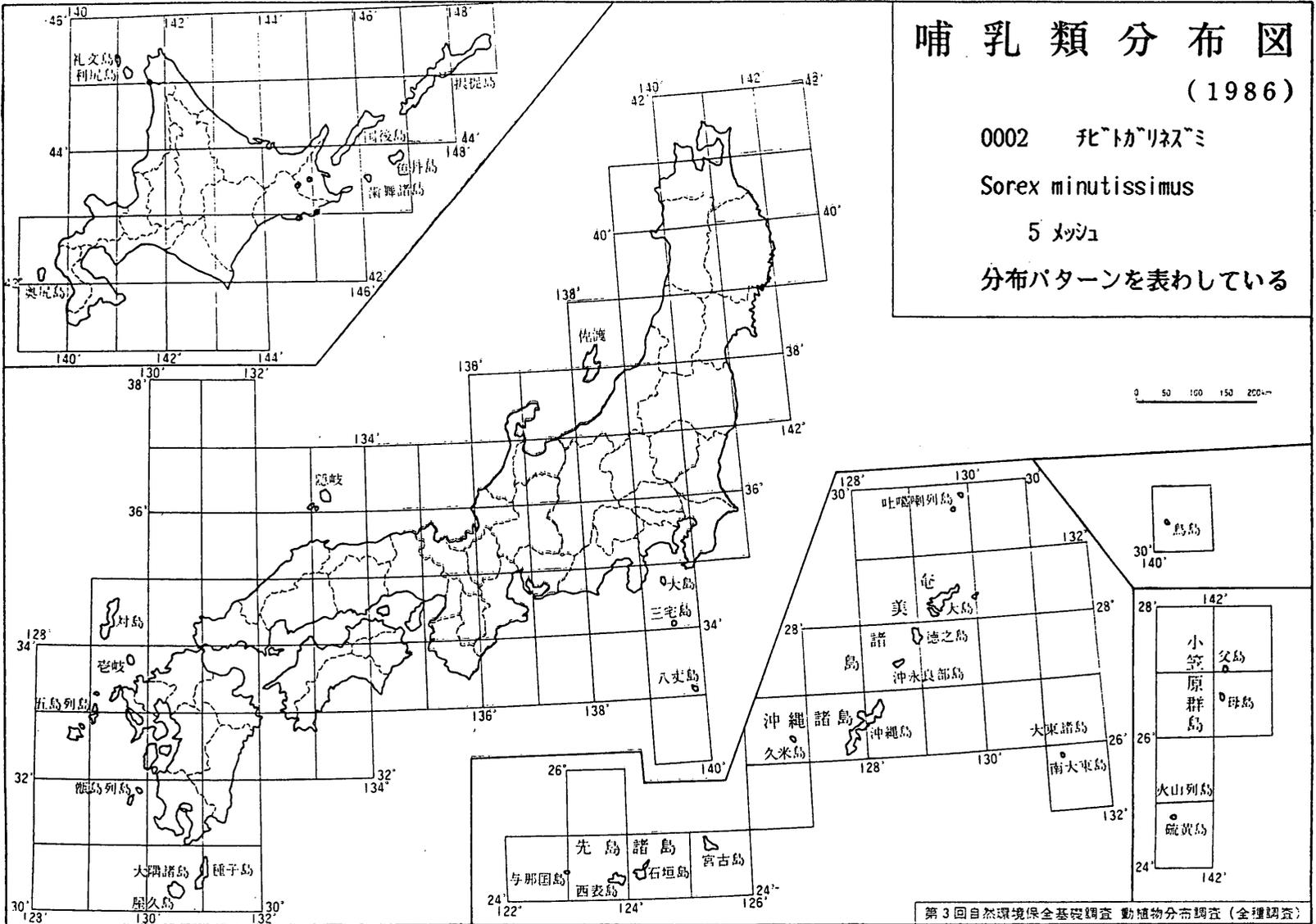
0002 ヒトガリヌミ

*Sorex minutissimus*

5 メッシュ

分布パターンを表わしている

0 50 100 150 200 km



第3回自然環境保全基礎調査 動物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

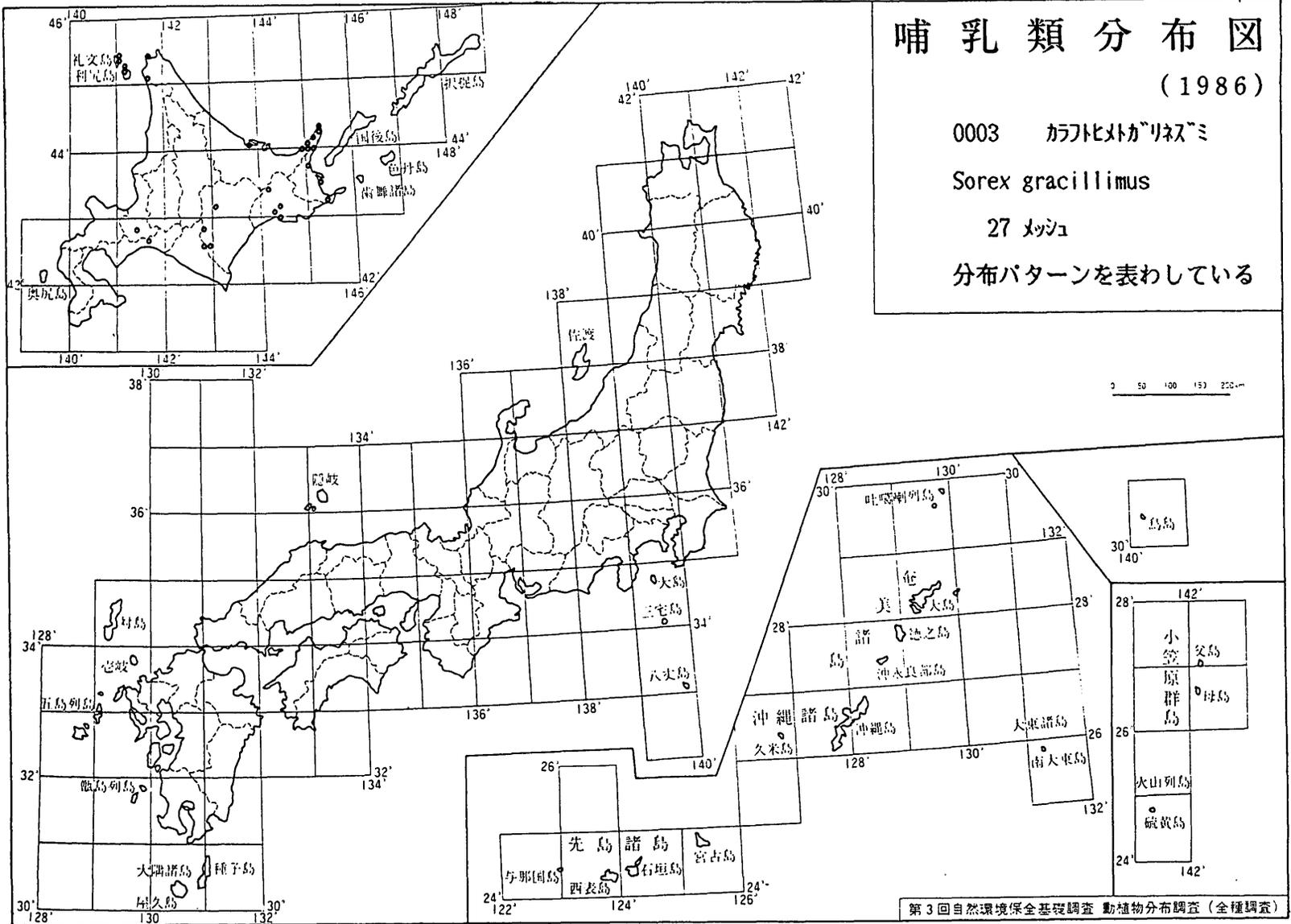
(1986)

0003 カワヒトガリネズミ

*Sorex gracillimus*

27 ヲシ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

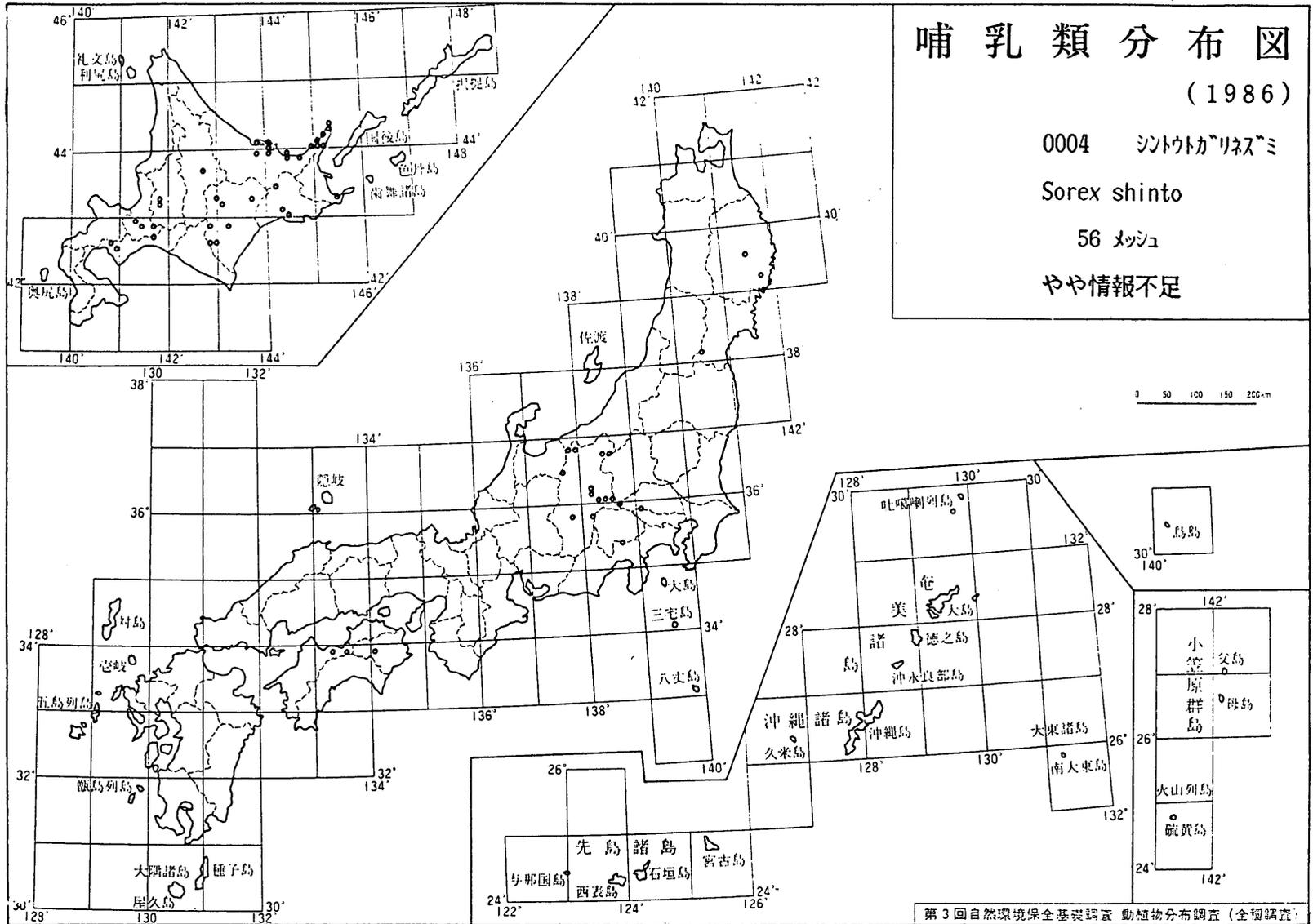
(1986)

0004 シントウカリスミ

Sorex shinto

56 ヲシ

やや情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動物分布調査 (全樹調査)

# 哺乳類分布図

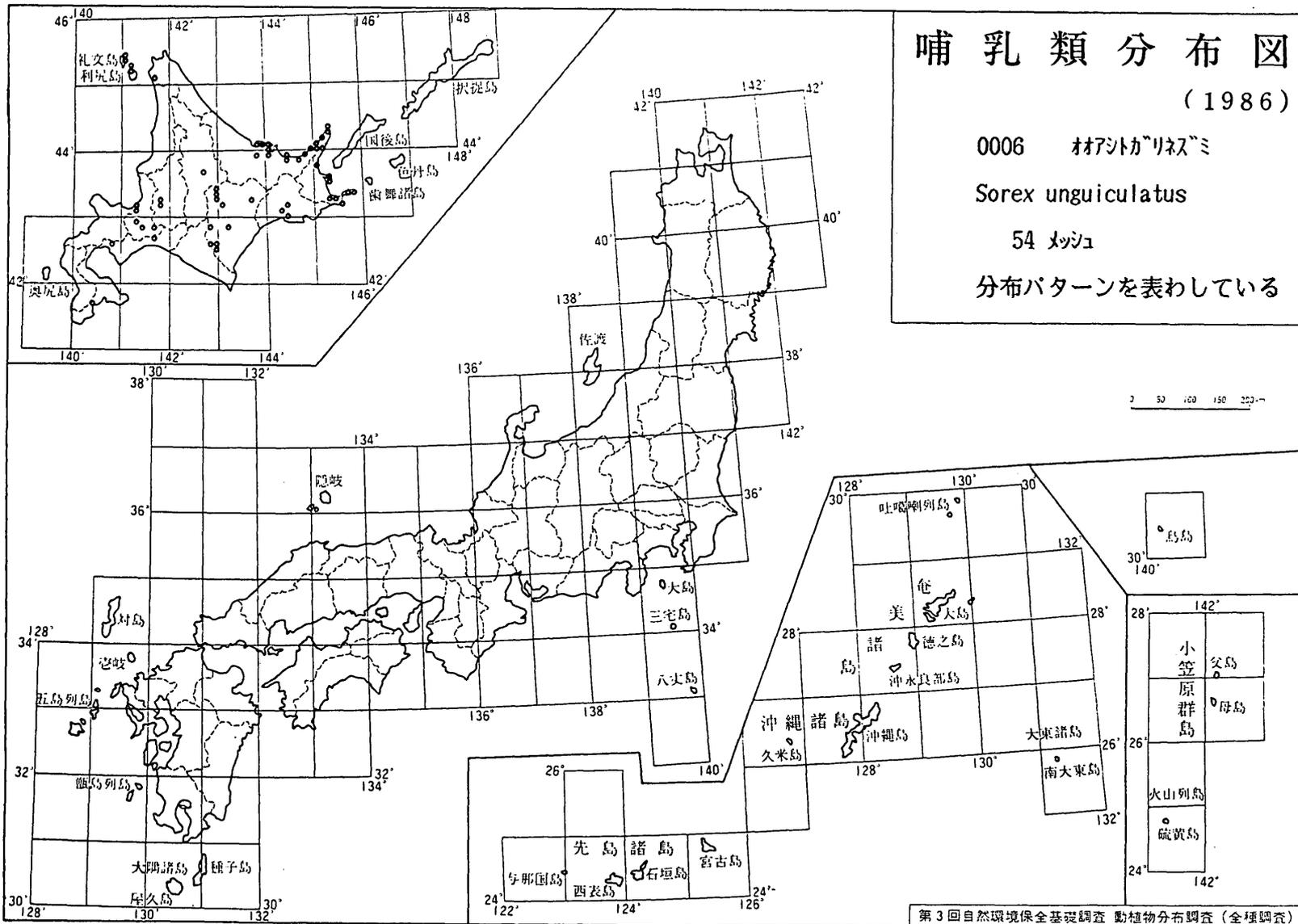
(1986)

0006 材アジカリネズミ

*Sorex unguiculatus*

54 ヌシ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

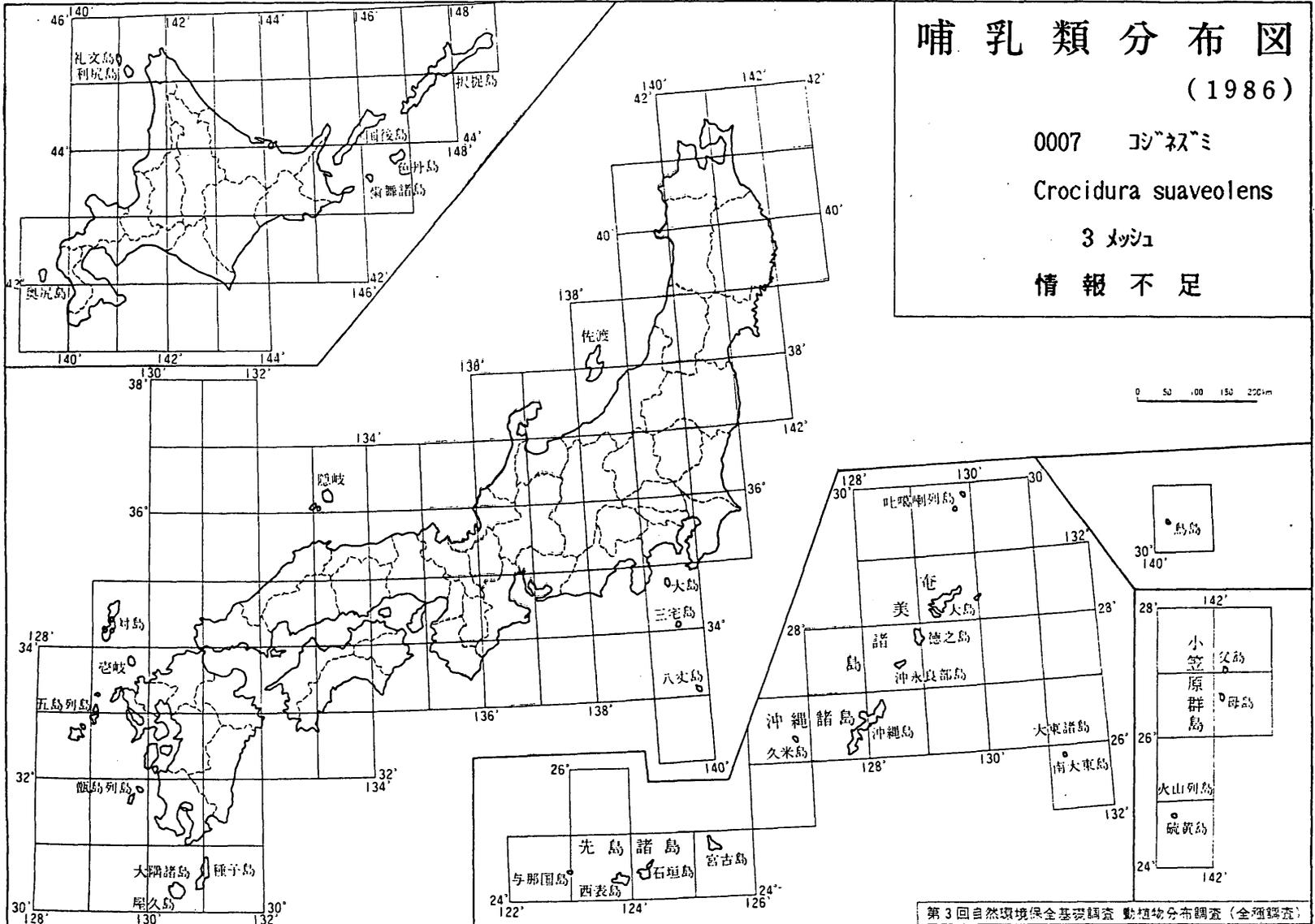
(1986)

0007 コシノメ

*Crocidura suaveolens*

3 ヲシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

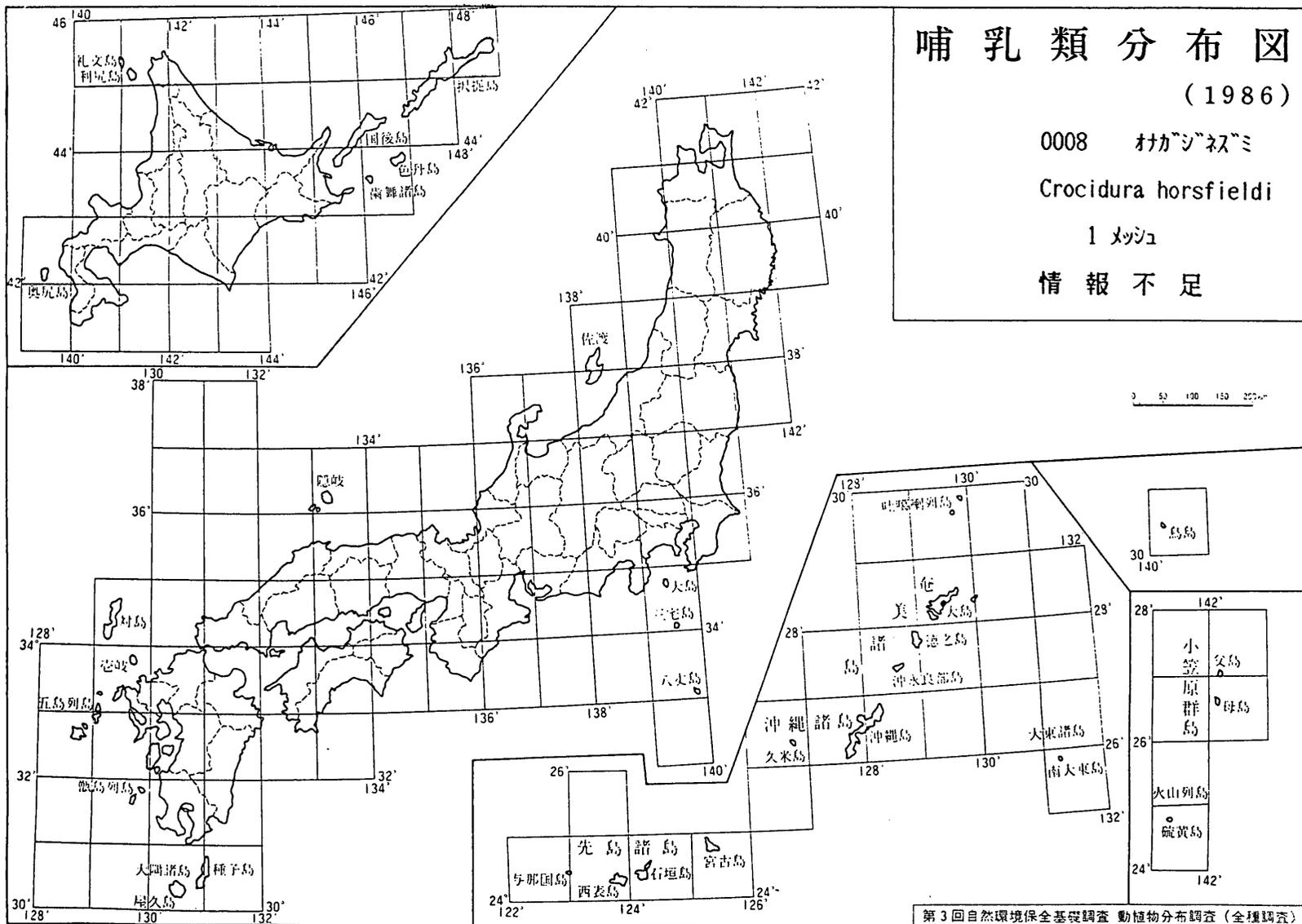
(1986)

0008 カガジノネズミ

*Crocidura horsfieldi*

1 ヌシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

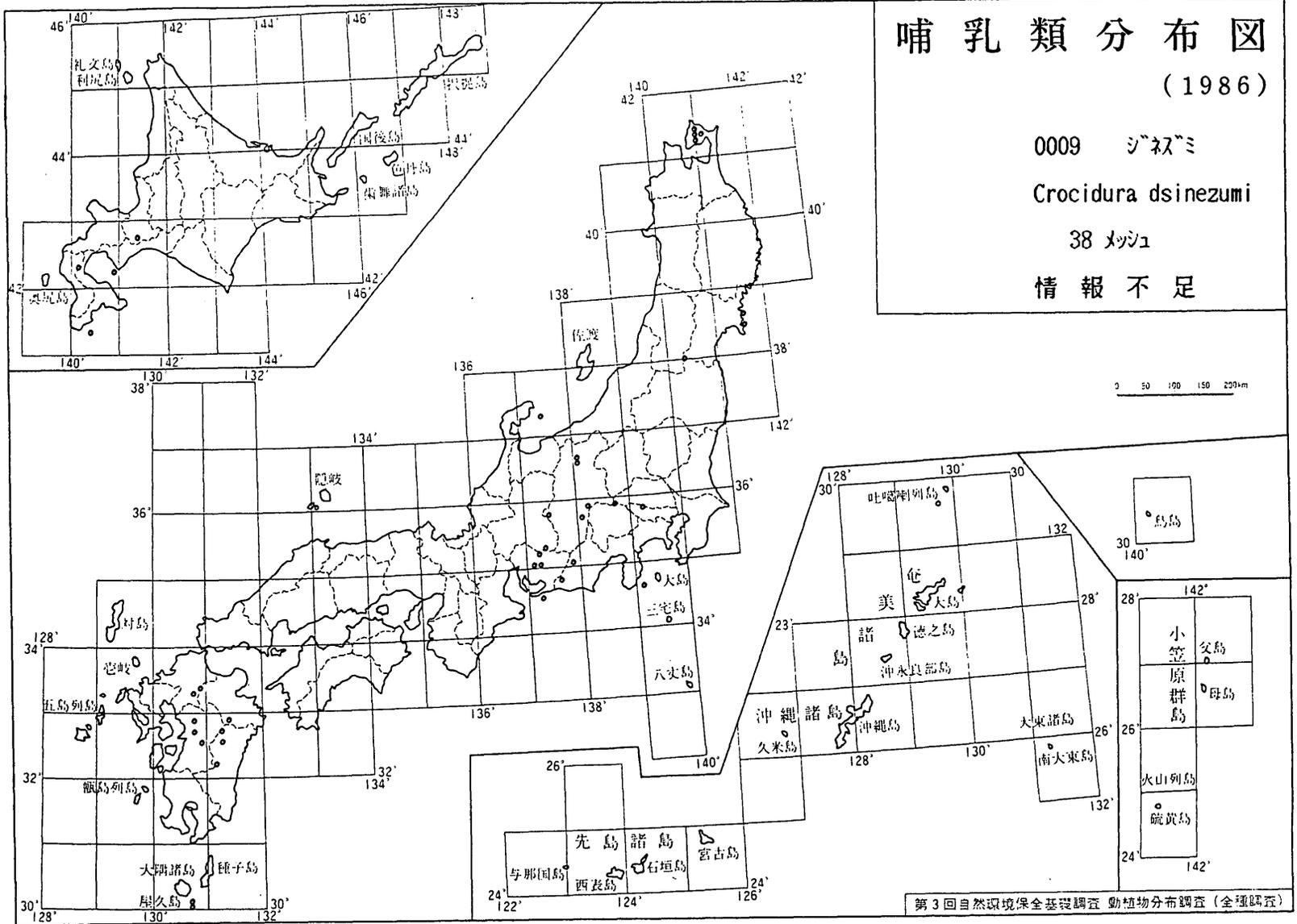
(1986)

0009 ジネズミ

*Crocidura dsinezumi*

38 メッシュ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

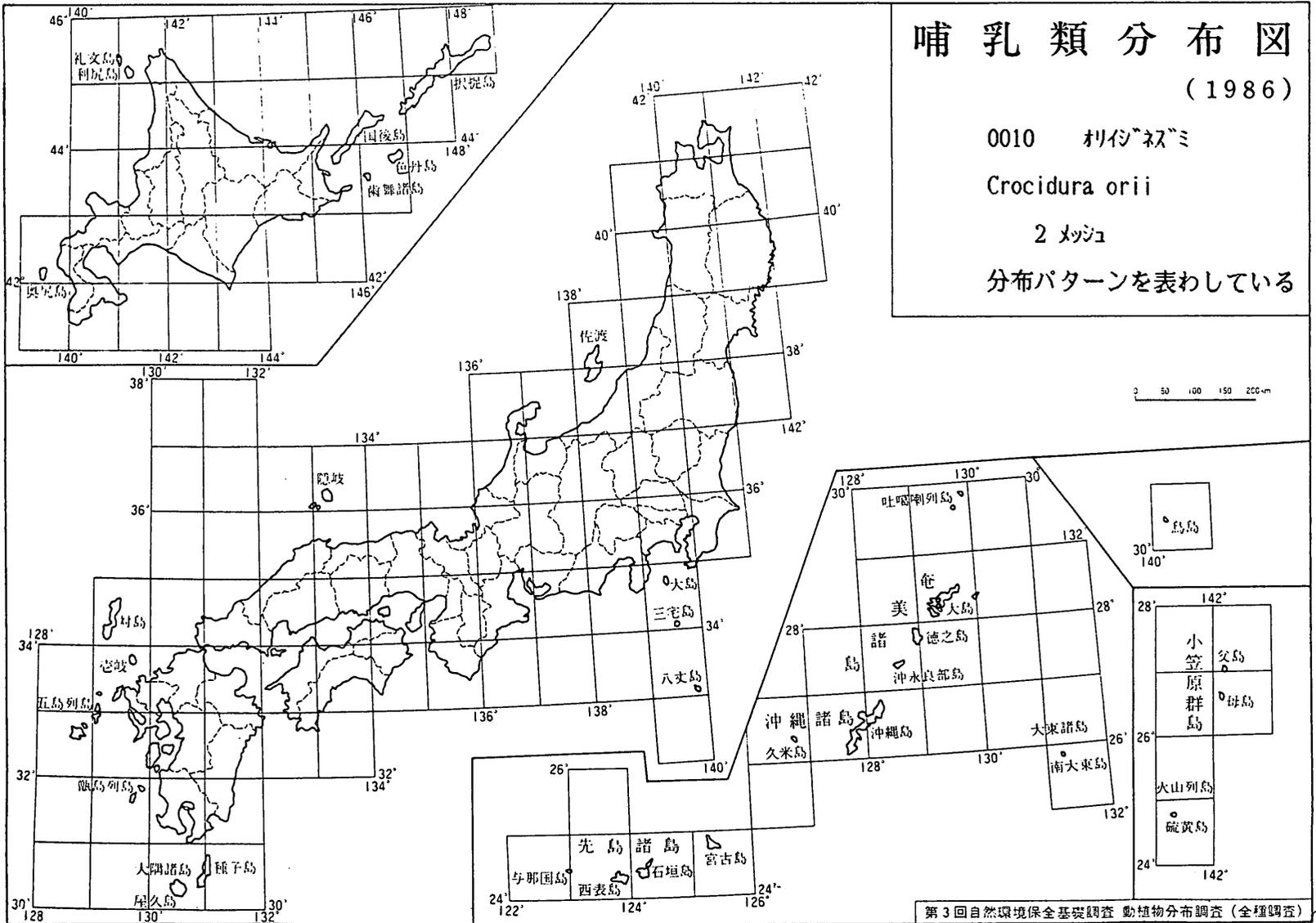
(1986)

0010 リビノスミ

*Crocidura orii*

2 メッシュ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

(1986)

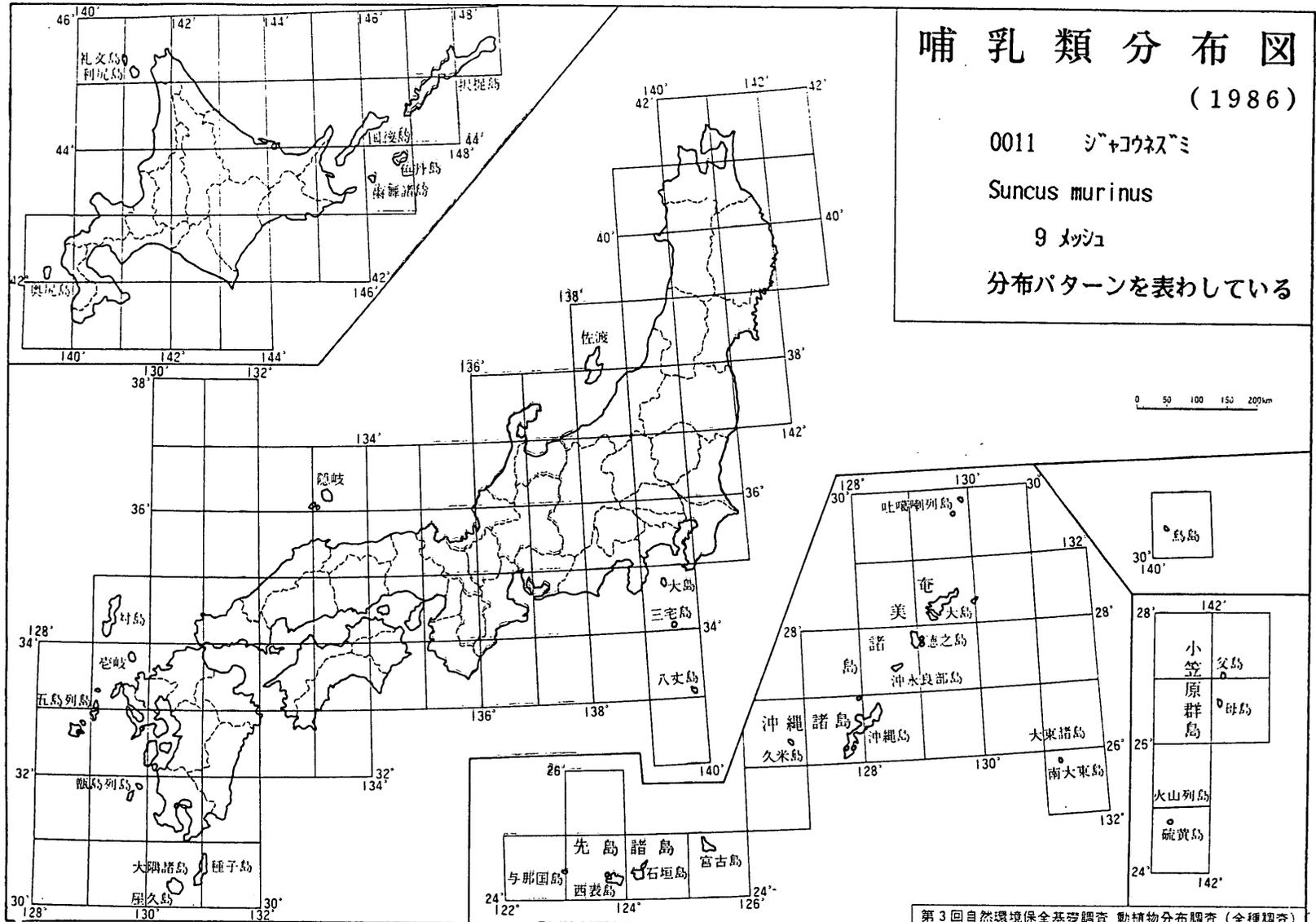
0011 シマコウネズミ

*Suncus murinus*

9 メッシュ

分布パターンを表わしている

0 50 100 150 200km



# 哺乳類分布図

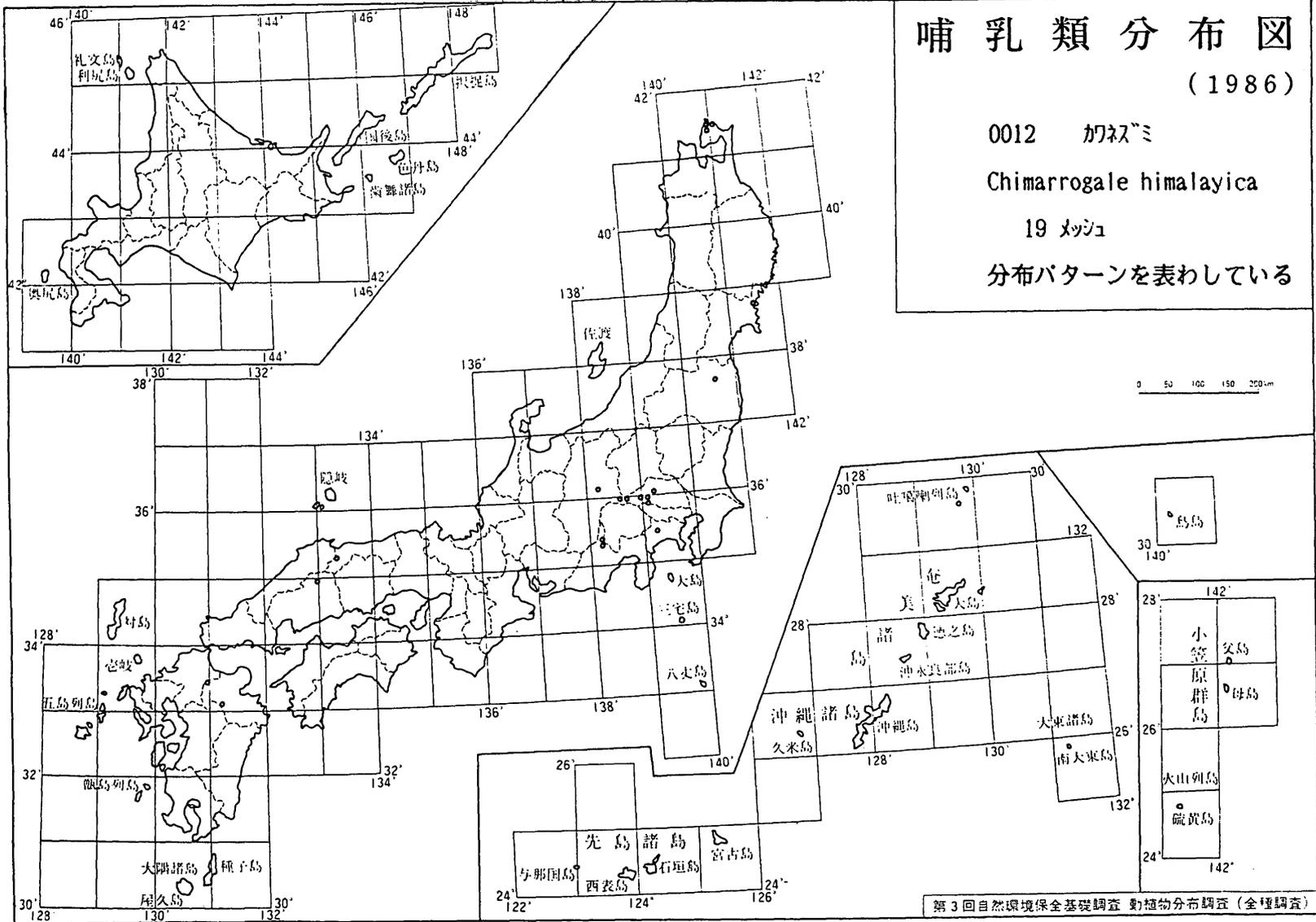
(1986)

0012 加奴ミ

*Chimarrogale himalayica*

19 メジ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

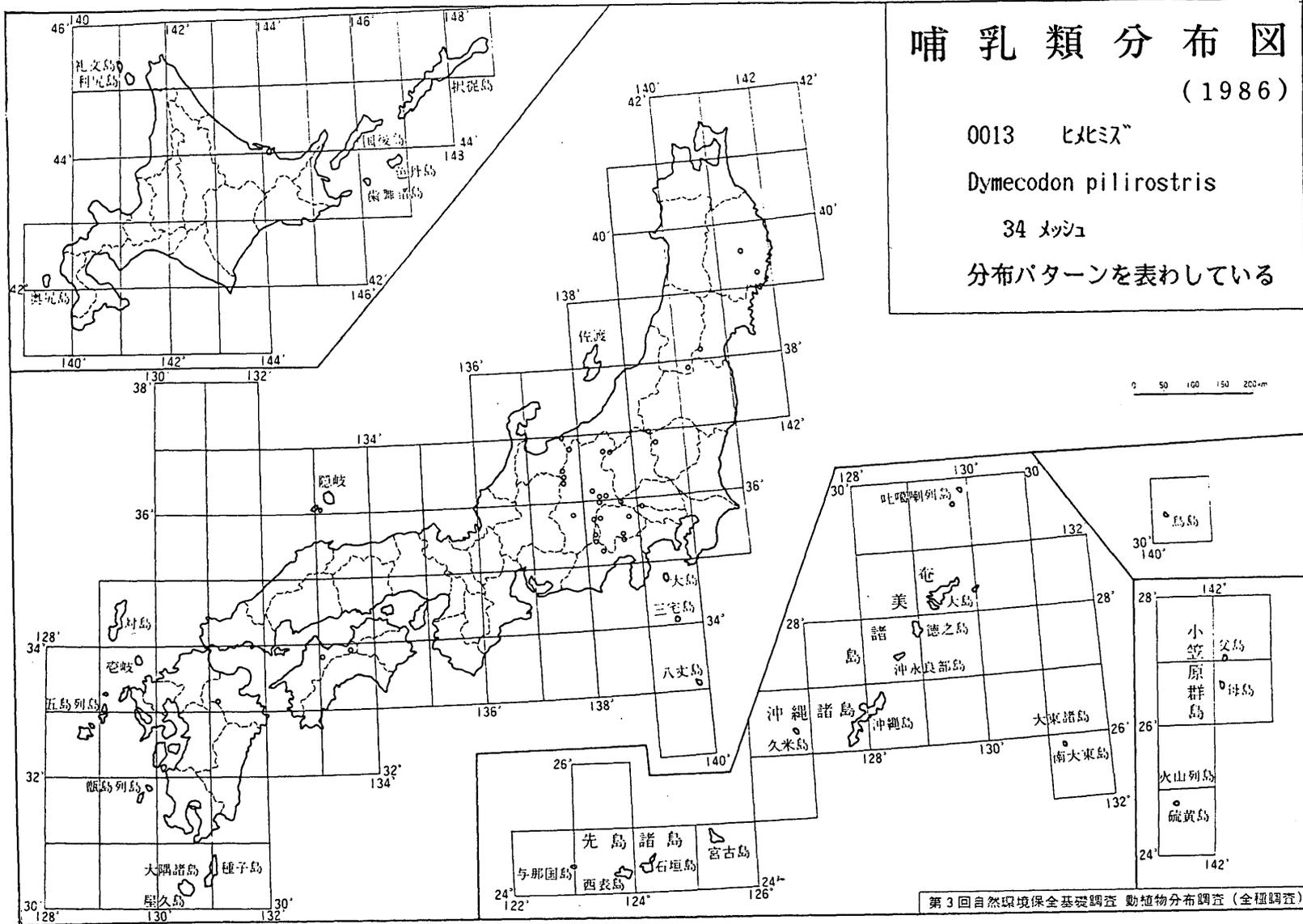
(1986)

0013 ヒヒミア

*Dymecodon pilirostris*

34 メッシュ

分布パターンを表わしている



# 哺乳類分布図

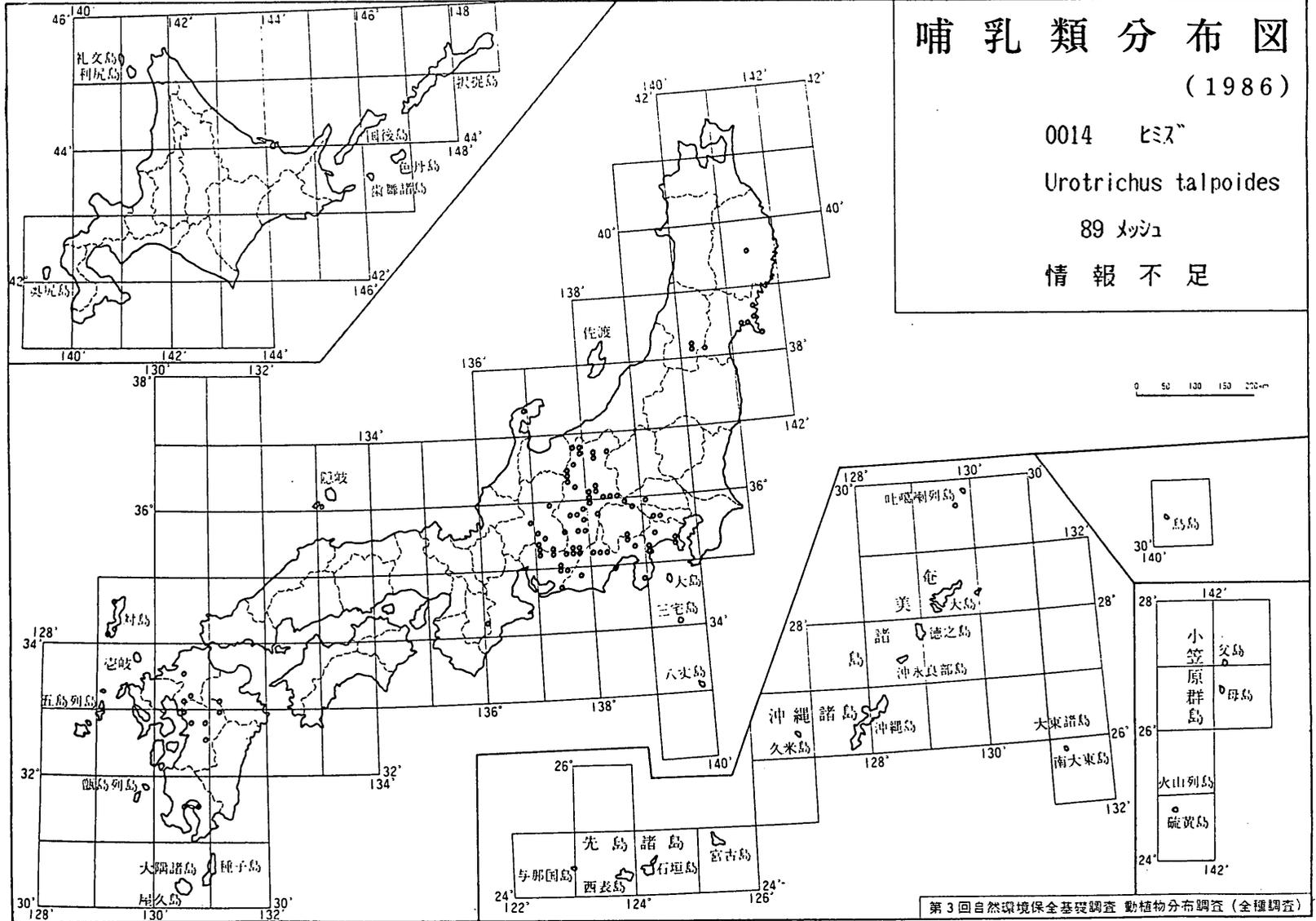
(1986)

0014 ヒメヌ

*Urotrichus talpoides*

89 ヲツ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

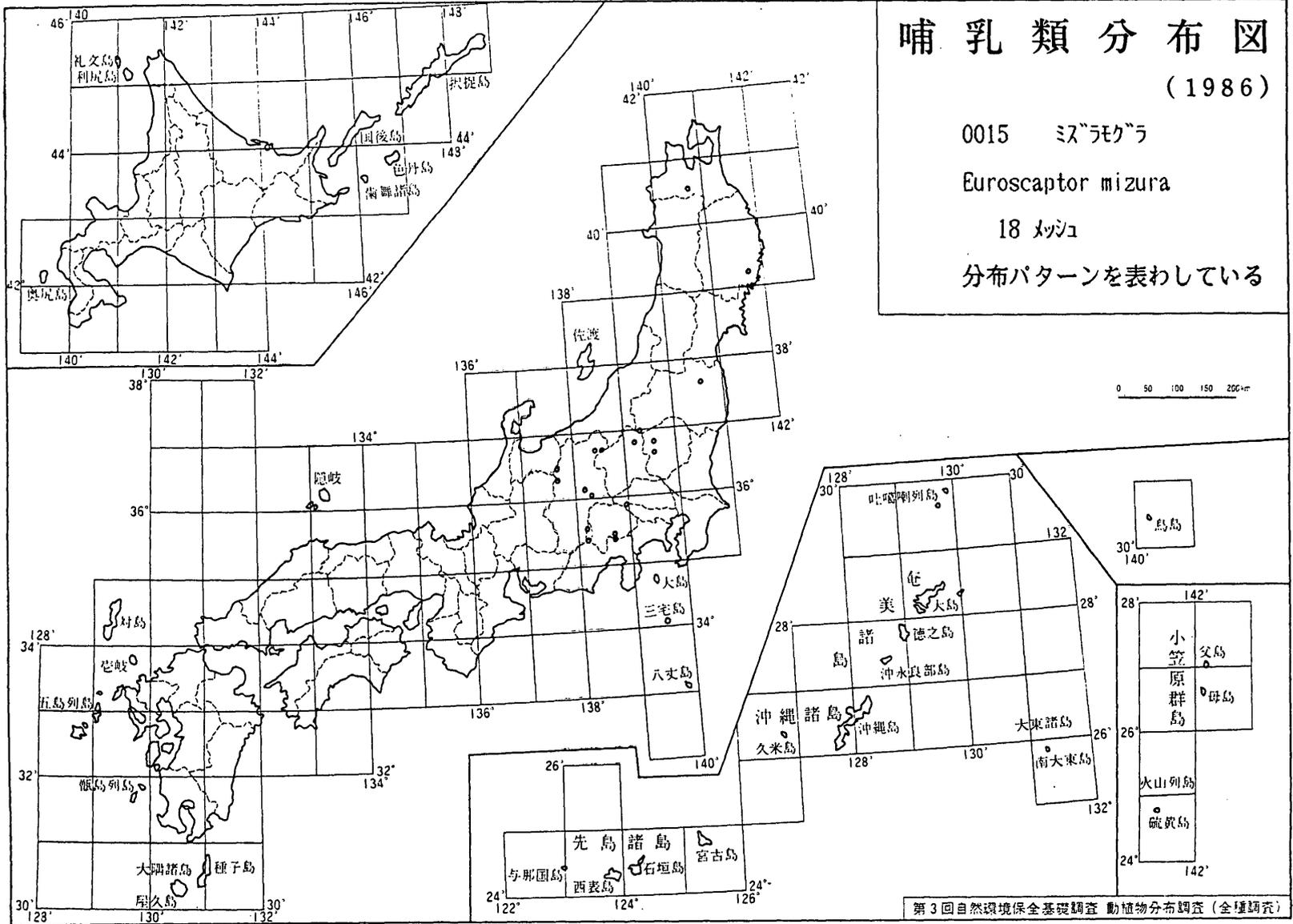
(1986)

0015 ミズマウラ

*Euroscaptor mizura*

18 ヲシ

分布パターンを表わしている



# 哺乳類分布図

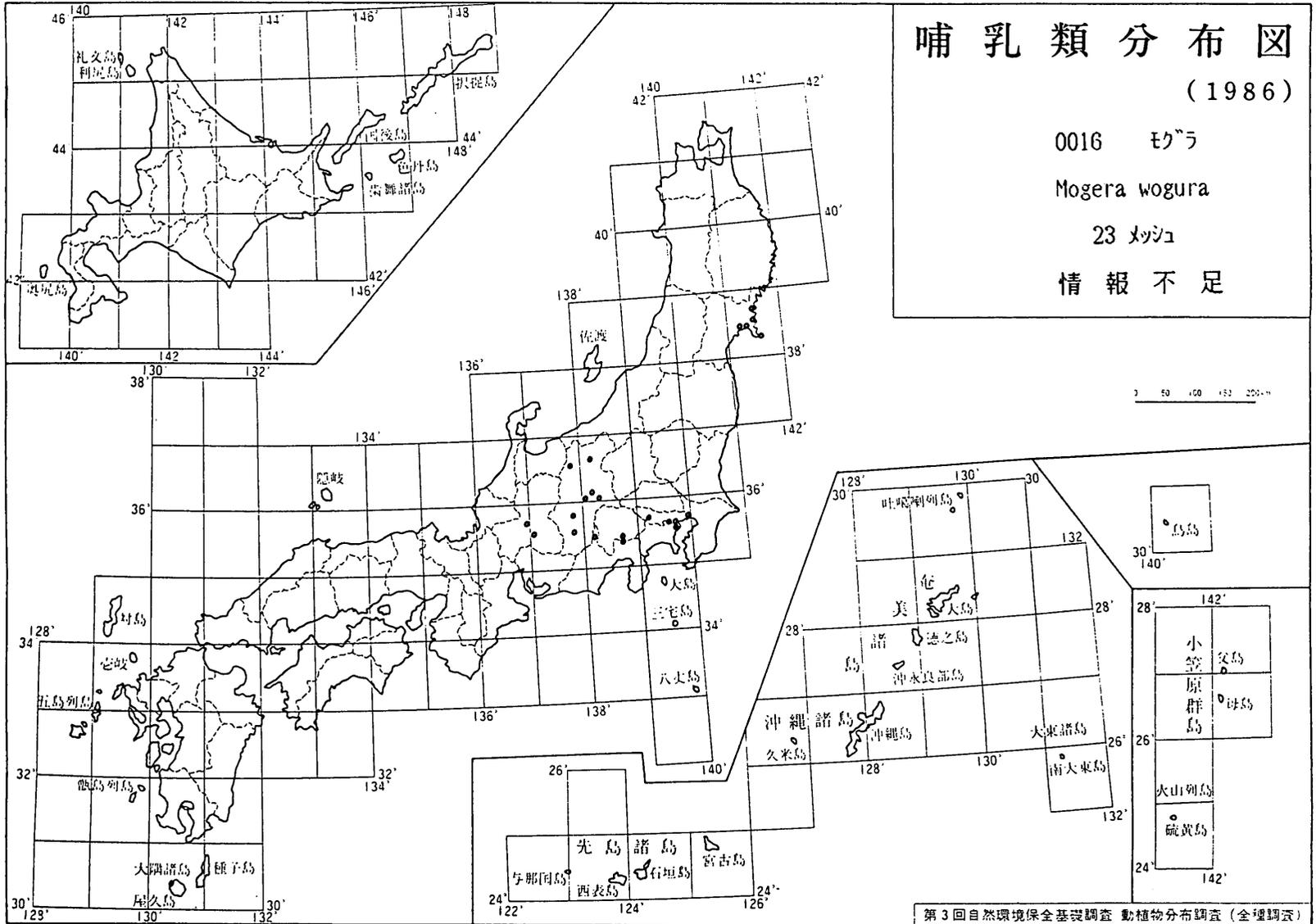
(1986)

0016 モグラ

Mogera wogura

23 ヲシ

情報不足



# 哺乳類分布図

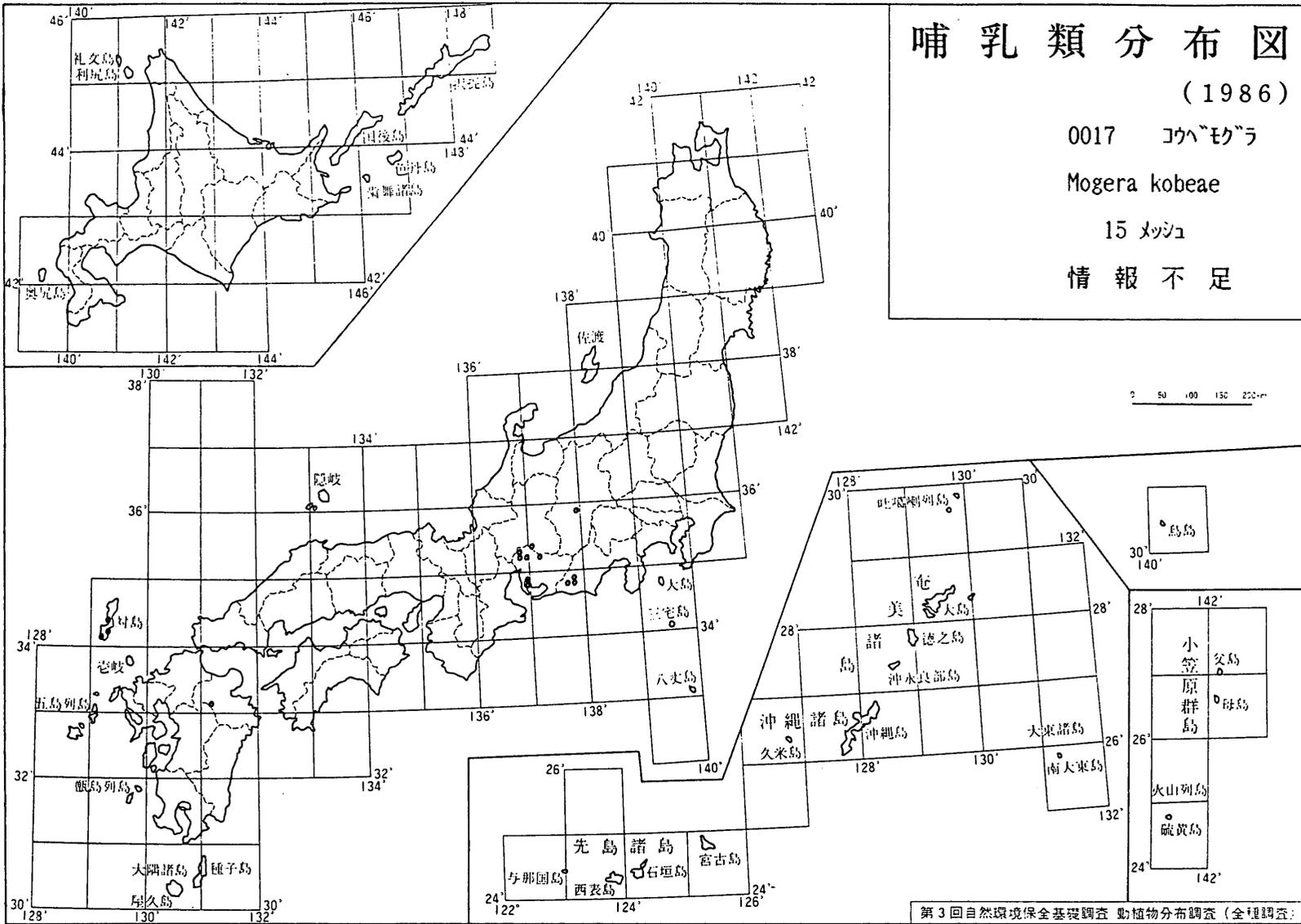
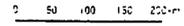
(1986)

0017 コウモリ

Mogera kobeeae

15 ヶシ

情報不足



# 哺乳類分布図

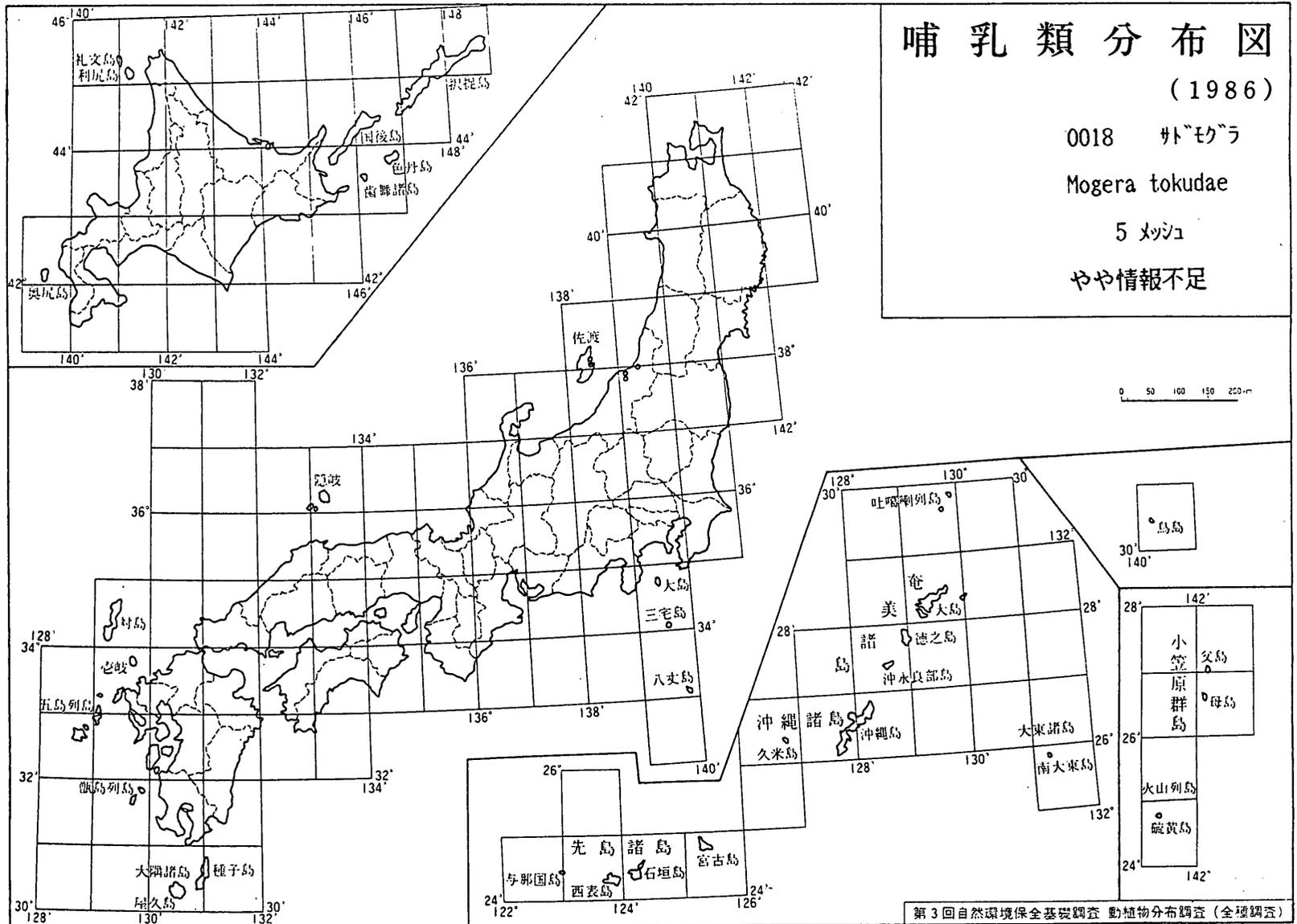
(1986)

0018 ナモウラ

Mogera tokudae

5 ヶシ

やや情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

(1986)

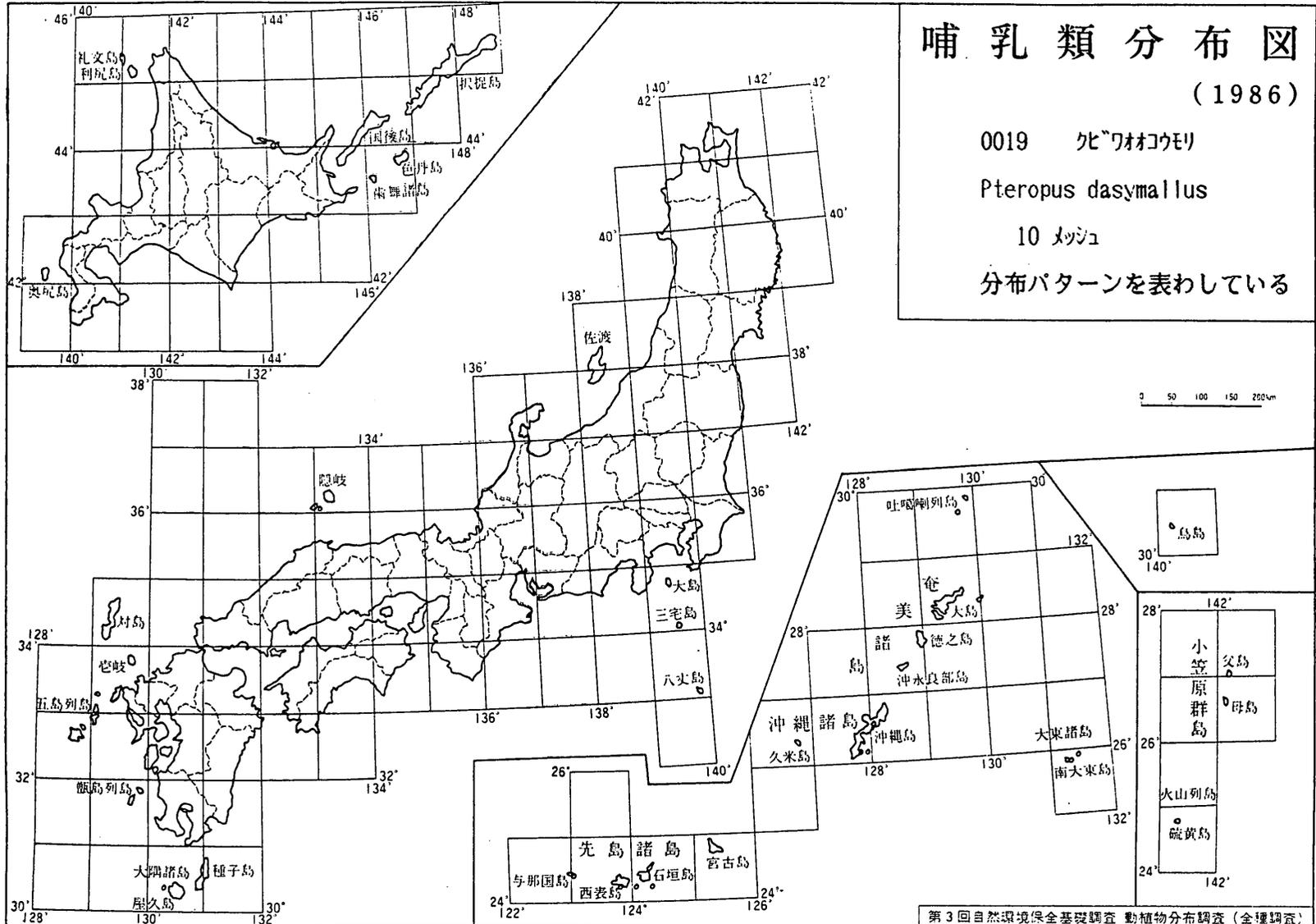
0019 クマノコウモリ

*Pteropus dasymallus*

10 ヲシ

分布パターンを表わしている

0 50 100 150 200km



# 哺乳類分布図

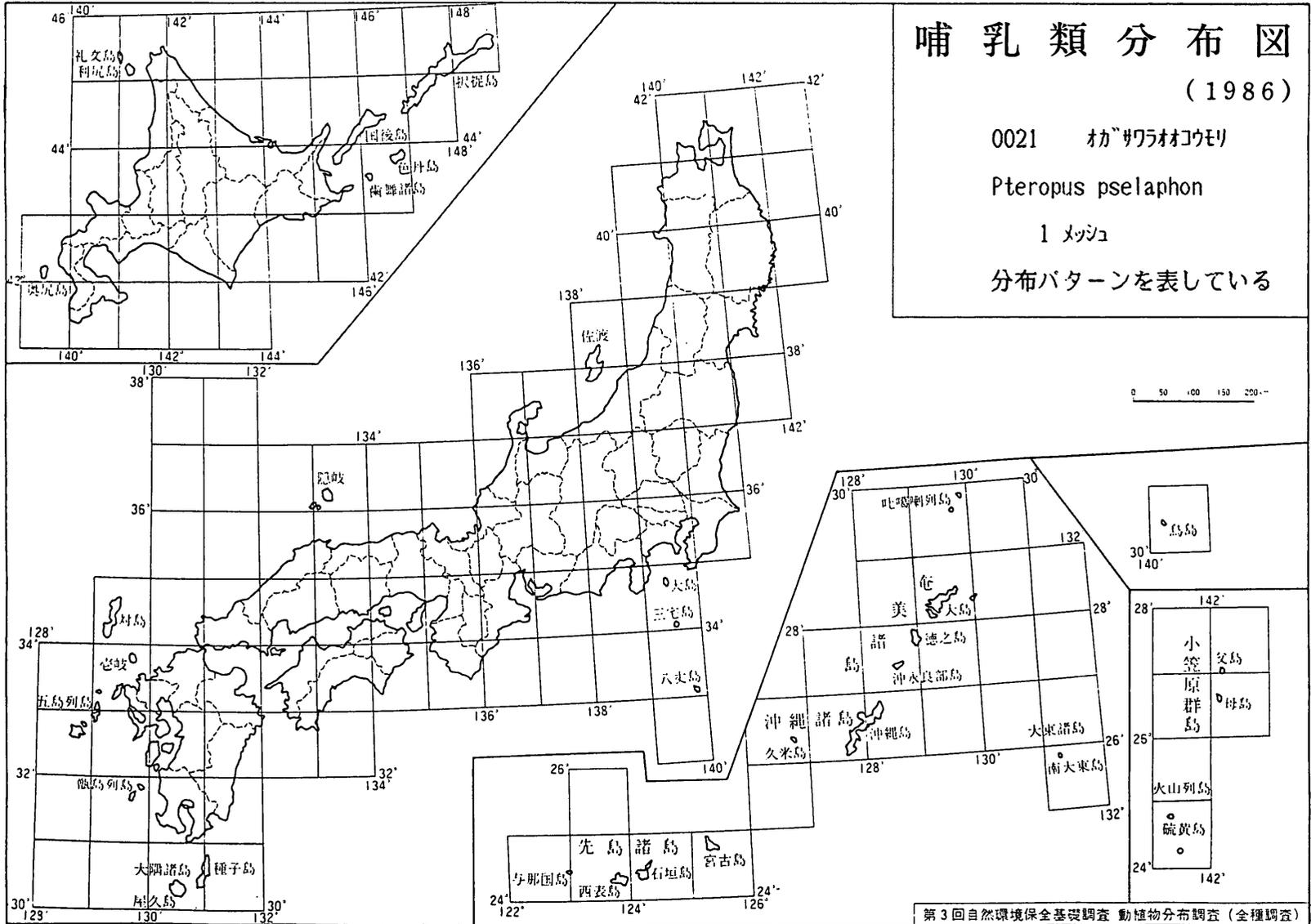
(1986)

0021 オカザラオコウモリ

*Pteropus pselaphon*

1 メッシュ

分布パターンを表している



第3回自然環境保全基礎調査 動物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

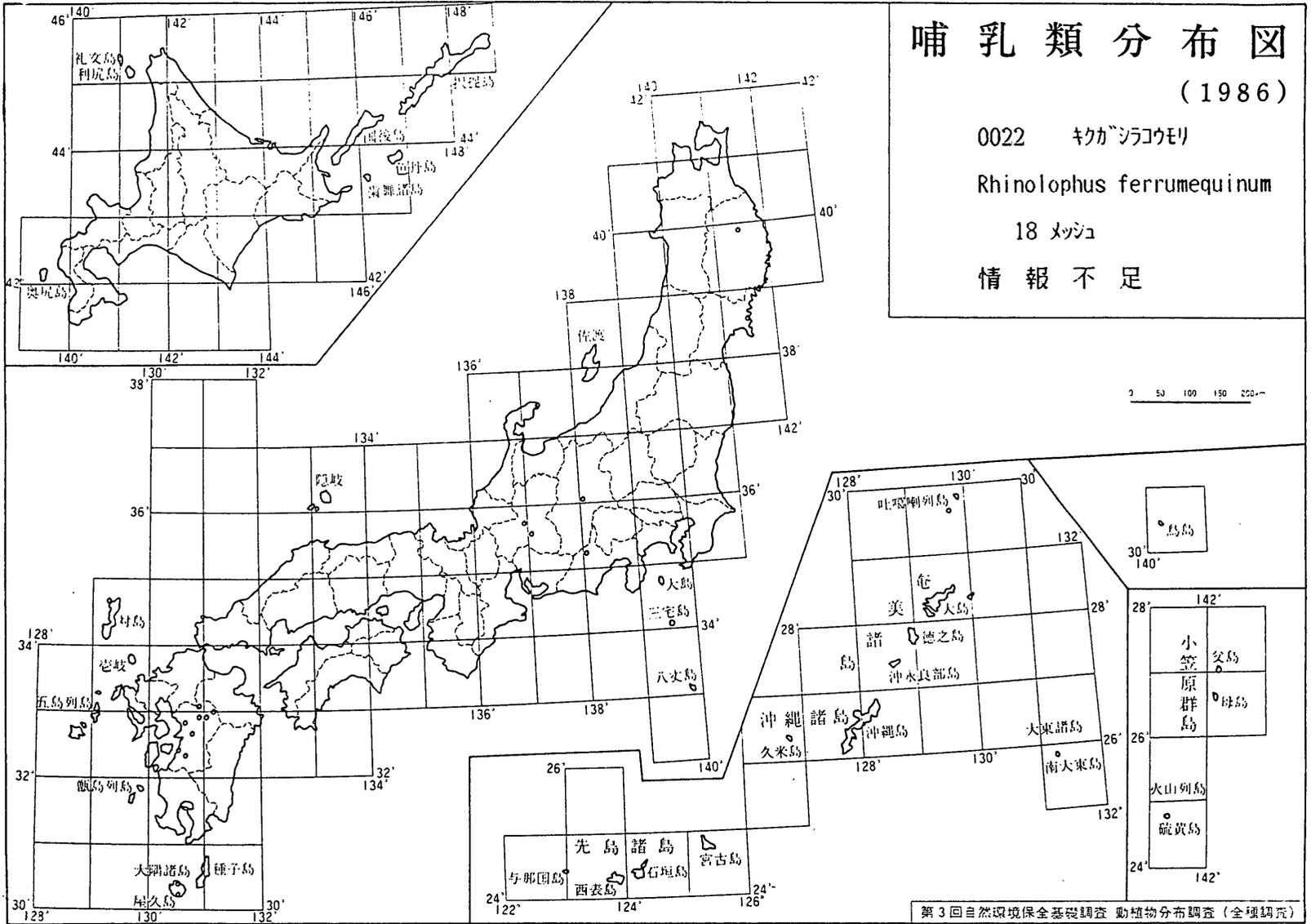
(1986)

0022 キカシラコウモリ

*Rhinolophus ferrumequinum*

18 メッシュ

情報不足



# 哺乳類分布図

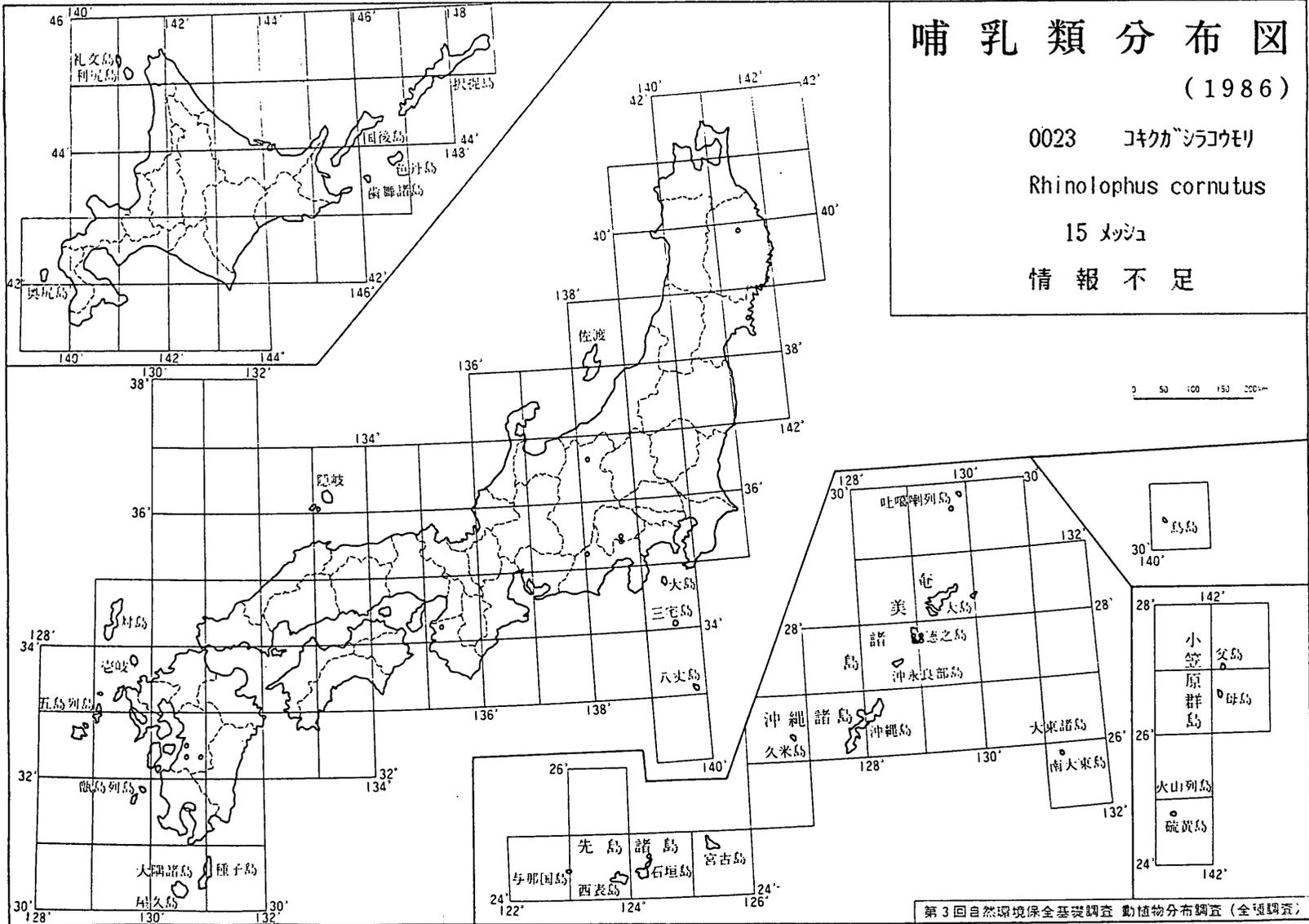
(1986)

0023 コクカシロコウリ

*Rhinolophus cornutus*

15 ヲシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

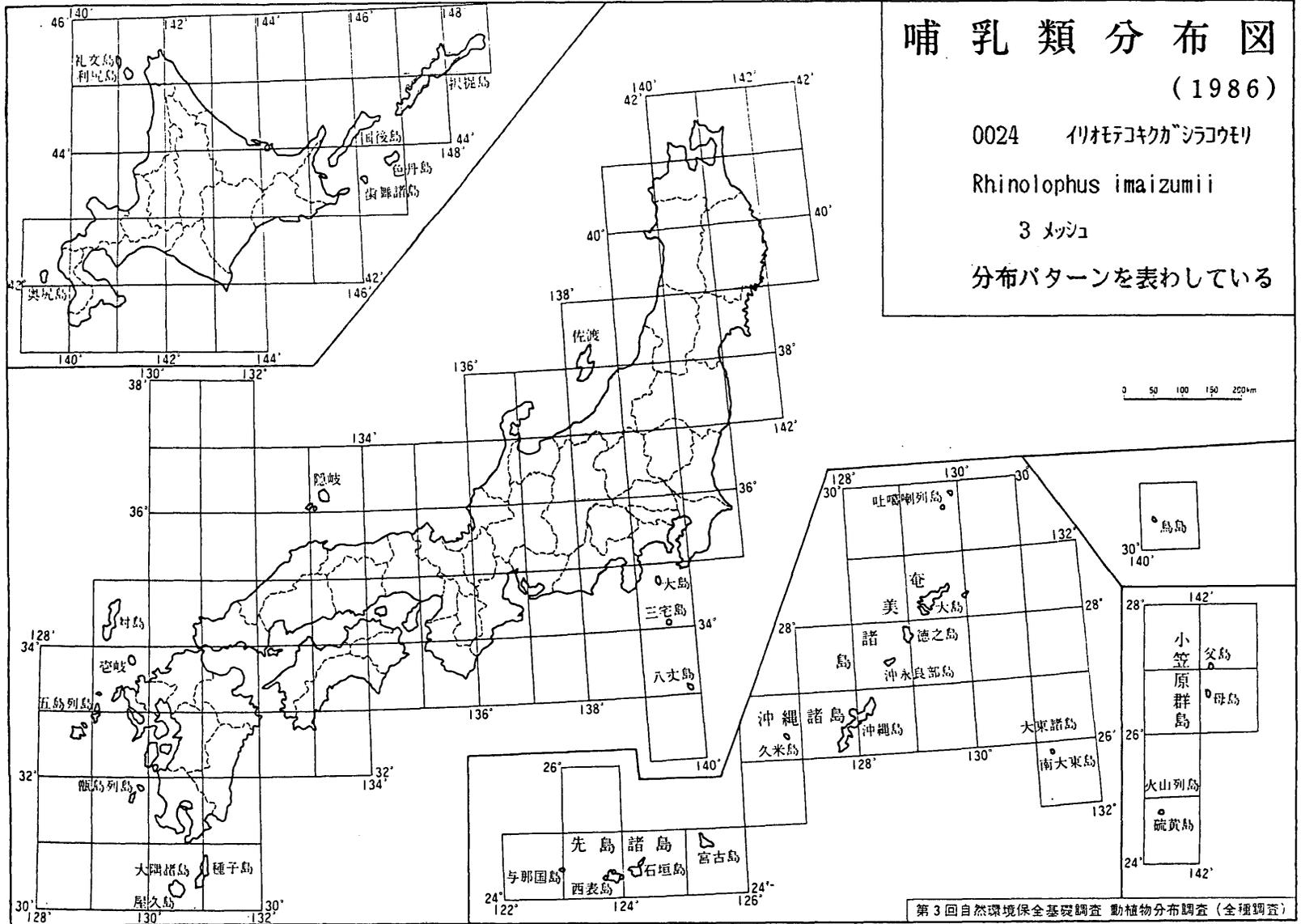
(1986)

0024 イリオコキカシロウモリ

*Rhinolophus imaizumii*

3 メッシュ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

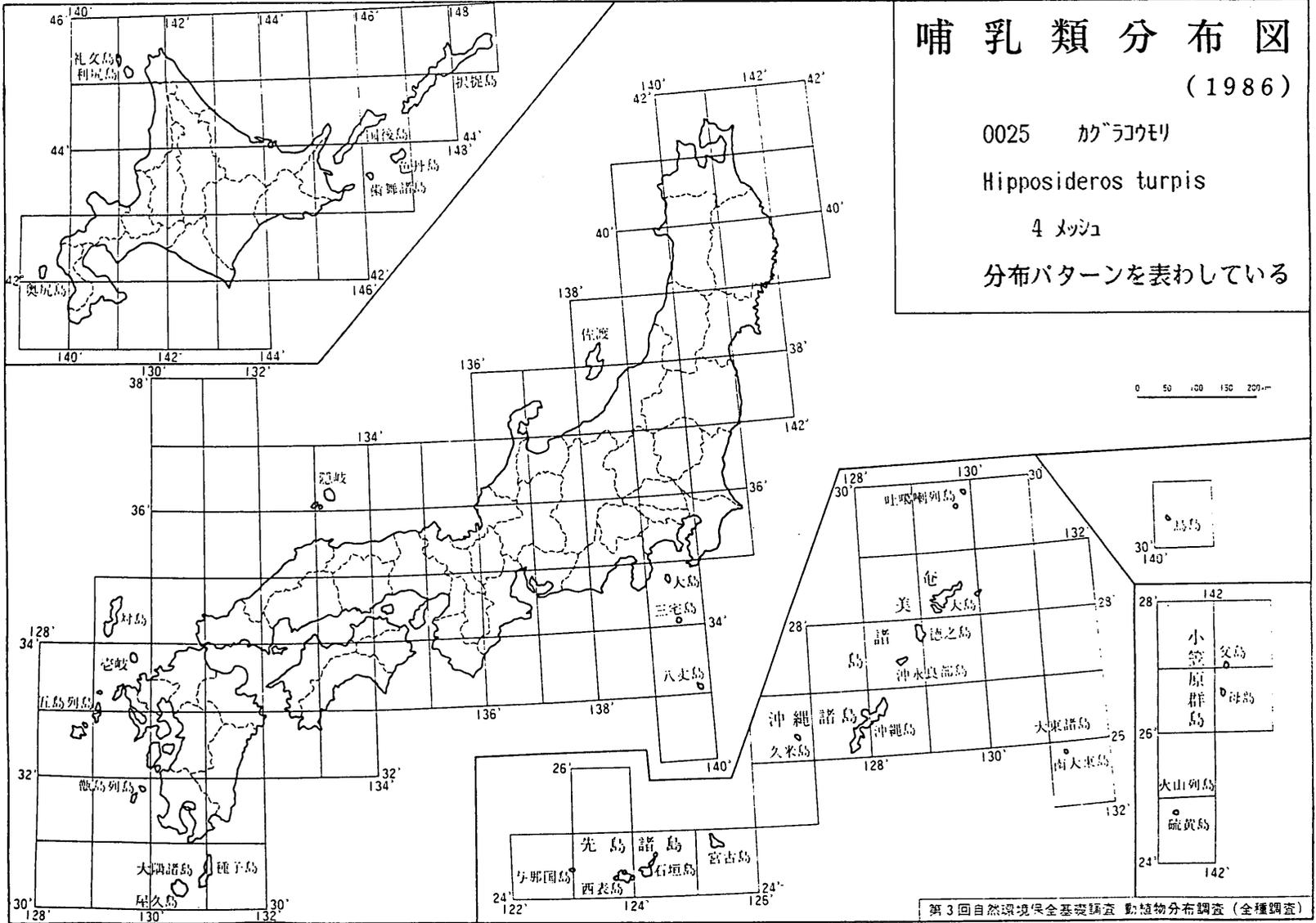
(1986)

0025 カクヲケリ

*Hipposideros turpis*

4 メッシュ

分布パターンを表わしている



# 哺乳類分布図

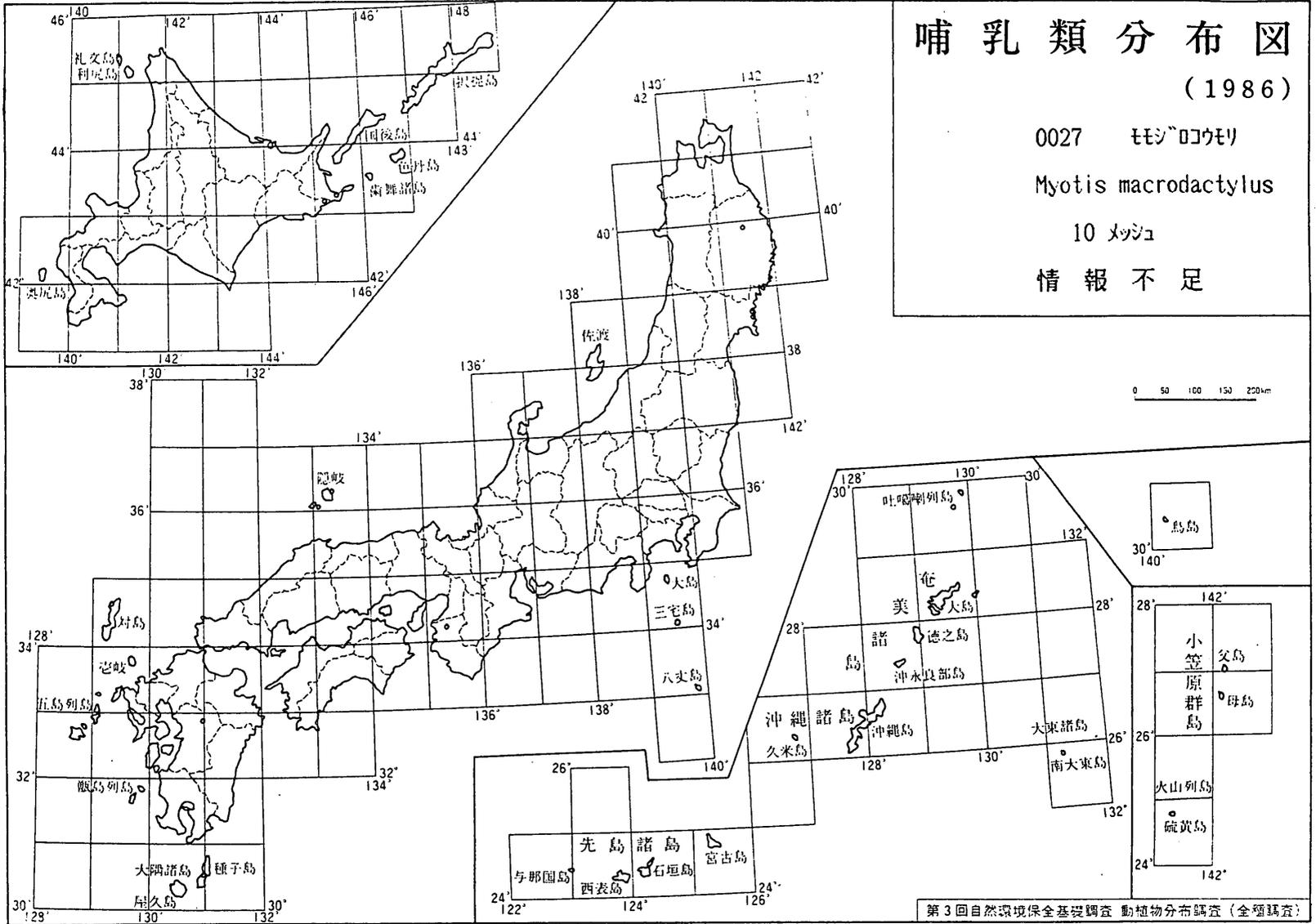
(1986)

0027 モジロウケリ

*Myotis macrodactylus*

10 ヶシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

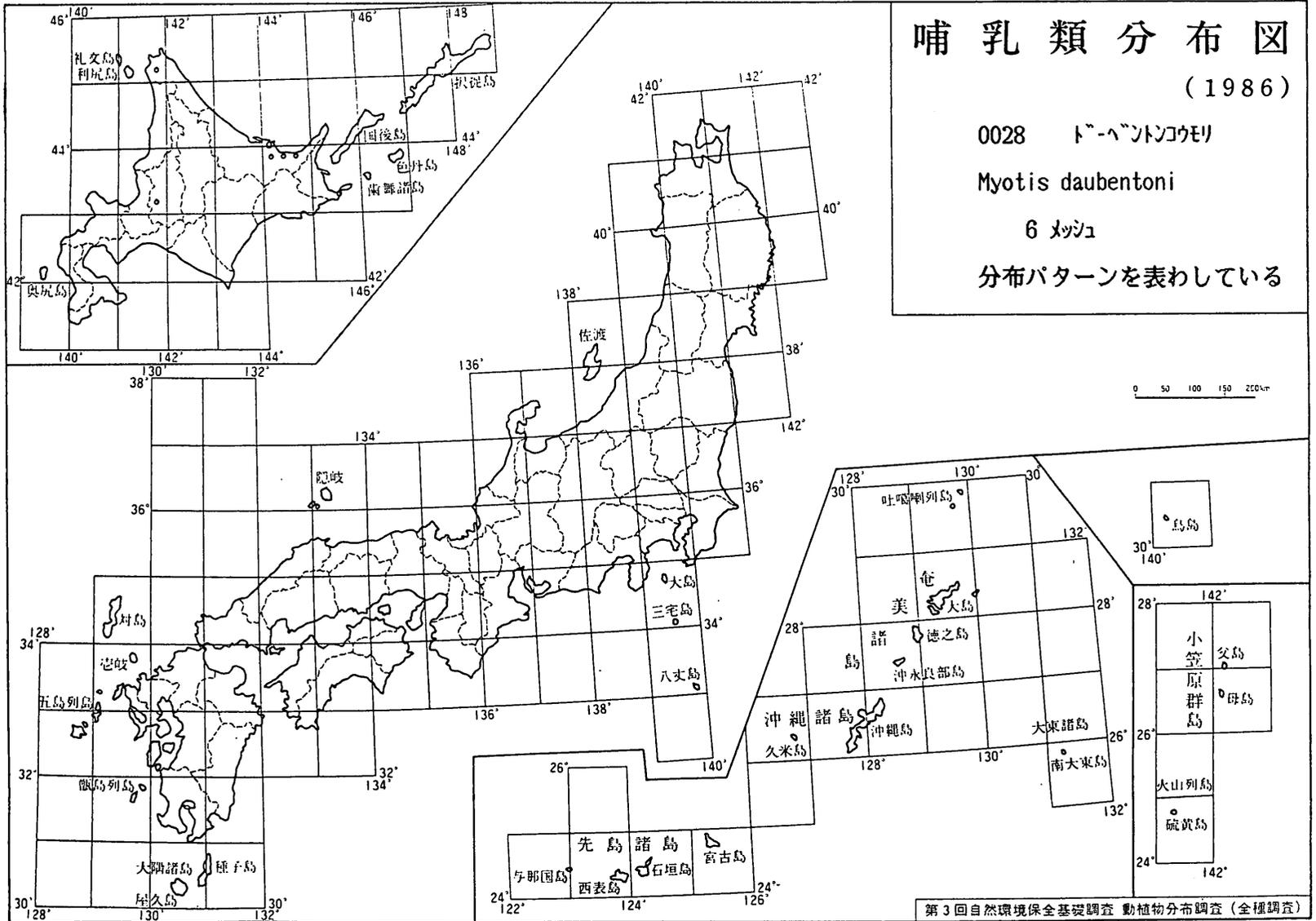
(1986)

0028 トーヘントコウリ

*Myotis daubentoni*

6 ヶツ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

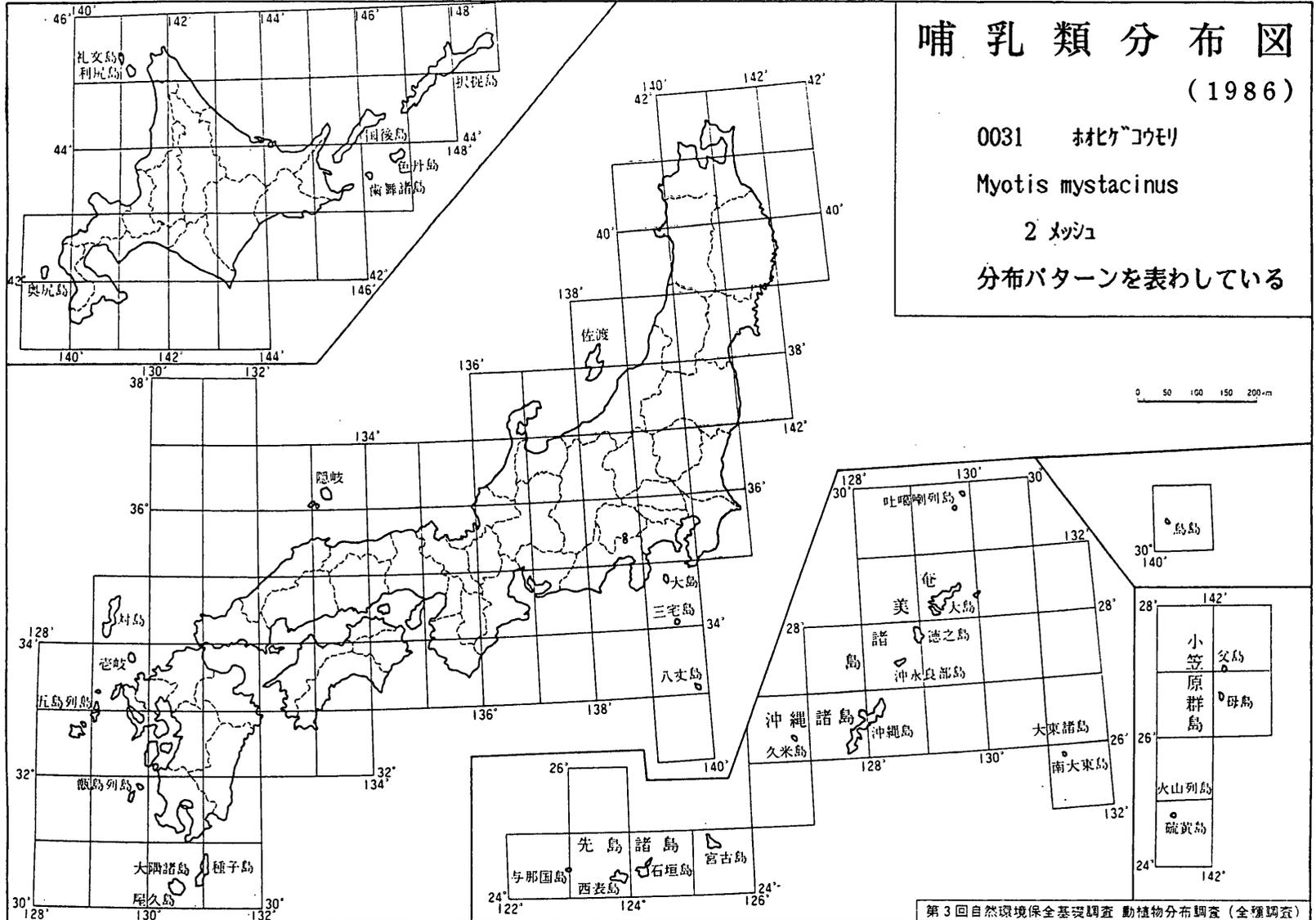
(1986)

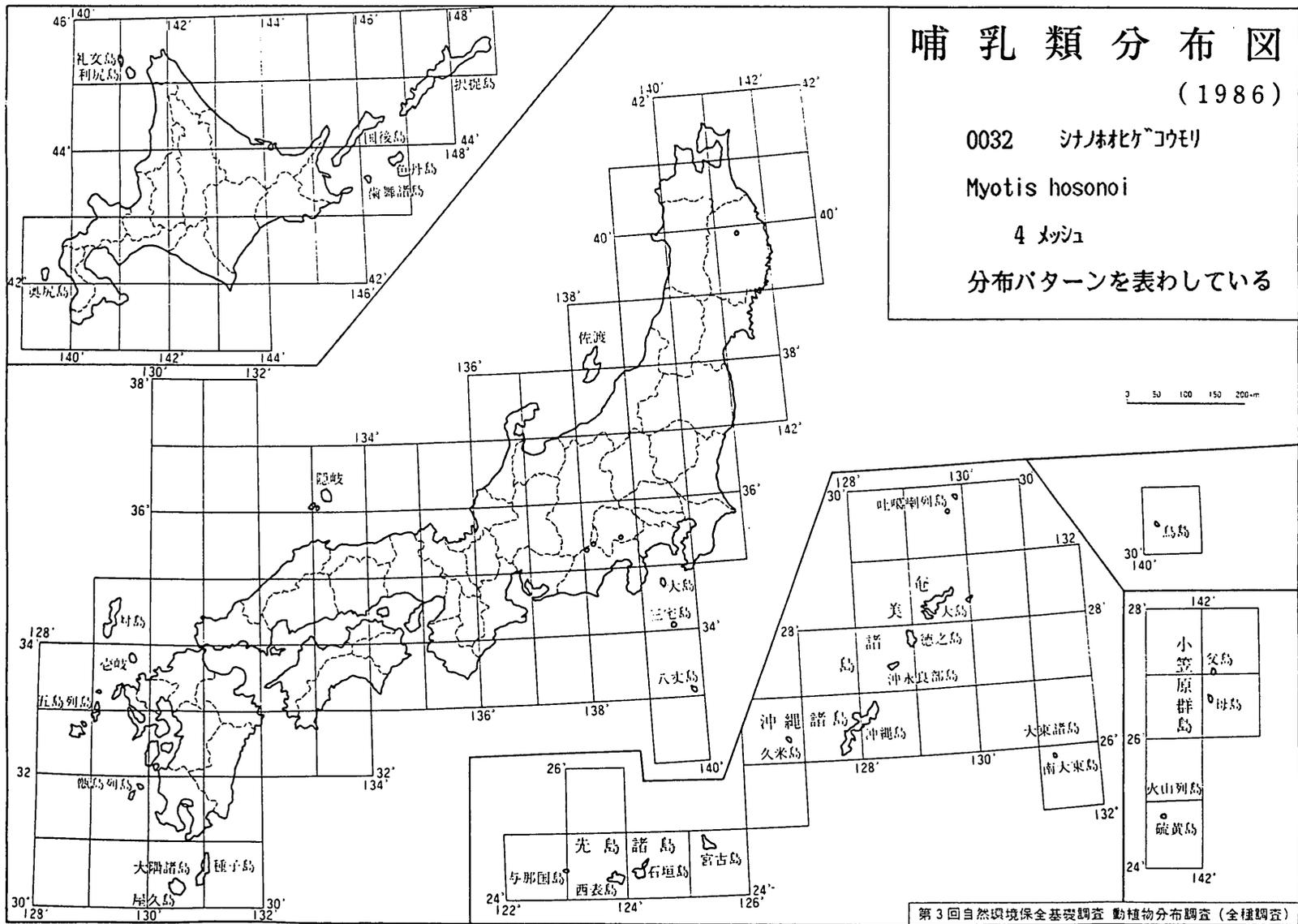
0031 オヒケコウモリ

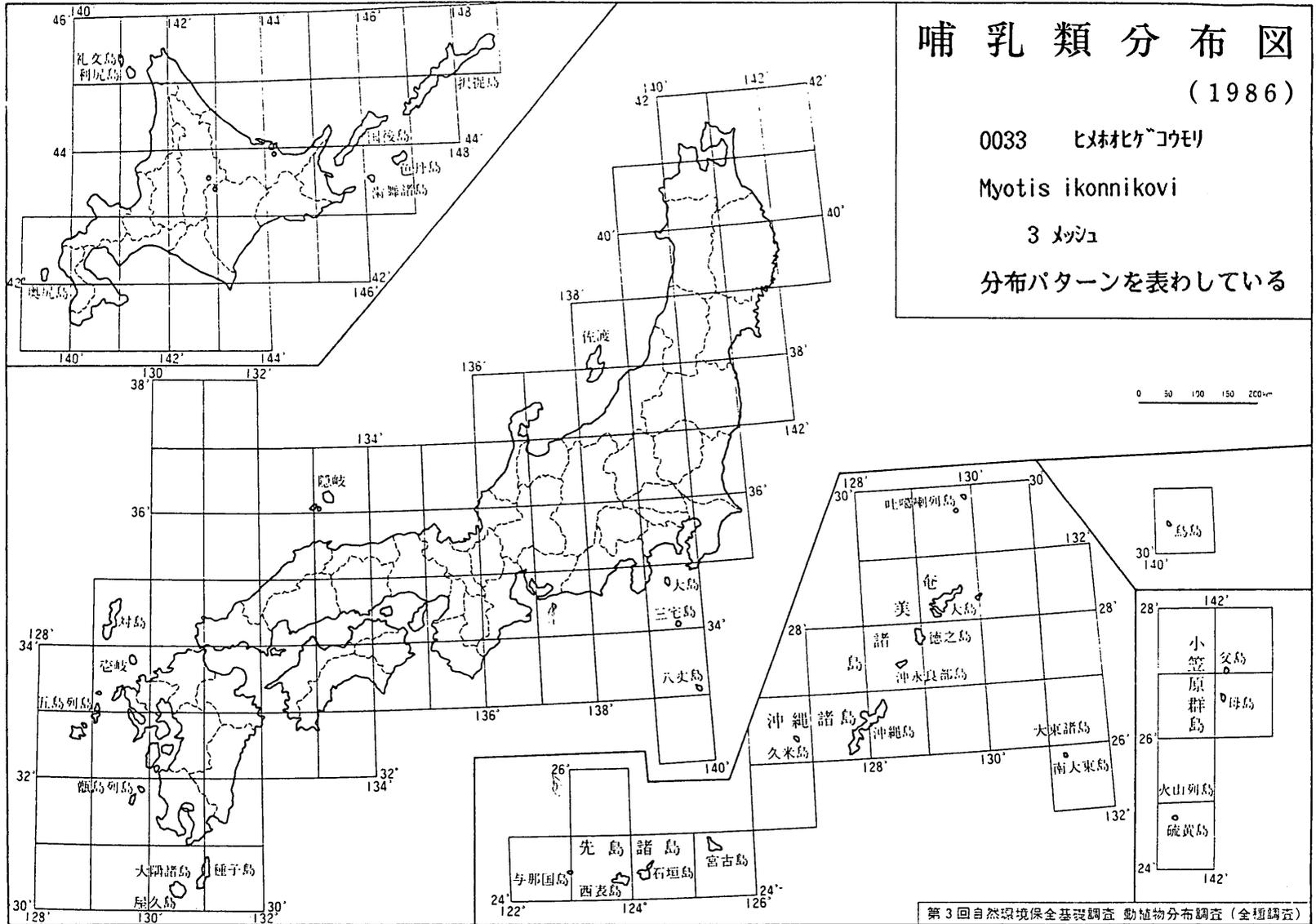
*Myotis mystacinus*

2 ヶツ

分布パターンを表わしている







第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査(全種調査)

# 哺乳類分布図

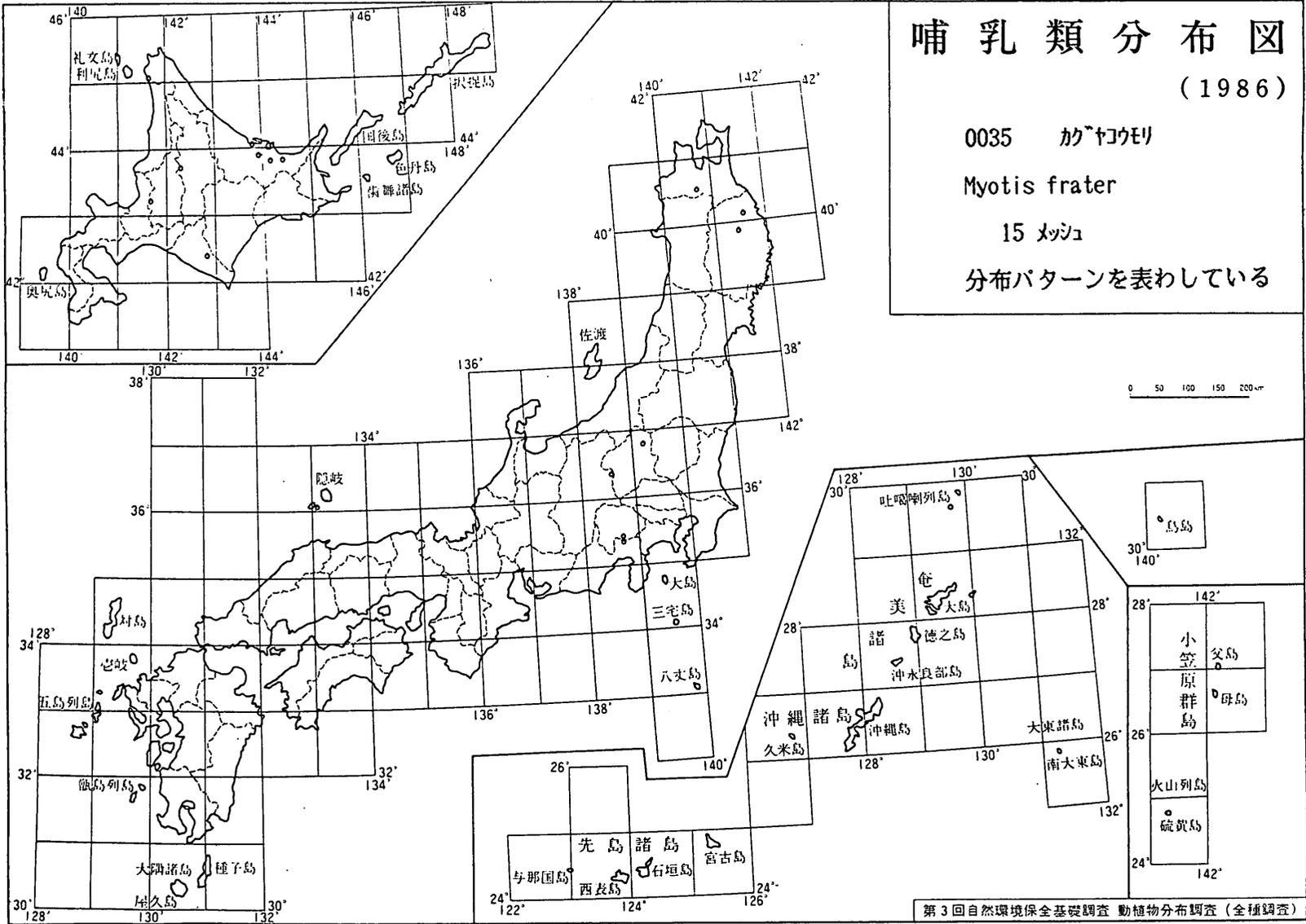
(1986)

0035 カマヤケリ

*Myotis frater*

15 ヶシュ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

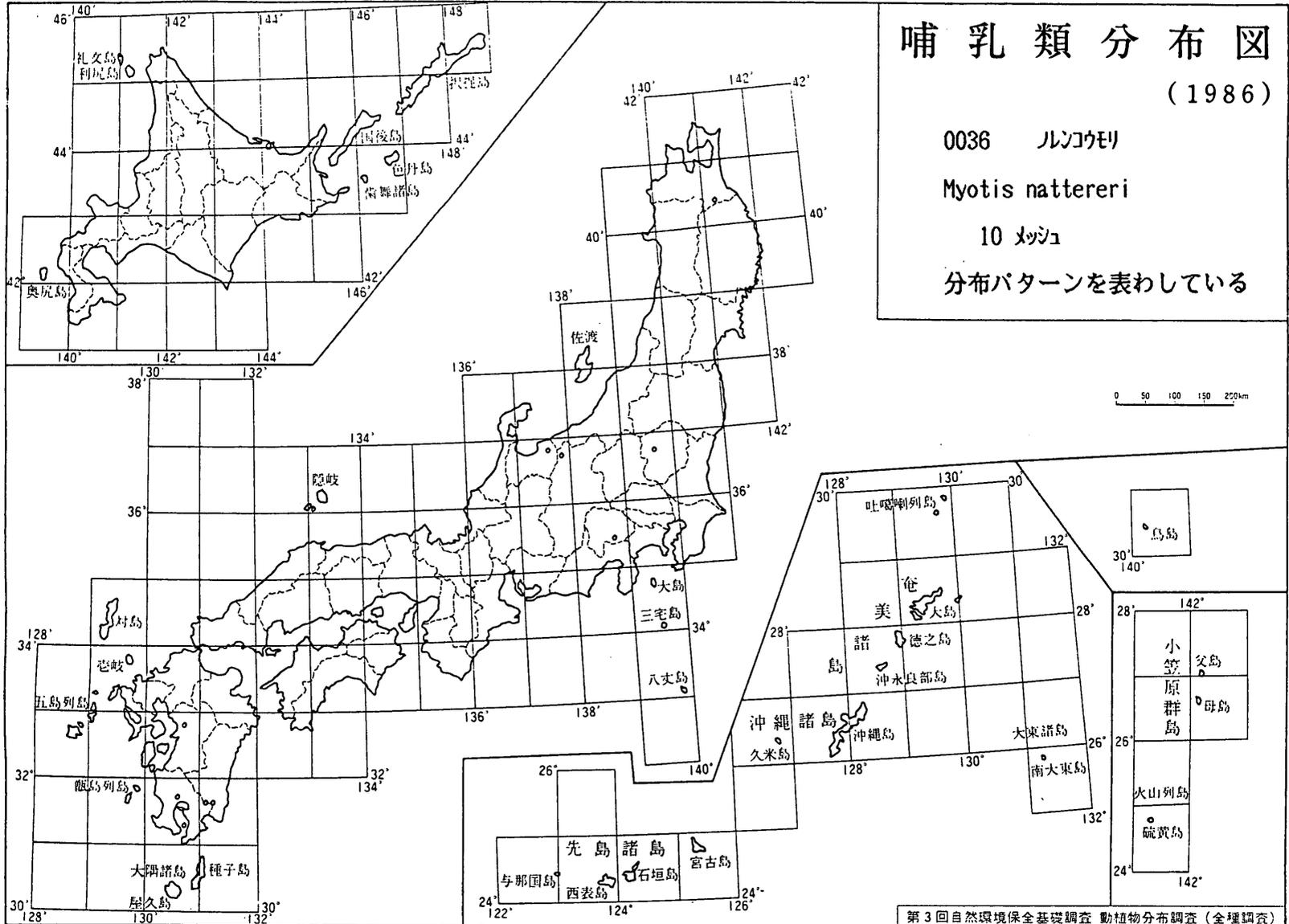
(1986)

0036 ルソウケリ

*Myotis nattereri*

10 メッシュ

分布パターンを表わしている



# 哺乳類分布図

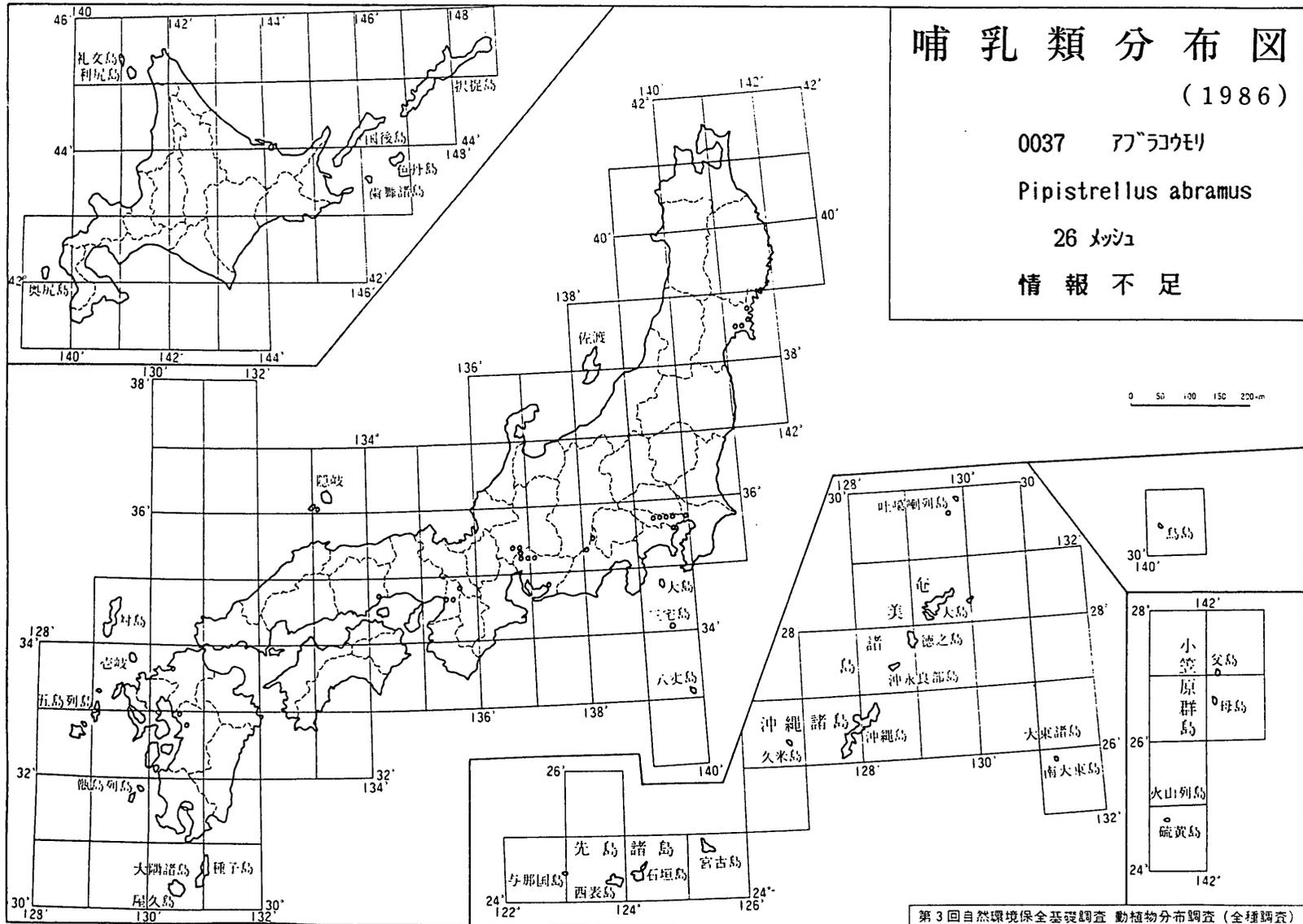
(1986)

0037 アブラコウモリ

*Pipistrellus abramus*

26 ヲシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

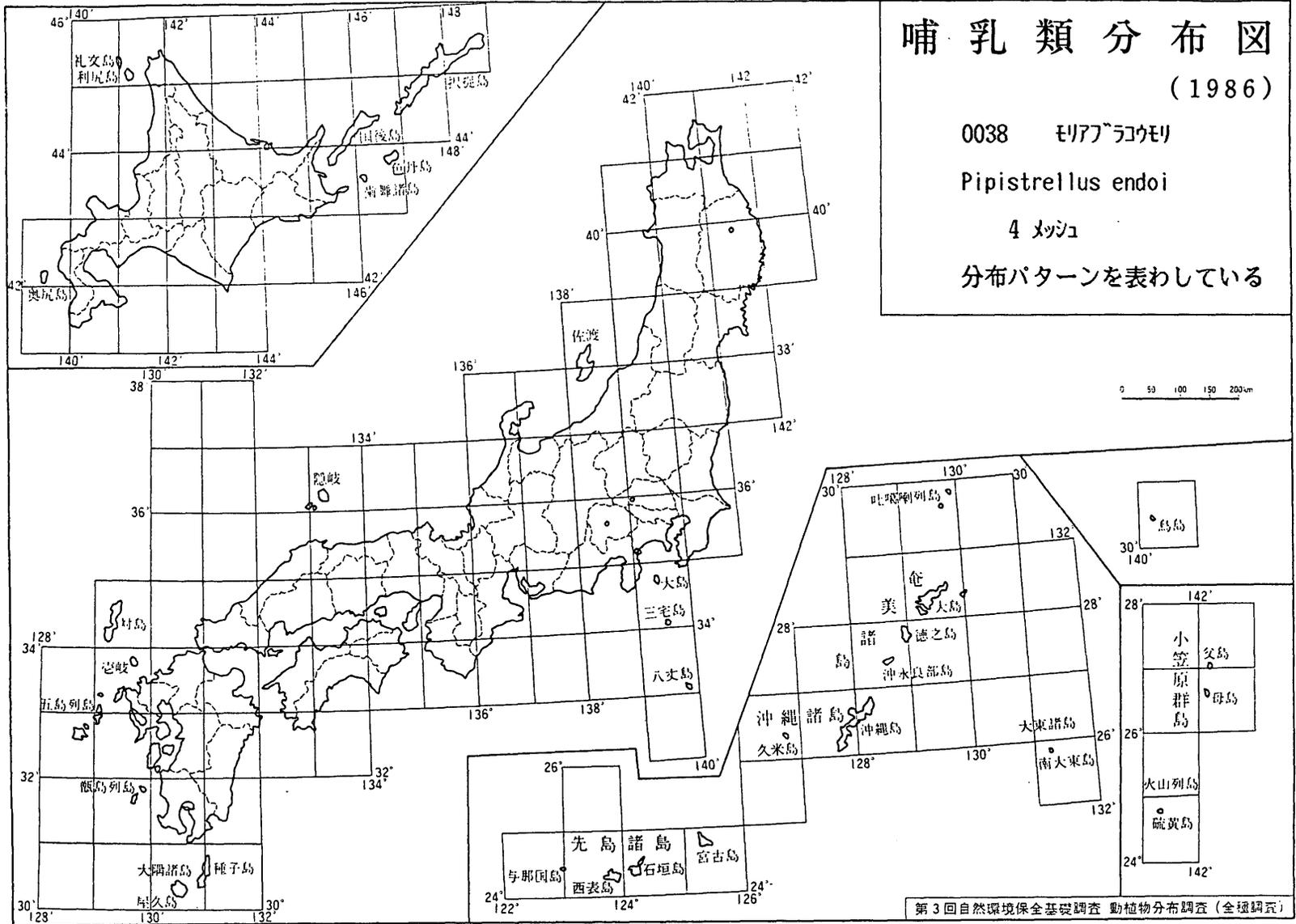
(1986)

0038 エリブシロウケビ

*Pipistrellus endoi*

4 メッシュ

分布パターンを表わしている



# 哺乳類分布図

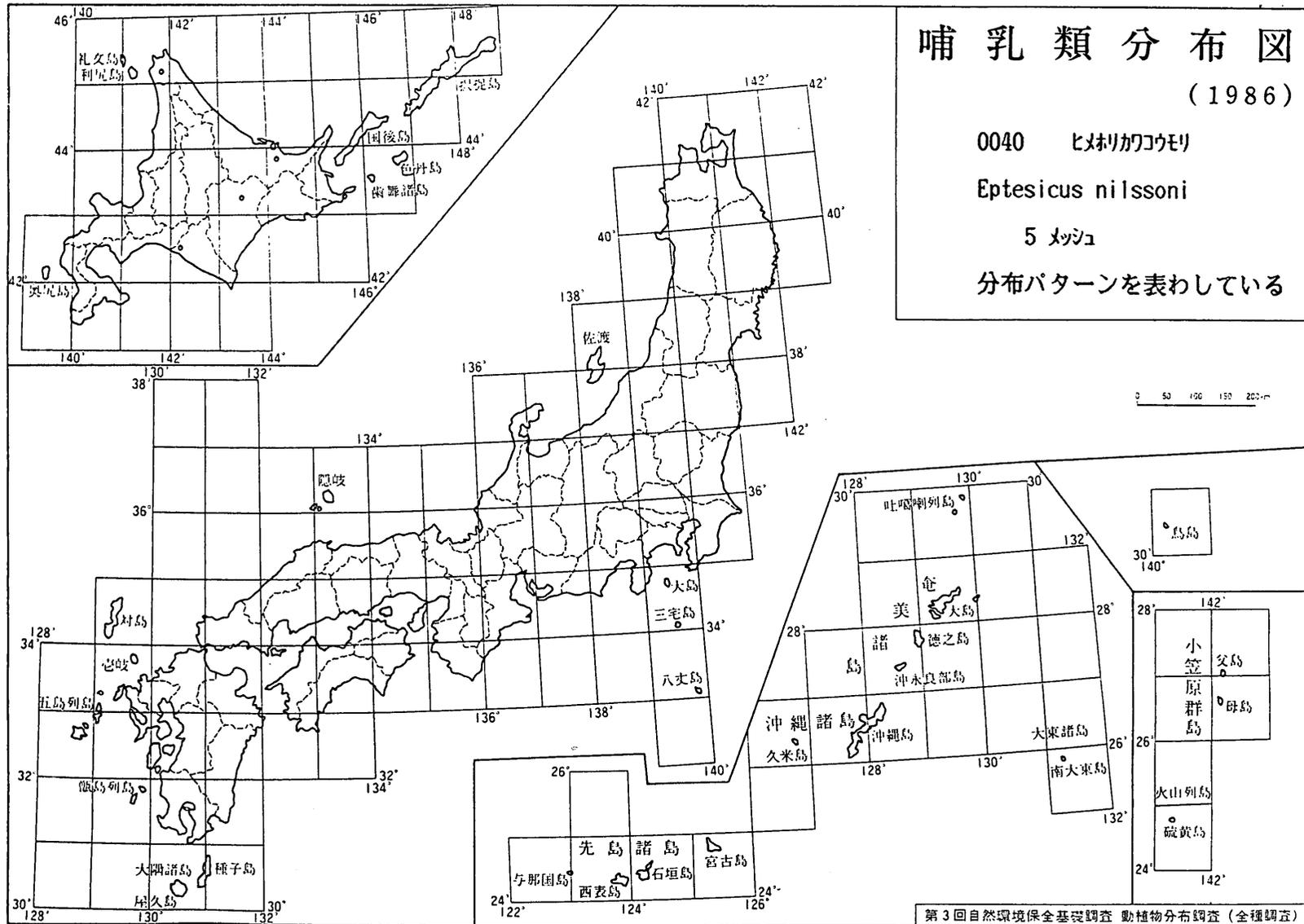
(1986)

0040 ヒメリカワウサギ

*Eptesicus nilsoni*

5 メッシュ

分布パターンを表わしている



# 哺乳類分布図

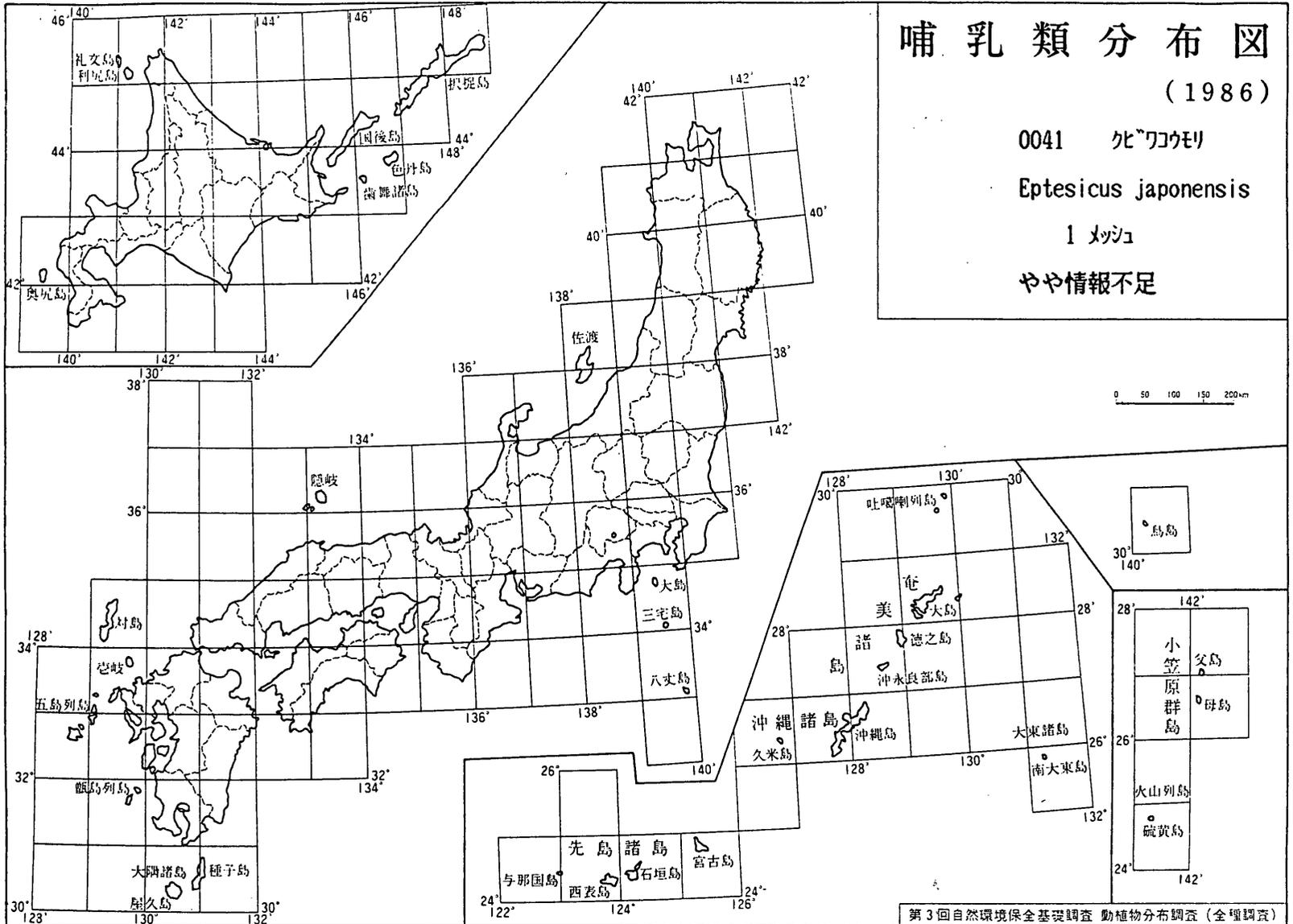
(1986)

0041 クマノリス

*Eptesicus japonensis*

1 マシコ

やや情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

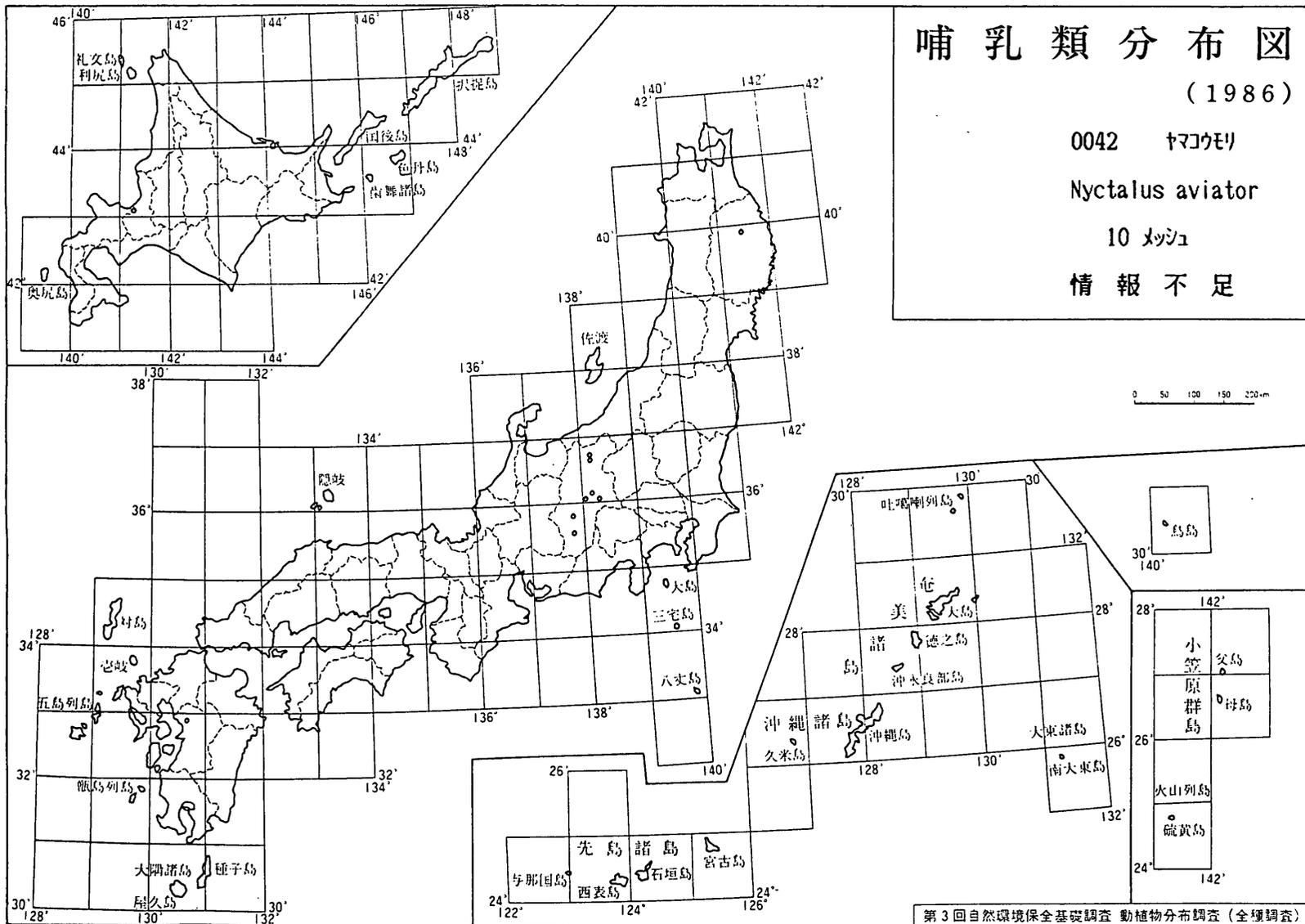
(1986)

0042 マコウカリ

*Nyctalus aviator*

10 メッシュ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

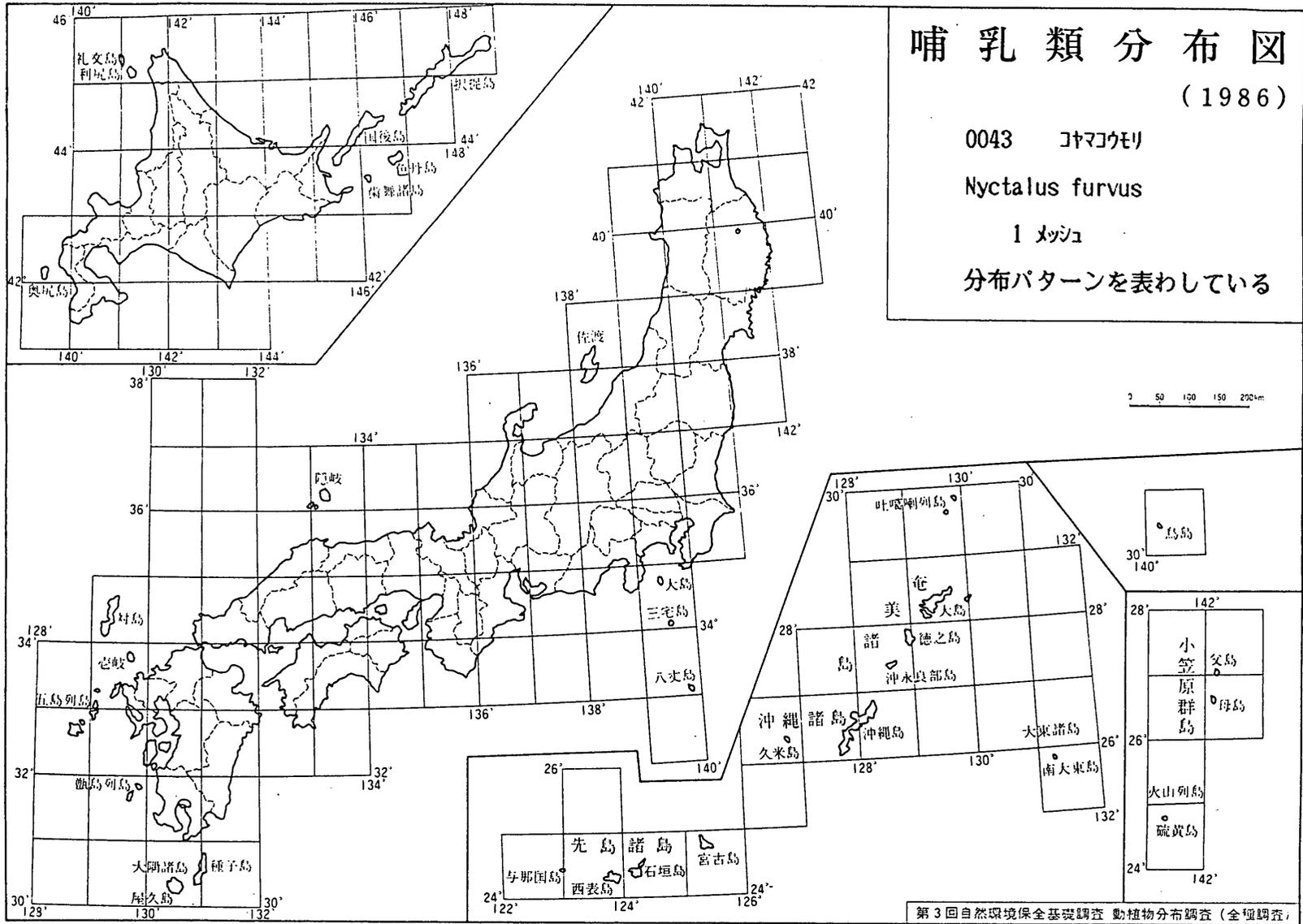
(1986)

0043 コマコウモリ

*Nyctalus furvus*

1 メッシュ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査(全種調査)

# 哺乳類分布図

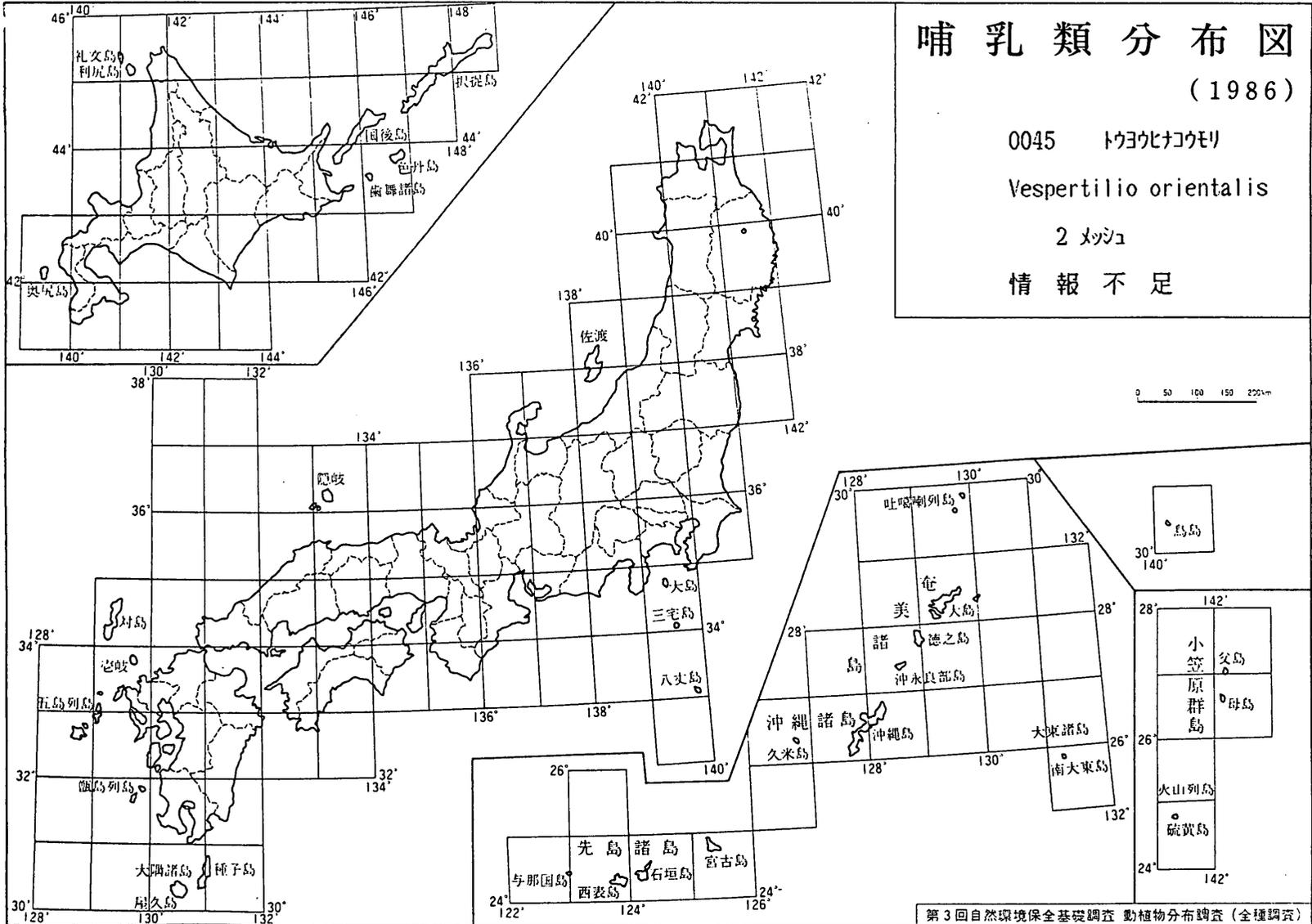
(1986)

0045 トヨケカウマリ

*Vespertilio orientalis*

2 ヶシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

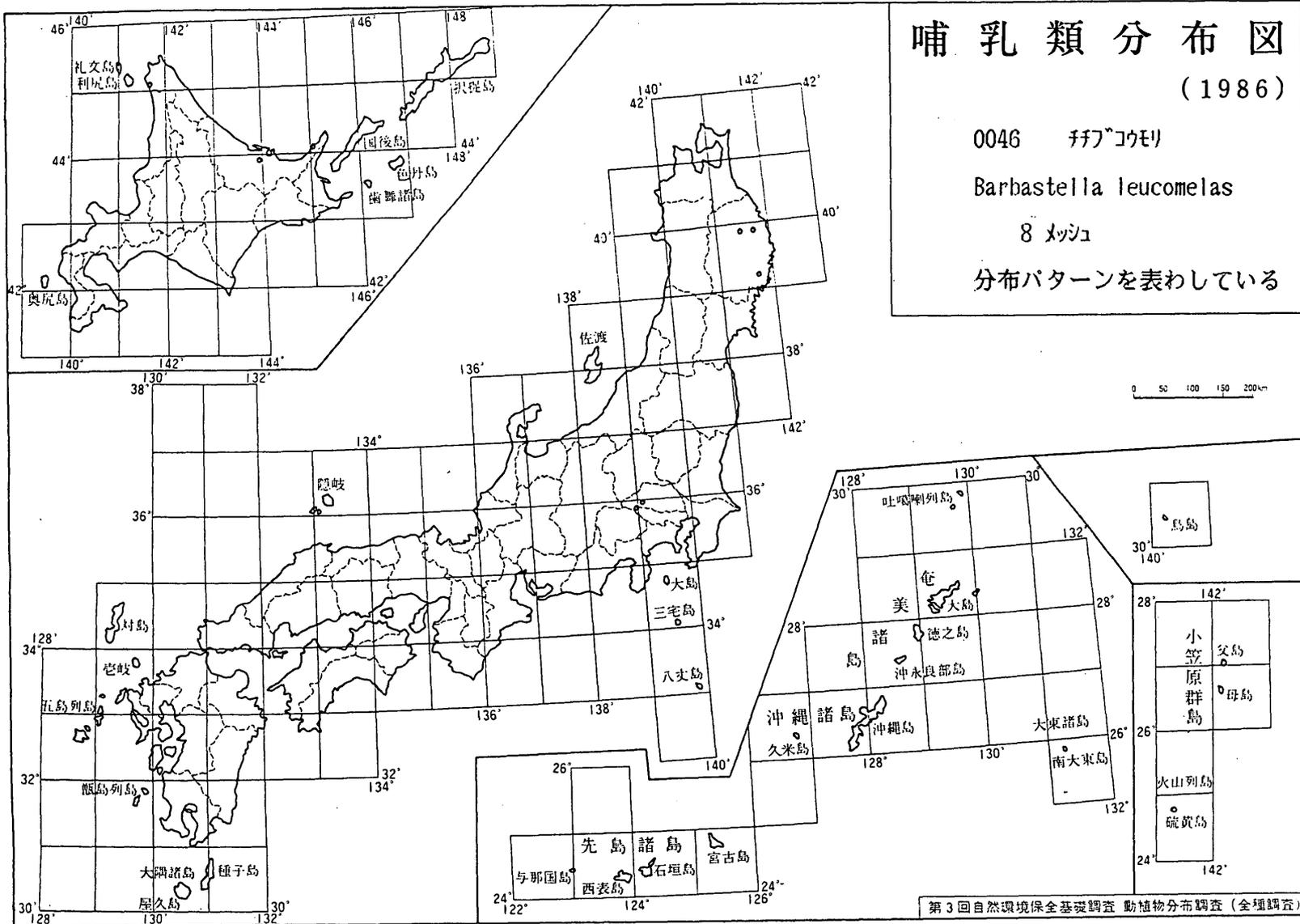
(1986)

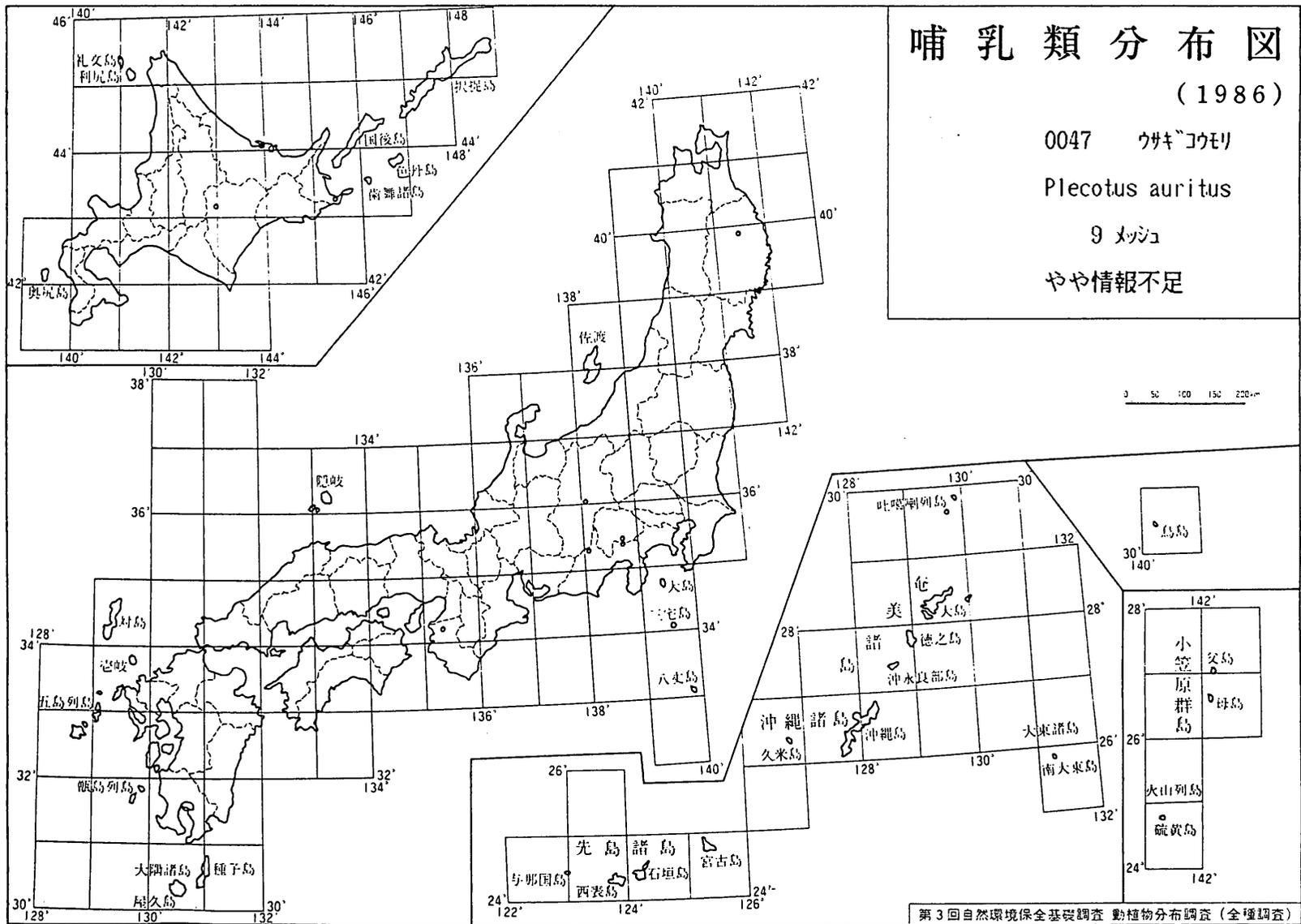
0046 チブコウメイ

*Barbastella leucomelas*

8 ヲシ

分布パターンを表わしている





第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査(全種調査)

# 哺乳類分布図

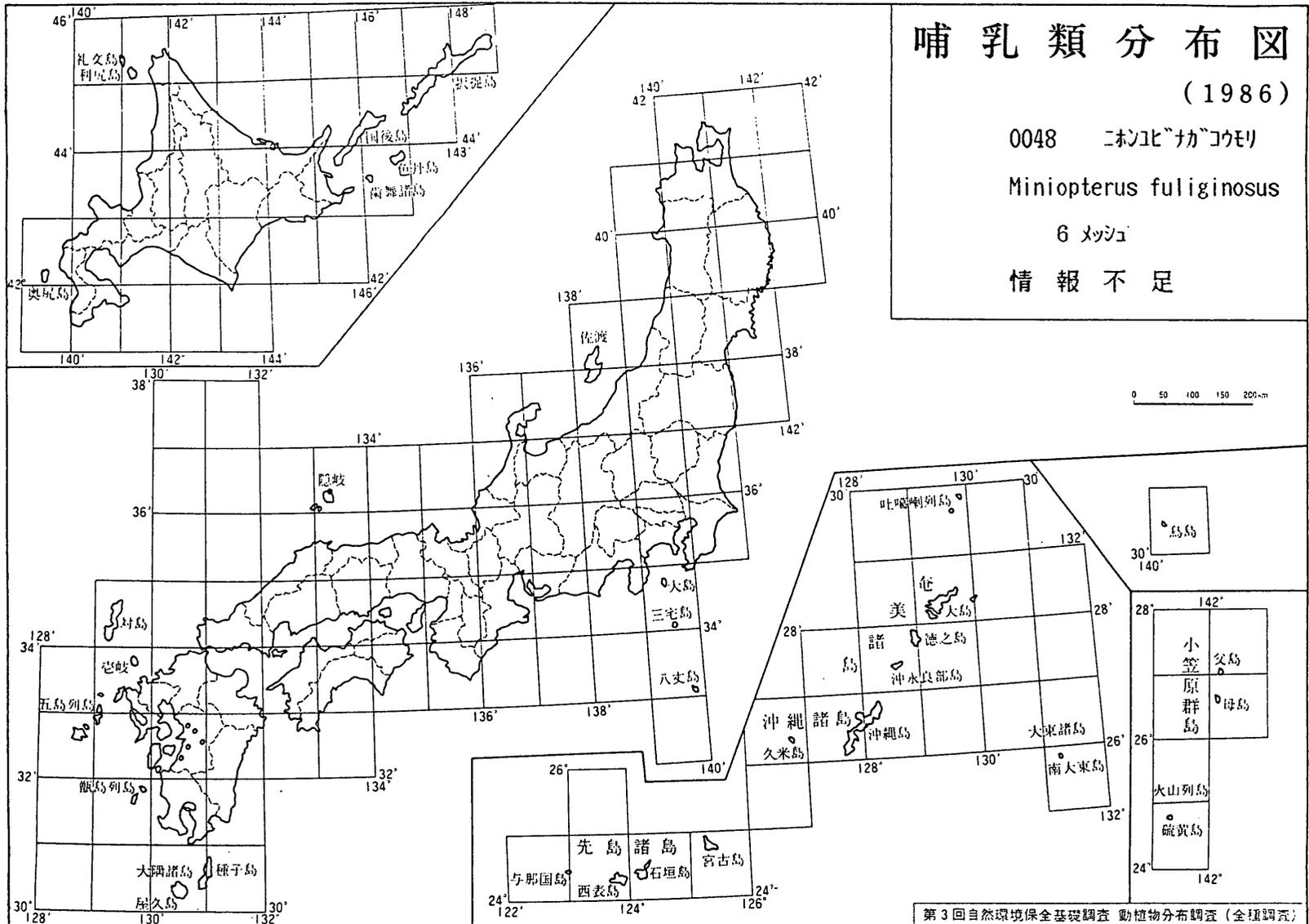
(1986)

0048 ニホビ"カ"コケリ

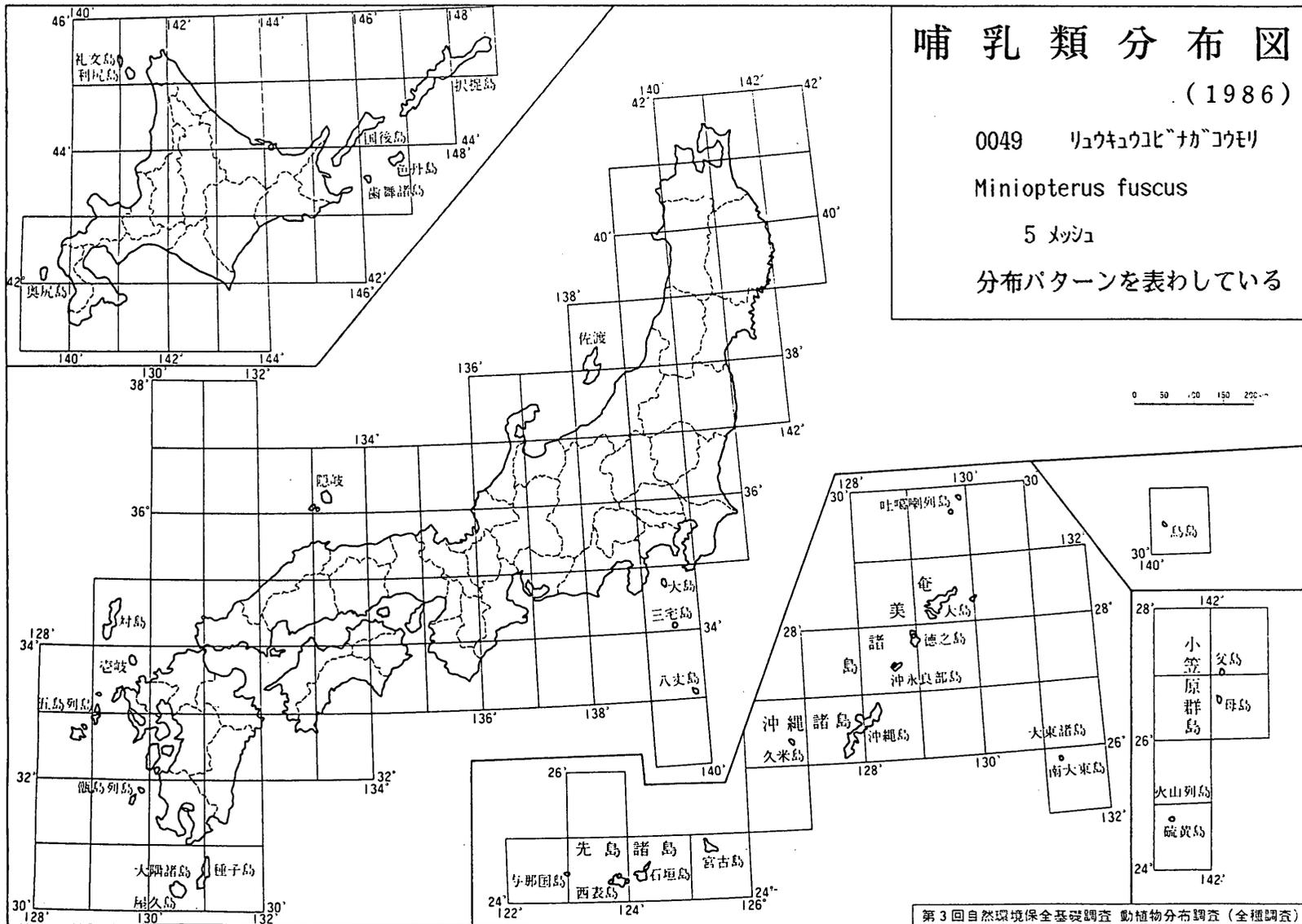
*Miniopterus fuliginosus*

6 ヶツヨ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)



哺乳類分布図  
(1986)  
0049 リウキュウヒナカコウモリ  
*Miniopterus fuscus*  
5 メッシュ  
分布パターンを表わしている

# 哺乳類分布図

(1986)

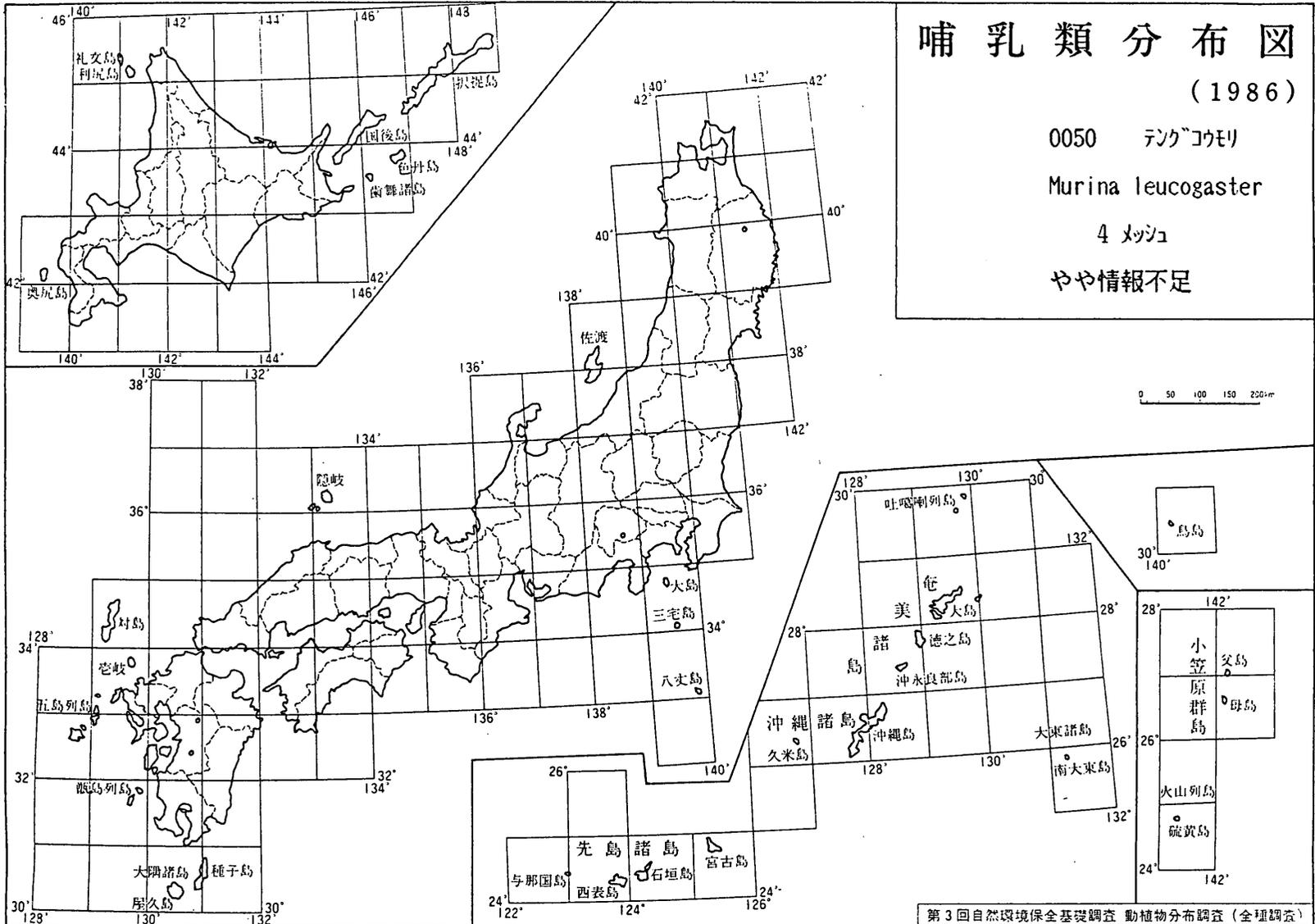
0050 テンクコウマリ

*Murina leucogaster*

4 メッシュ

やや情報不足

0 50 100 150 200km



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

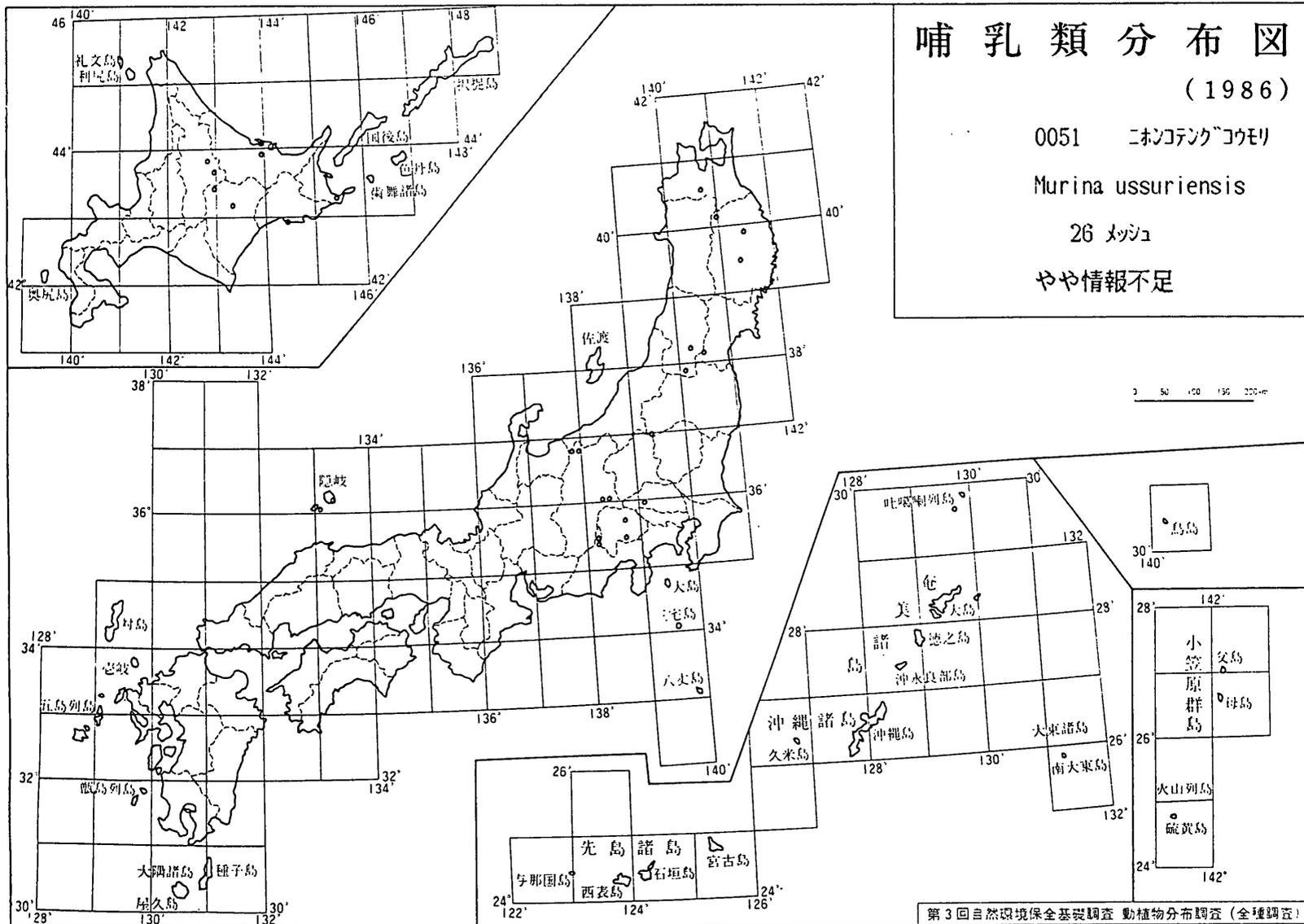
(1986)

0051 ニホンテンクコウモリ

*Murina ussuriensis*

26 マッコ

やや情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

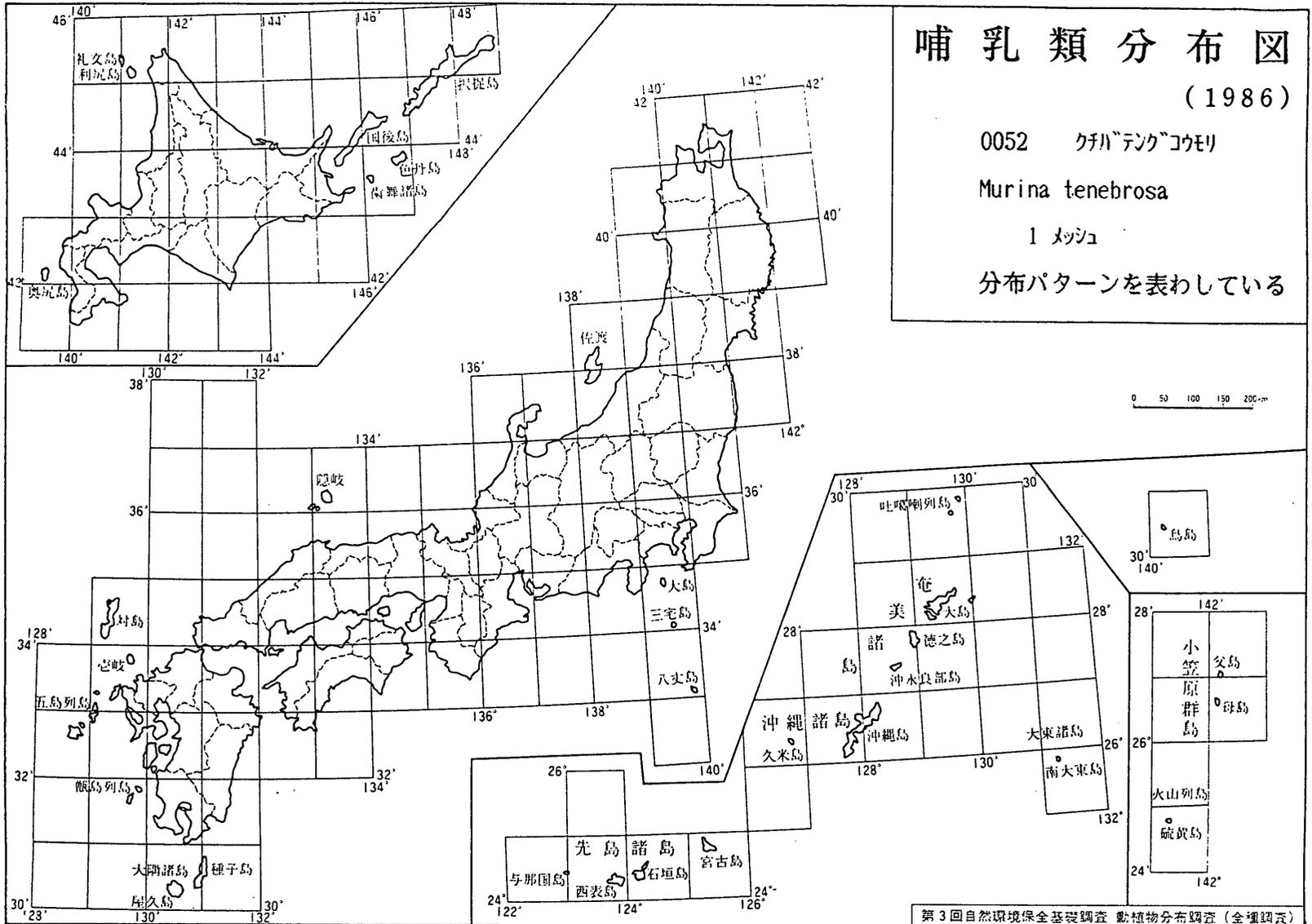
(1986)

0052 クチハテングコウモリ

*Murina tenebrosa*

1 メッシュ

分布パターンを表わしている



# 哺乳類分布図

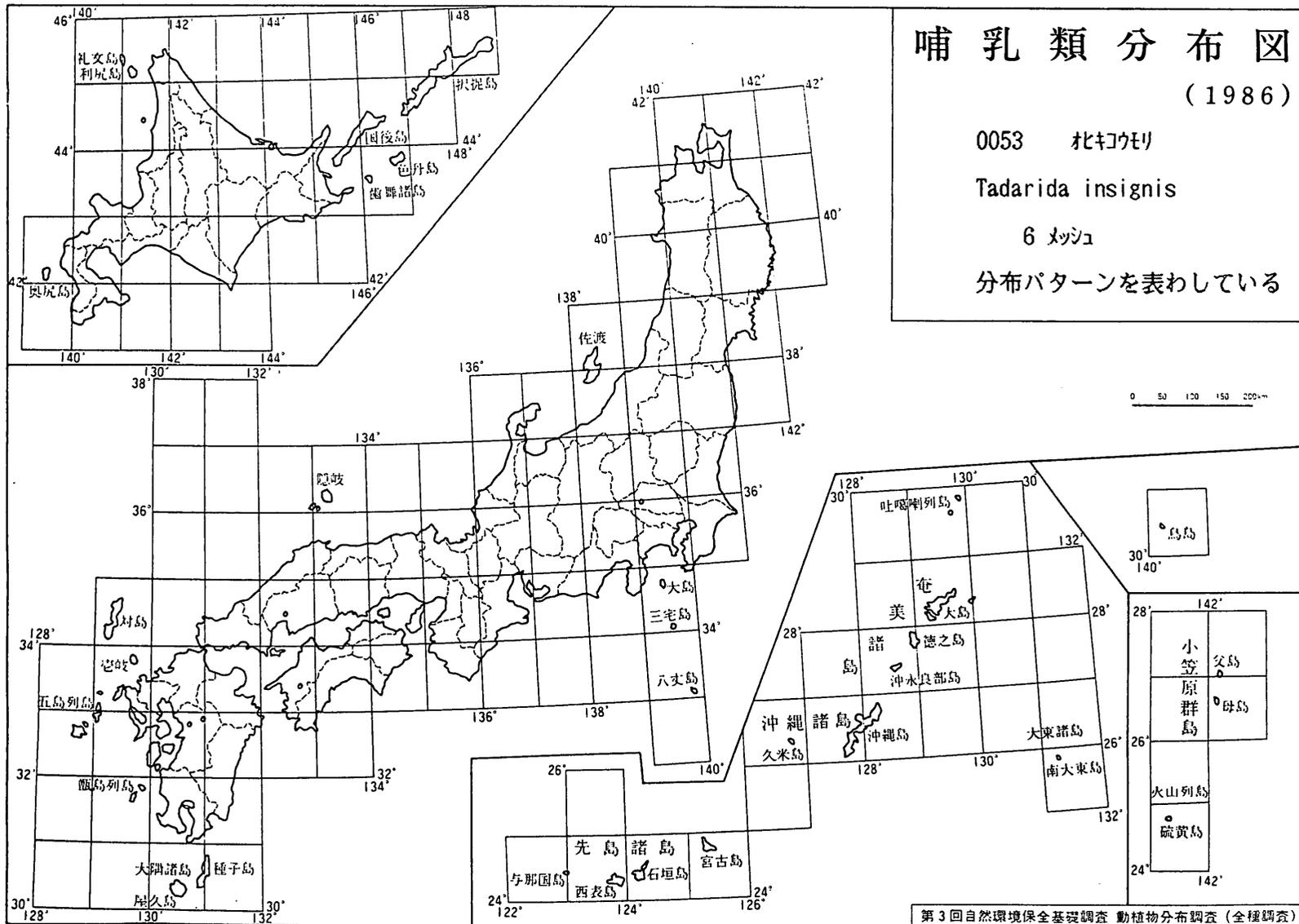
(1986)

0053 北ウケリ

*Tadarida insignis*

6 ヶ月

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

(1986)

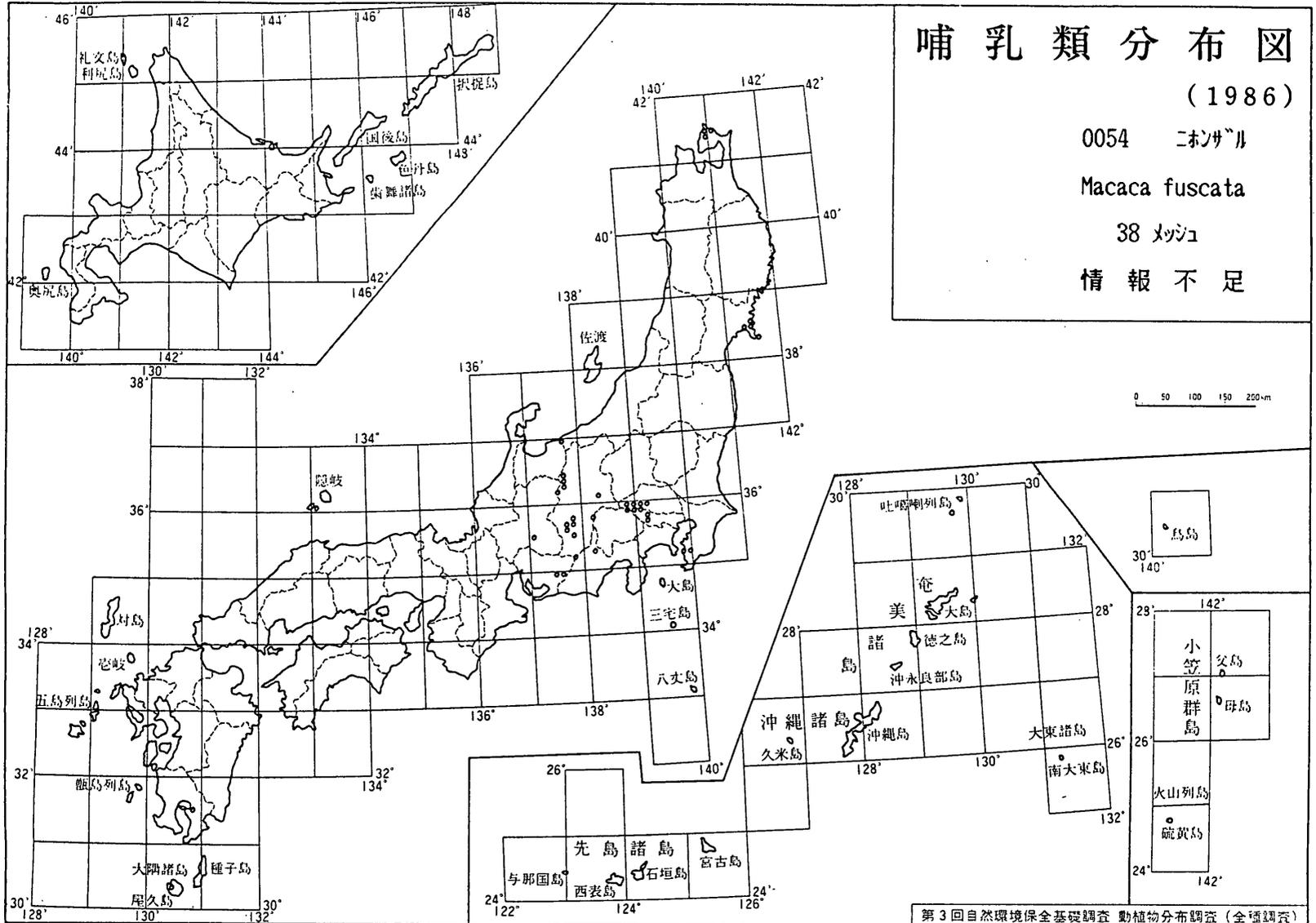
0054 ニホンザル

Macaca fuscata

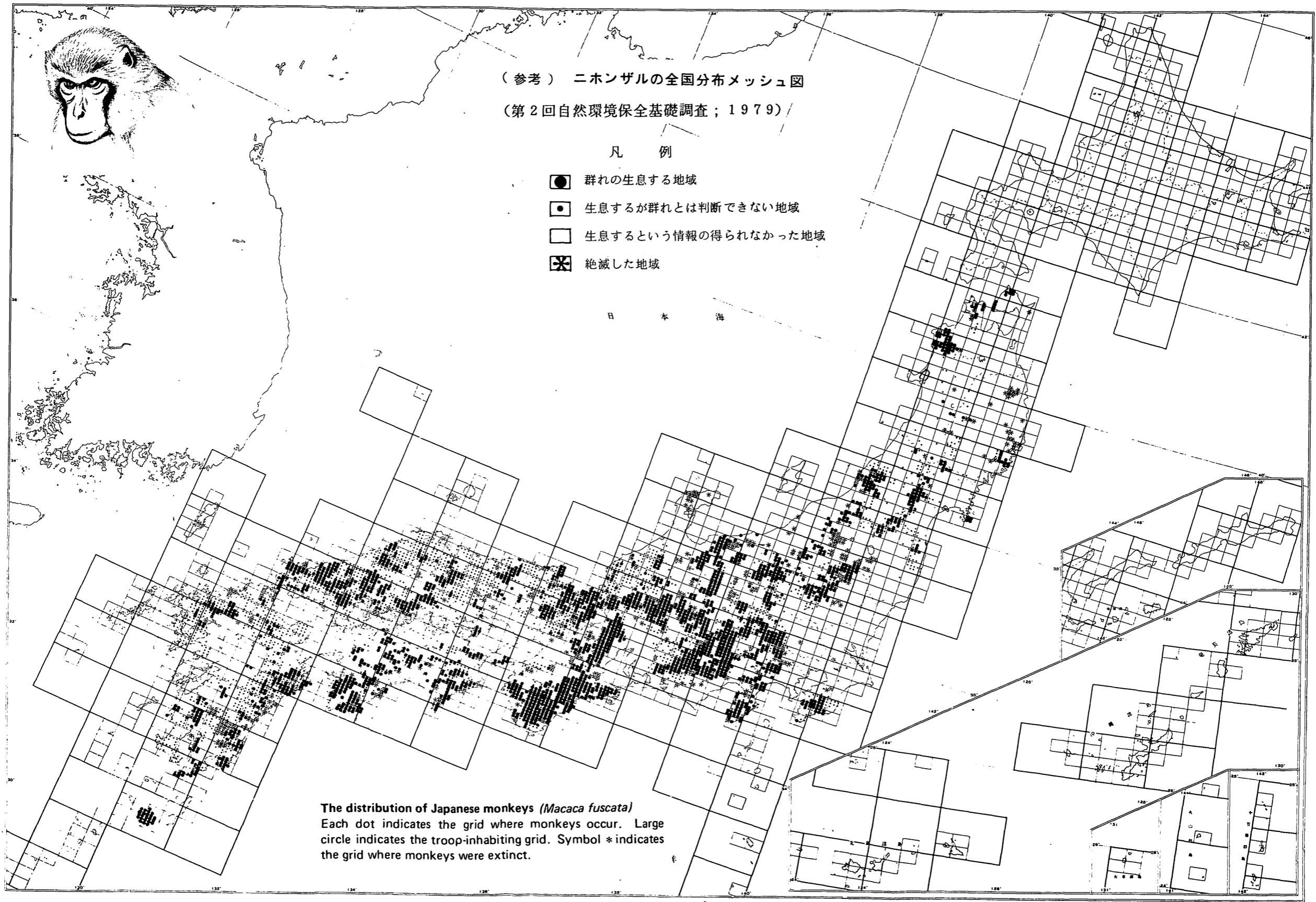
38 ヶシ

情報不足

0 50 100 150 200m



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)



(参考) ニホンザルの全国分布メッシュ図

(第2回自然環境保全基礎調査; 1979)

凡 例

- 群れの生息する地域
- 生息するが群れとは判断できない地域
- 生息するという情報の得られなかった地域
- ✖ 絶滅した地域

The distribution of Japanese monkeys (*Macaca fuscata*)  
 Each dot indicates the grid where monkeys occur. Large circle indicates the troop-inhabiting grid. Symbol \* indicates the grid where monkeys were extinct.

# 哺乳類分布図

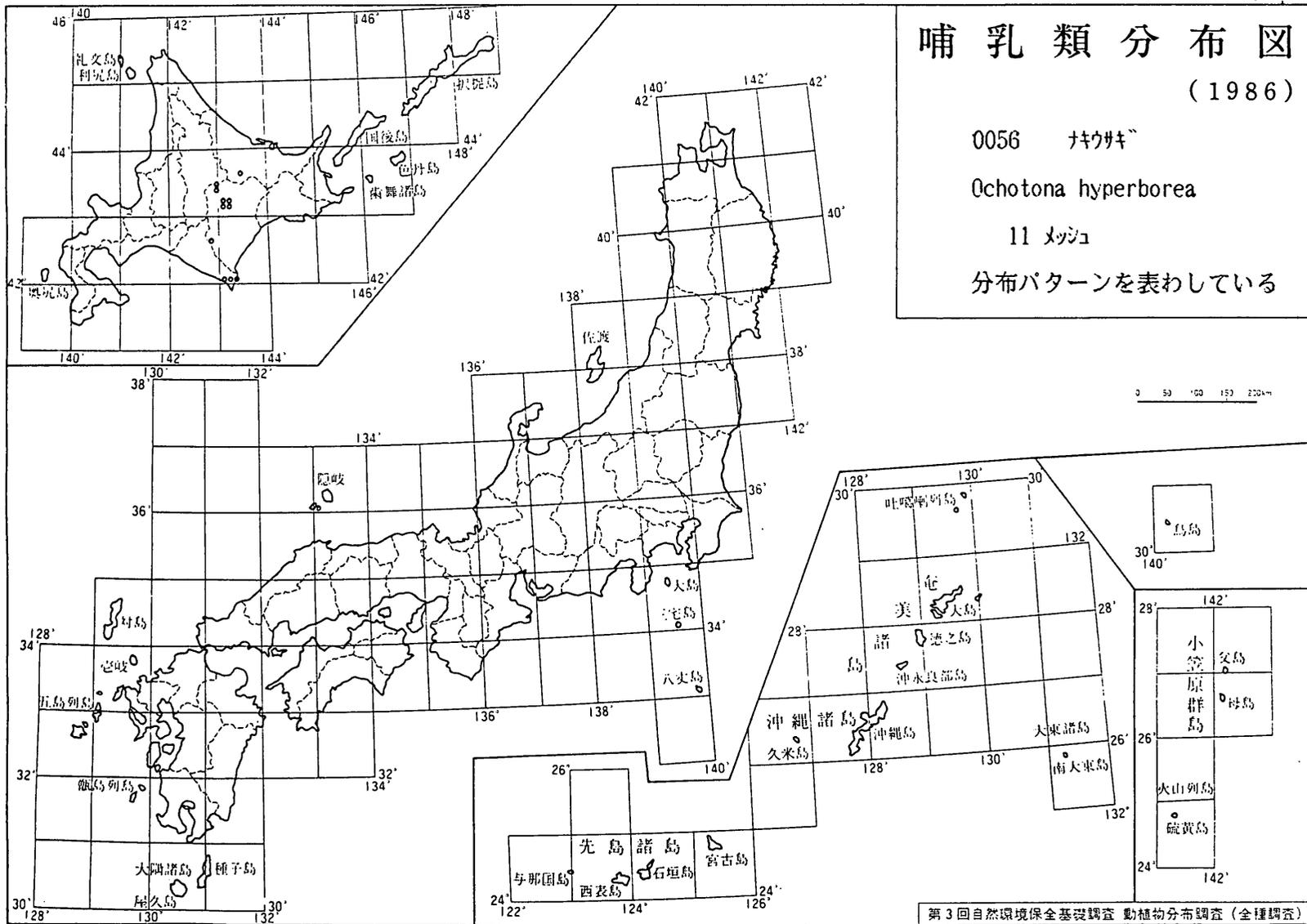
(1986)

0056 ナキウサギ

*Ochotona hyperborea*

11 ムジユ

分布パターンを表わしている



# 哺乳類分布図

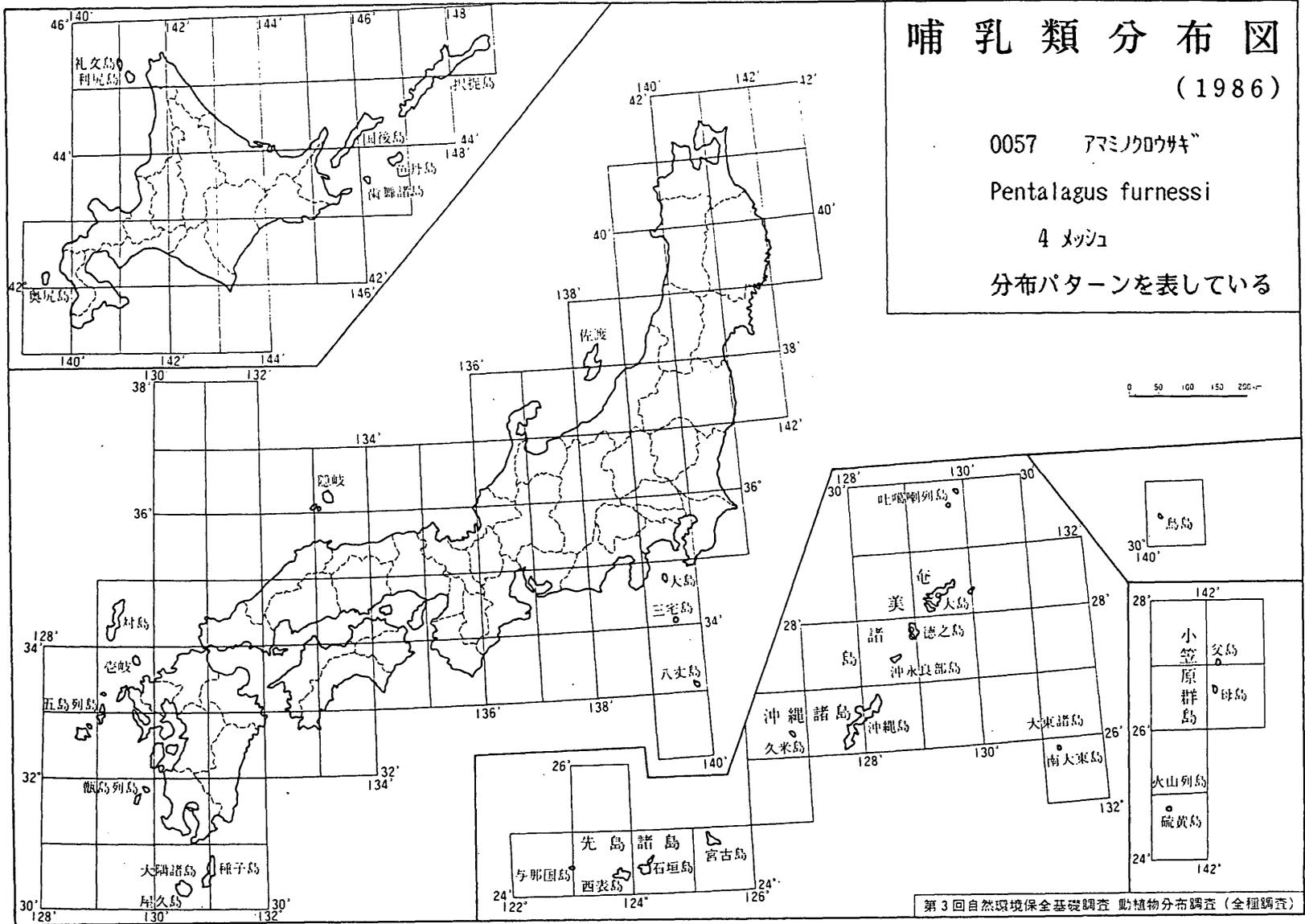
(1986)

0057 アミノノウサギ

*Pentalagus furnessi*

4 メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

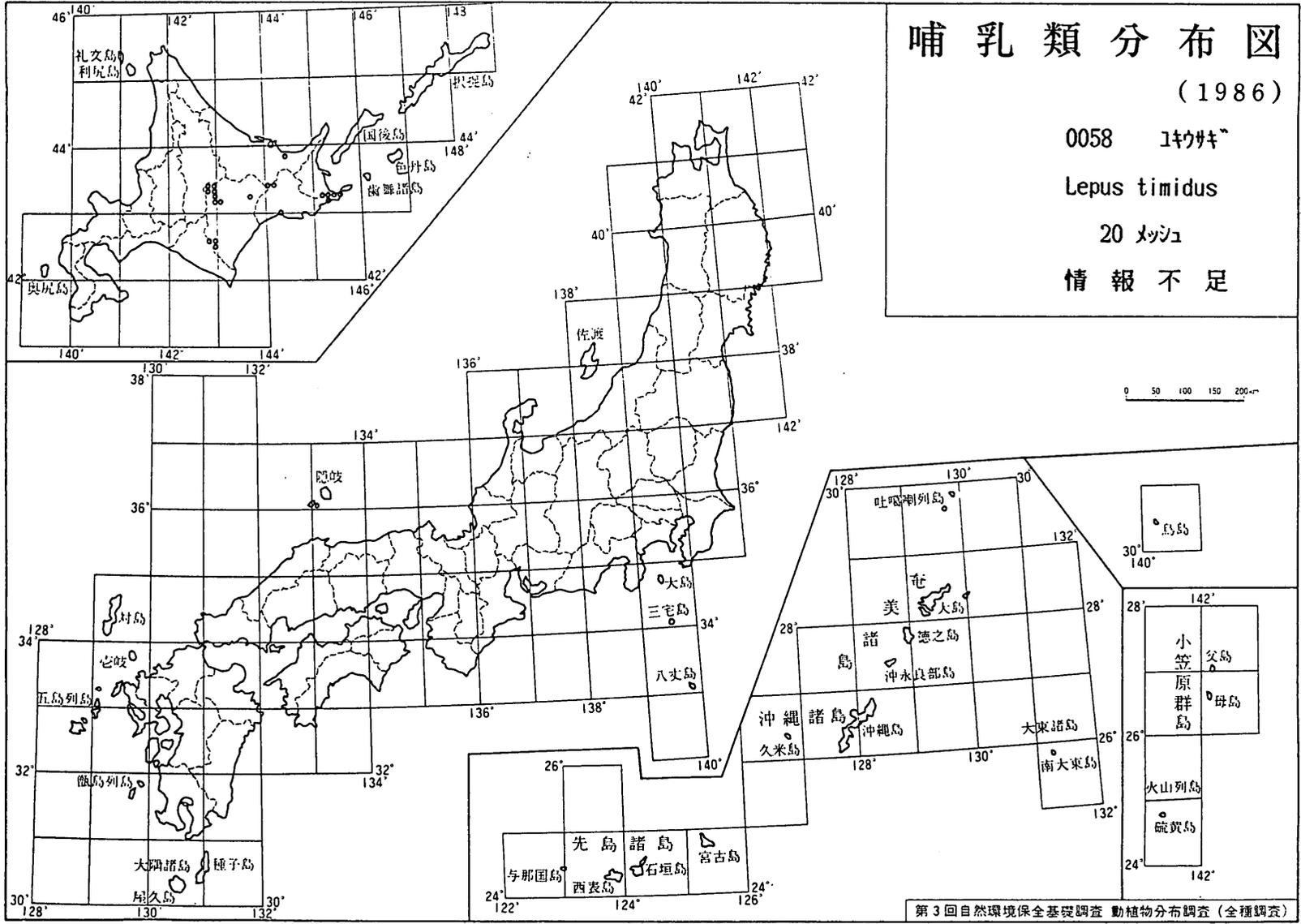
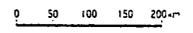
(1986)

0058 *Lepus timidus*

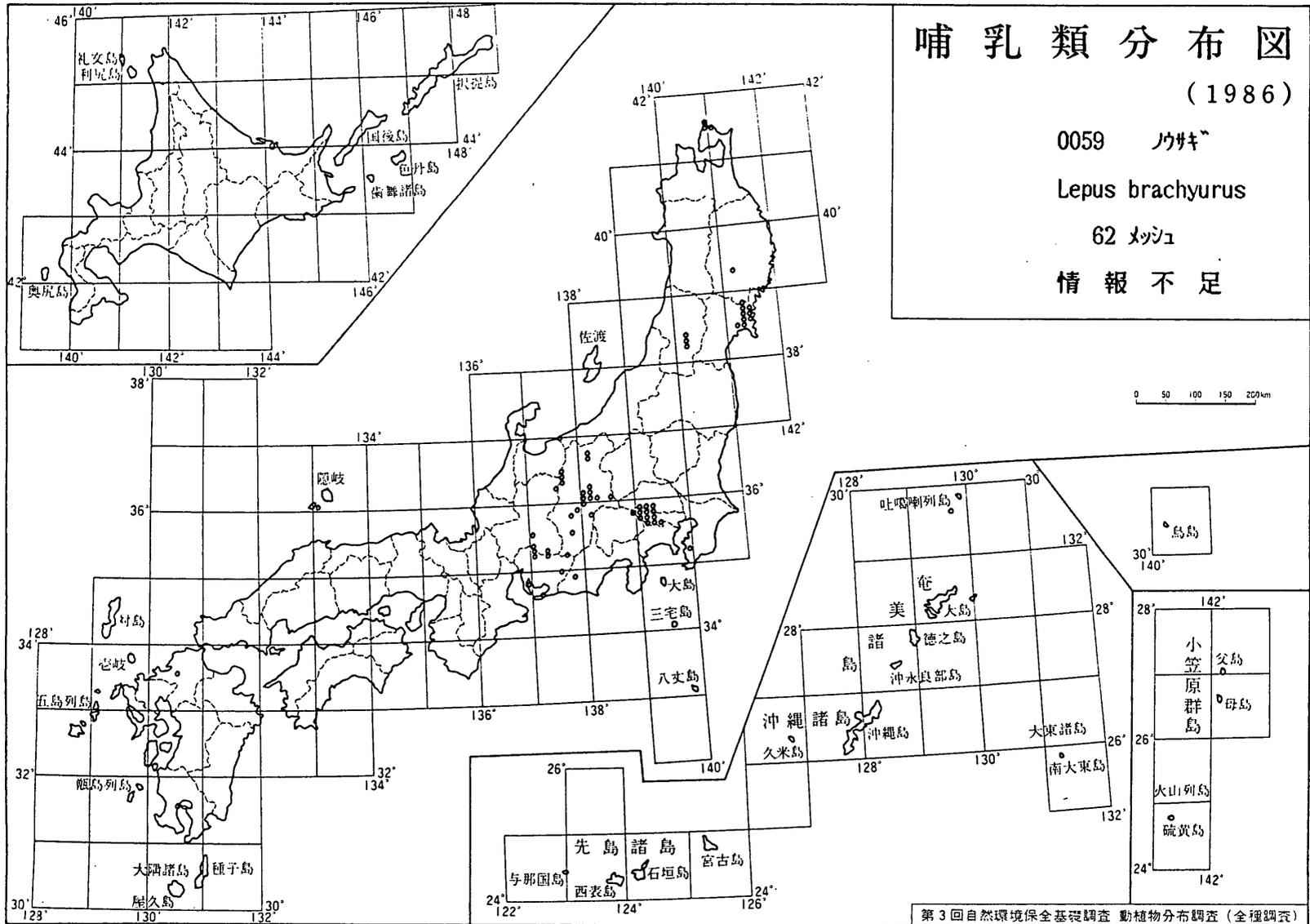
*Lepus timidus*

20 ヲシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)



哺乳類分布図

(1986)

0059 ノネキ

*Lepus brachyurus*

62 ヶシ

情報不足

0 50 100 150 200 km

# 哺乳類分布図

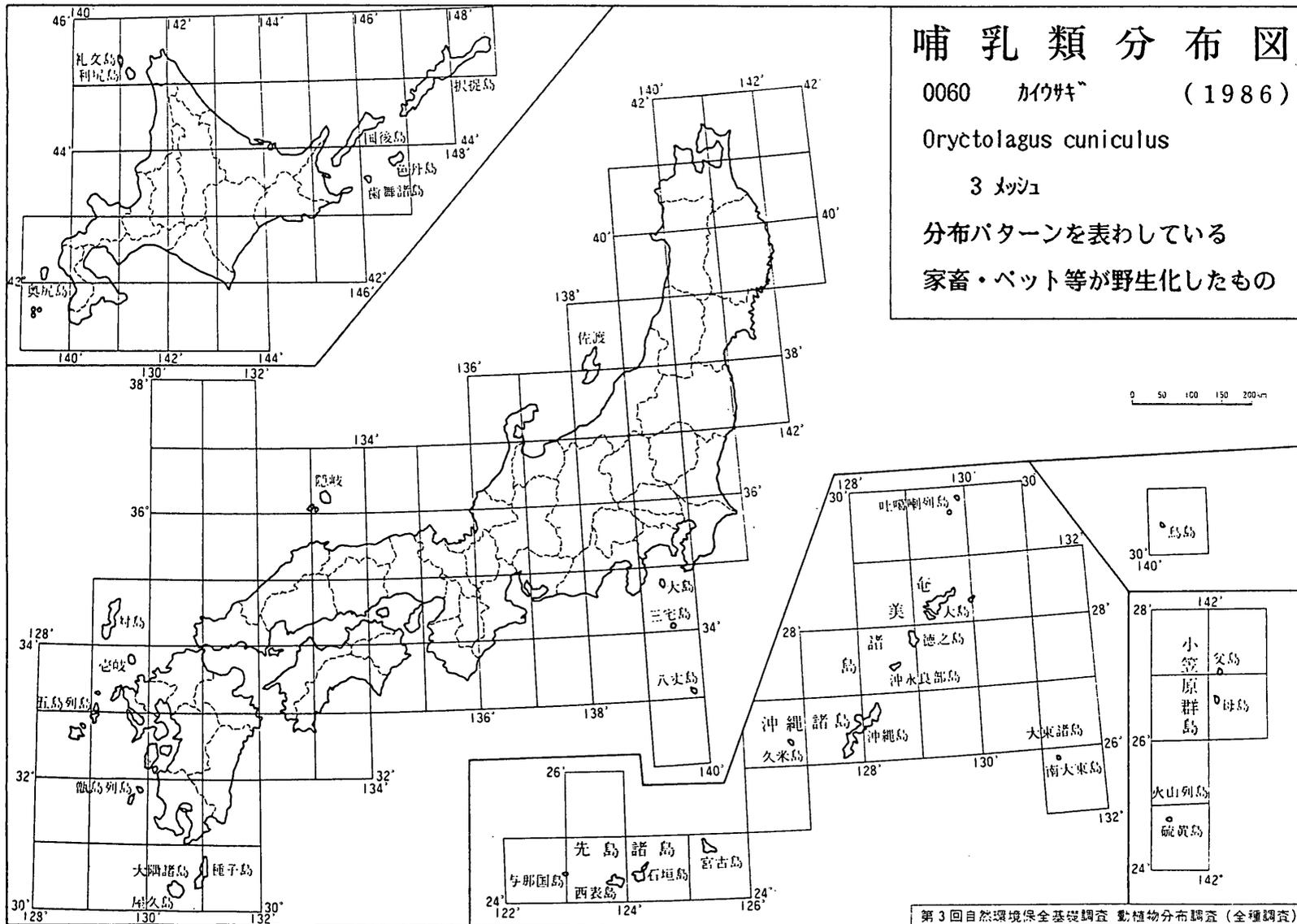
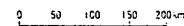
0060 カウサキ (1986)

*Oryctolagus cuniculus*

3 ヲシ

分布パターンを表わしている

家畜・ペット等が野生化したもの



# 哺乳類分布図

0061 タイワリス (1986)

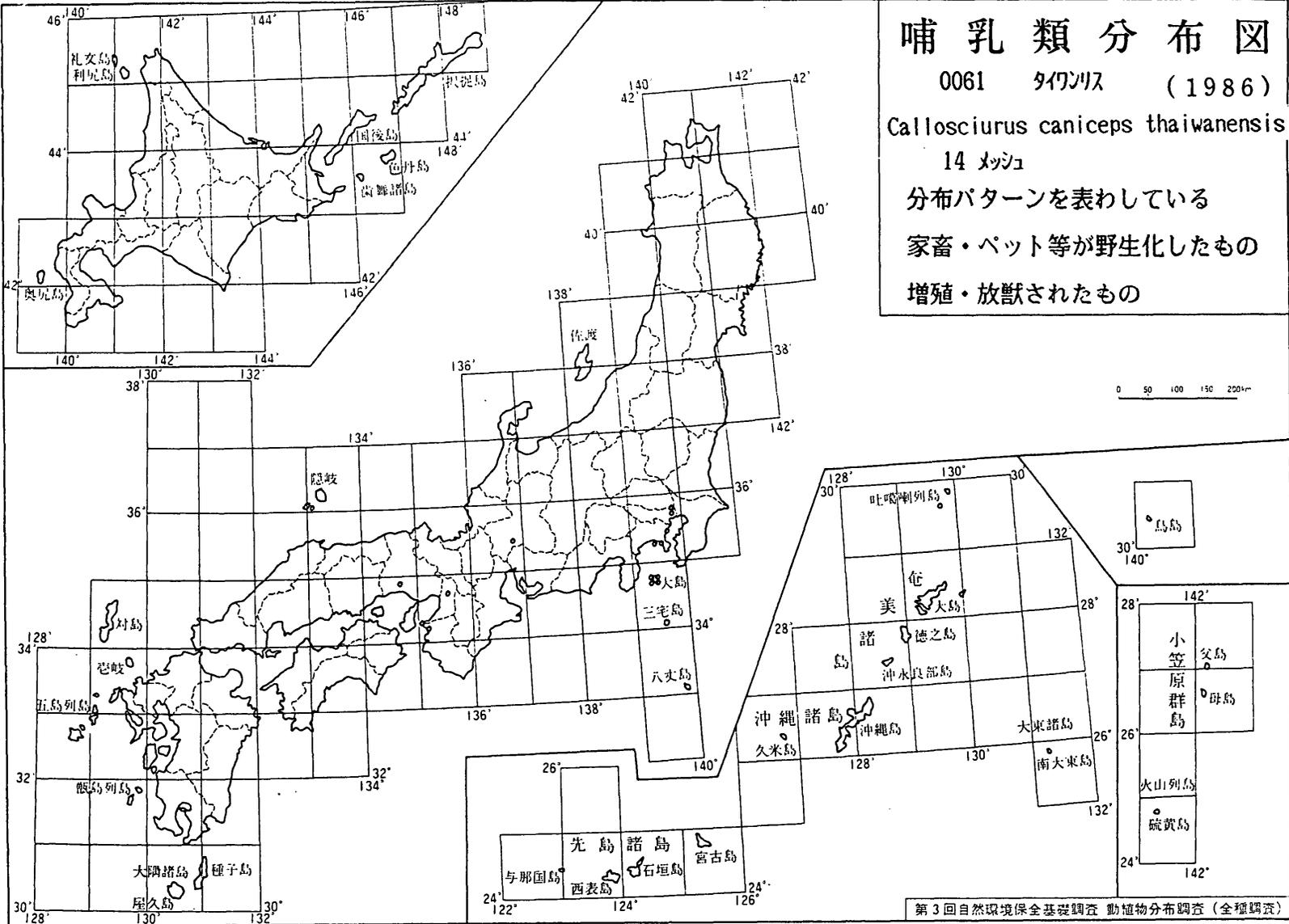
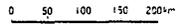
*Callosciurus caniceps taiwanensis*

14 メッシュ

分布パターンを表わしている

家畜・ペット等が野生化したもの

増殖・放獣されたもの



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

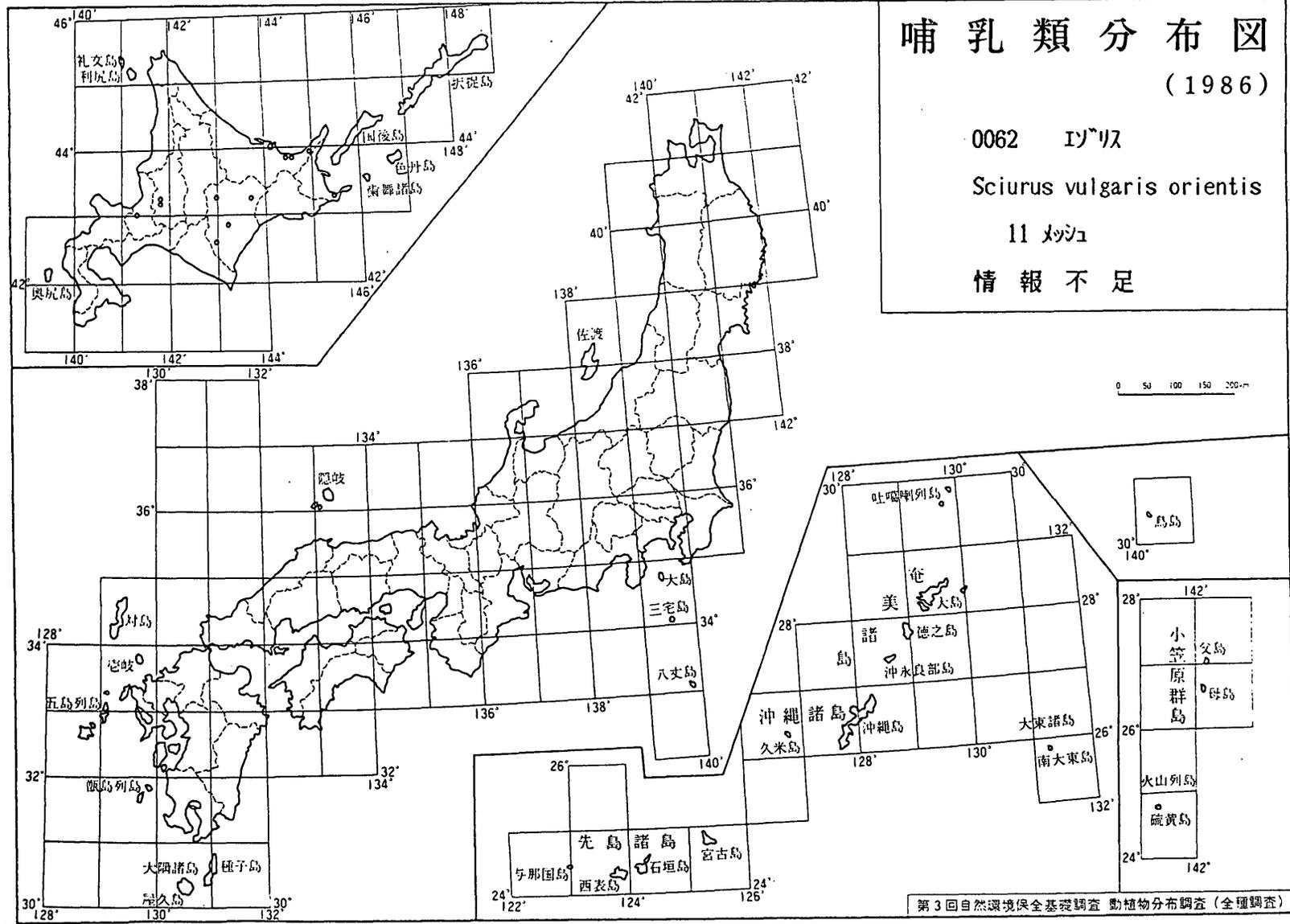
(1986)

0062 イリス

*Sciurus vulgaris orientis*

11 ヵシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

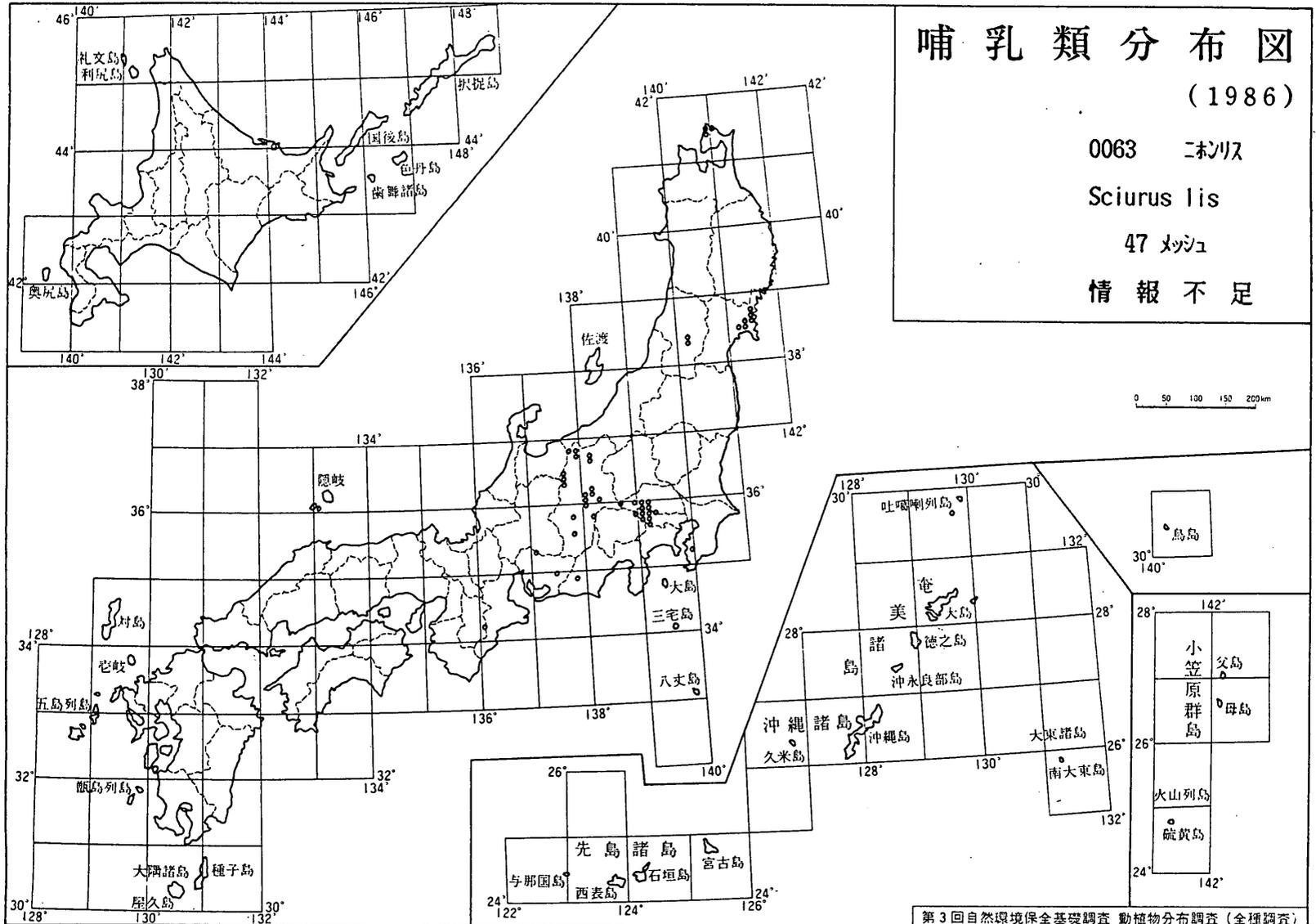
(1986)

0063 ニホンリス

Sciurus lis

47 ヲシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

(1986)

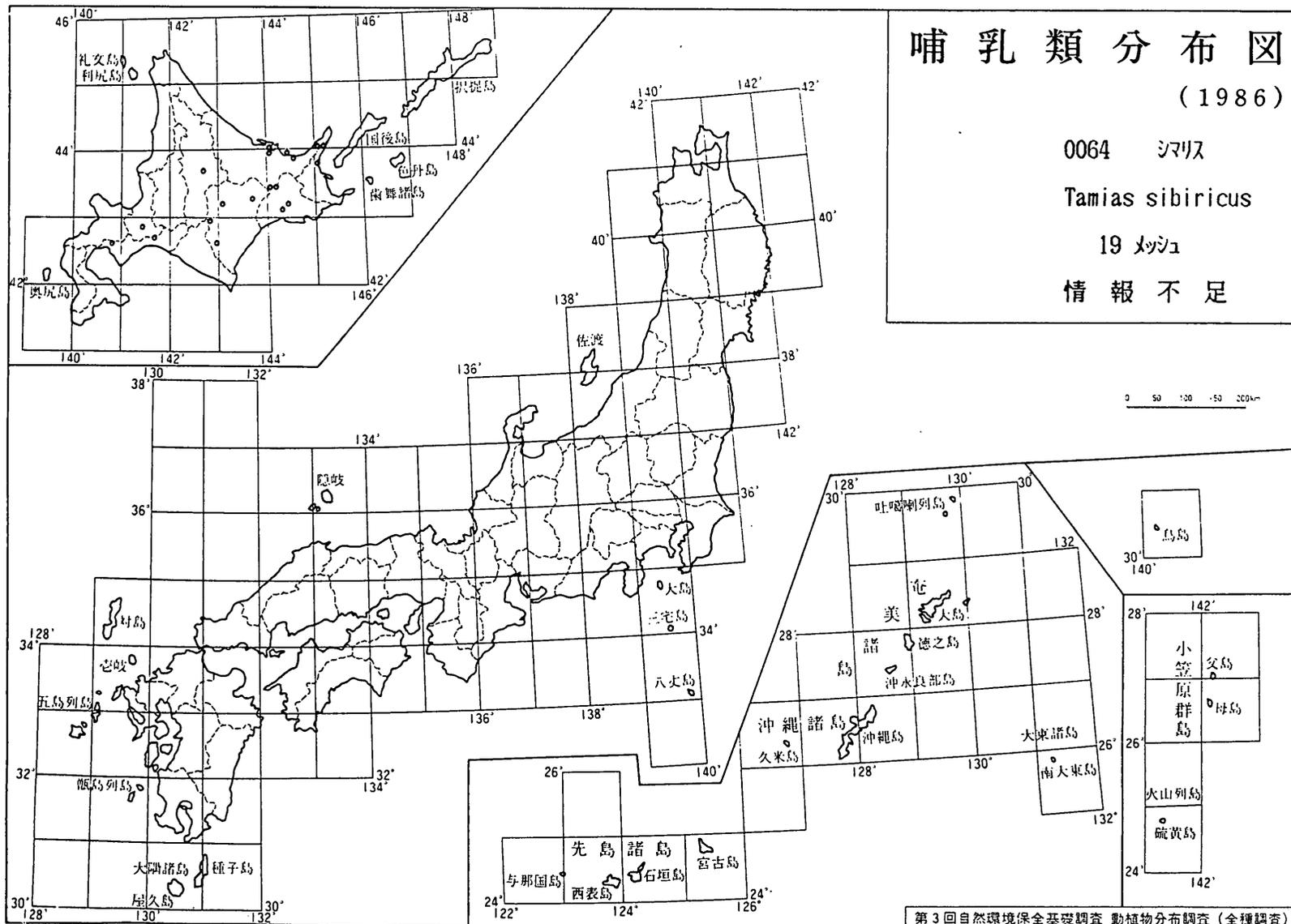
0064 シマリス

*Tamias sibiricus*

19 ヲシ

情報不足

0 50 100 150 200km



# 哺乳類分布図

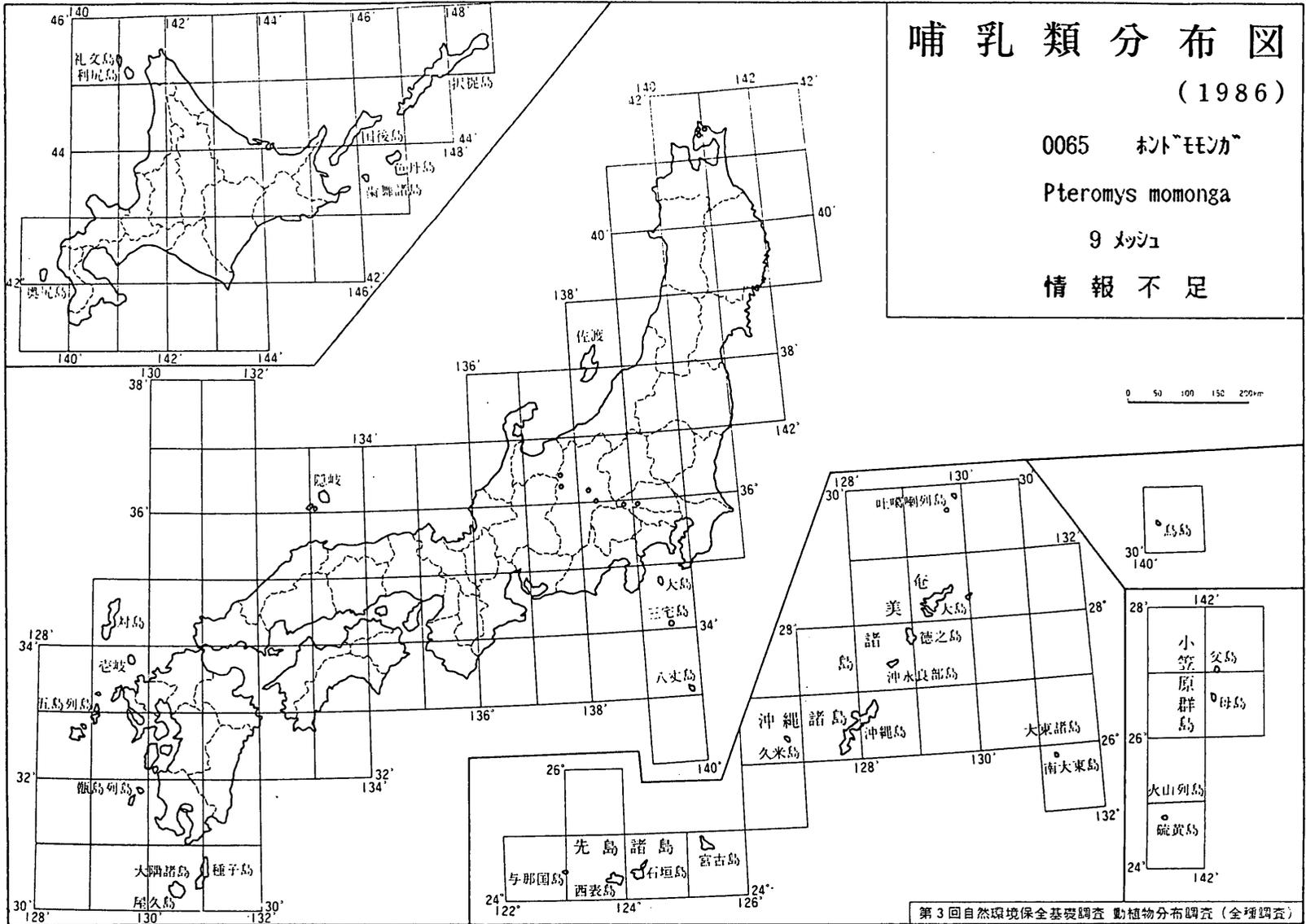
(1986)

0065 小トモカ

*Pteromys momonga*

9 ヲシ

情報不足



# 哺乳類分布図

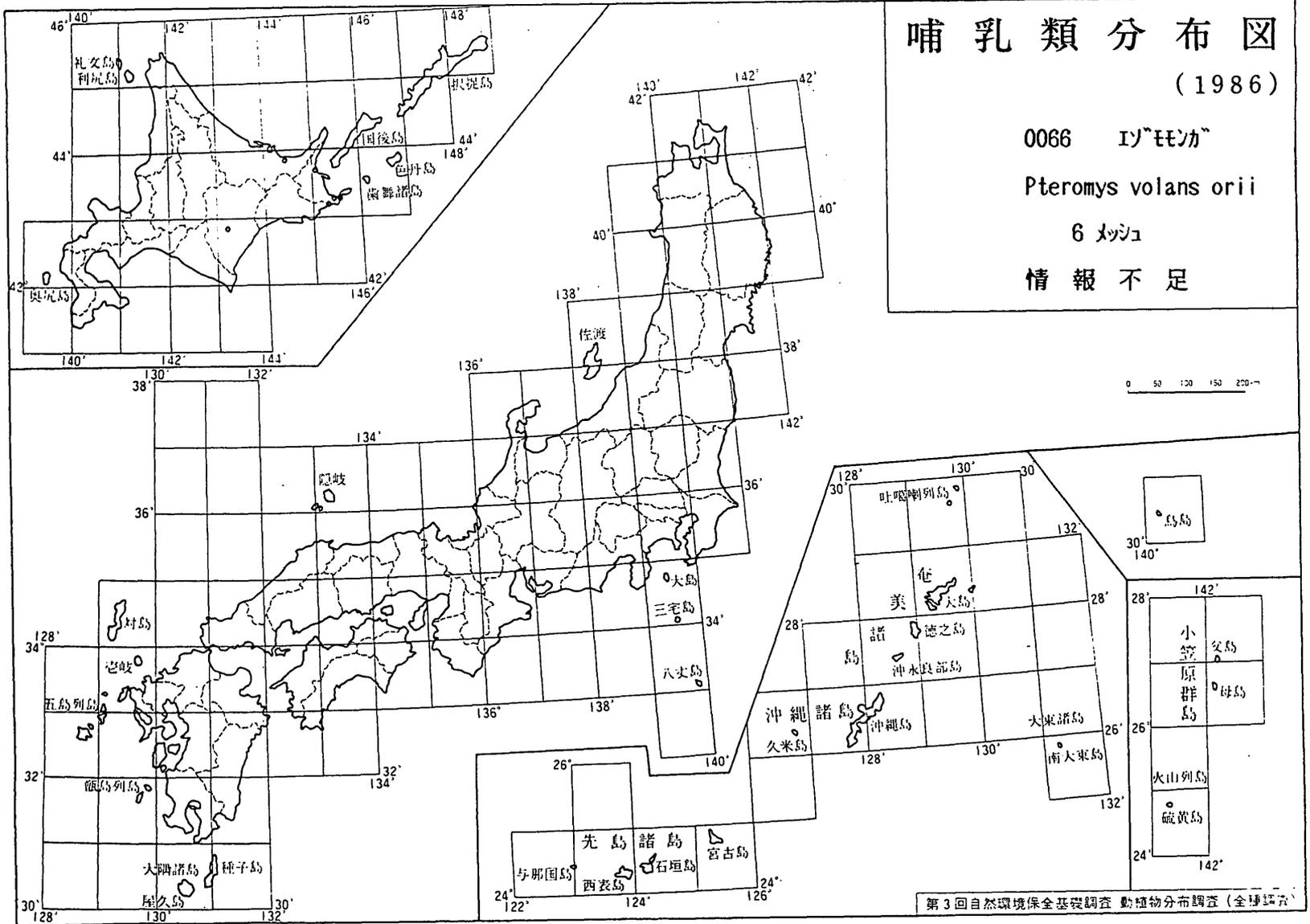
(1986)

0066 イモモカ

*Pteromys volans orii*

6 ヲシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

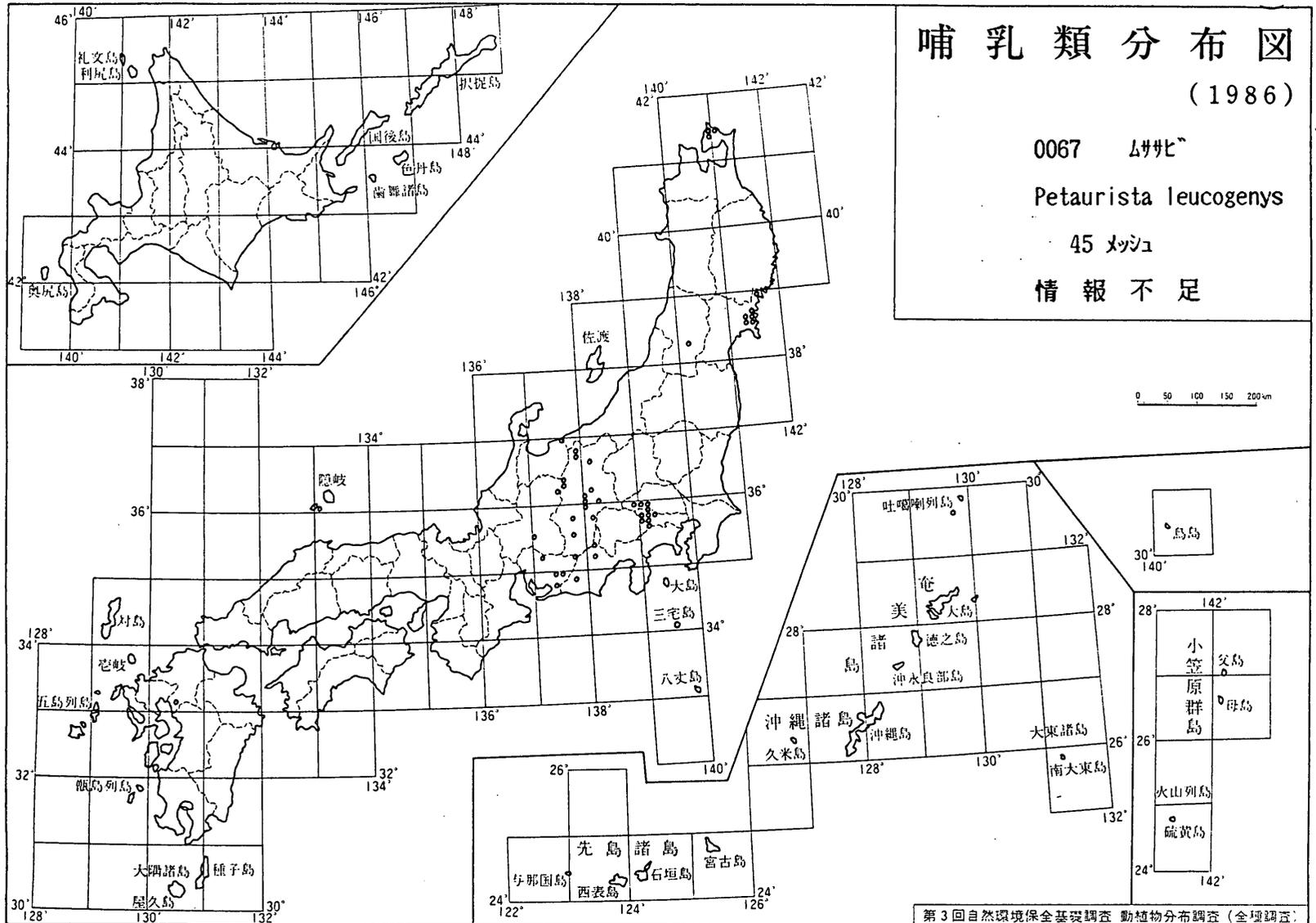
(1986)

0067 ムサビ

*Petaurista leucogenys*

45 メッシュ

情報不足



# 哺乳類分布図

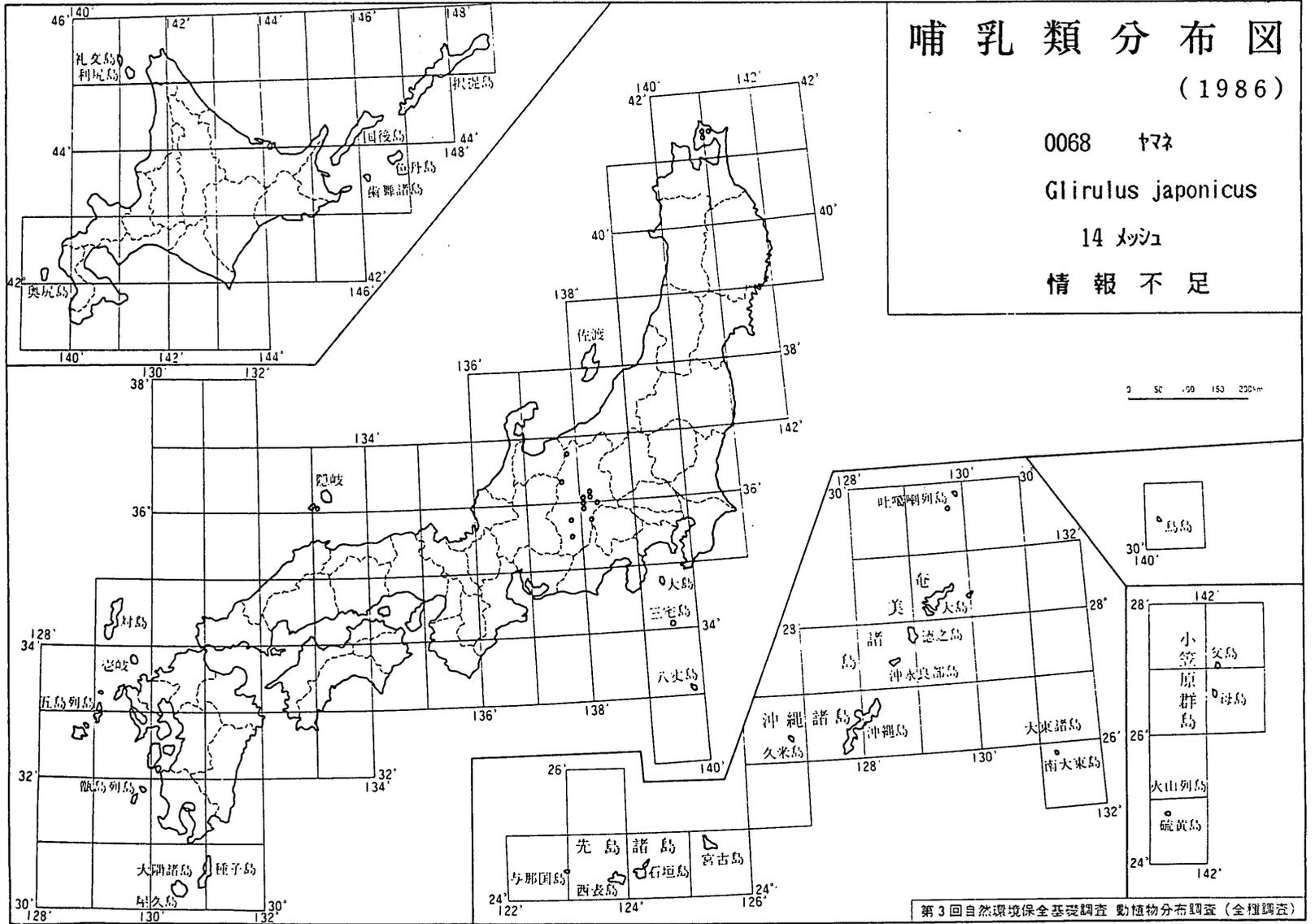
(1986)

0068 マネ

*Glirulus japonicus*

14 ヶシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

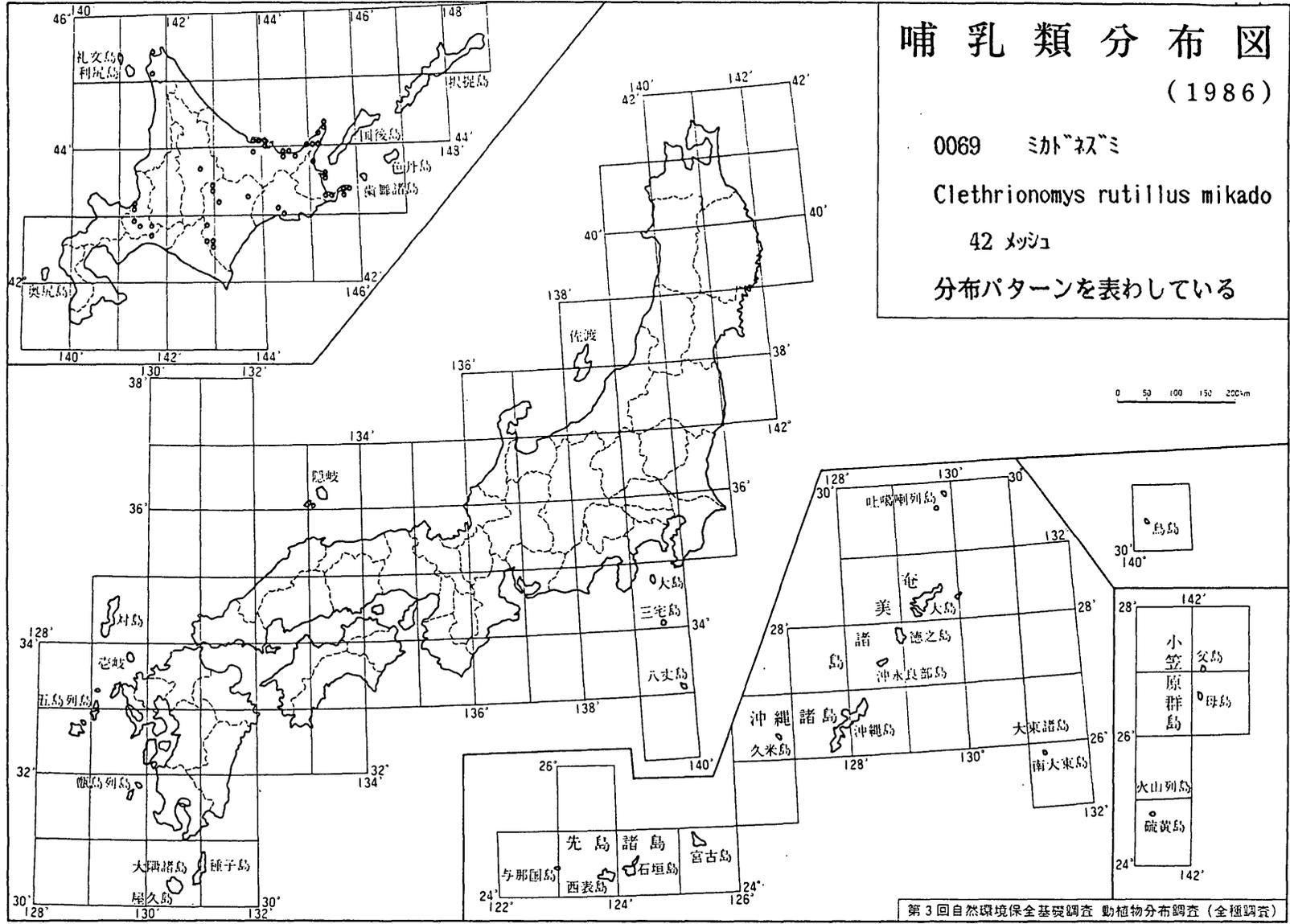
# 哺乳類分布図 (1986)

0069 ミカ<sup>レ</sup><sup>ミ</sup>

*Clethrionomys rutilus mikado*

42 メッシュ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

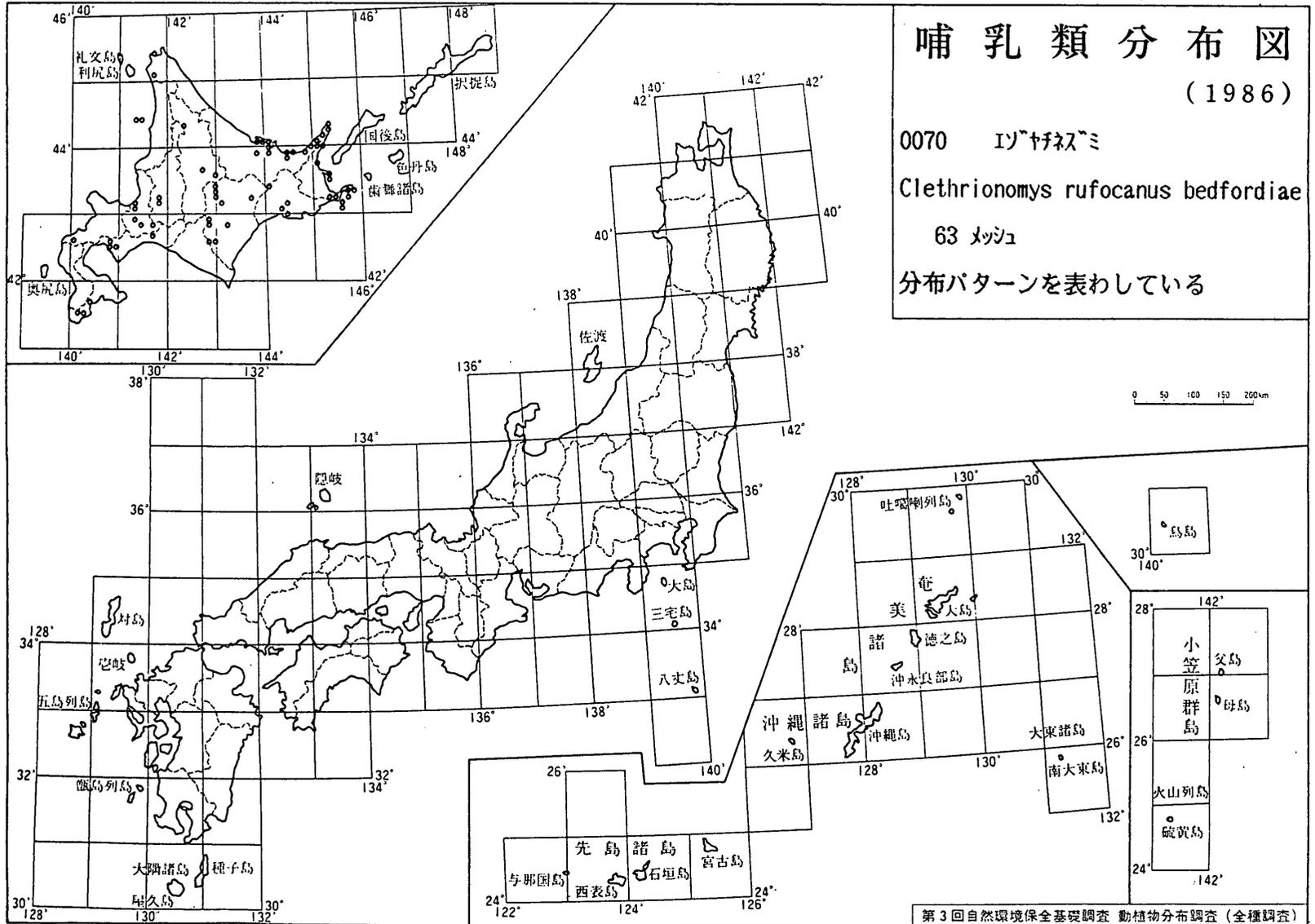
(1986)

0070 イノチヌミ

*Clethrionomys rufocanus bedfordiae*

63 ヲシ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

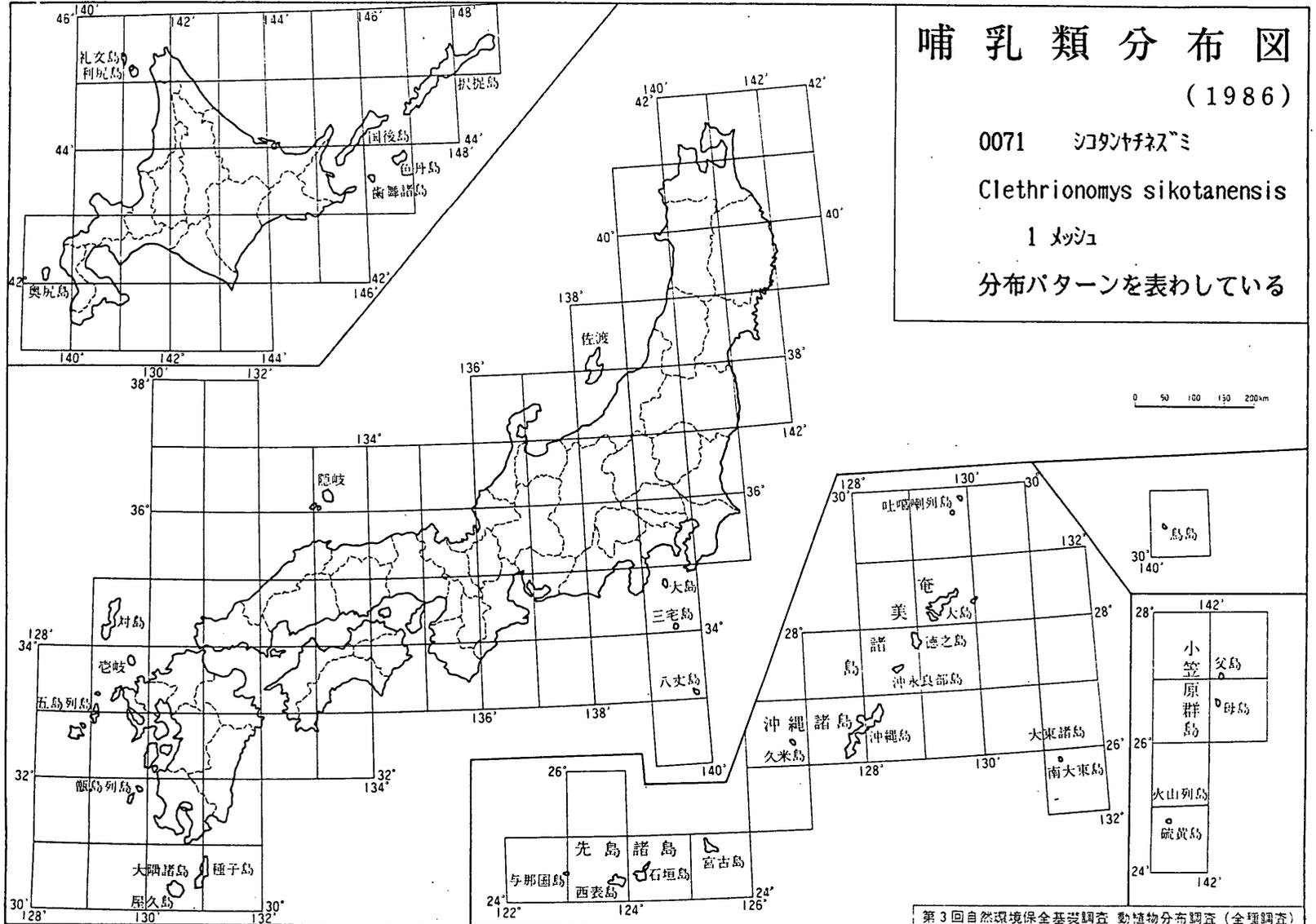
(1986)

0071 シタナチネズミ

*Clethrionomys sikotanensis*

1 ムシ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

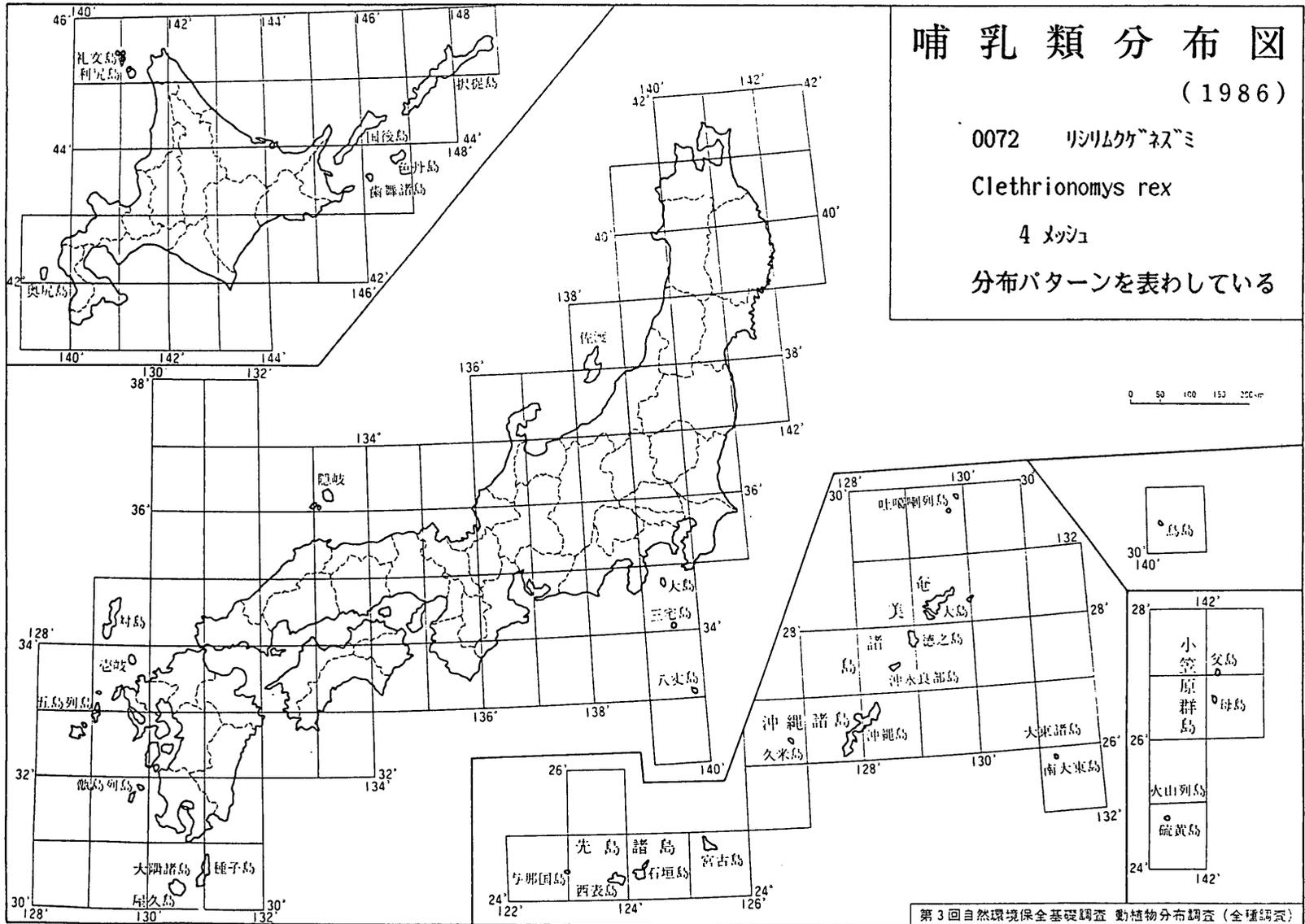
(1986)

0072 リンリムクゲネズミ

*Clethrionomys rex*

4 メッシュ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

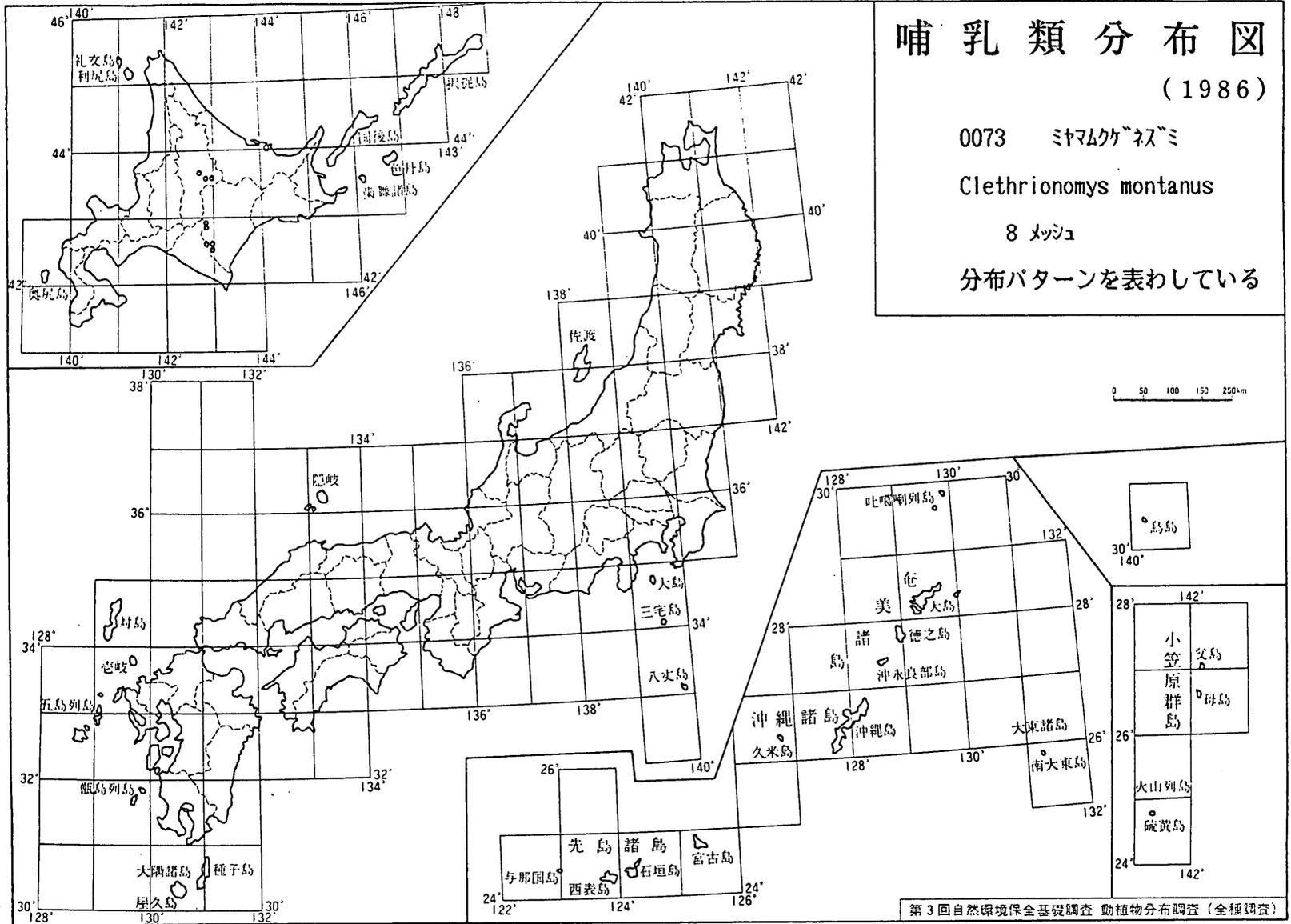
(1986)

0073 ミヤマクゲネズミ

*Clethrionomys montanus*

8 ヲシ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

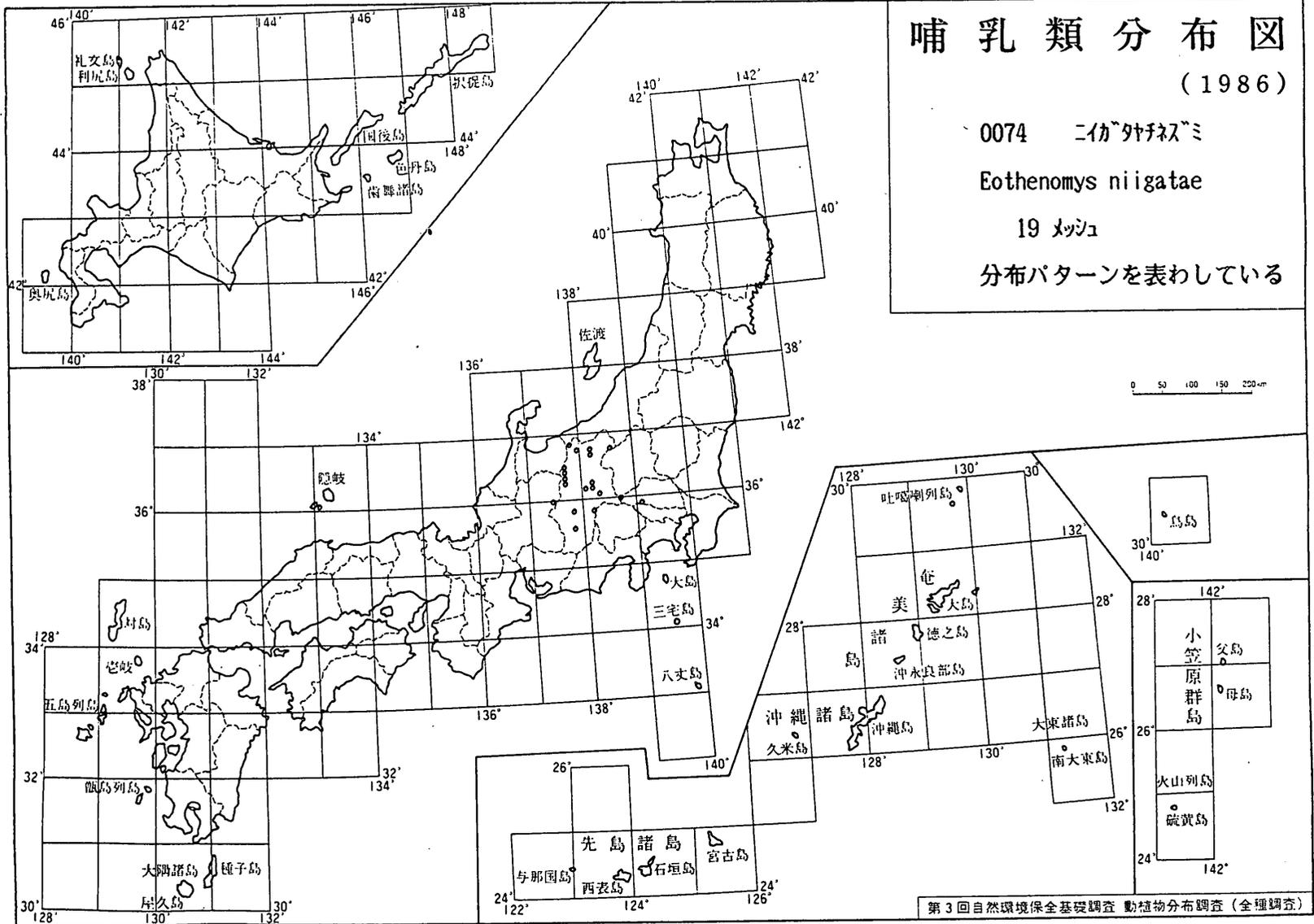
(1986)

0074 ニガキチヌミ

*Eothenomys niigatae*

19 ヌシ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

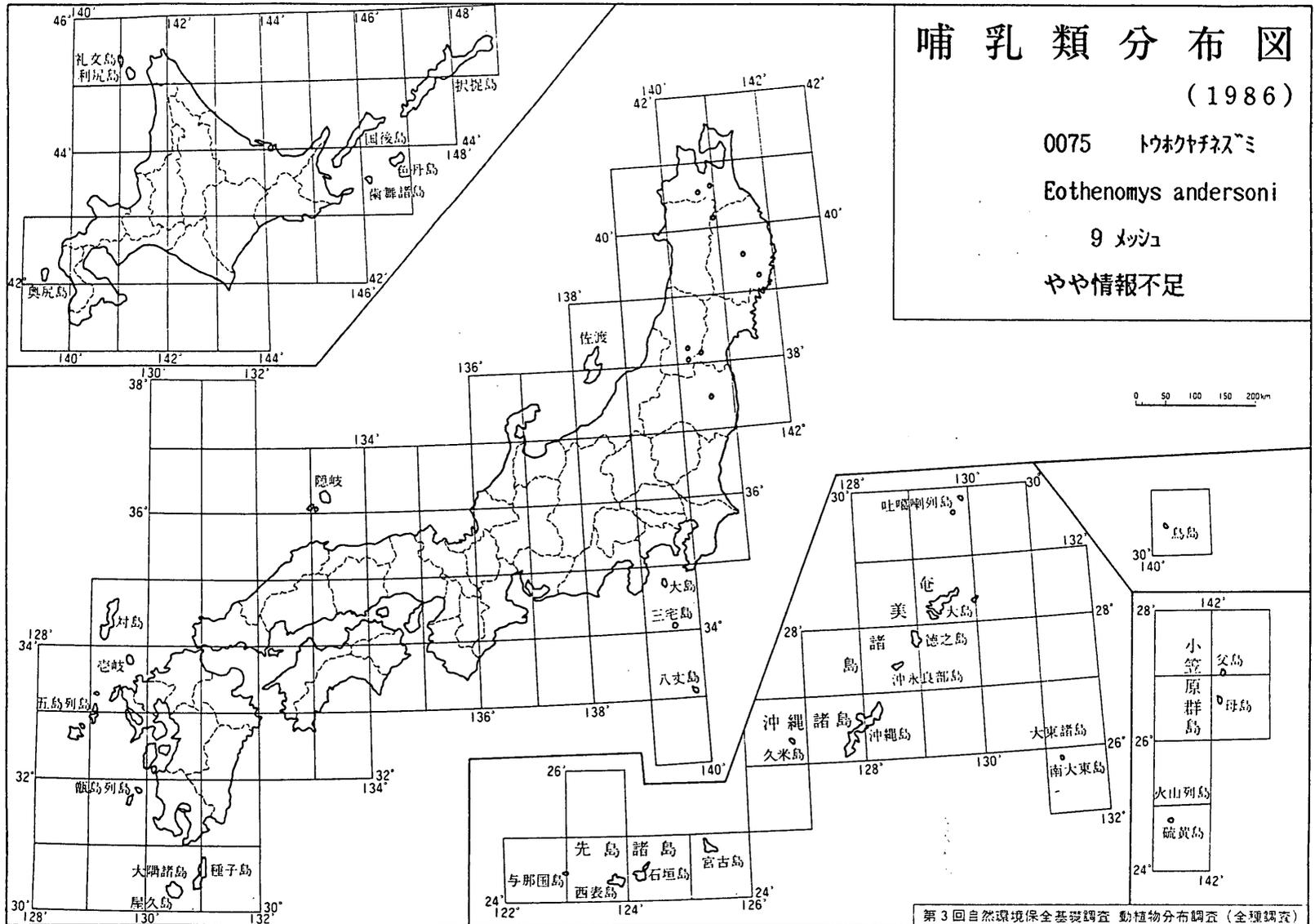
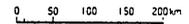
(1986)

0075 トウネキリスミ

*Eothenomys andersoni*

9 マッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

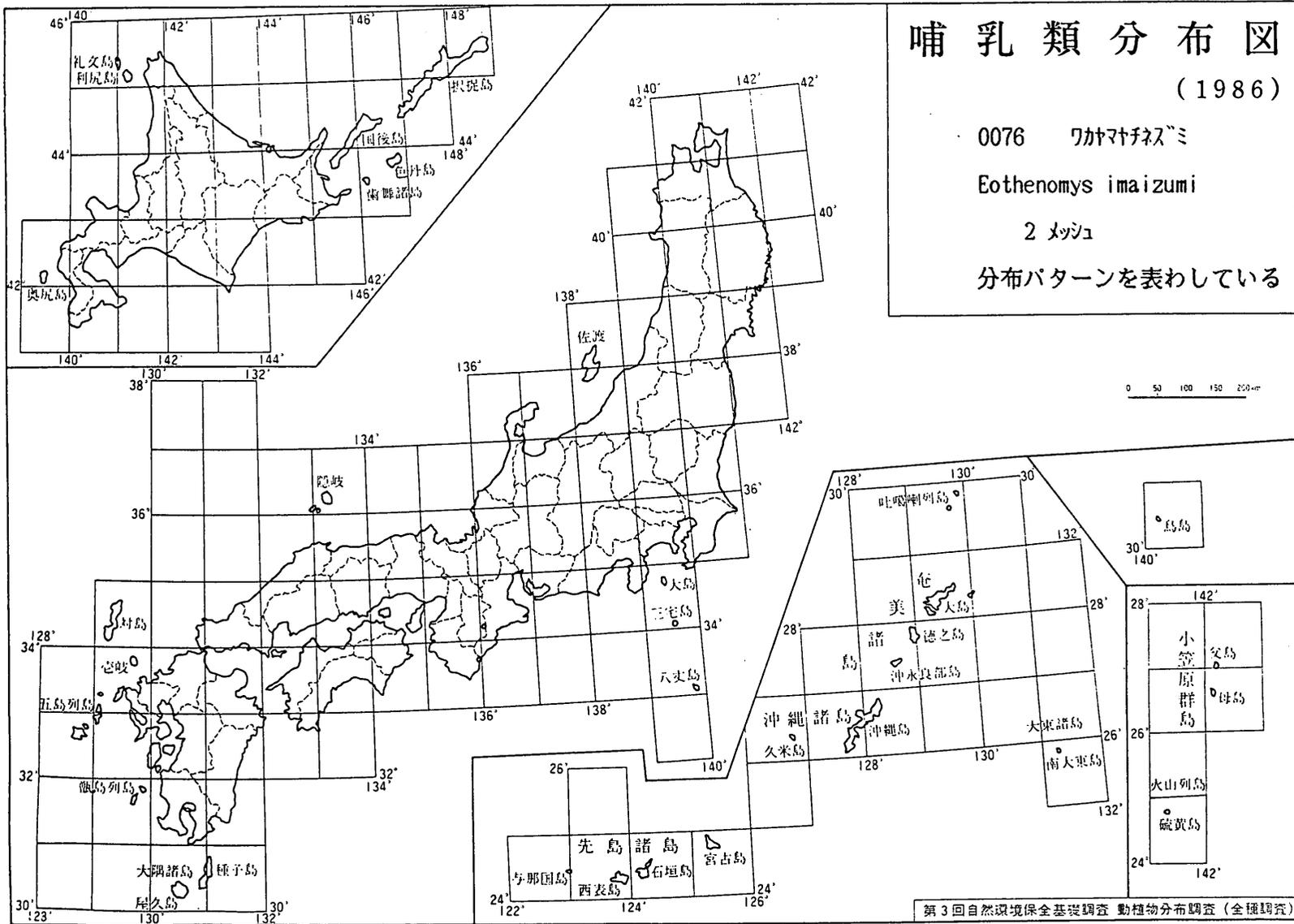
(1986)

0076 ワカマチネズミ

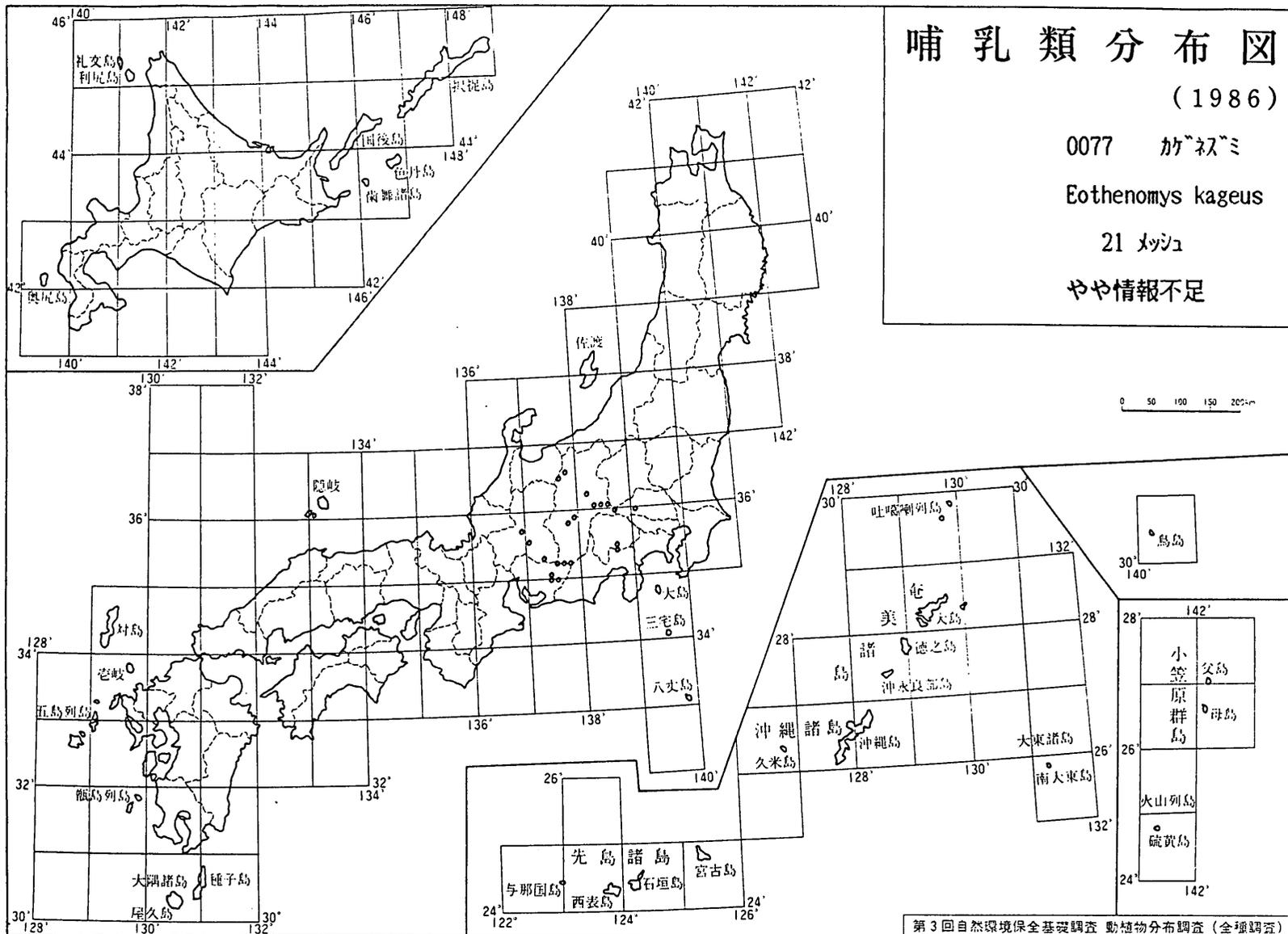
*Eothenomys imaizumi*

2 ヶシュ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動物物分布調査 (全種調査)



礼文島  
利尻島

根室島

国後島

色丹島

歯舞諸島

奥尻島

佐渡

隠岐

対馬

壱岐

五島列島

瀬田列島

大隅諸島

種子島

屋久島

与那国島

先島

西表島

石垣島

宮古島

吐噶喇列島

美大島

諸島

徳之島

沖永良部島

沖繩

久米島

諸島

沖繩島

大東諸島

南大東島

鳥島

小笠

原群島

母島

火山列島

硫黄島

# 哺乳類分布図

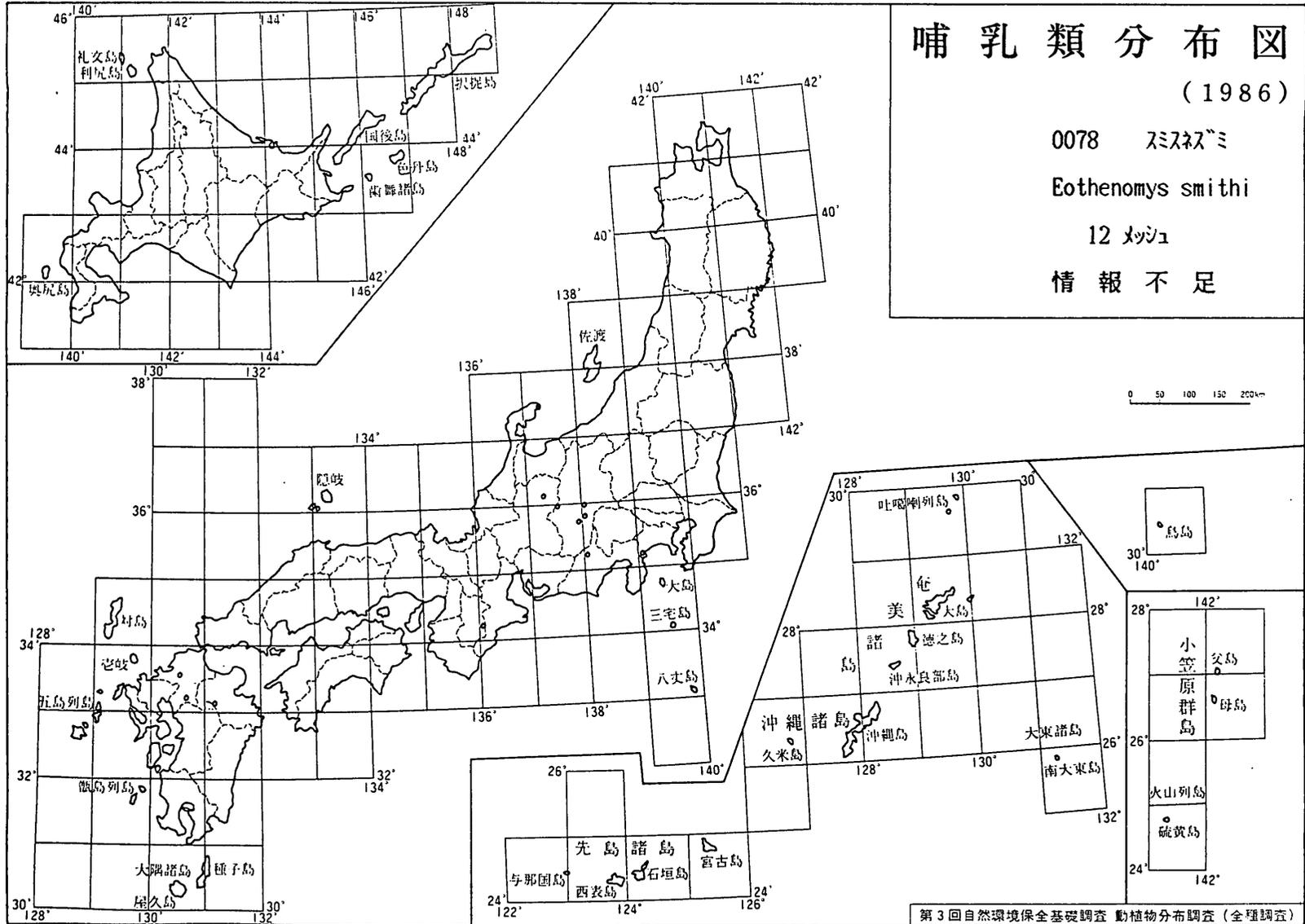
(1986)

0078 ミヌスミ

*Eothenomys smithi*

12 ヲシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

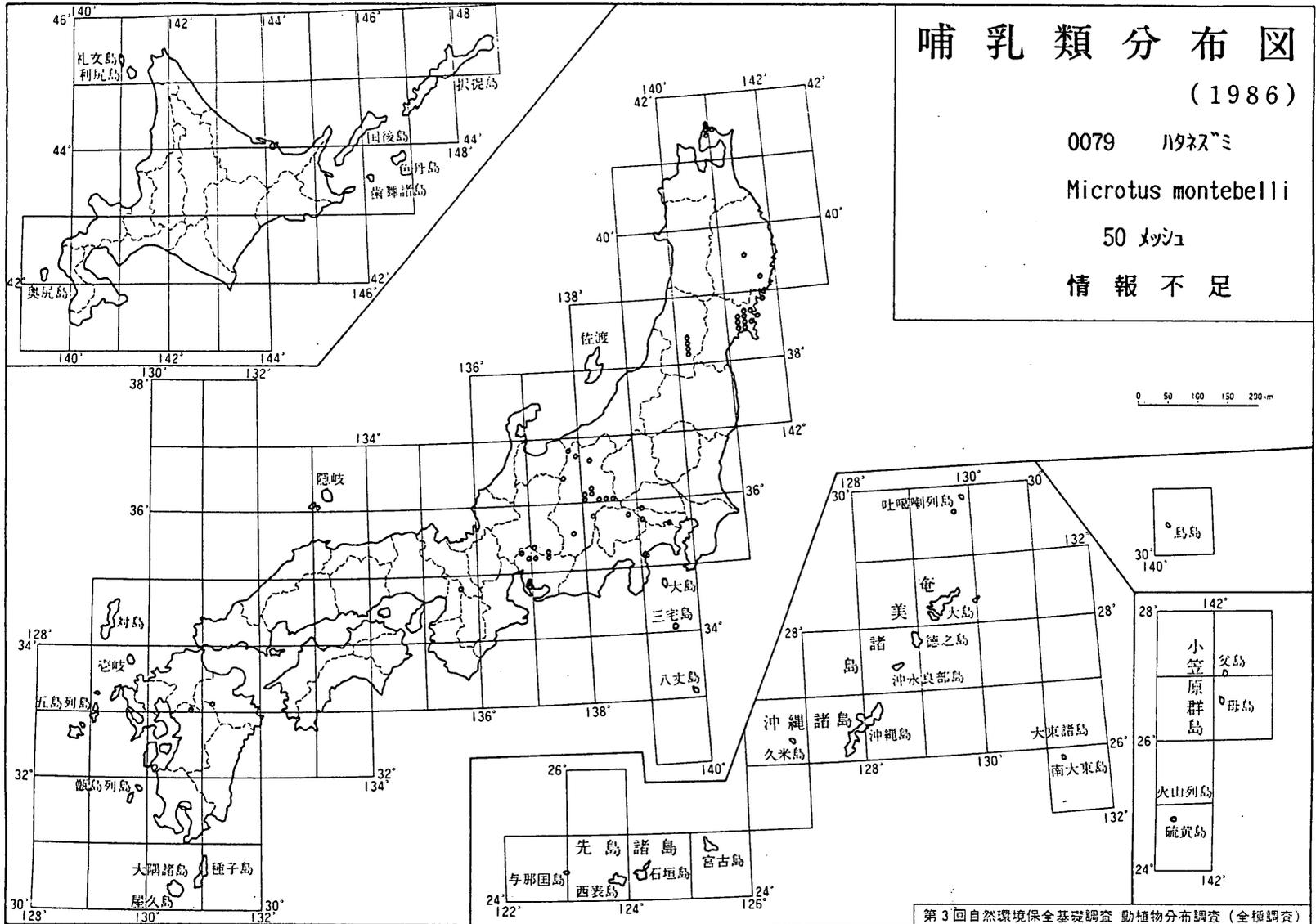
(1986)

0079 ハタネズミ

*Microtus montebelli*

50 ヶ以上

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

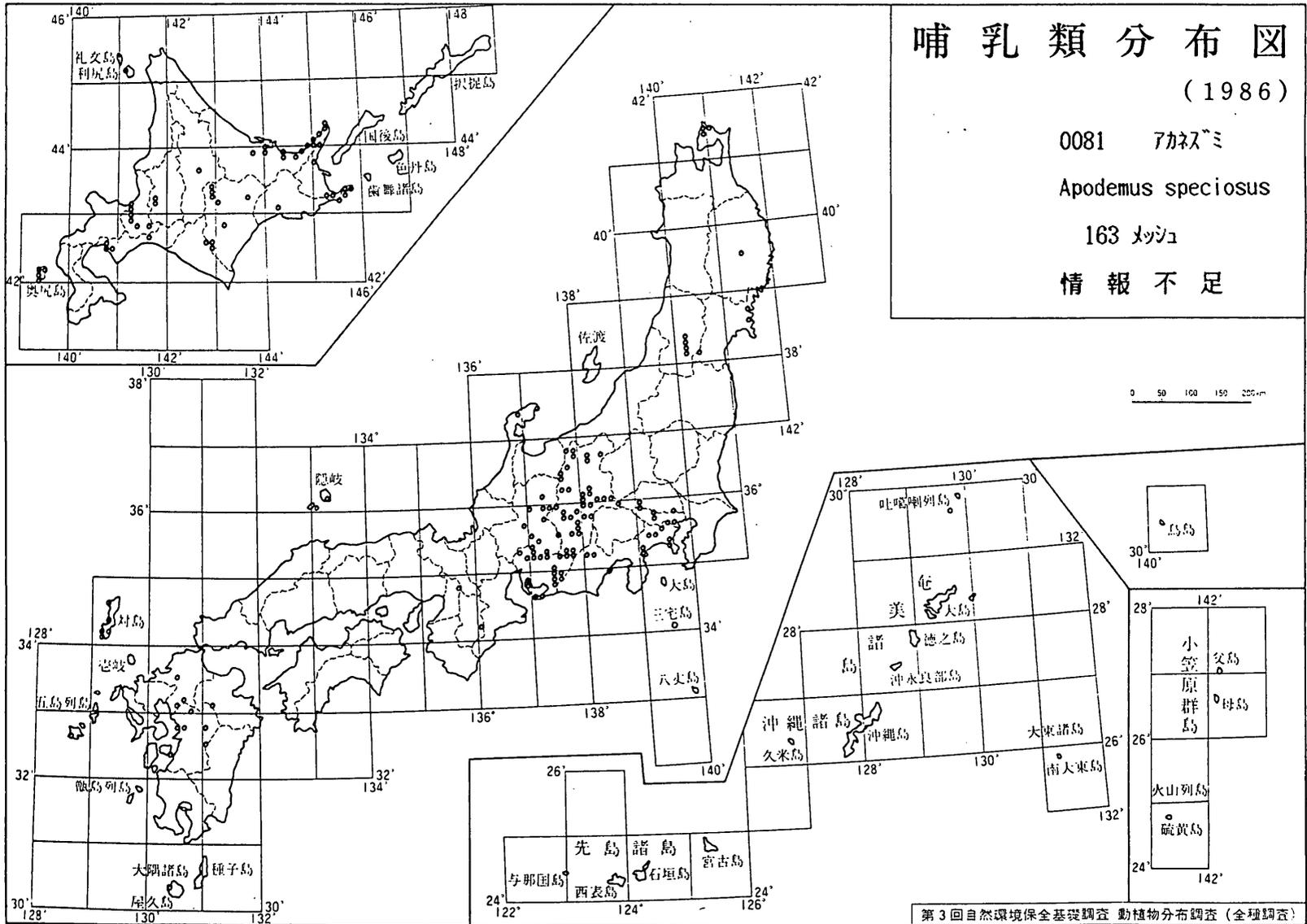
(1986)

0081 アカネミ

*Apodemus speciosus*

163 ムシユ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

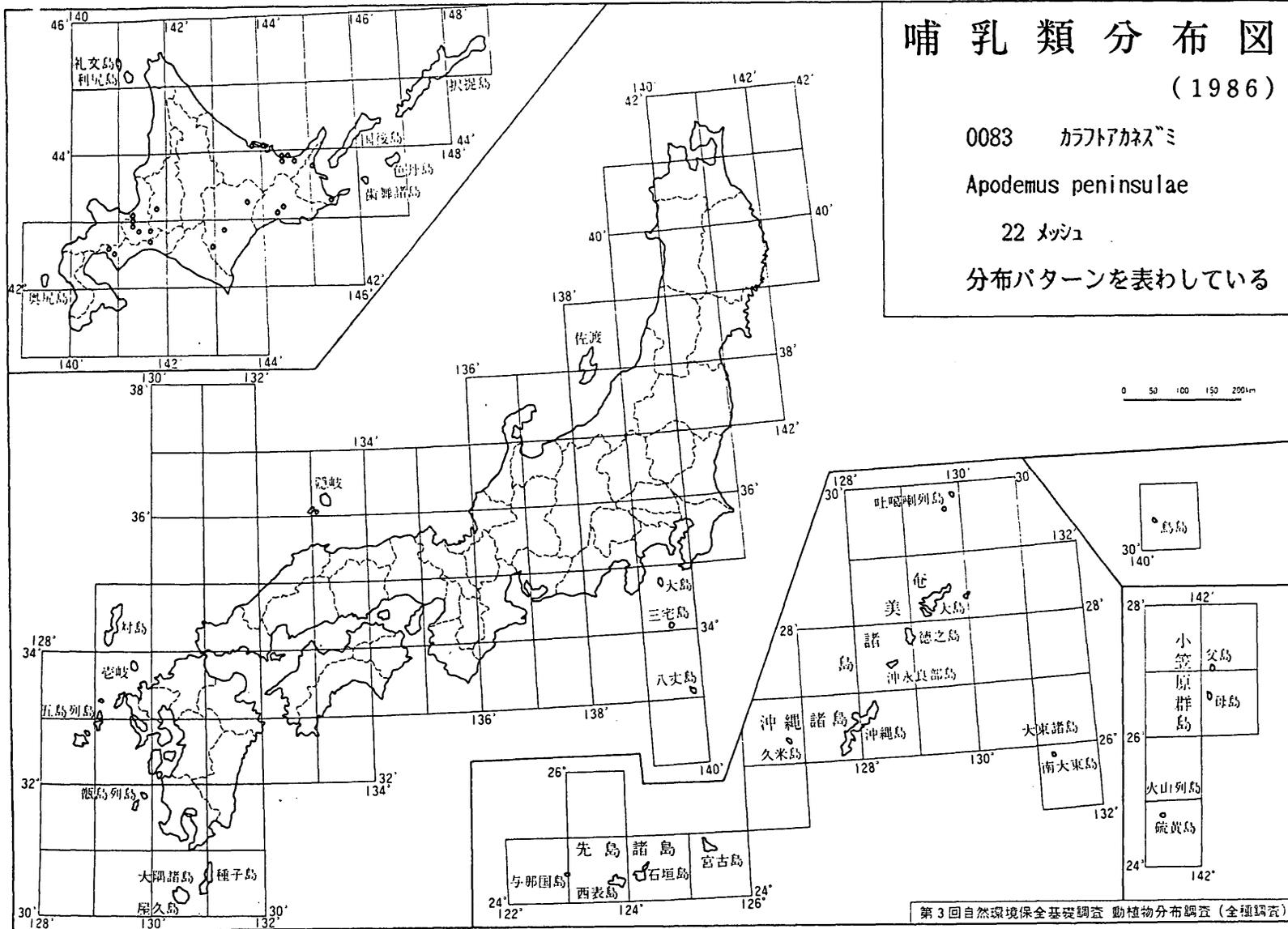
(1986)

0083 カヲアカネズミ

*Apodemus peninsulae*

22 メッシュ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

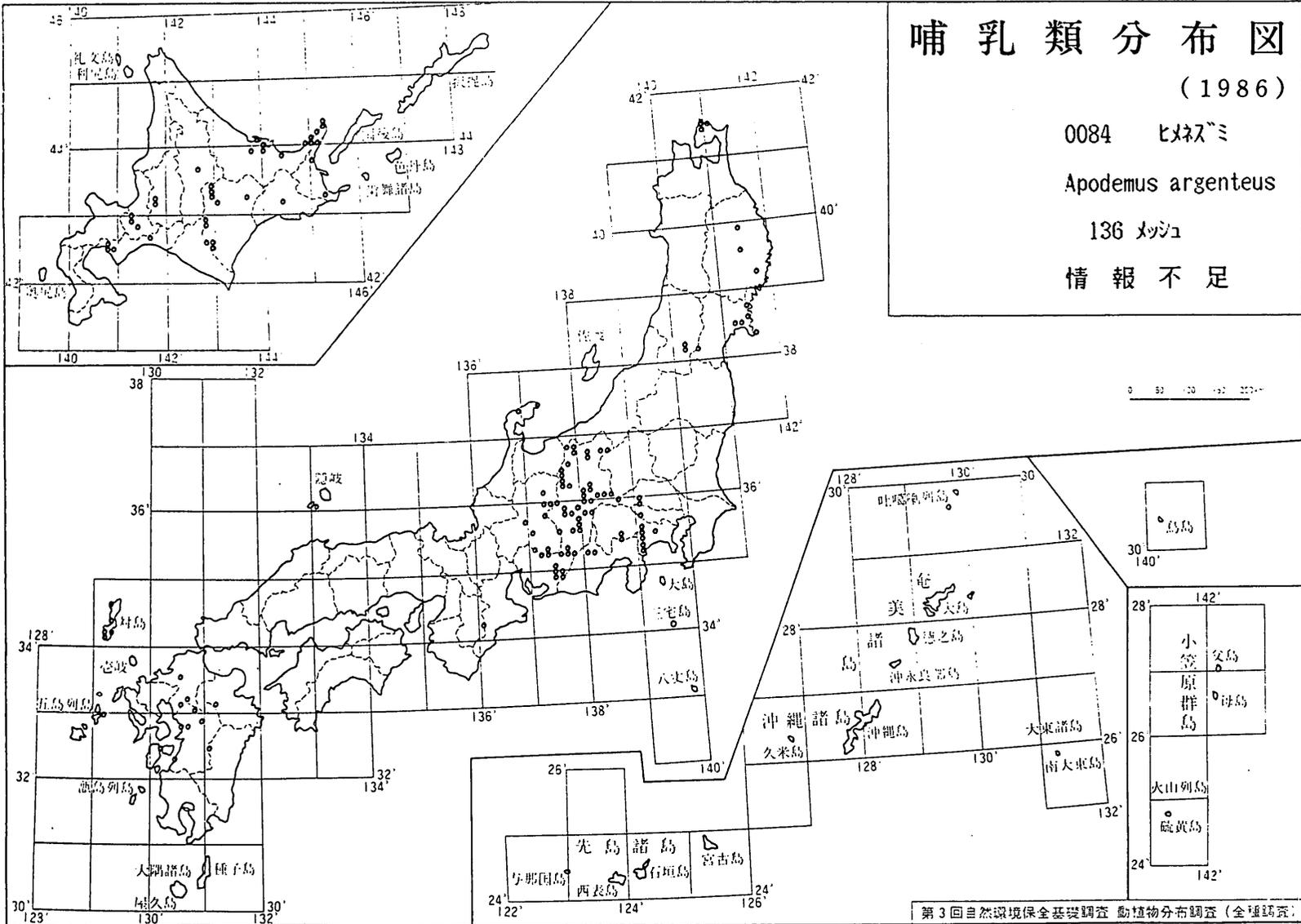
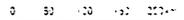
(1986)

0084 ヒメヌミ

*Apodemus argenteus*

136 ヶシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

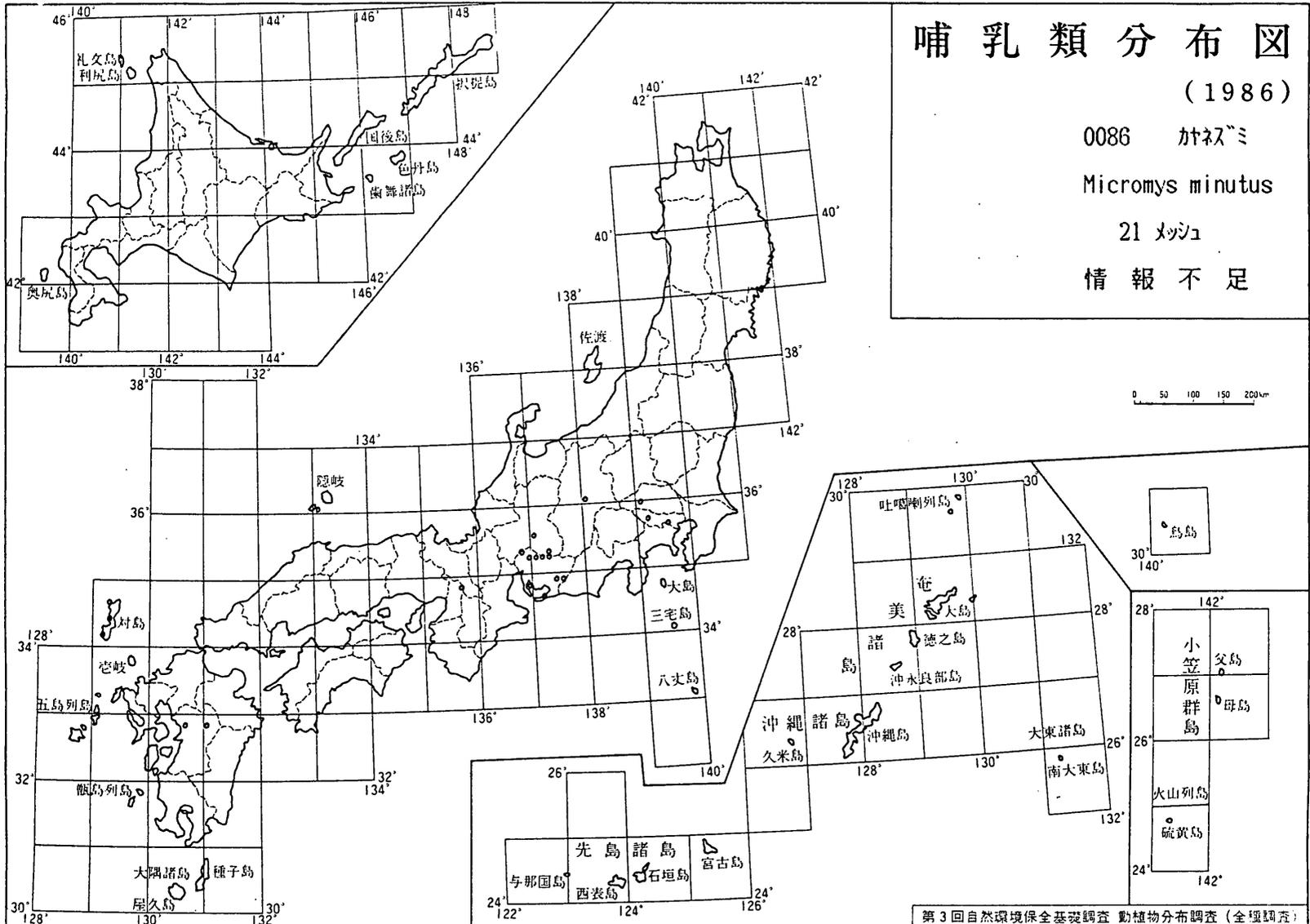
(1986)

0086 加奴ミ

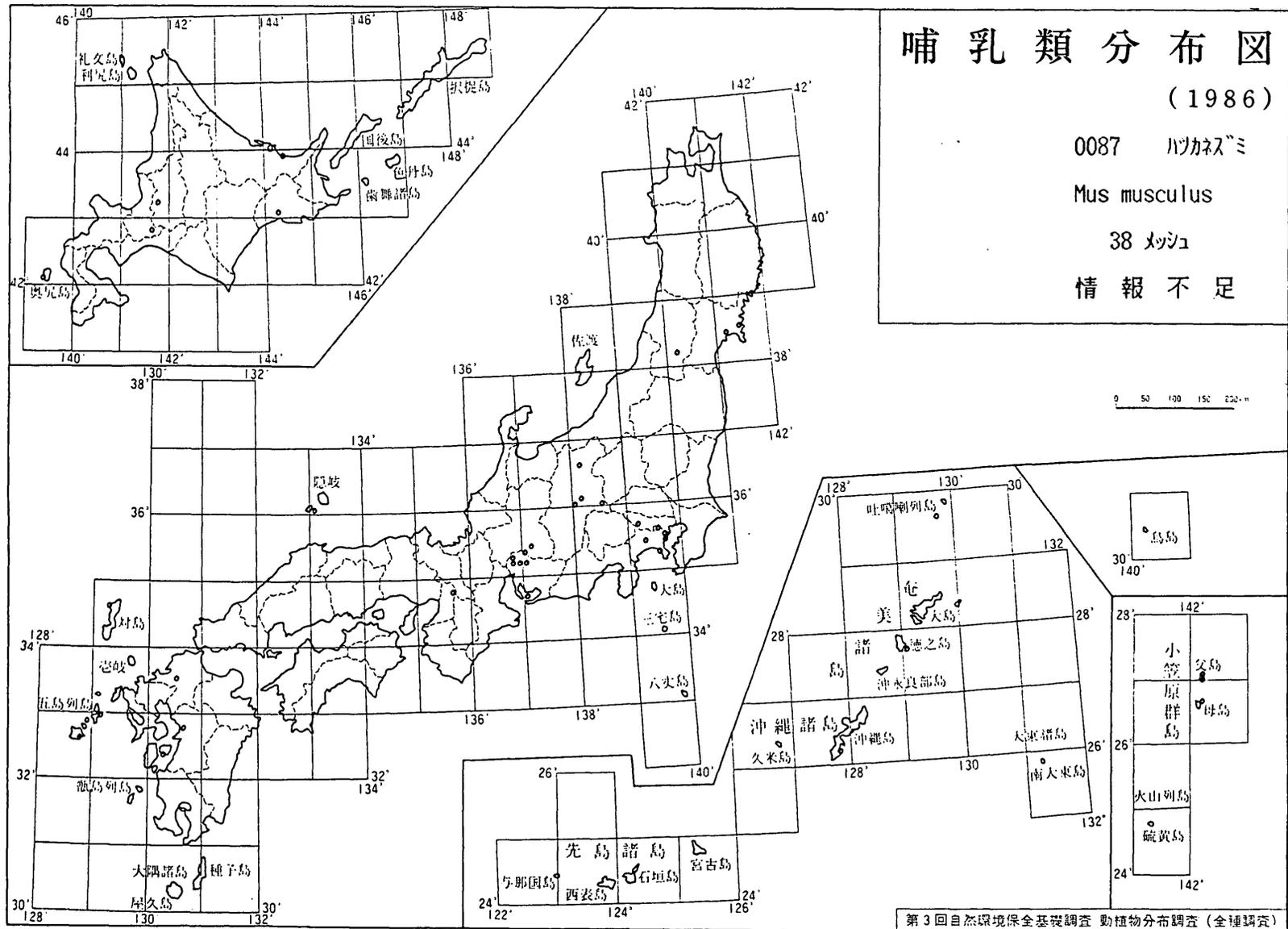
*Micromys minutus*

21 ヶシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全環調査)



# 哺乳類分布図

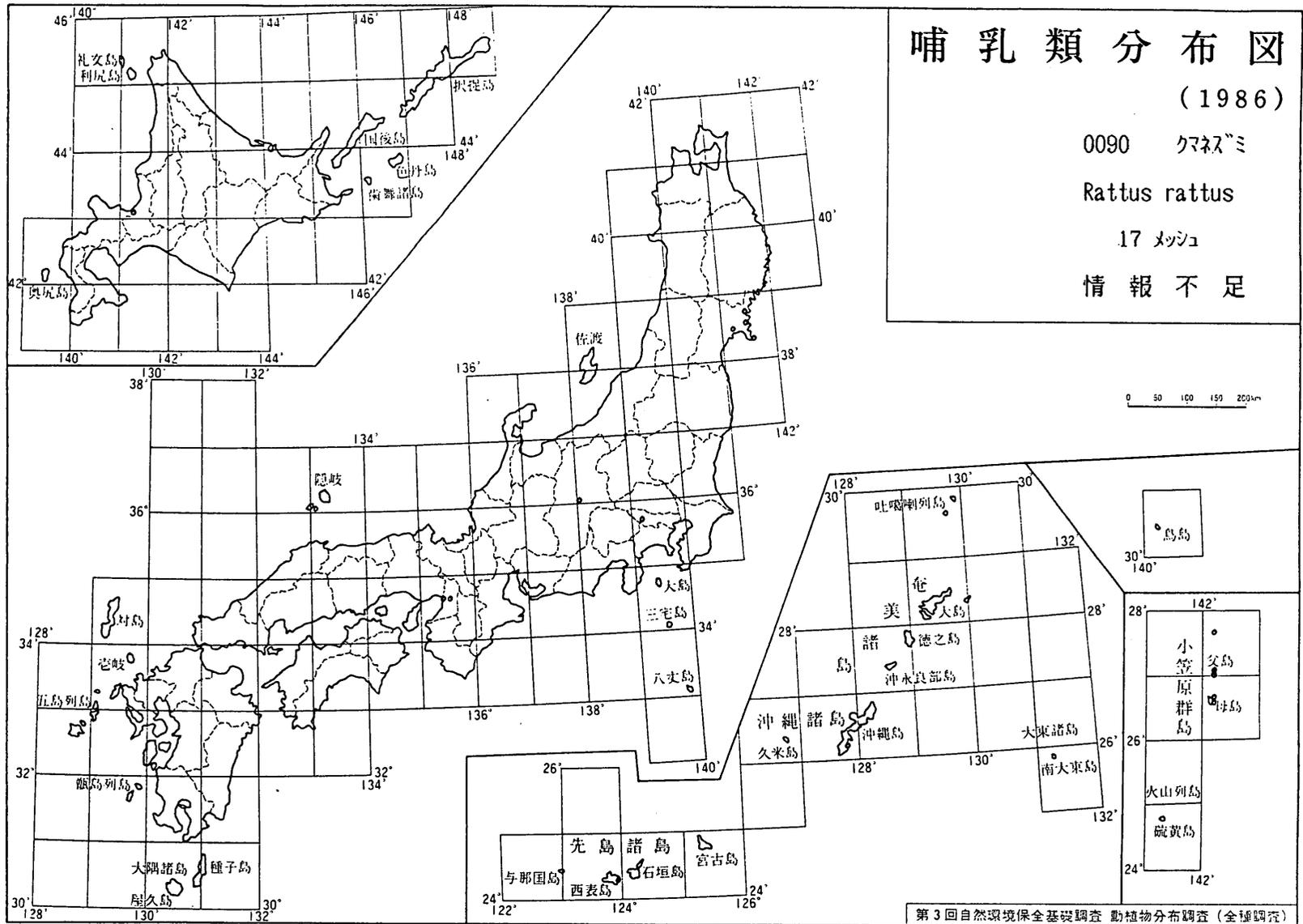
(1986)

0087 ハカネズミ

*Mus musculus*

38 ヲシロ

情報不足



# 哺乳類分布図

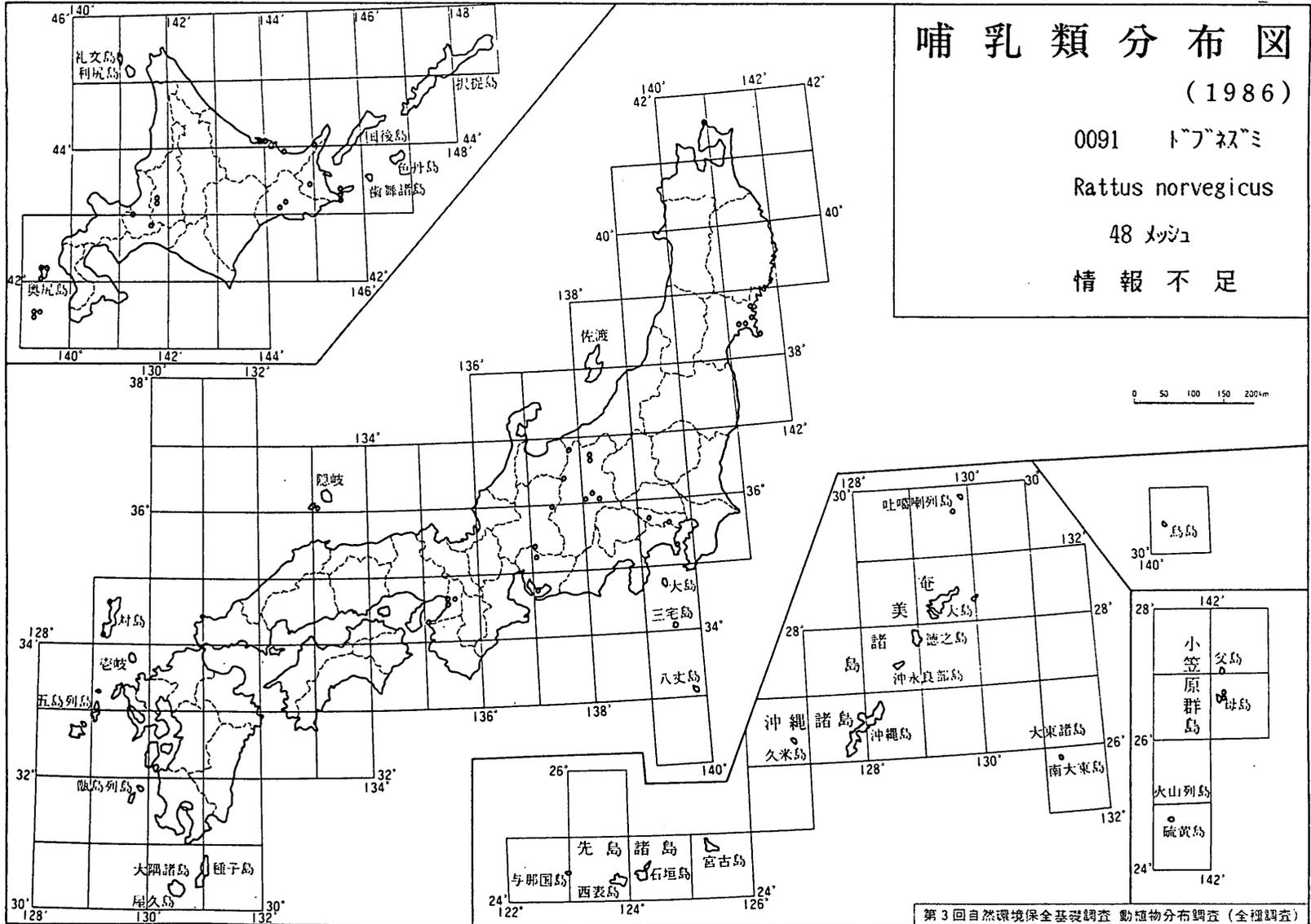
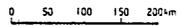
(1986)

0091 トブネズミ

*Rattus norvegicus*

48 ヲシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動物物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

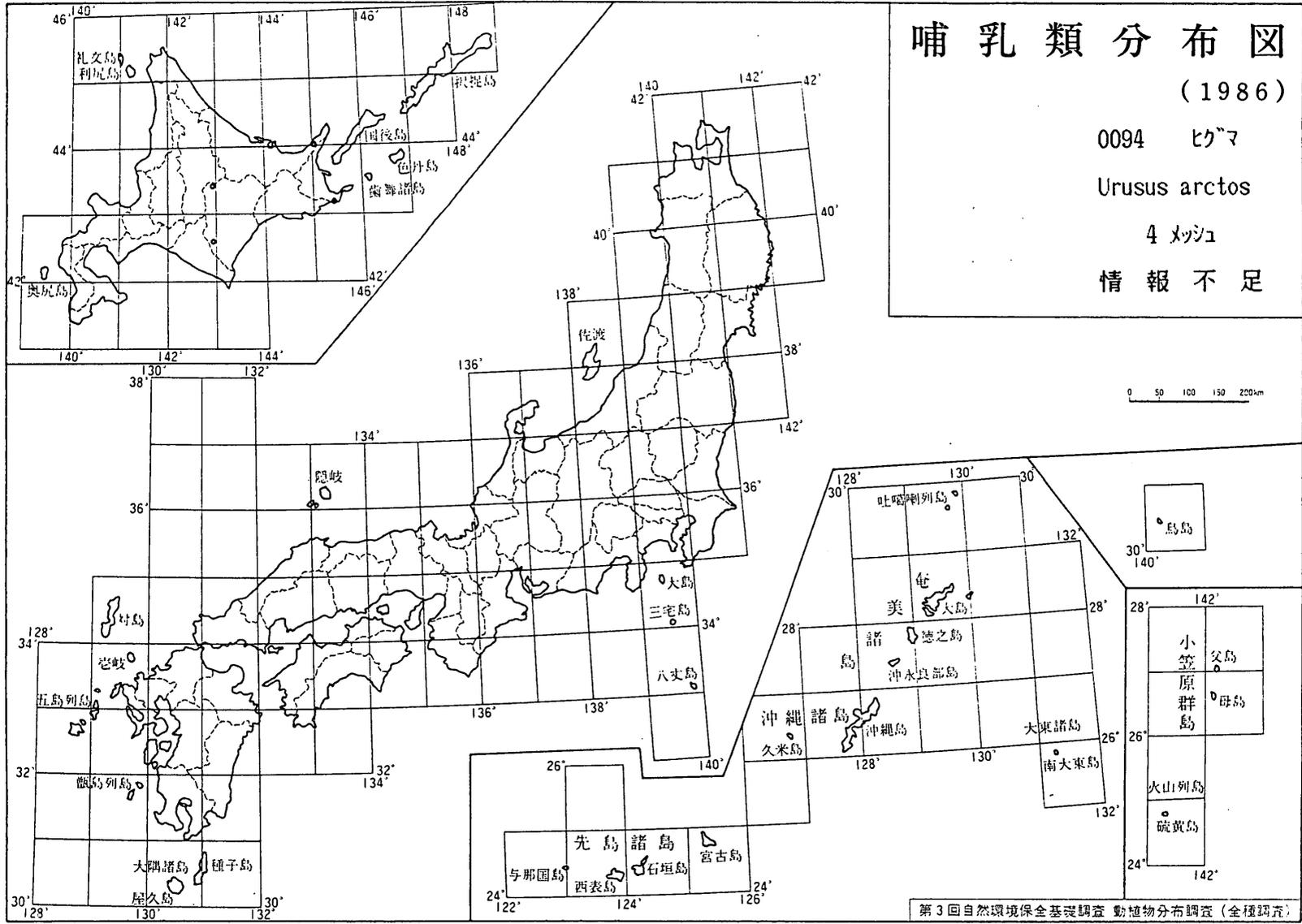
(1986)

0094 ヒツメ

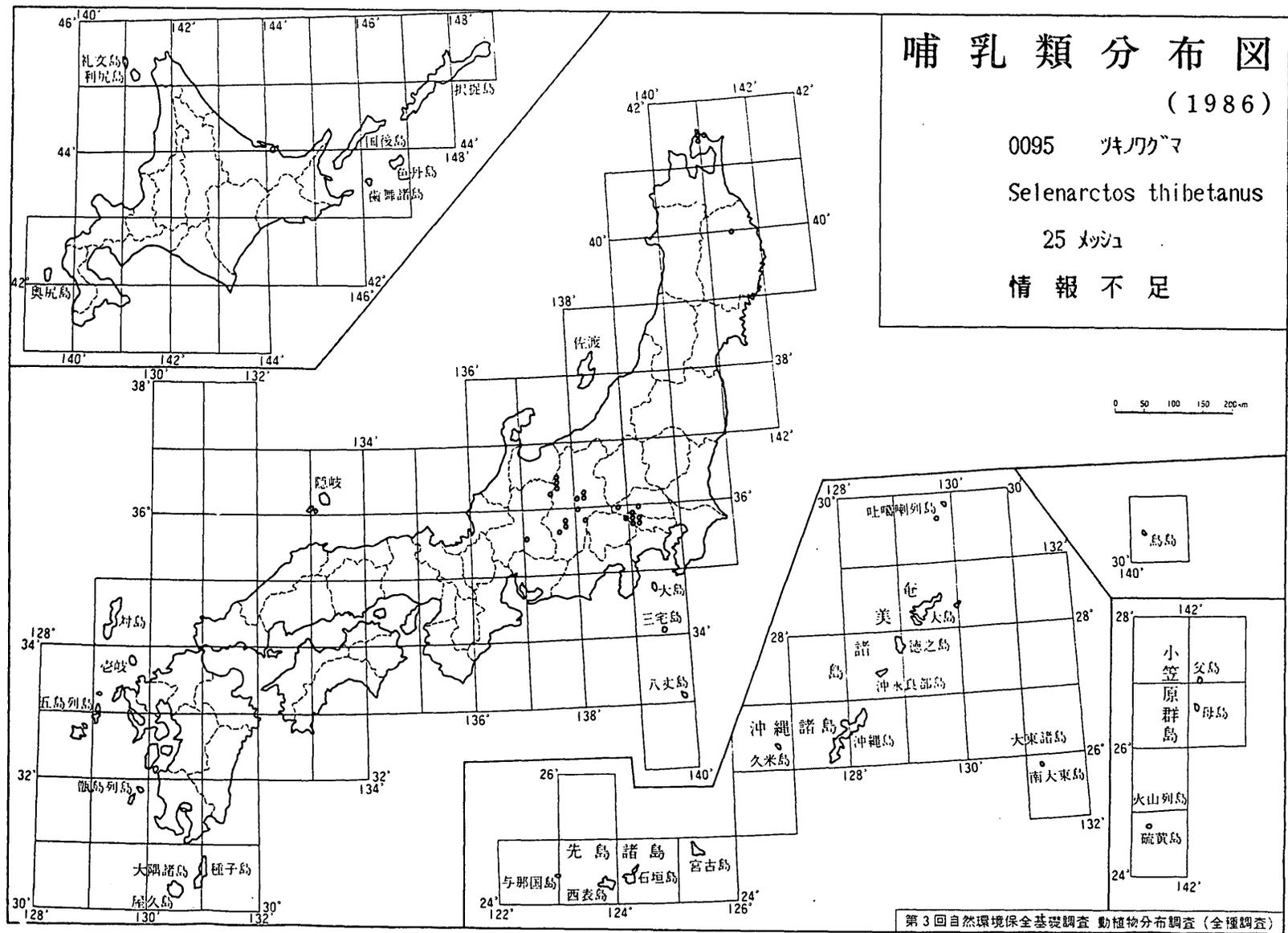
Urusus arctos

4 ヶツ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

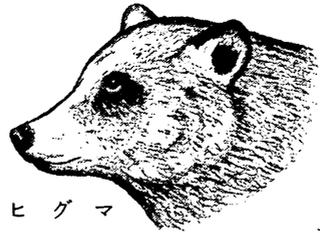


第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)





ツキノワグマ



ヒグマ

(参考) ツキノワグマ, ヒグマの全国分布図メッシュ図  
(第2回自然環境保全基礎調査; 1979)

凡 例

- 繁殖地域
- 出没地域
- 生息するという情報の得られなかった地域
- ✱ 絶滅した地域

日 本 海

The distribution of asiatic black bears (*Selenarctos thibetanus*) and brown bears (*Ursus arctos*)  
 Each dot indicates the grid where bears occur. Large circle indicates the breeding area. Symbol \* indicates the grid where bears were extinct.

# 哺乳類分布図

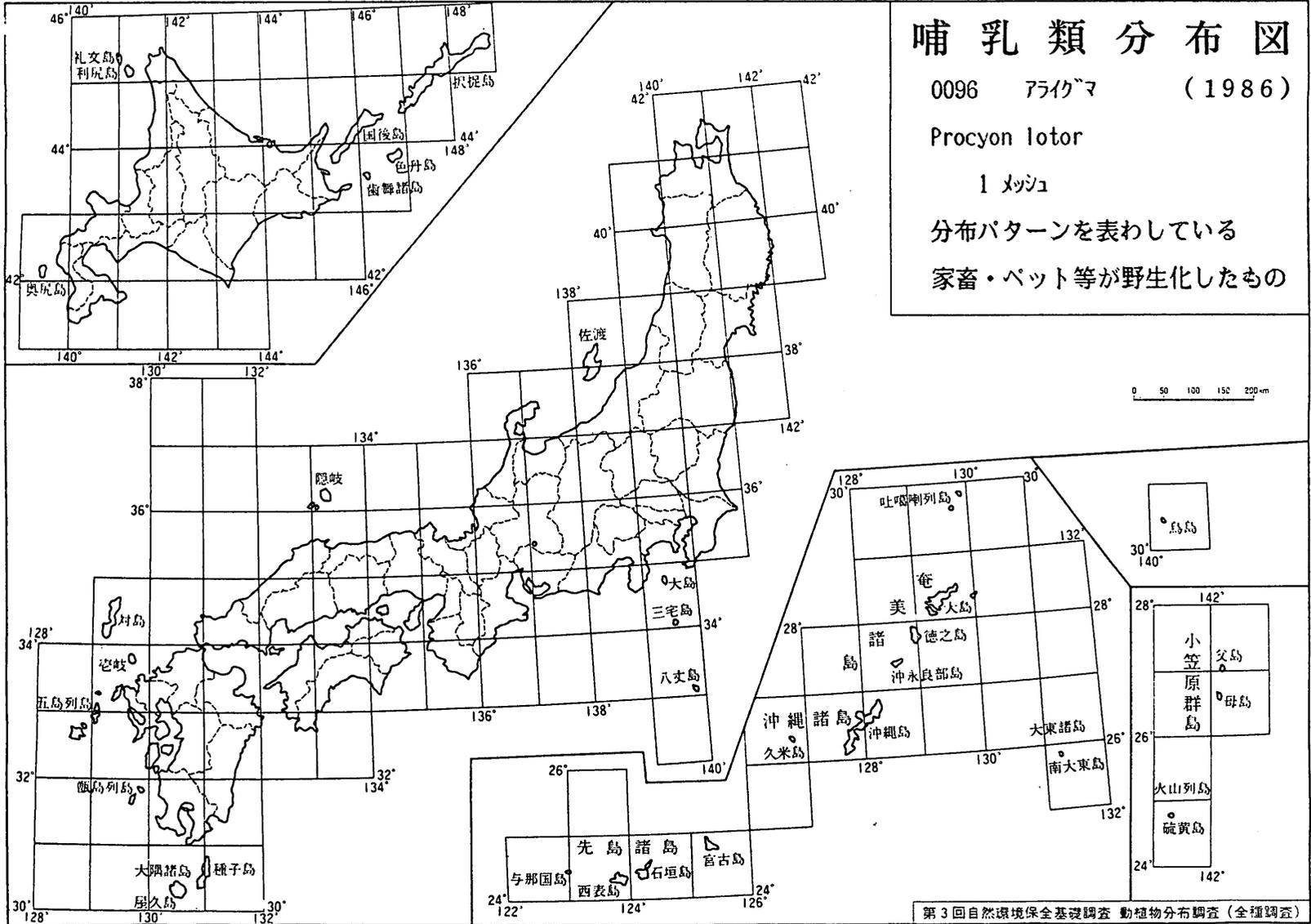
0096 アライグマ (1986)

*Procyon lotor*

1 ヲツ

分布パターンを表わしている

家畜・ペット等が野生化したもの



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

(1986)

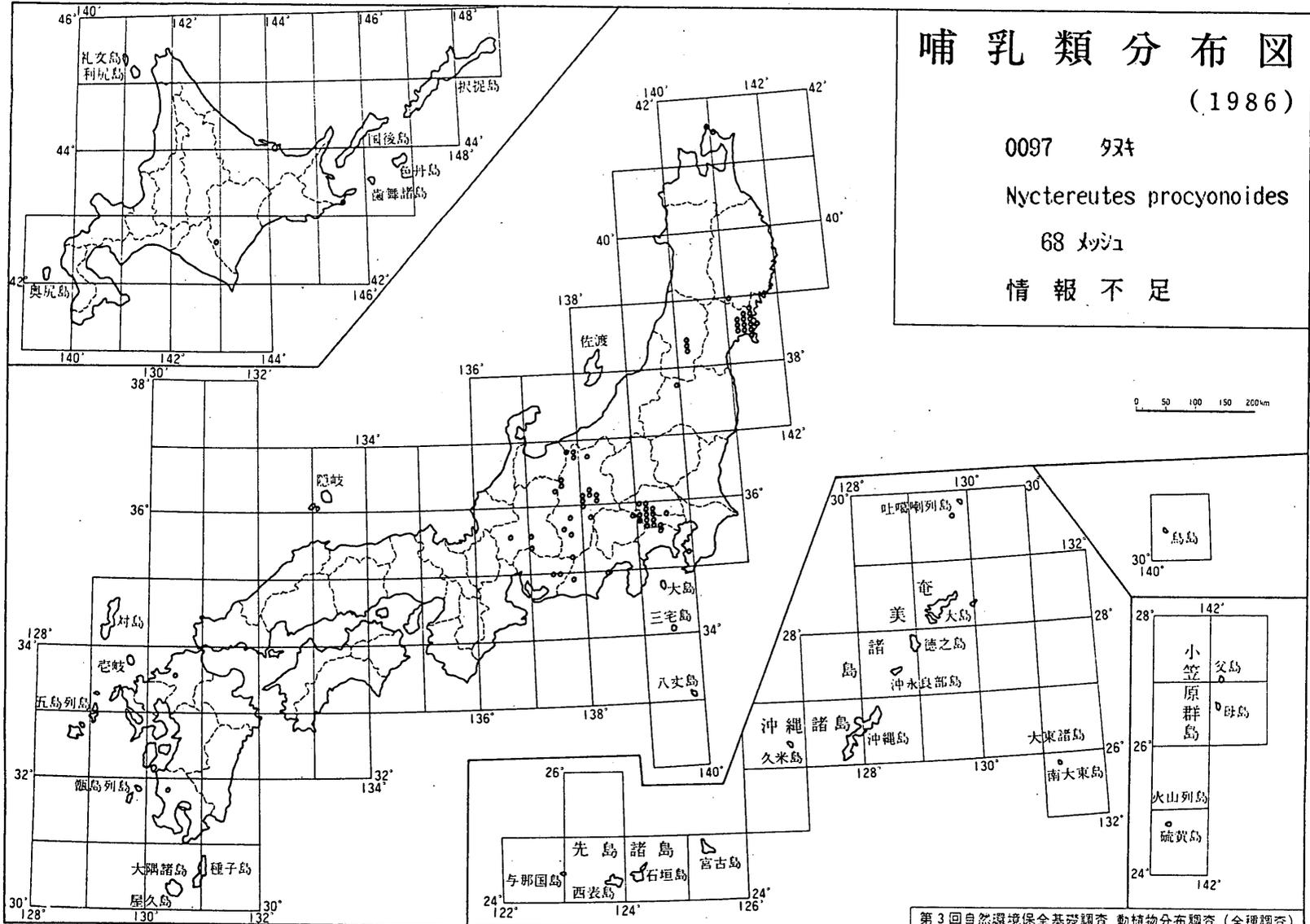
0097 犬科

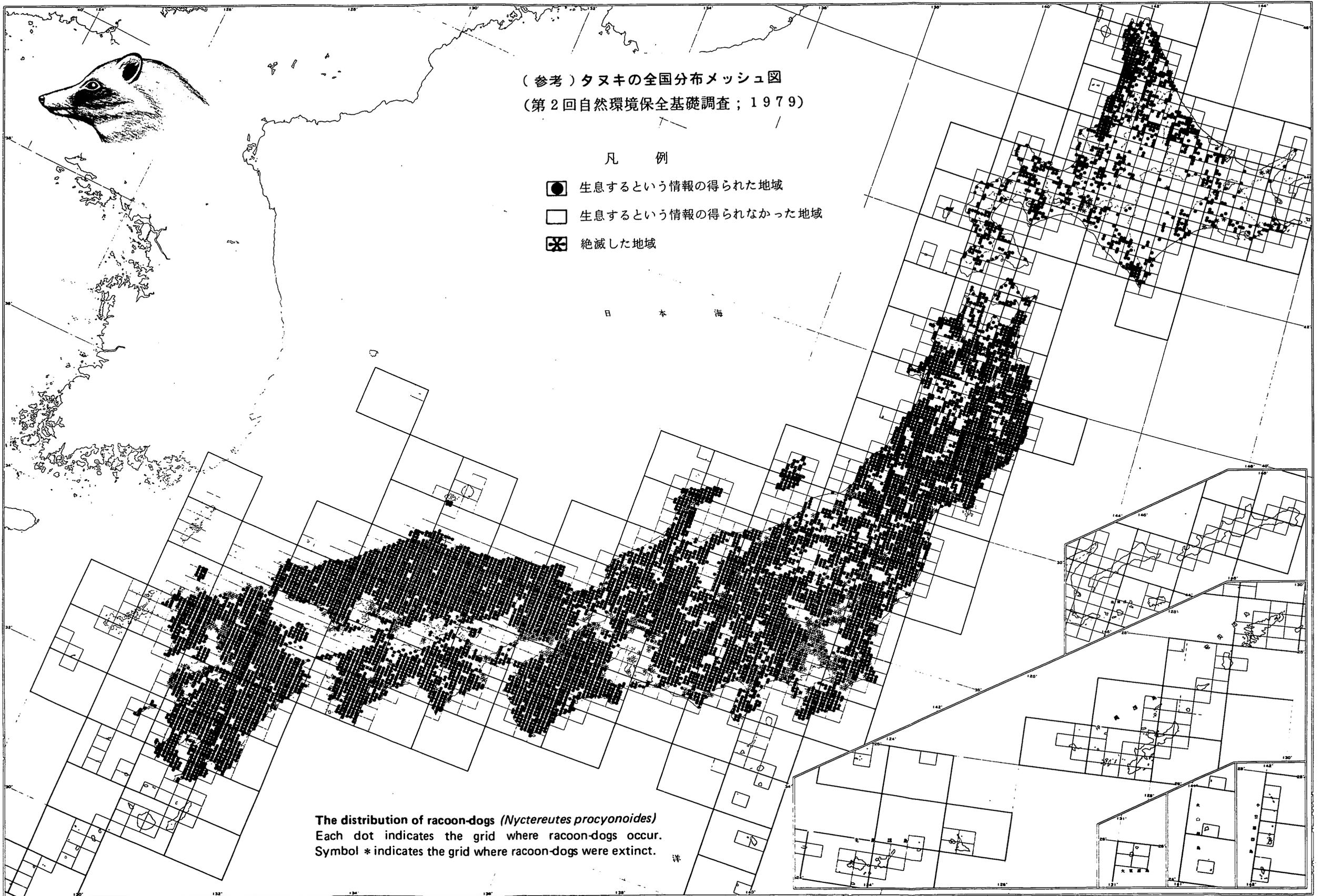
*Nyctereutes procyonoides*

68 ヲシ

情報不足

0 50 100 150 200km





(参考) タヌキの全国分布メッシュ図  
 (第2回自然環境保全基礎調査; 1979)

凡 例

- 生息するという情報の得られた地域
- 生息するという情報の得られなかった地域
- ✱ 絶滅した地域

The distribution of racoon-dogs (*Nyctereutes procyonoides*)  
 Each dot indicates the grid where racoon-dogs occur.  
 Symbol \* indicates the grid where racoon-dogs were extinct.

# 哺乳類分布図

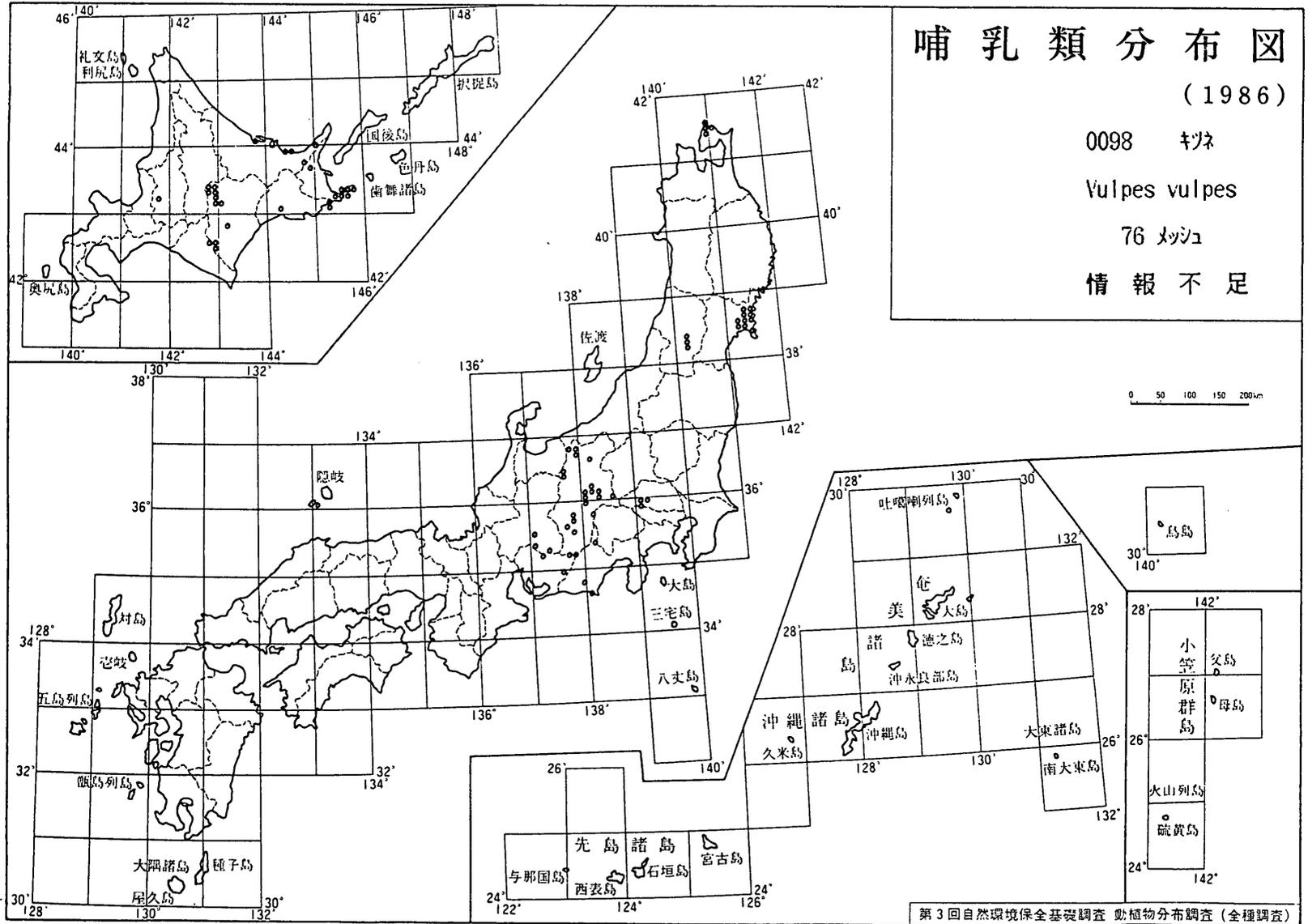
(1986)

0098 キツネ

*Vulpes vulpes*

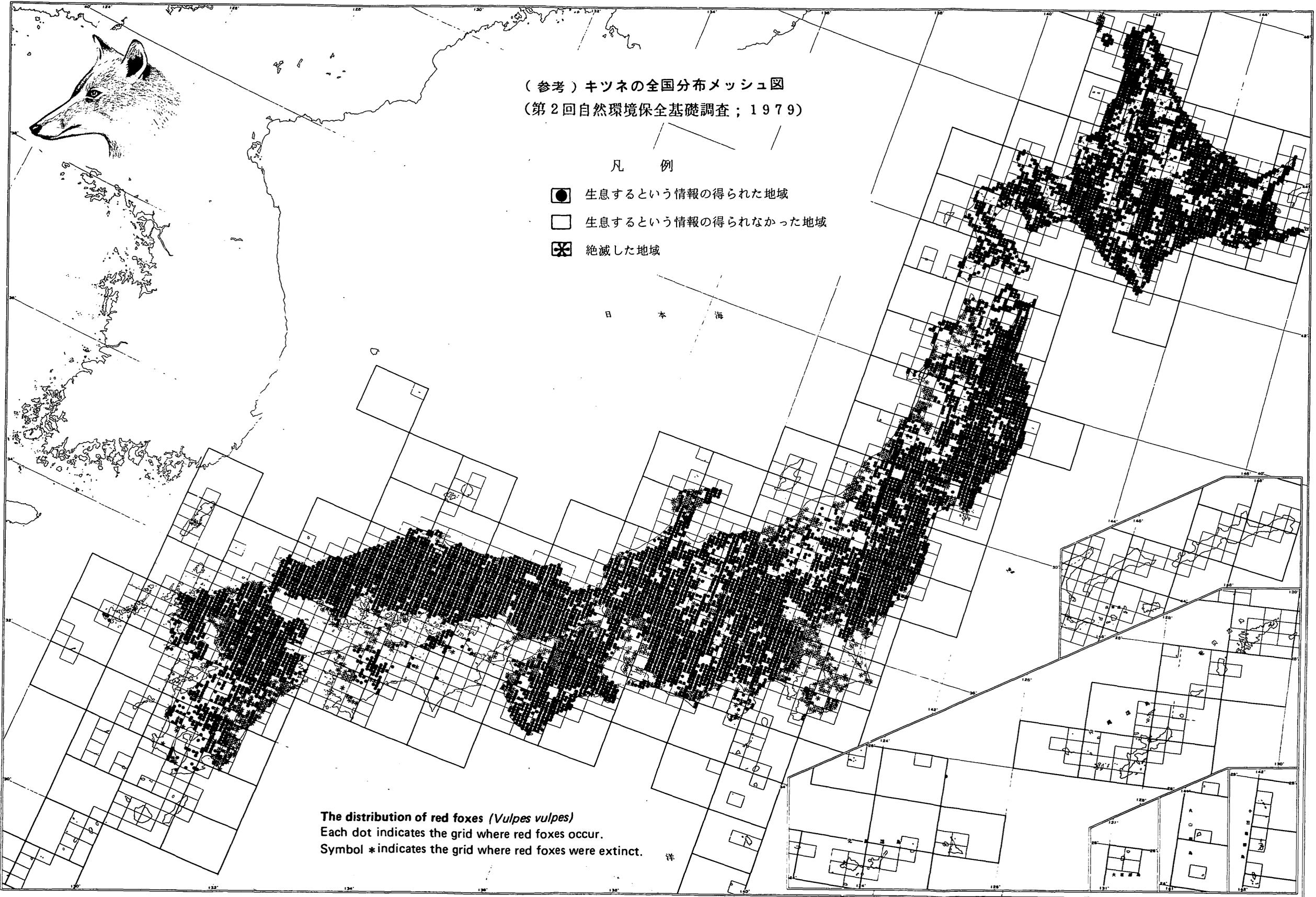
76 ヲコ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)





(参考) キツネの全国分布メッシュ図  
 (第2回自然環境保全基礎調査; 1979)

凡 例

- 生息するという情報の得られた地域
- 生息するという情報の得られなかった地域
- \* 絶滅した地域

The distribution of red foxes (*Vulpes vulpes*)  
 Each dot indicates the grid where red foxes occur.  
 Symbol \* indicates the grid where red foxes were extinct.

# 哺乳類分布図

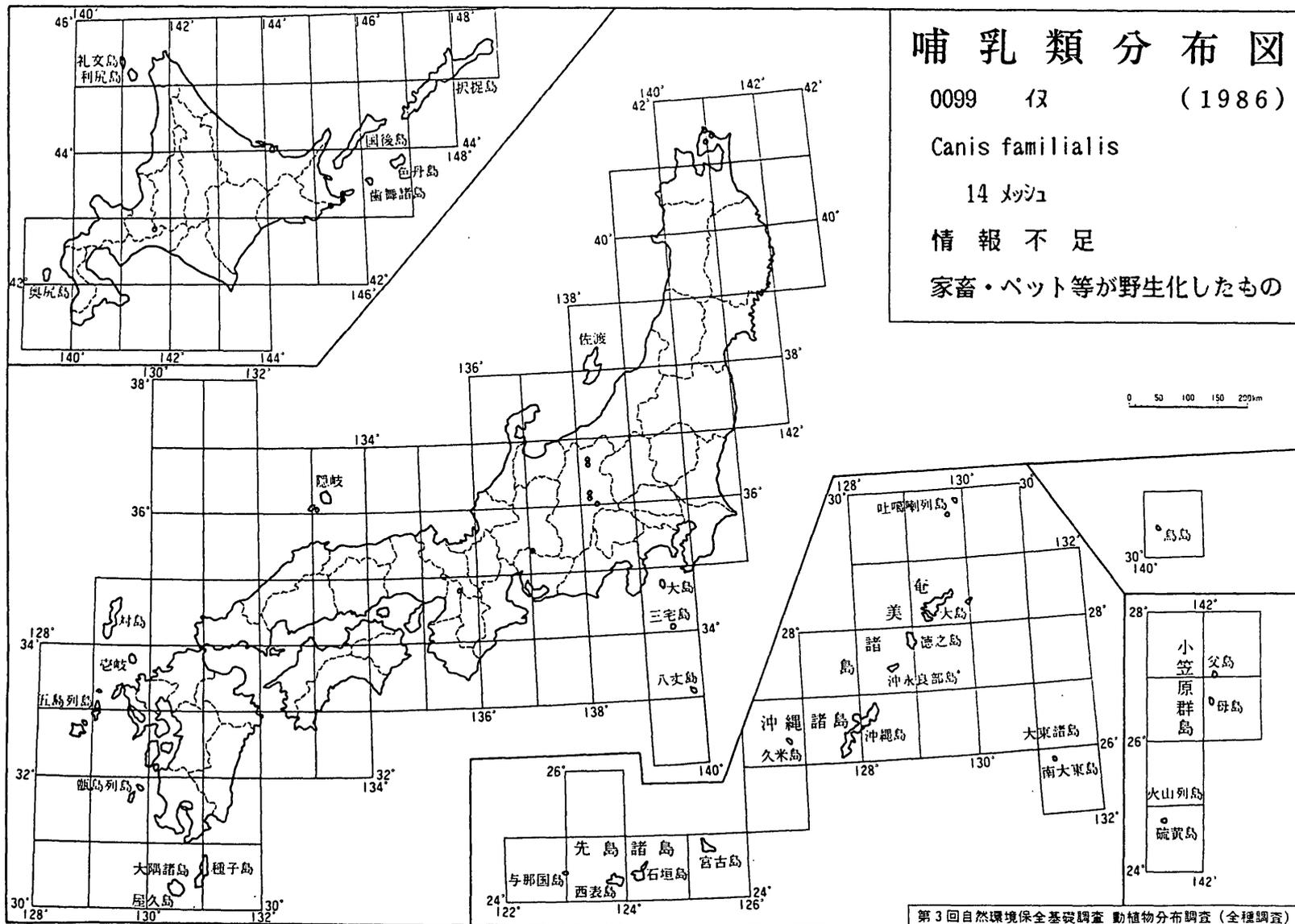
0099 仅 (1986)

*Canis familiaris*

14 ヵツ

情報不足

家畜・ペット等が野生化したもの



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

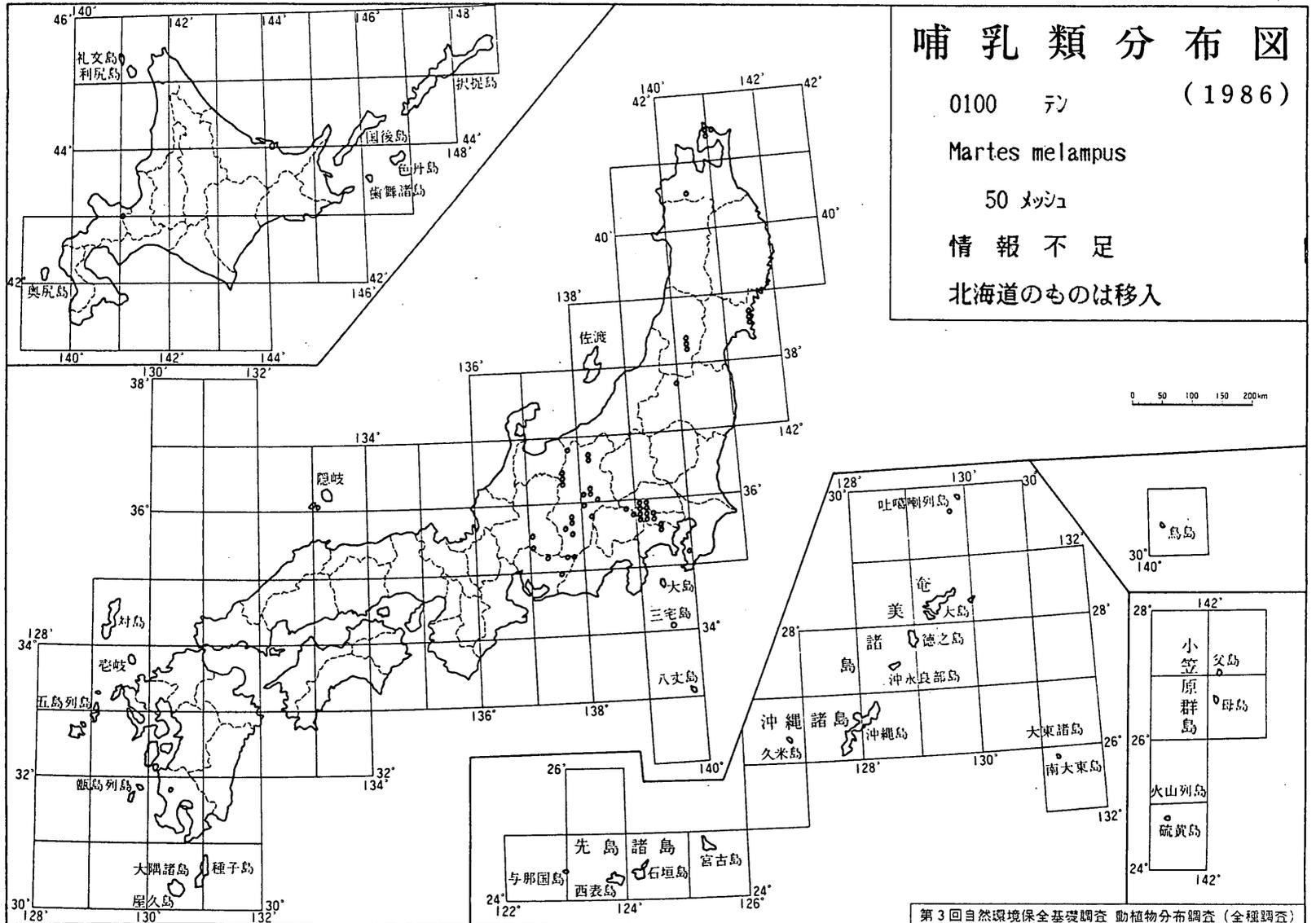
0100 シ (1986)

*Martes melampus*

50 メッシュ

情報不足

北海道のものは移入



# 哺乳類分布図

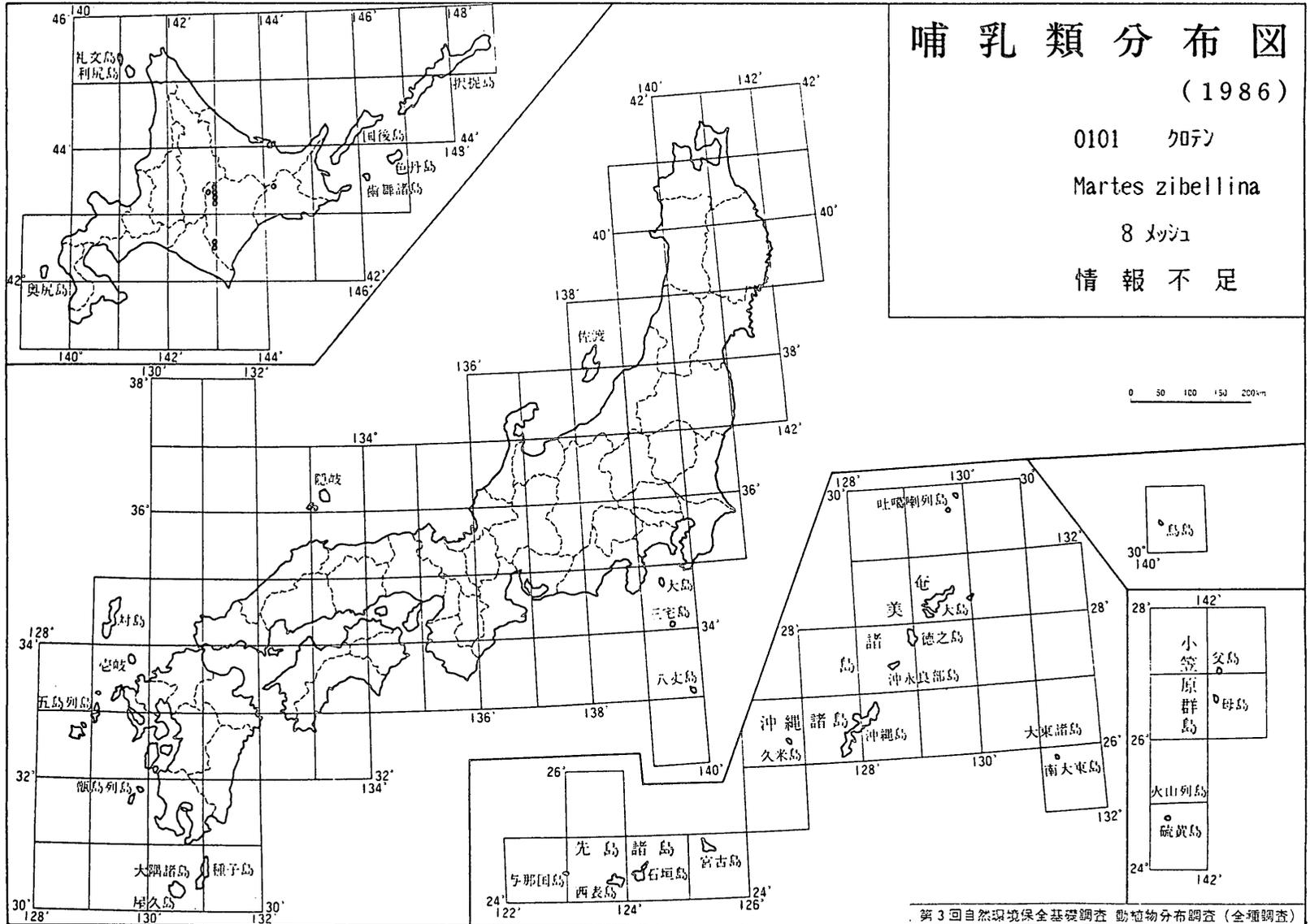
(1986)

0101 クマ

*Martes zibellina*

8 ヶ

情報不足



# 哺乳類分布図

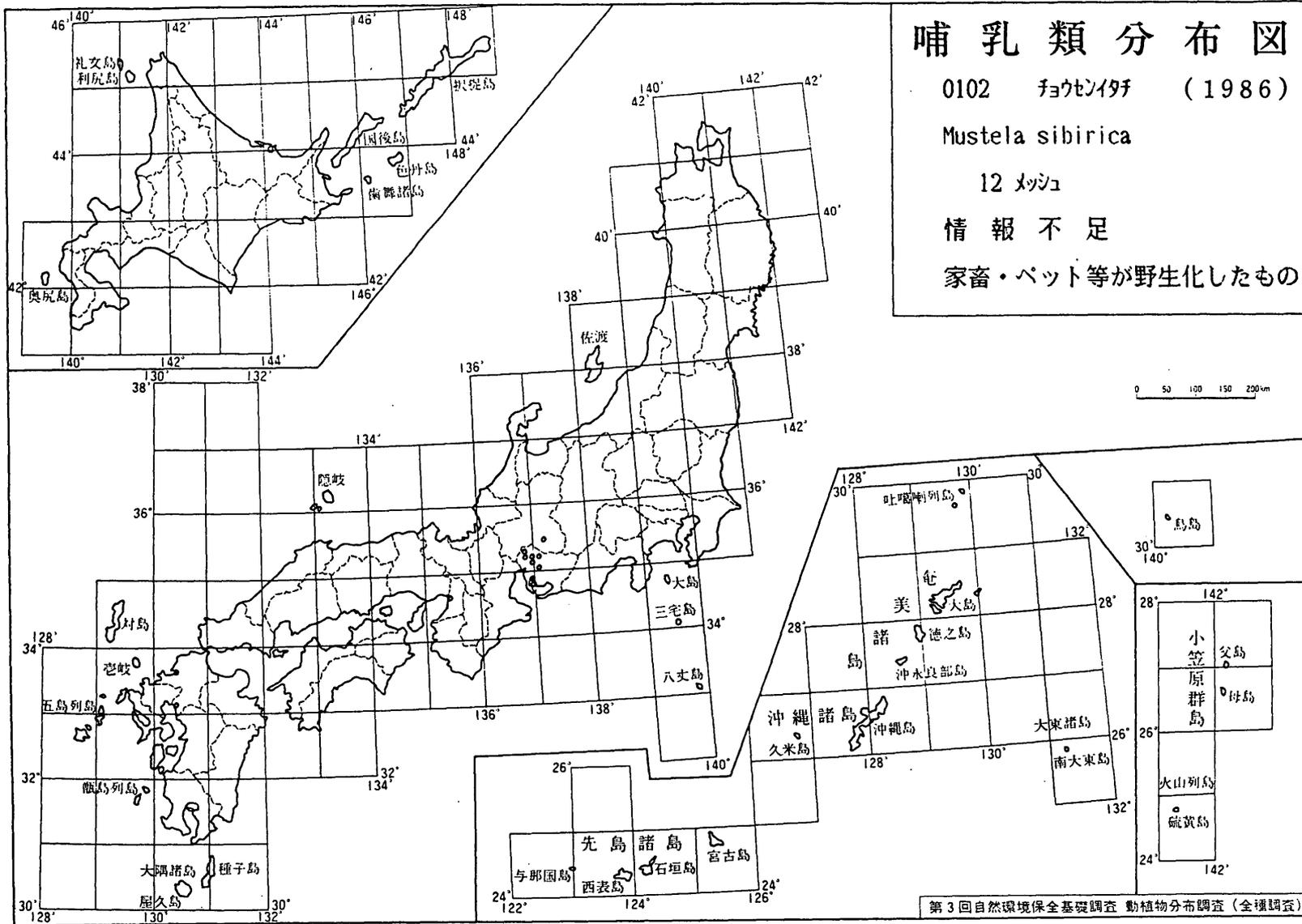
0102 フォウケンイナシ (1986)

*Mustela sibirica*

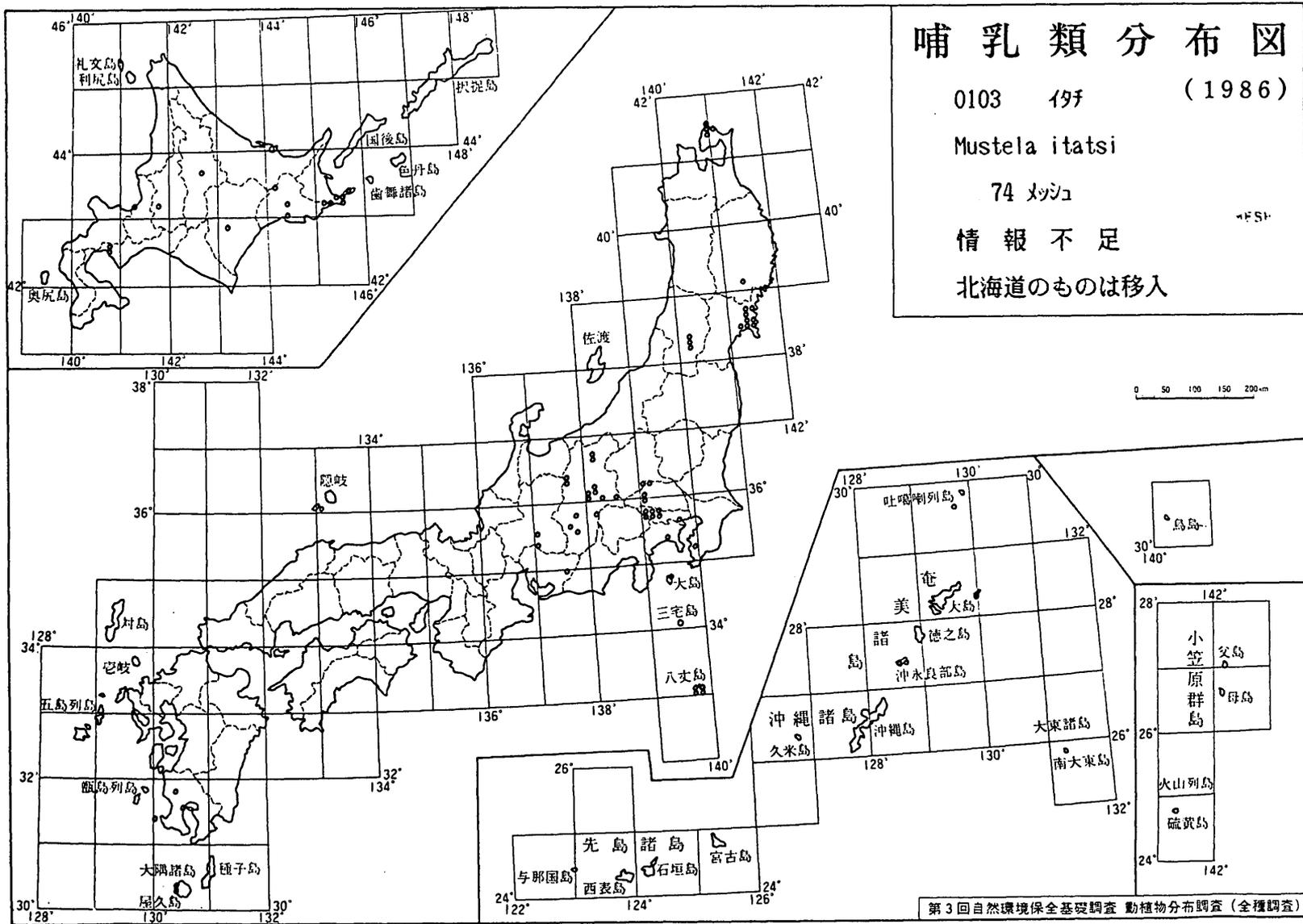
12 ヶシュ

情報不足

家畜・ペット等が野生化したもの



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)



# 哺乳類分布図

(1986)

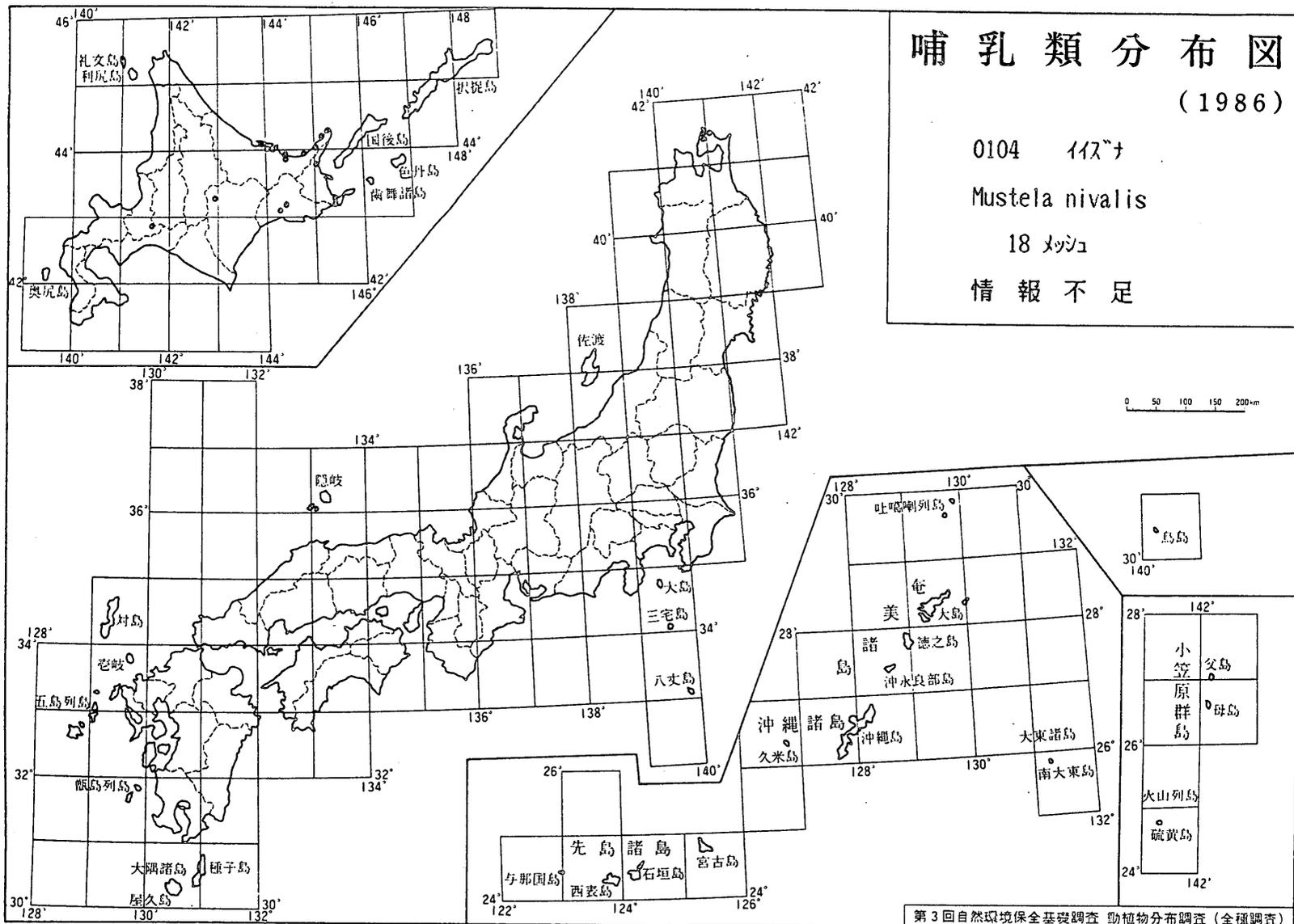
0104 イヌノチ

*Mustela nivalis*

18 メッシュ

情報不足

0 50 100 150 200 km



第3回自然環境保全基礎調査 動物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

(1986)

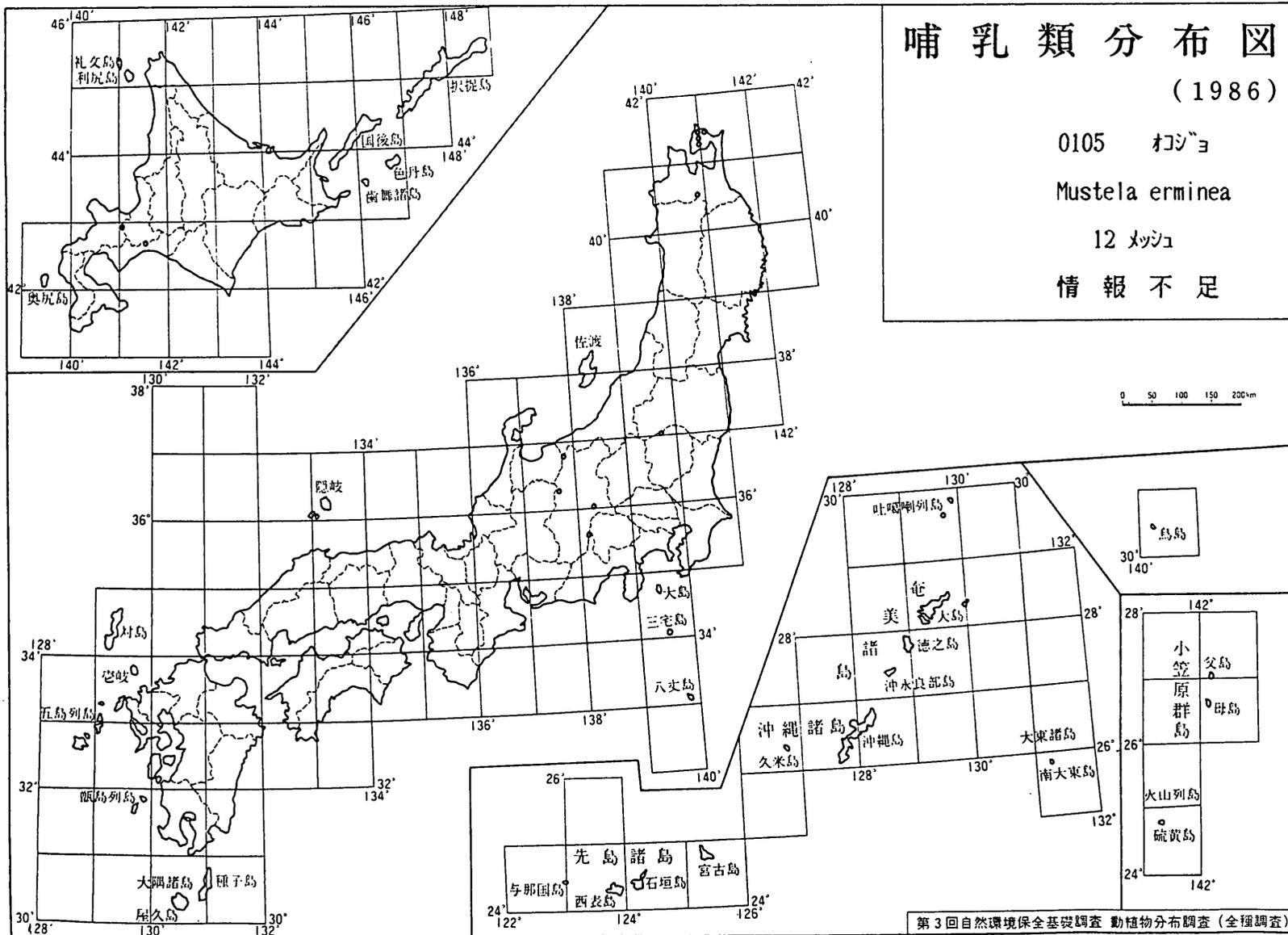
0105 マジコ

*Mustela erminea*

12 マジコ

情報不足

0 50 100 150 200km



第3回自然環境保全基礎調査 動物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

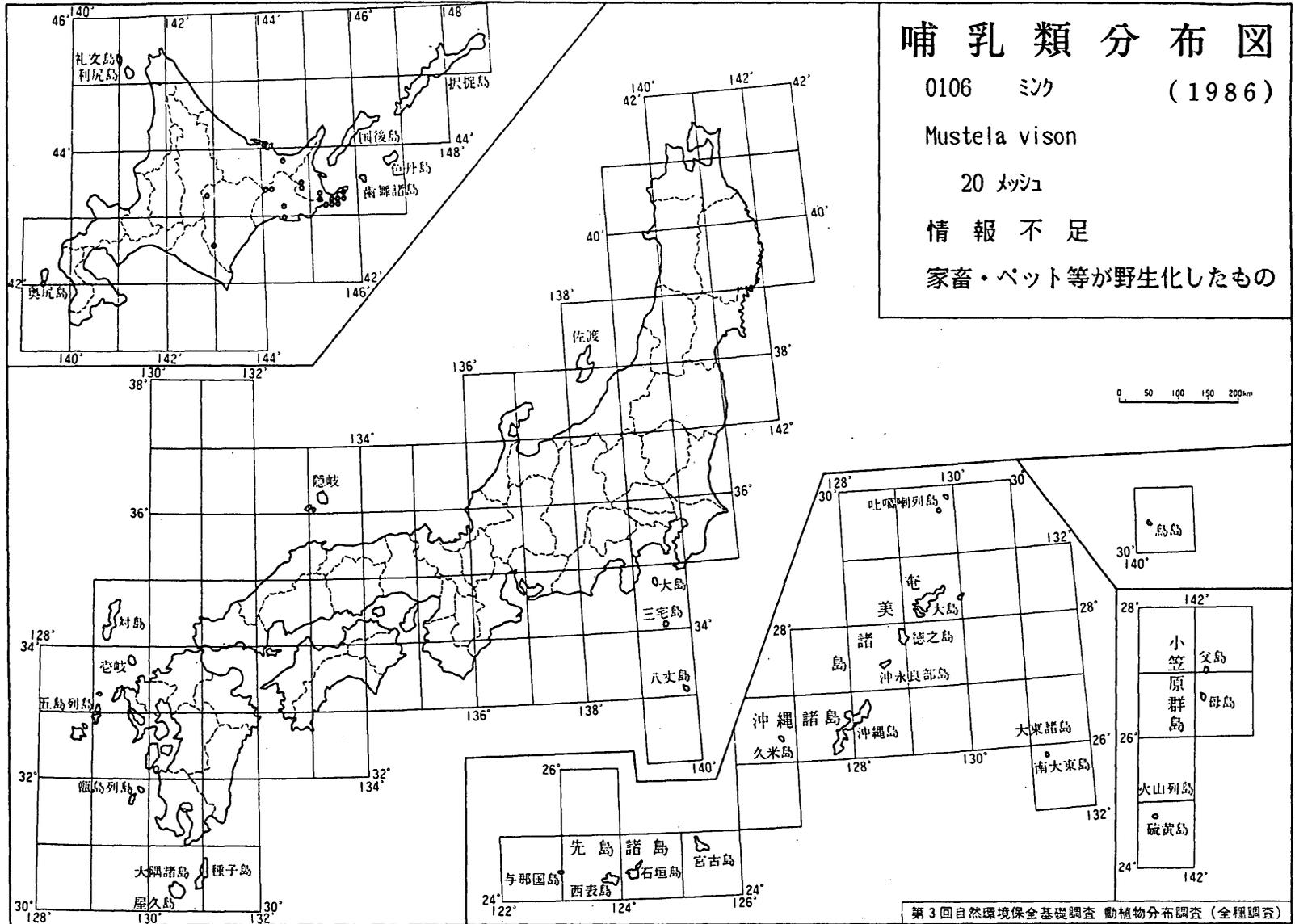
0106 シク (1986)

*Mustela vison*

20 ヲシ

情報不足

家畜・ペット等が野生化したもの



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

(1986)

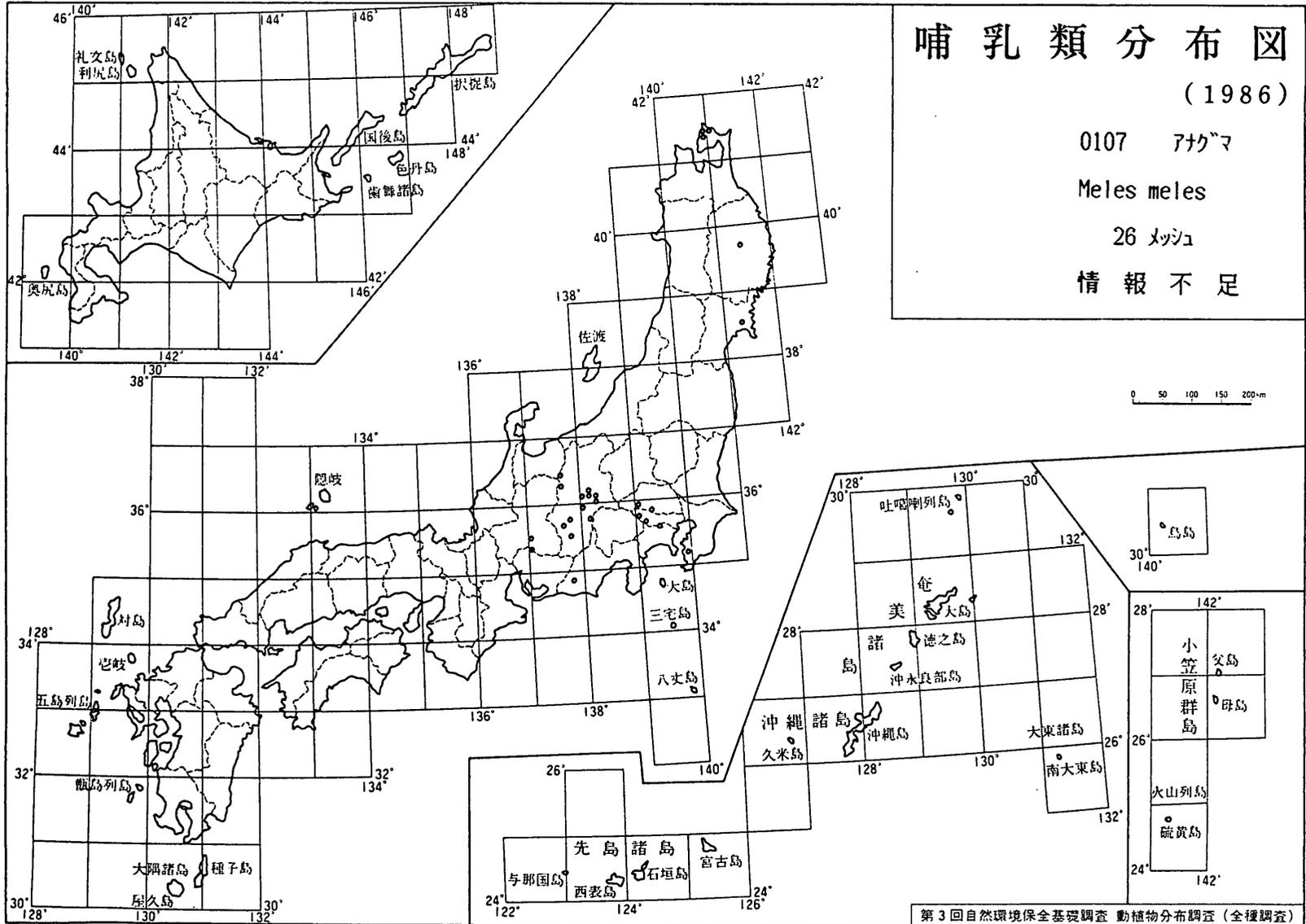
0107 アカマ

*Meles meles*

26 ヌシ

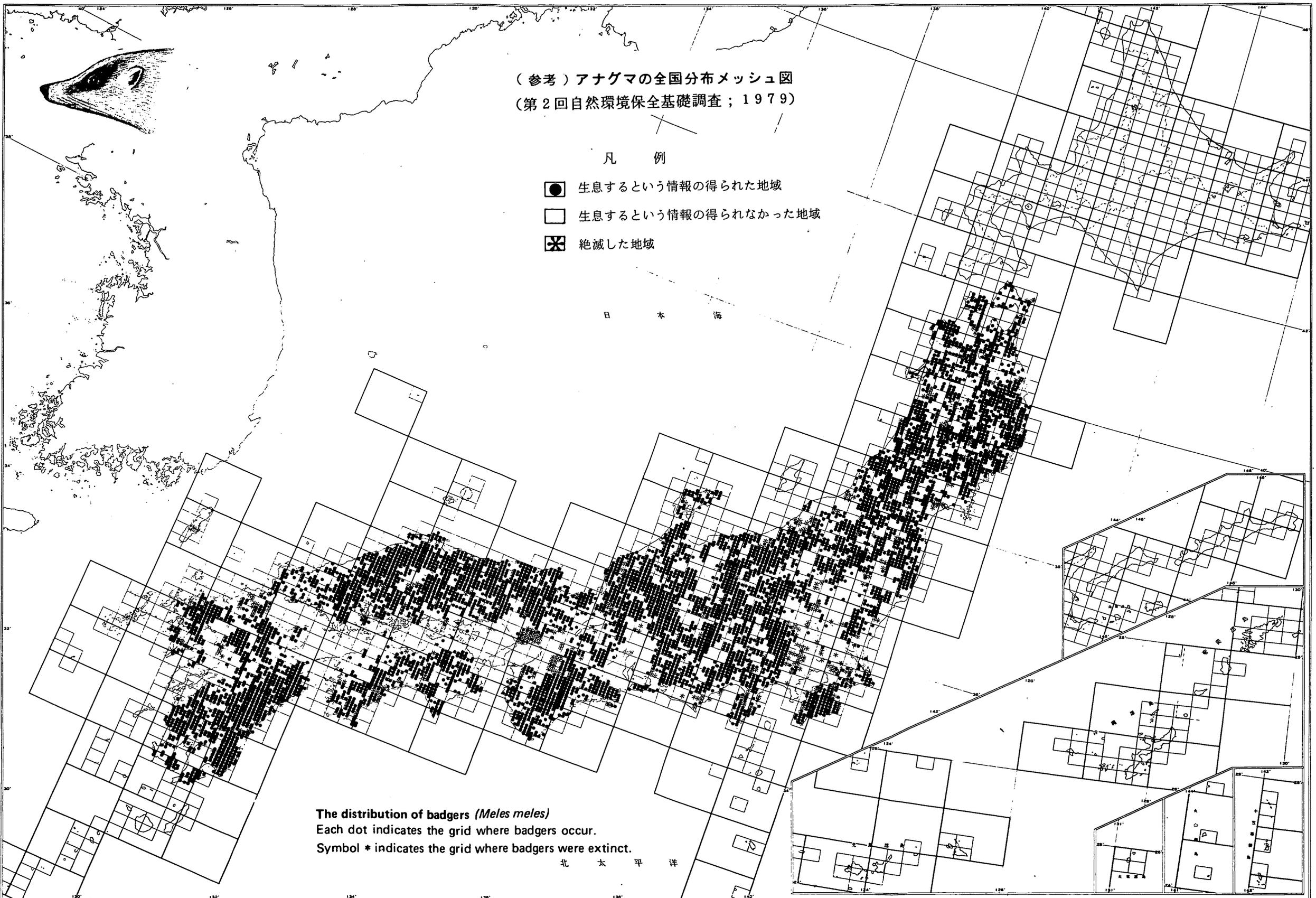
情報不足

0 50 100 150 200m



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)





(参考) アナグマの全国分布メッシュ図  
(第2回自然環境保全基礎調査; 1979)

凡 例

- 生息するという情報の得られた地域
- 生息するという情報の得られなかった地域
- ✱ 絶滅した地域

The distribution of badgers (*Meles meles*)  
Each dot indicates the grid where badgers occur.  
Symbol \* indicates the grid where badgers were extinct.

# 哺乳類分布図

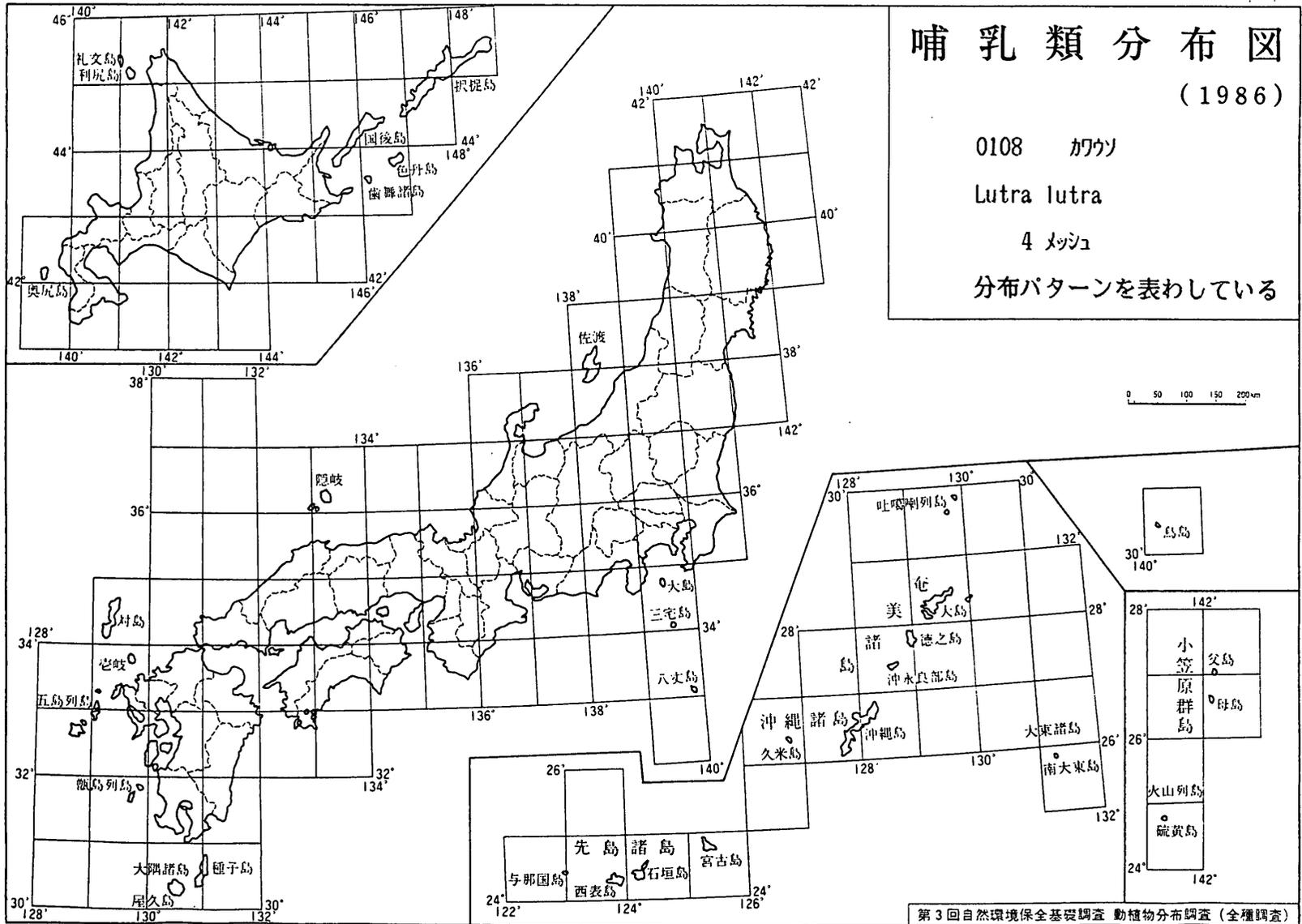
(1986)

0108 カワウソ

*Lutra lutra*

4 メッシュ

分布パターンを表わしている



# 哺乳類分布図

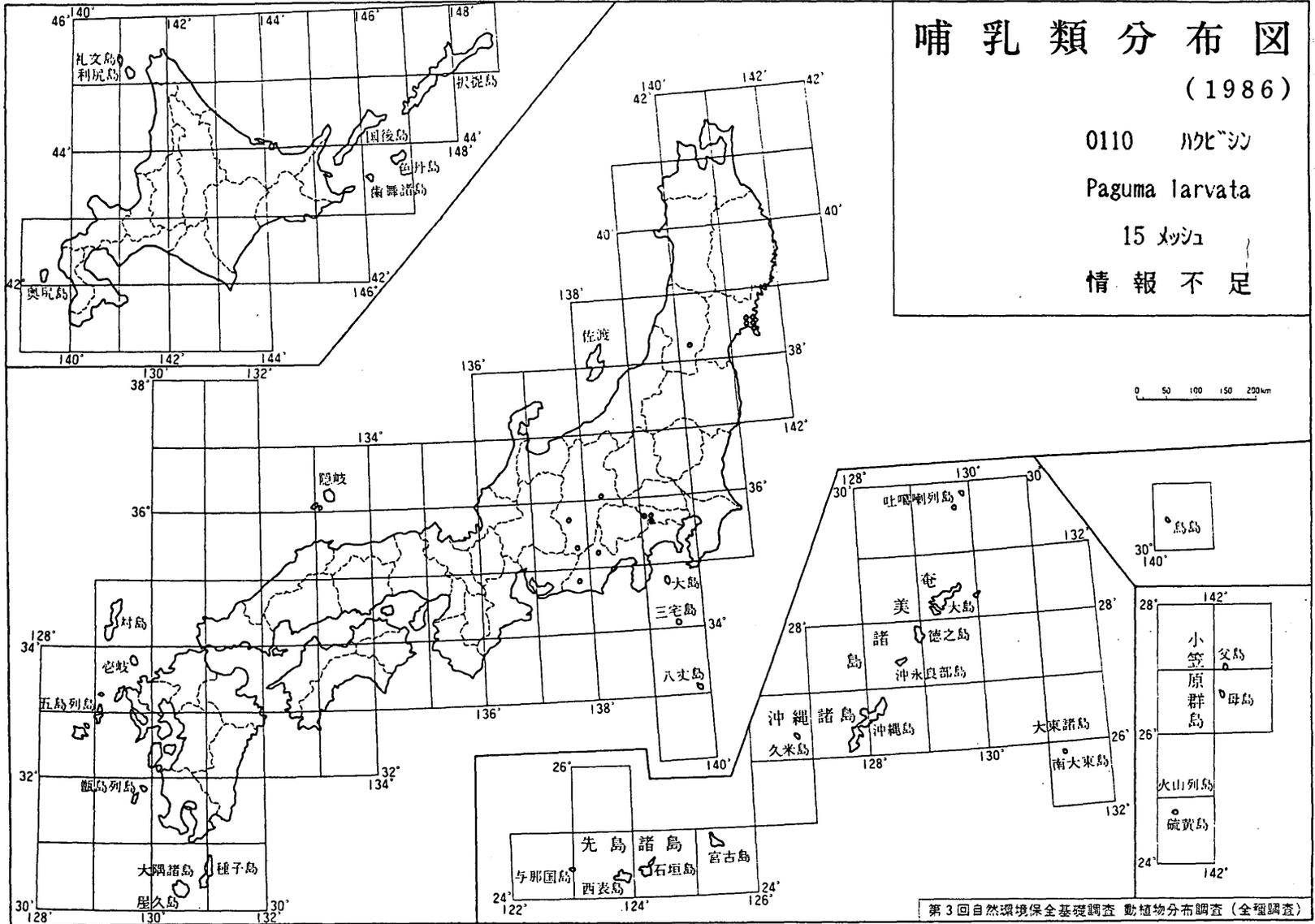
(1986)

0110 ハビシ

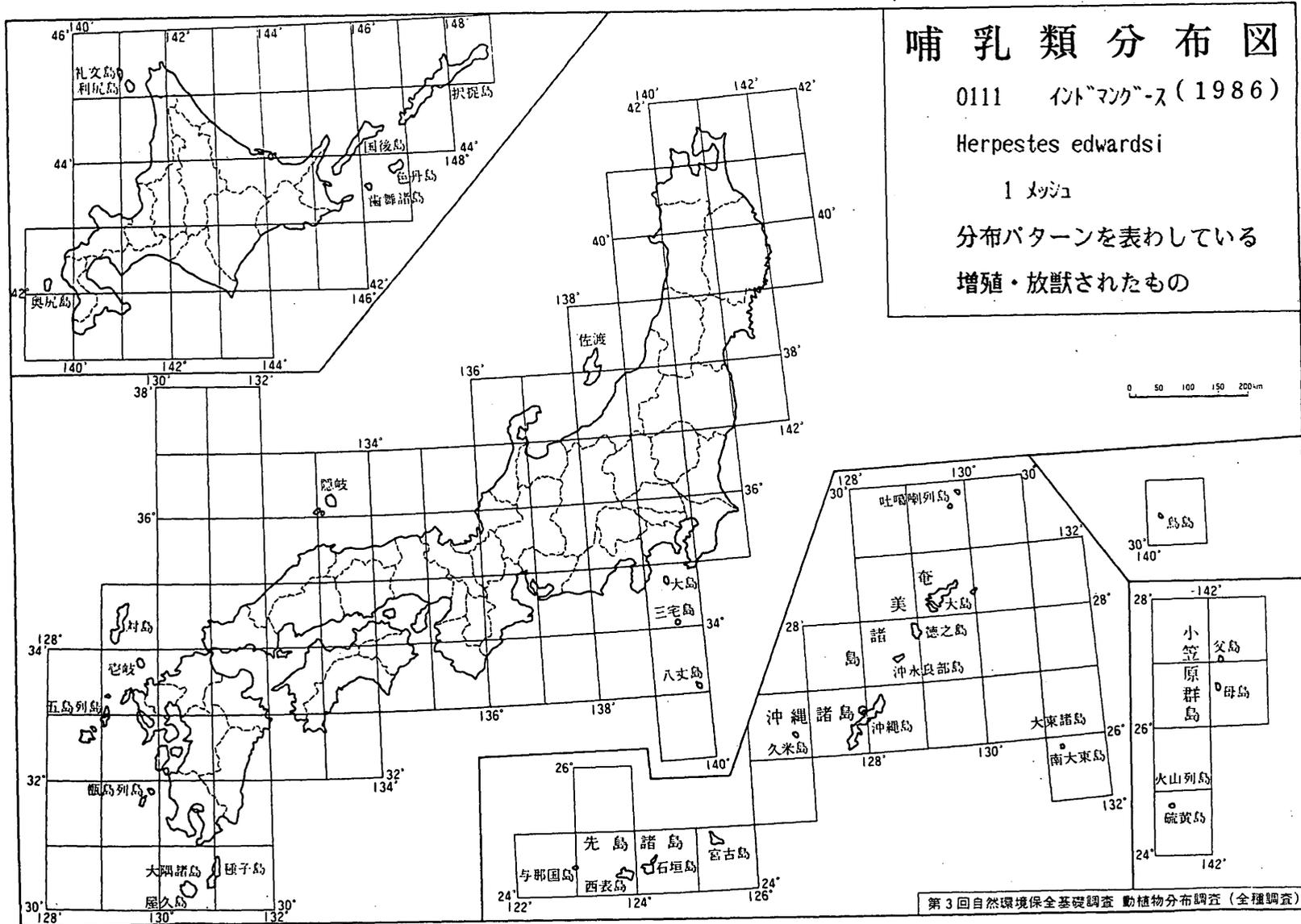
*Paguma larvata*

15 ヌシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)



# 哺乳類分布図

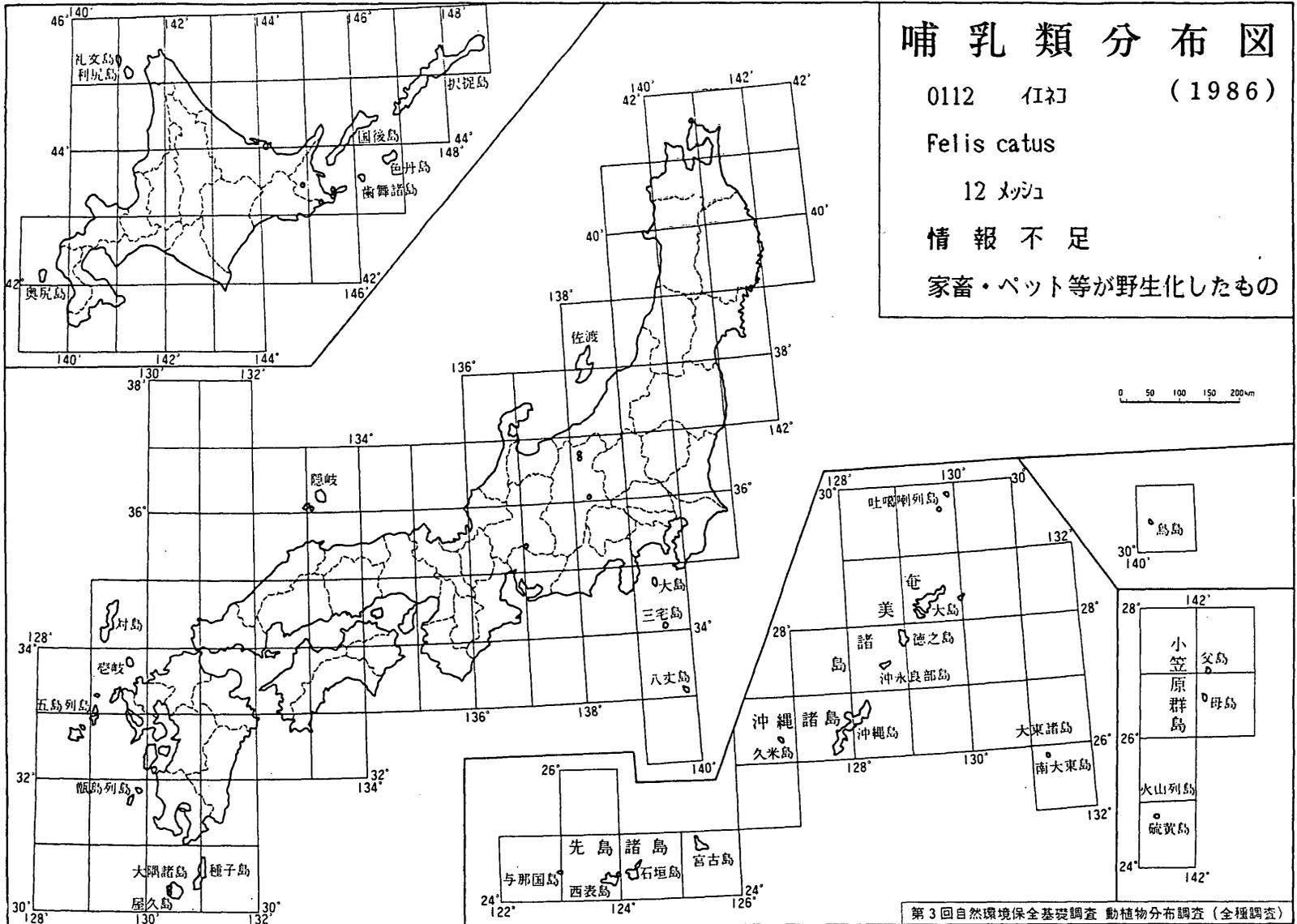
0112 仔猫 (1986)

*Felis catus*

12 ヶ月

情報不足

家畜・ペット等が野生化したもの



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

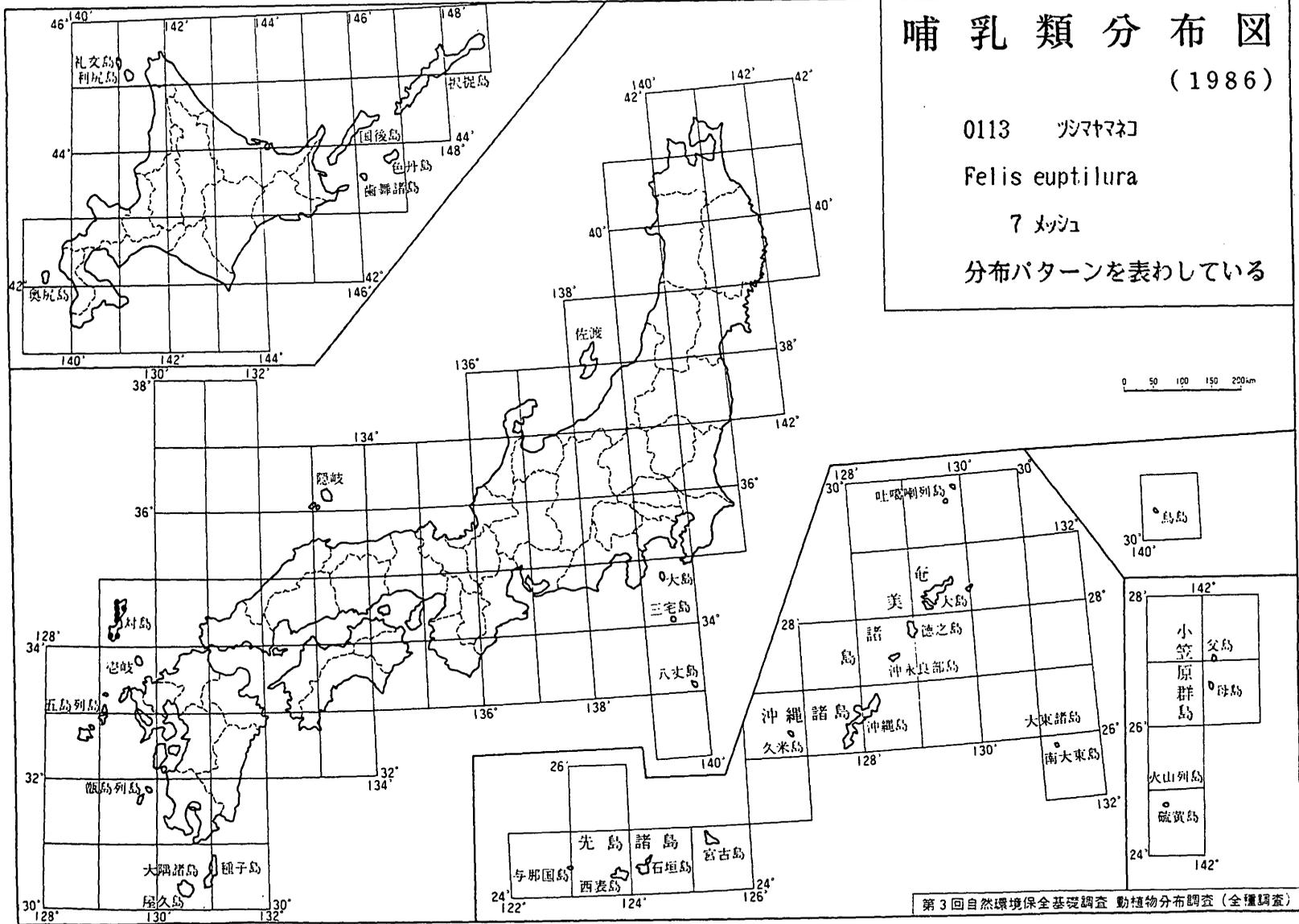
(1986)

0113 ツマヤマネコ

*Felis euphilura*

7 ヲシ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

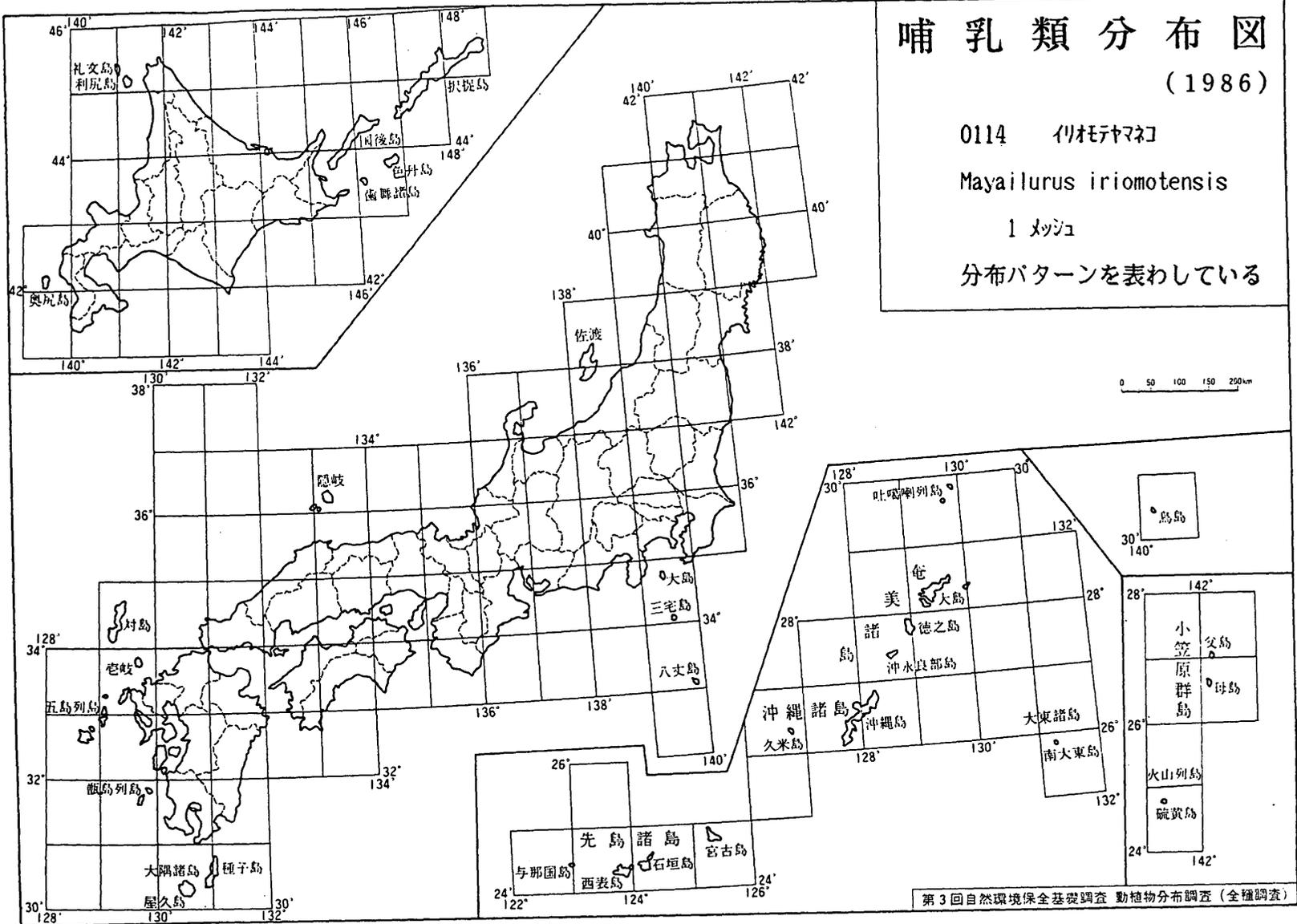
(1986)

0114 イモテヤマコ

*Mayailurus iriomotensis*

1 ヌシユ

分布パターンを表わしている



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

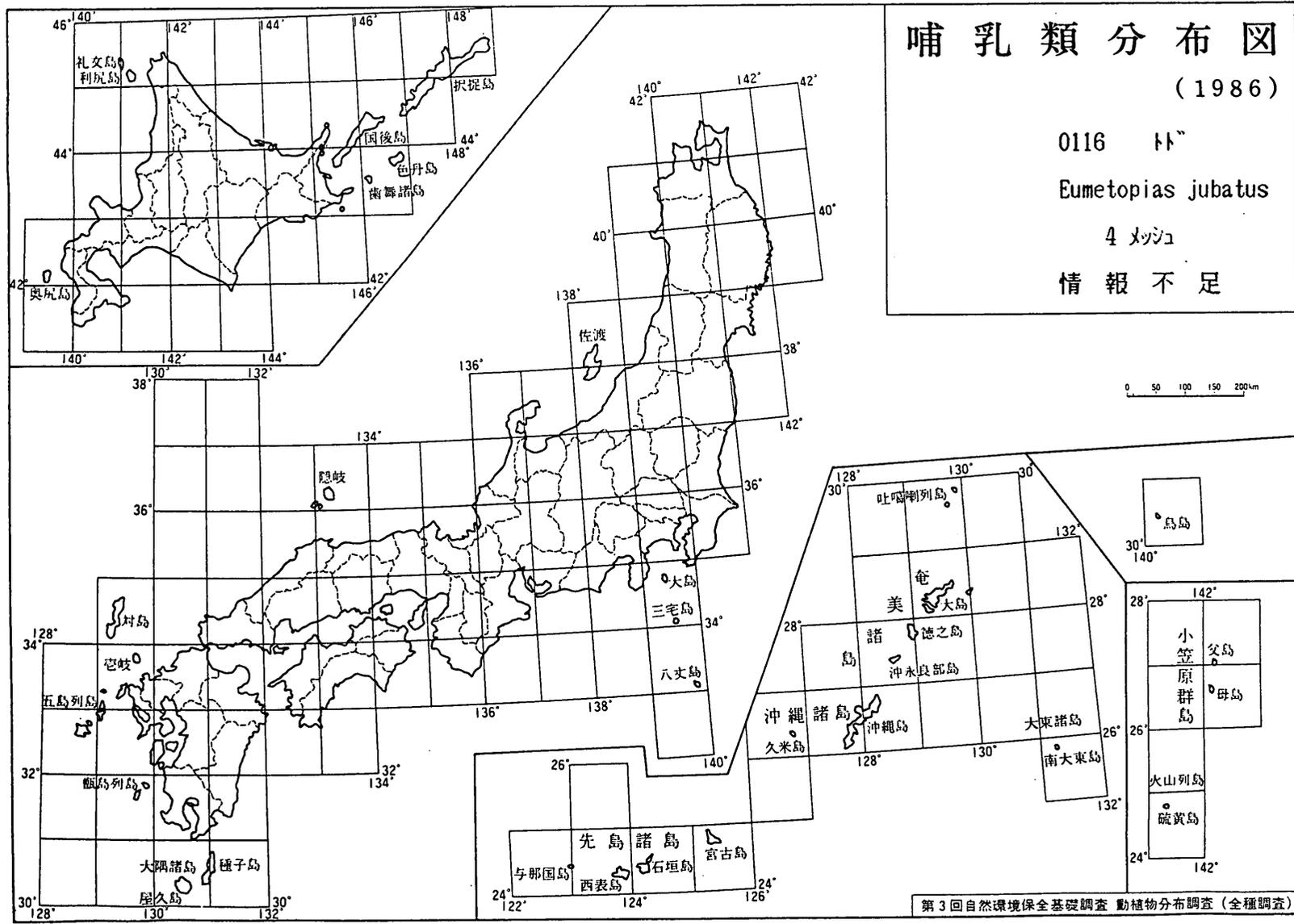
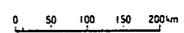
(1986)

0116 ト

*Eumetopias jubatus*

4 ヲシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

(1986)

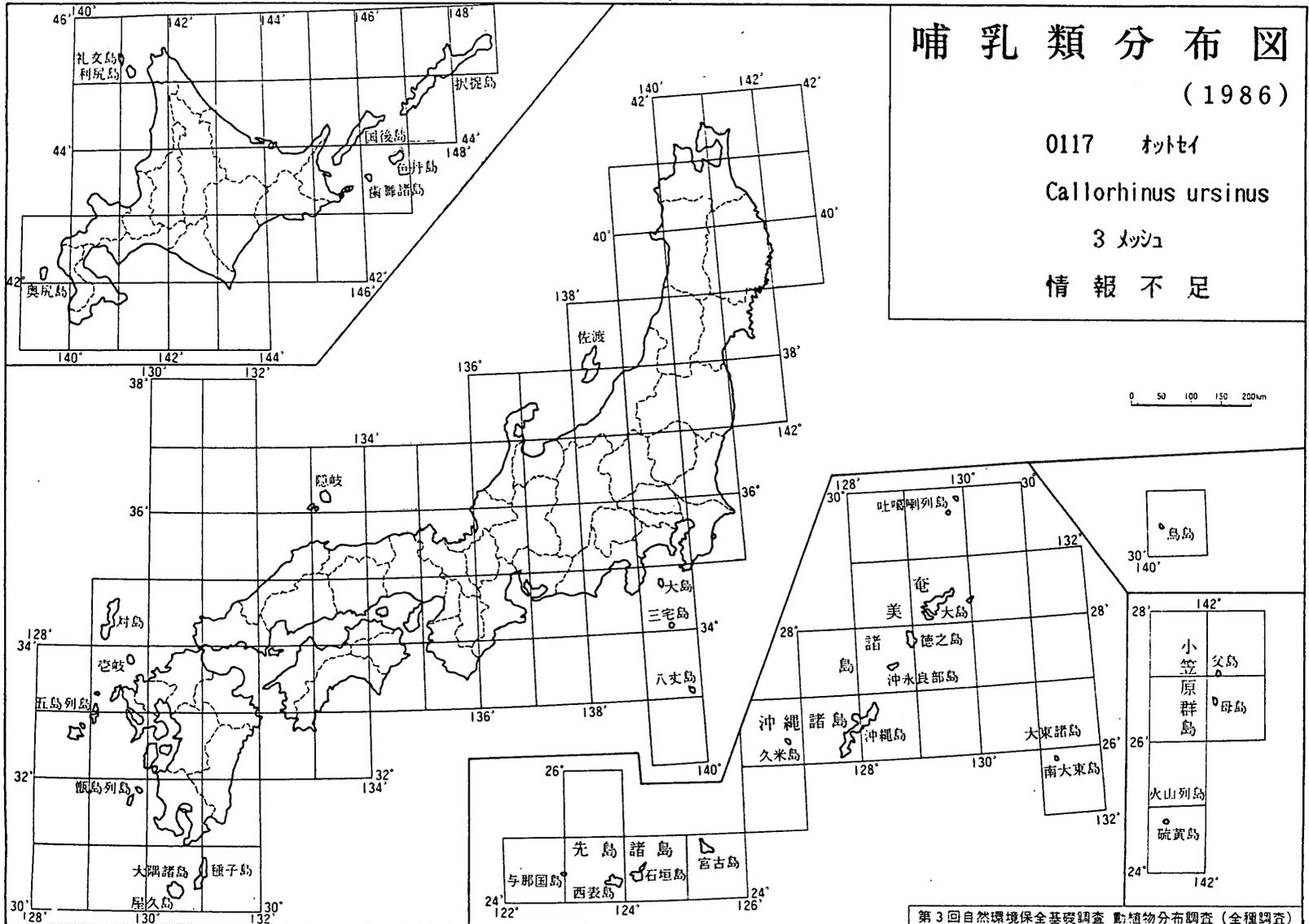
0117 ヌツセイ

*Callorhinus ursinus*

3 ヌツ

情報不足

0 50 100 150 200km



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

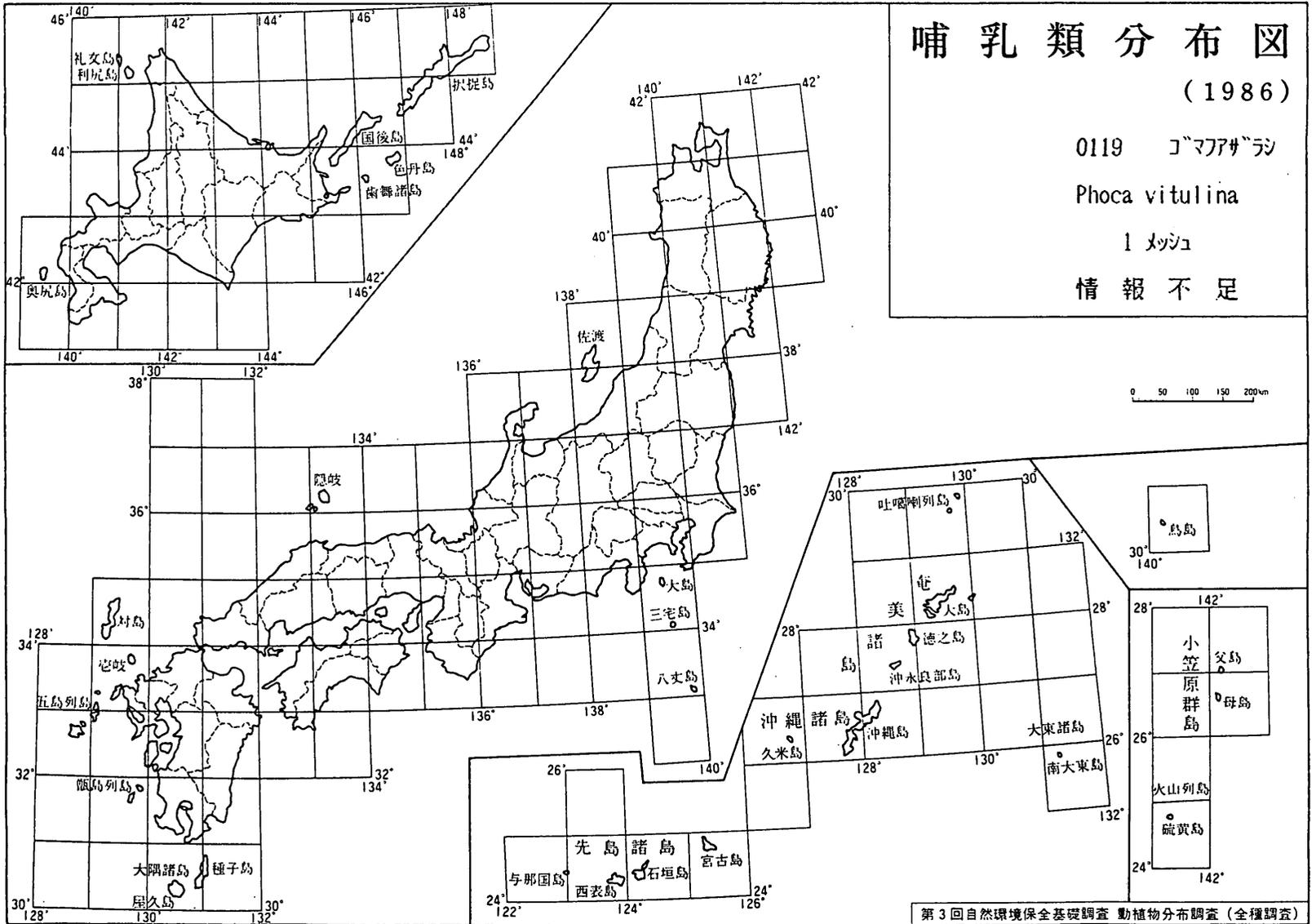
(1986)

0119 コマアザラシ

*Phoca vitulina*

1 ヲシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査(全種調査)

# 哺乳類分布図

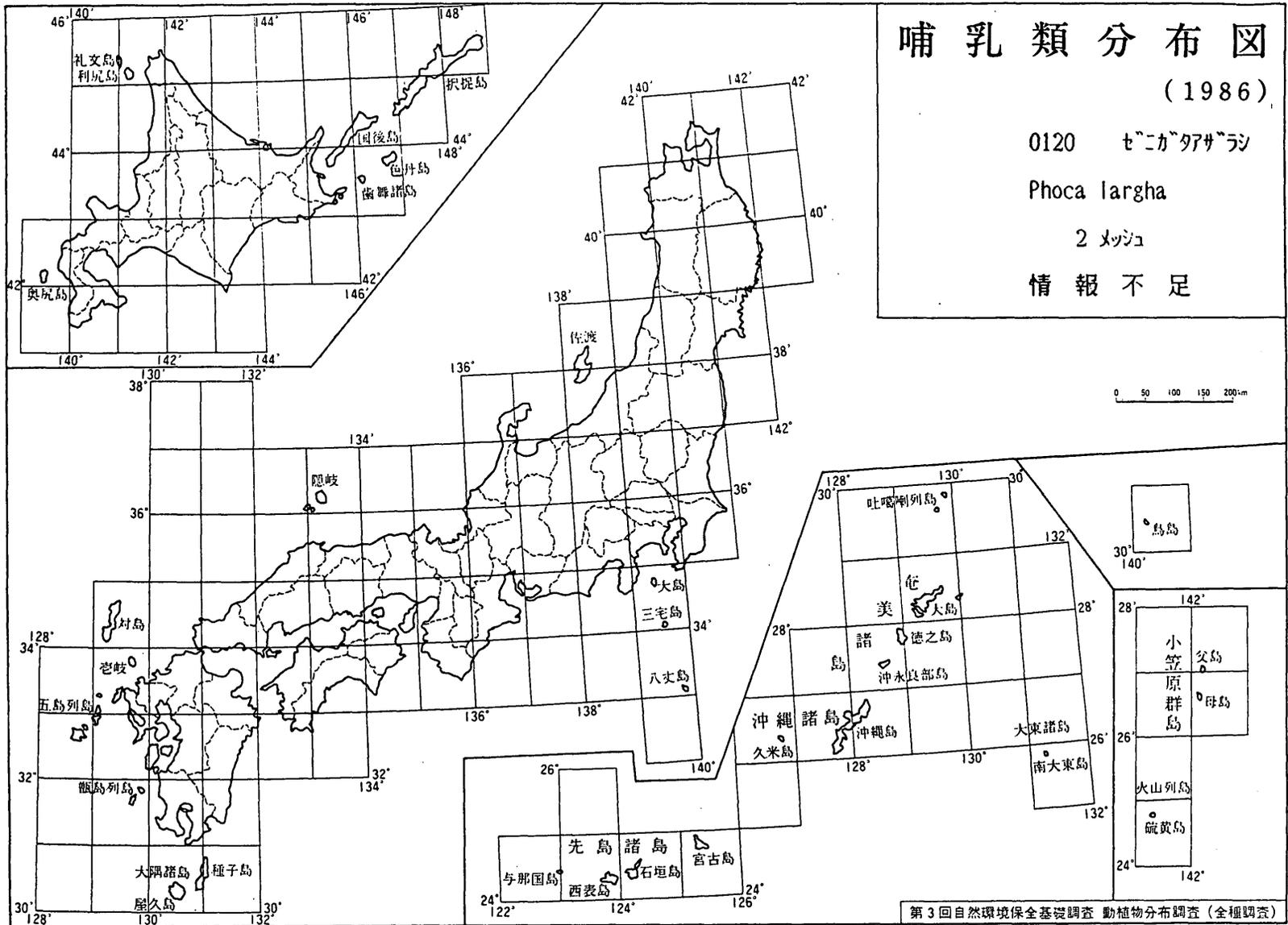
(1986)

0120 テニカアサラシ

*Phoca largha*

2 ヌシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

(1986)

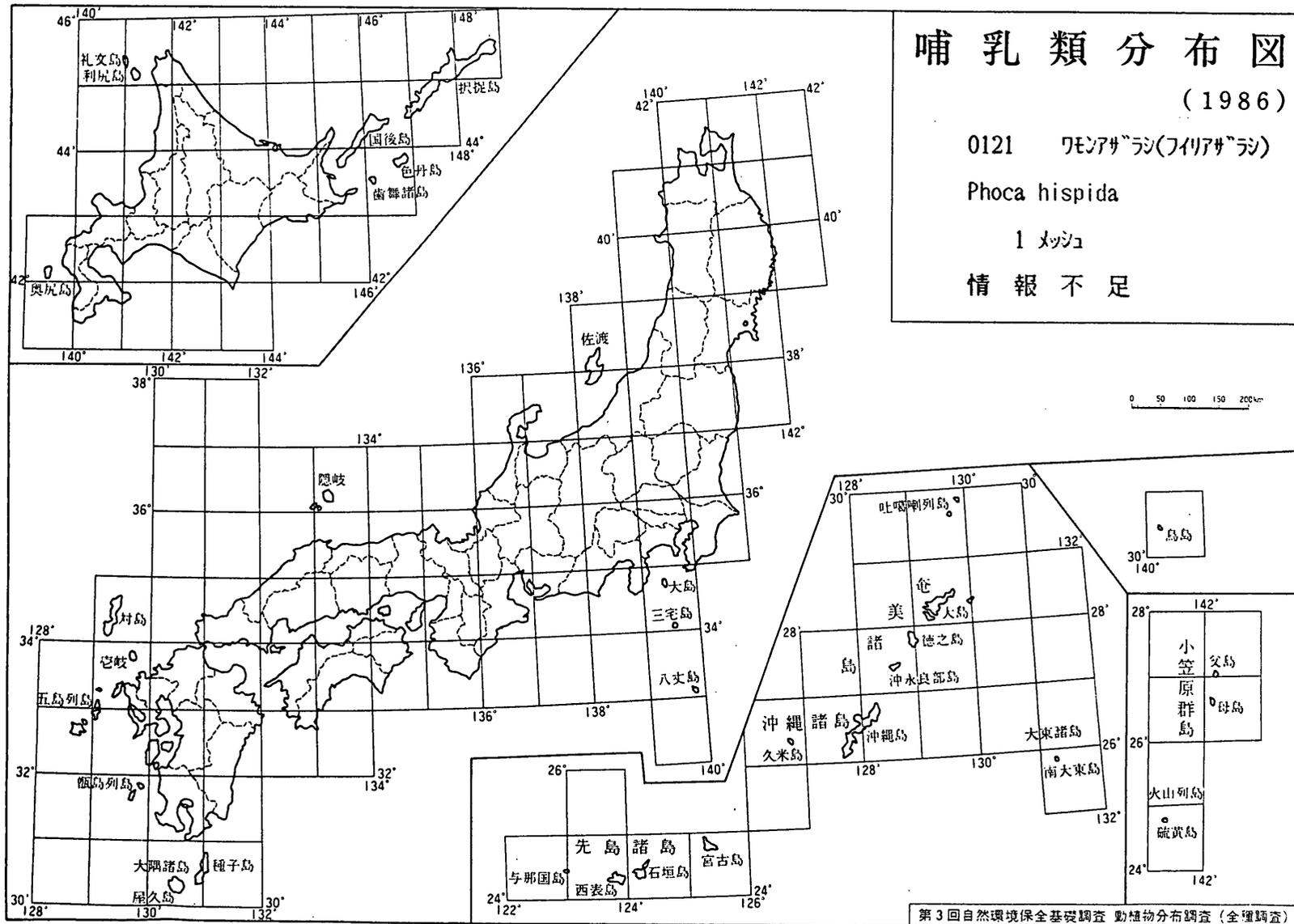
0121 ワモンザラシ(フイアザラシ)

*Phoca hispida*

1 ヲシ

情報不足

0 50 100 150 200km



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

(1986)

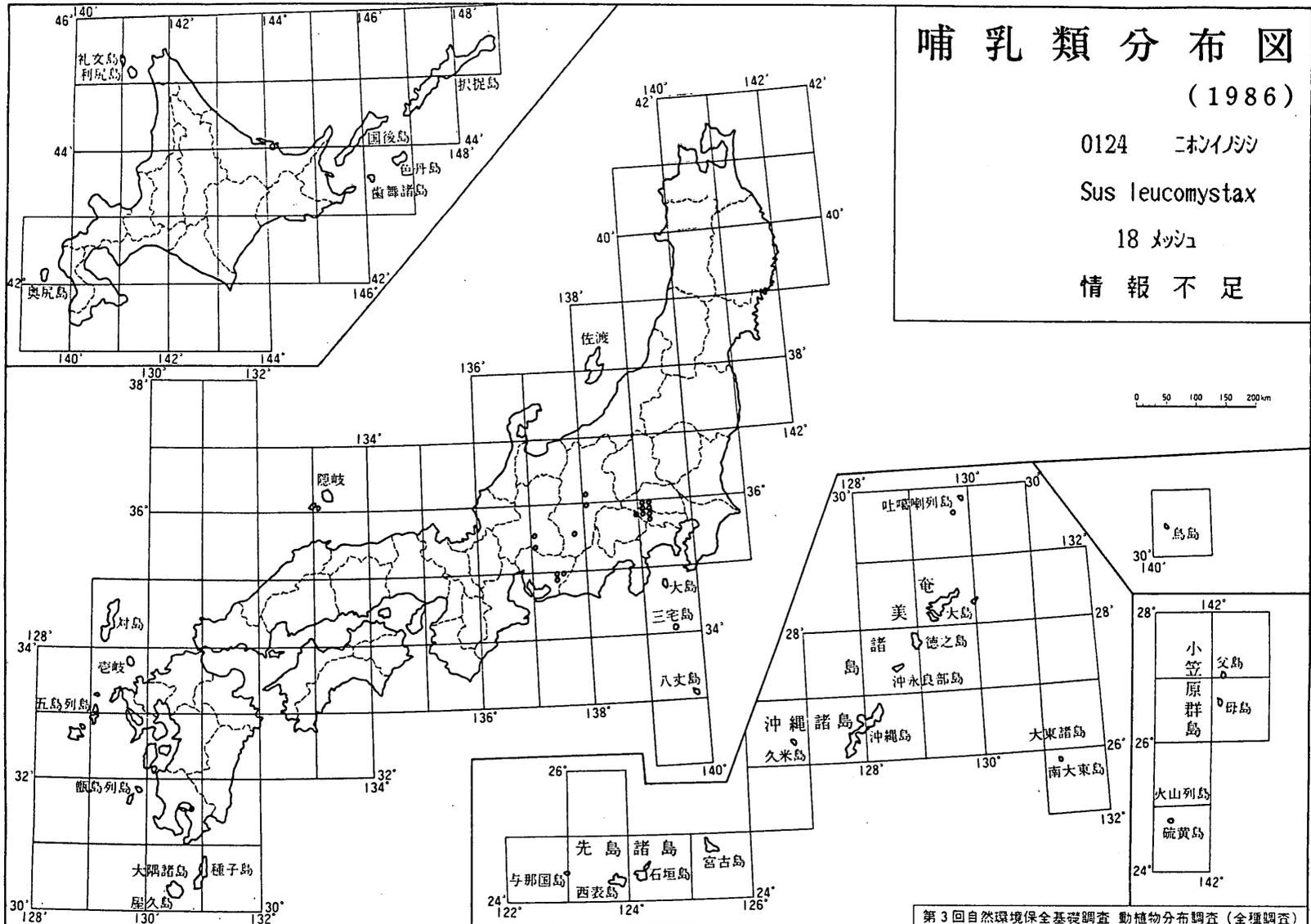
0124 ニホンリス

*Sus leucomystax*

18 ヶシ

情報不足

0 50 100 150 200km



第3回自然環境保全基礎調査 動物物分布調査 (全種調査)

# 哺乳類分布図

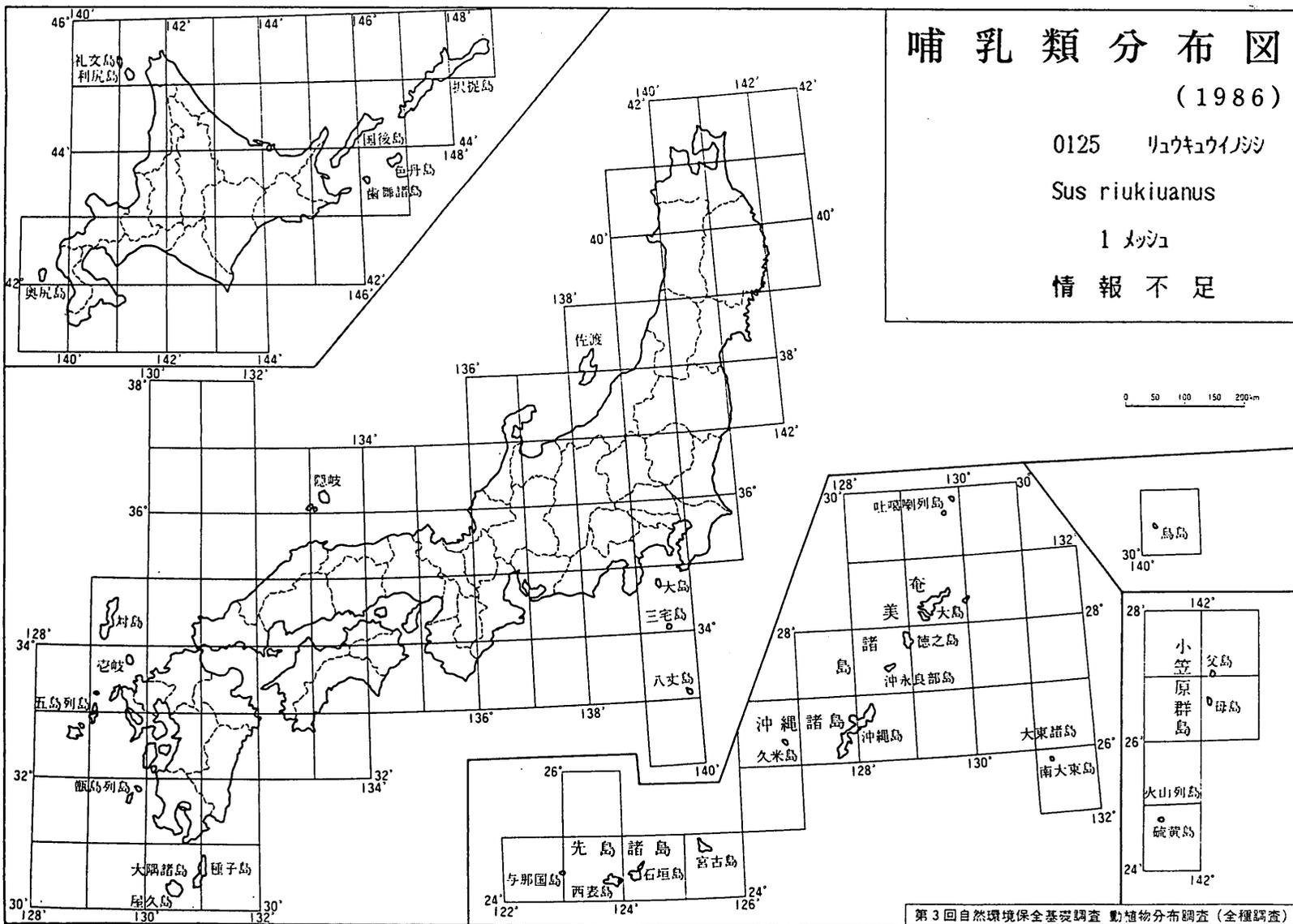
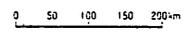
(1986)

0125 リウキュウイヌシ

*Sus riukiuanus*

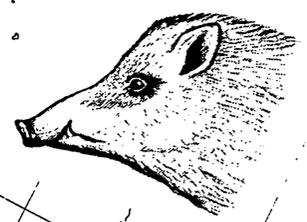
1 メッシュ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動物物分布調査 (全種調査)



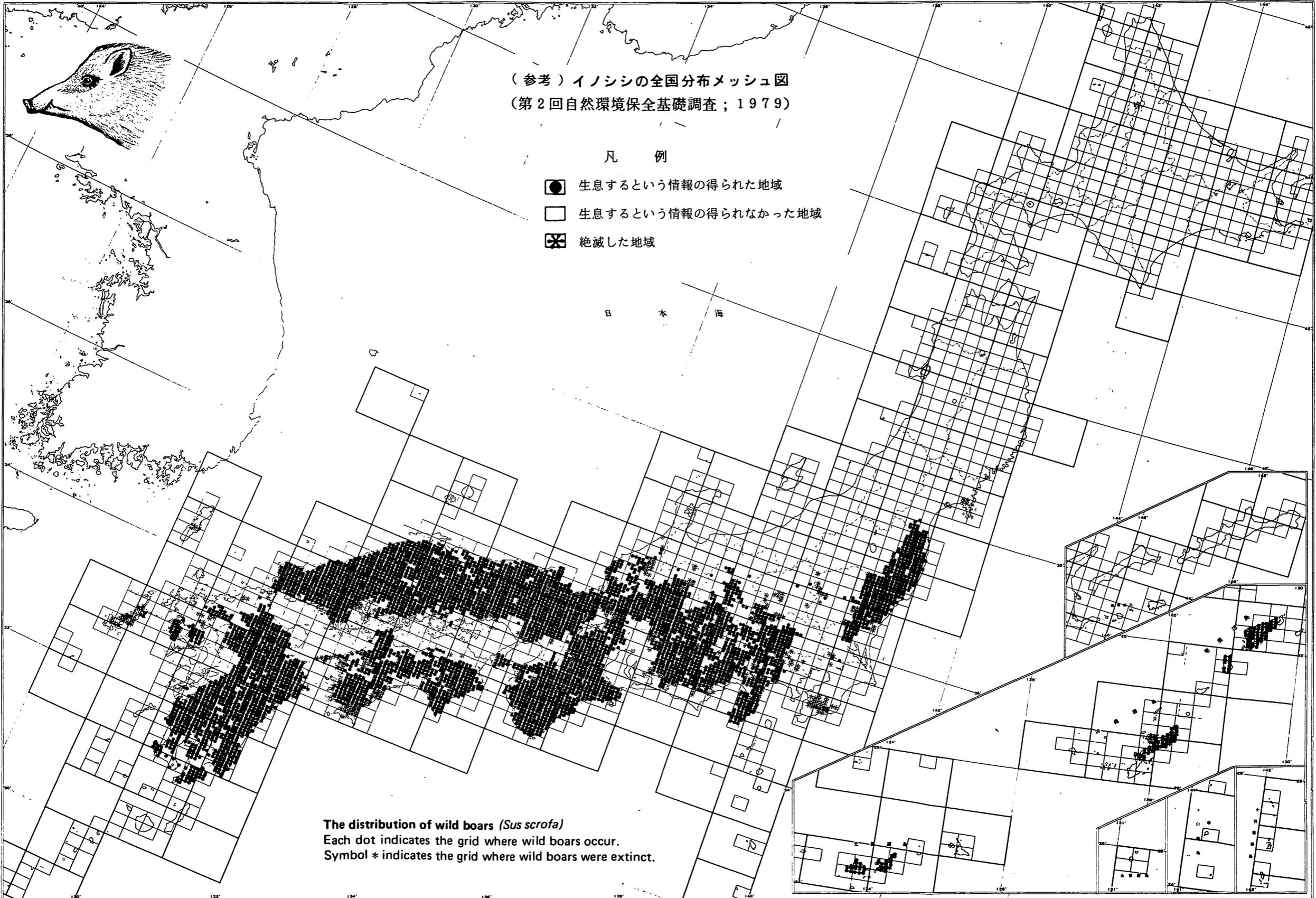


(参考) イノシシの全国分布メッシュ図  
(第2回自然環境保全基礎調査; 1979)

凡 例

- 生息するという情報の得られた地域
- 生息するという情報の得られなかった地域
- ✖ 絶滅した地域

日 本 海



The distribution of wild boars (*Sus scrofa*)  
 Each dot indicates the grid where wild boars occur.  
 Symbol \* indicates the grid where wild boars were extinct.

# 哺乳類分布図

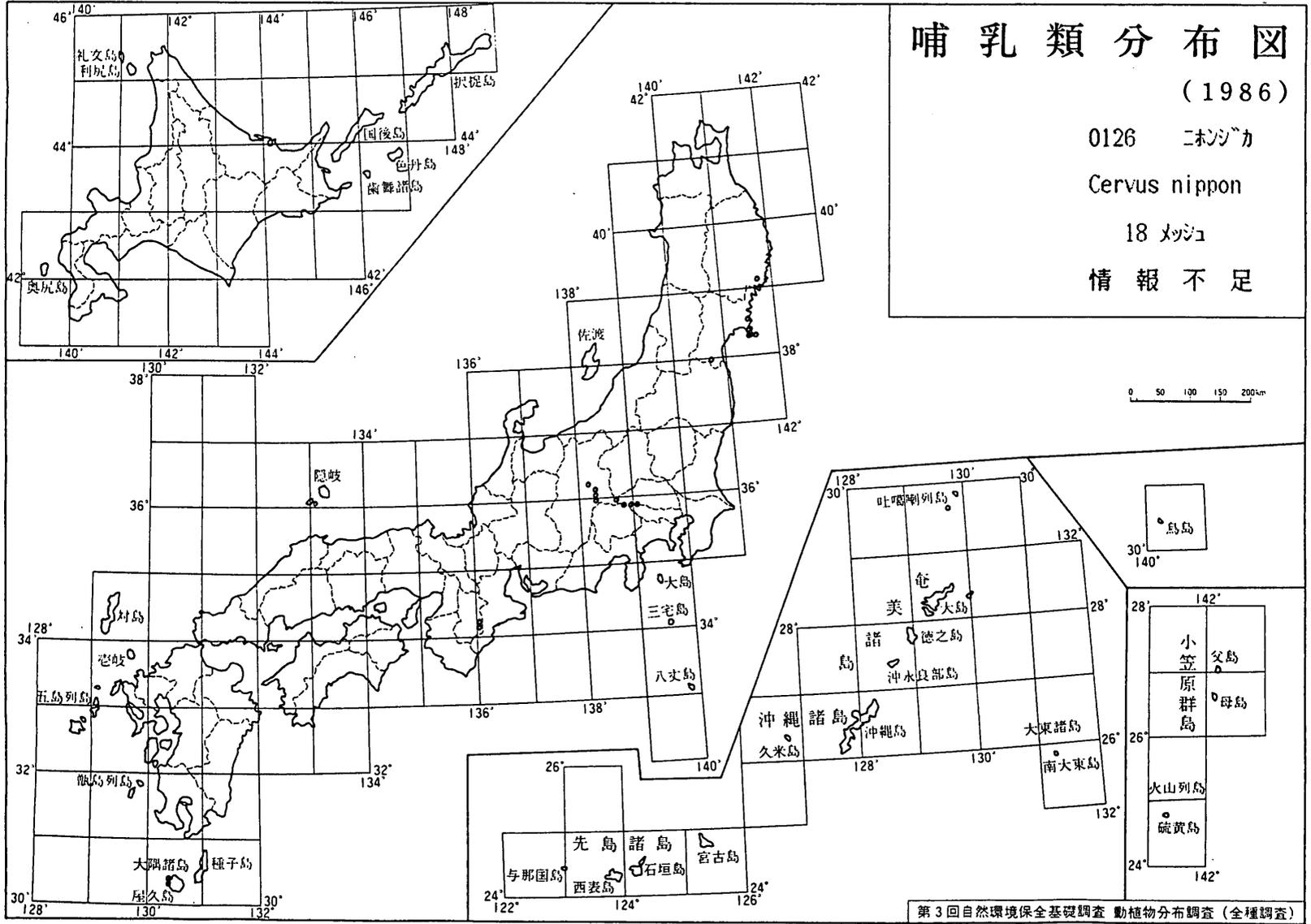
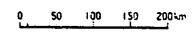
(1986)

0126 ニホンジカ

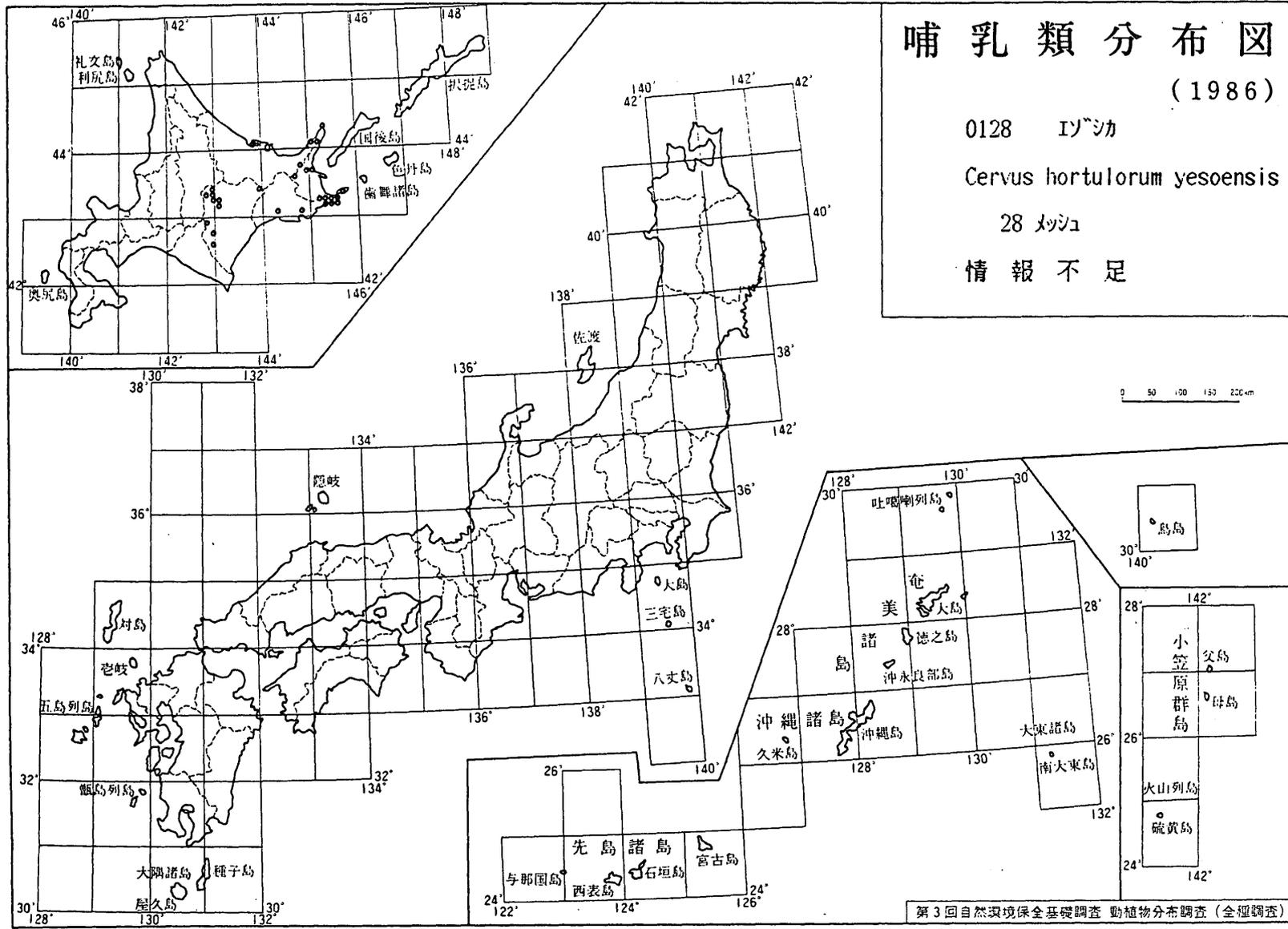
*Cervus nippon*

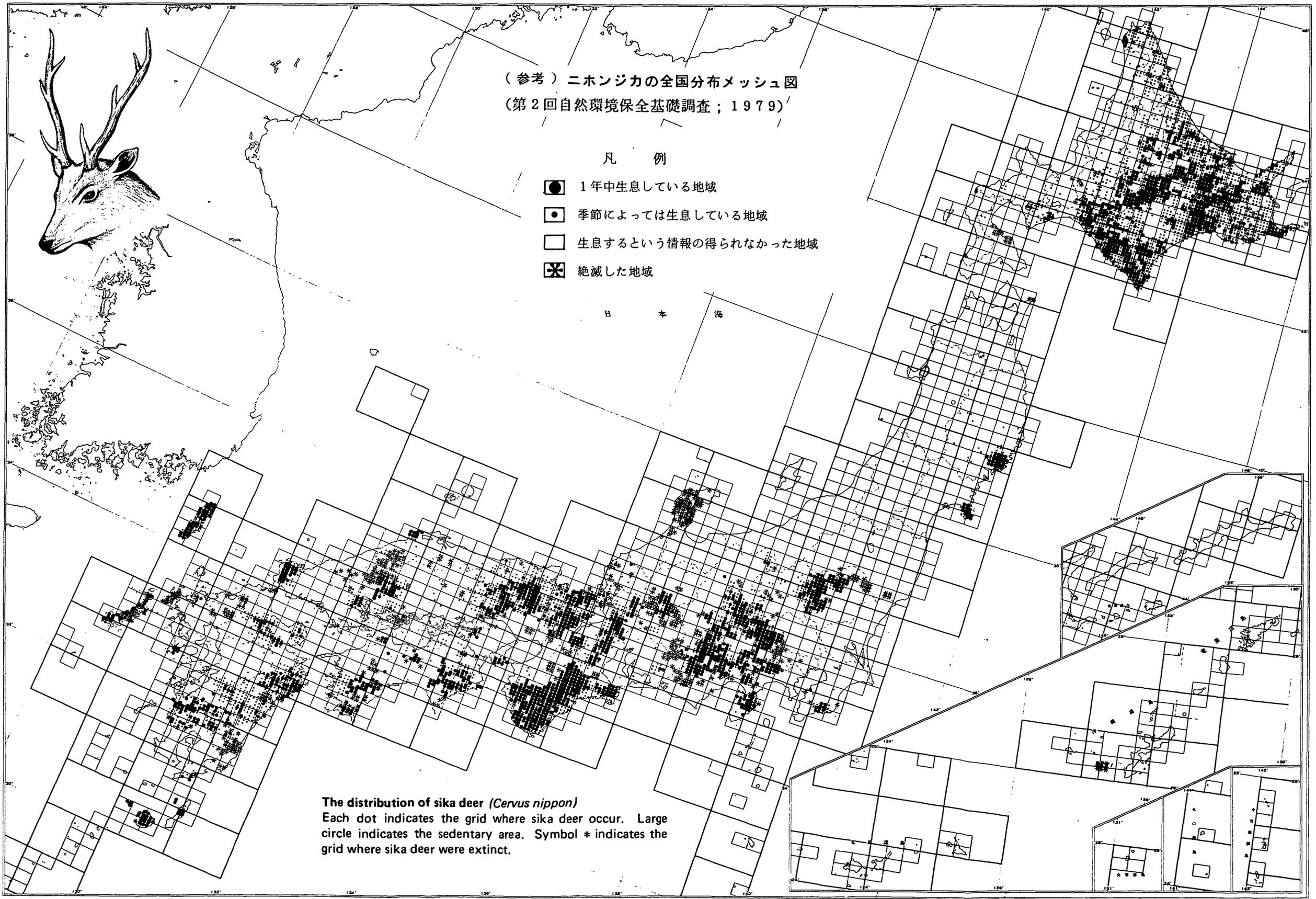
18 ヌシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)





(参考) ニホンジカの全国分布メッシュ図  
(第2回自然環境保全基礎調査; 1979)

凡 例

- 1年中生息している地域
- 季節によっては生息している地域
- 生息するという情報の得られなかった地域
- ✱ 絶滅した地域

日 本 海

The distribution of sika deer (*Cervus nippon*)  
Each dot indicates the grid where sika deer occur. Large circle indicates the sedentary area. Symbol \* indicates the grid where sika deer were extinct.

# 哺乳類分布図

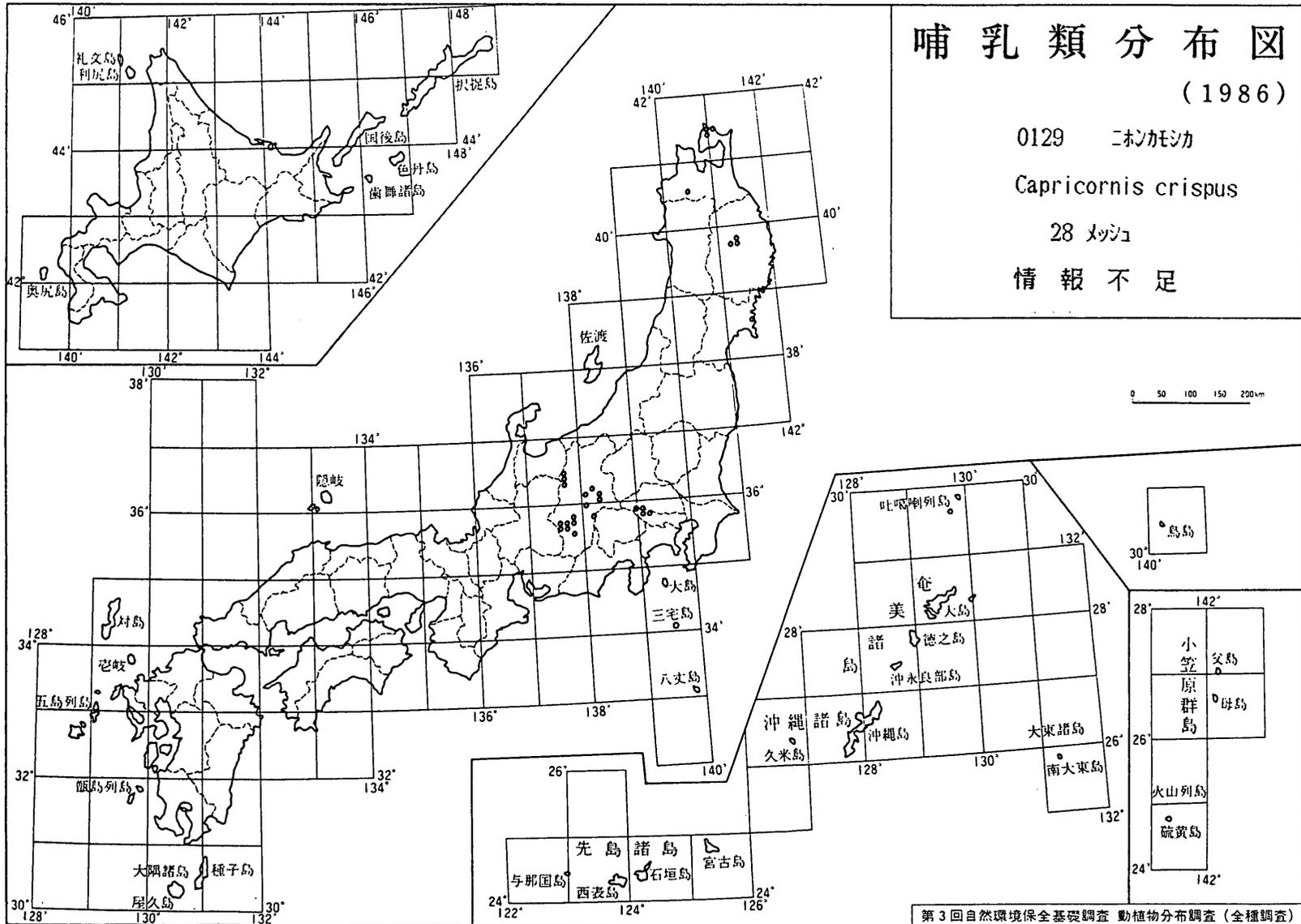
(1986)

0129 ニホンカシ

*Capricornis crispus*

28 ヌシ

情報不足



第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 (全種調査)

## 第2. 集計表

分布図を掲載した全ての種・亜種について、都道府県別の情報収集状況を把握するため、調査票に記載された3次メッシュ（およそ1 Km×1 Km）を単位として集計を行った。

配列は、分布図と同様、巻末資料「調査対象種一覧表」に示された調査対象種・亜種の順である。

- 注(1) 本集計表は、報告のあった3次メッシュを種別・都道府県別に集計したものである。従って分布図上に示された地点（2次メッシュ）数とは必ずしも一致しない。
- (2) 同一種、同一3次メッシュにおいて、複数の調査員からの、あるいは異なる調査年月の報告があった場合は重複を排除し、1件として集計した。
- (3) 複数の都府県にまたがるメッシュについては、便宜的にその中で一番大きな面積を占める都府県に属するものとして集計した。





哺乳類

(注) 本集計表は報告のあった3次メッシュ数を種別・都道府県別に集計したものである。  
 従って分布図上に示された地点(2次メッシュ)数とは必ずしも一致しない。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	合計					
	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長門県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県						
0070 エゾキツネミ	123	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	123			
0071 シロタンキツネミ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2			
0072 リシムクゲネズミ	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5			
0073 ミヤマクゲネズミ	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18			
0074 ニイガタキツネミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30		
0075 トウネキツネミ	0	2	6	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13			
0076 ワカマキツネミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2			
0077 ガネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	15	3	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31		
0078 スミスズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	4	0	0	0	18			
0079 ハクネズミ	0	5	5	16	0	4	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	1	17	2	0	7	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	67			
0081 アカネズミ	99	6	2	5	0	4	0	0	0	8	0	8	11	0	0	3	0	58	10	3	26	0	0	0	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	6	6	3	1	1	0	0	269				
0083 ガフトアカネズミ	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31			
0084 ヒメネズミ	63	4	6	8	0	2	0	0	0	7	0	1	7	0	0	2	0	4	56	7	2	12	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	6	6	3	1	0	0	0	206				
0086 カネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	2	0	0	0	0	0	1	2	0	13	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	31			
0087 ハツカネズミ	5	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	4	2	0	10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	2	0	0	1	44
0090 クマネズミ	1	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	18		
0091 ドブネズミ	27	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	0	9	2	0	2	0	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60		
0094 ヒグマ	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6		
0095 オキアキマ	0	3	1	0	0	0	0	0	0	6	0	5	0	0	0	0	0	1	17	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35		
0096 アライマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
0097 タヌキ	2	2	1	20	0	3	1	0	0	0	5	2	12	2	0	0	0	1	23	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	84		
0098 キツネ	71	7	0	14	0	3	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	32	3	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	143		
0099 イヌ	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16		
0100 テン	1	7	0	8	0	3	1	0	0	0	5	4	9	1	0	0	0	2	31	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	78	
0101 クロテン	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19		
0102 チョウセンイタチ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14		
0103 イタチ	20	7	1	17	0	3	0	0	0	1	5	7	12	1	0	0	0	0	19	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	107	
0104 イイズナ	20	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23		
0105 オジロ	2	8	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20		
0106 ミノ	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	

哺乳類

(注) 本集計表は報告のあった3次メッシュ数を種別・都道府県別に集計したものである。  
従って分布図上に示された地点(2次メッシュ)数とは必ずしも一致しない。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	合計						
	北	青	岩	宮	秋	山	福	茨	栃	群	埼	千	東	神	新	富	石	福	山	長	岐	静	愛	三	滋	京	大	兵	奈	和	鳥	島	岡	広	山	徳	香	愛	高	福	佐	長	熊	大	宮	鹿	沖							
	海													奈															歌																			児						
	道	森	手	城	田	形	島	城	木	馬	玉	葉	京	川	潟	山	川	井	梨	野	卓	岡	知	重	賀	都	阪	庫	良	山	取	根	山	島	口	島	川	媛	知	岡	賀	崎	本	分	崎	島	縄							
0107 アサギマ	0	4	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35					
0108 カクワ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4					
0110 ハクビシン	0	0	0	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23					
0111 インドマングース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1					
0112 ねこ	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	12					
0113 ツマナネコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	21
0114 イオモテマネコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1			
0116 トト	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4				
0117 オトセイ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3			
0119 ブマアザラシ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
0120 ビニカクアザラシ	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5			
0121 ワモンアザラシ(アイアザラシ)	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2			
0124 ニホンイノシシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	22	
0125 リュウキュウイノシシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2		
0126 ニホンジカ	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	34		
0128 エゾジカ	77	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	77			
0129 ニホンカモシカ	0	6	4	1	0	0	0	0	0	0	9	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52		

種数: 107  
総メッシュ数(3次メッシュ): 3330

### 第3 考 察

#### 1 考察の総括

(1) 本邦から記録された哺乳類129種のうち、107種について分布情報が得られた。情報が得られなかったのは、絶滅した恐れがあるオキナワオオコウモリ、アシカ、タイワンザル、マストラット、回遊性のラッコ、アゴヒゲアザラシ、クラカケアザラシ等の海獣、発見以来1~数回しか記録がないオセホオヒゲコウモリ、コホオヒゲコウモリ、オオアブラコウモリ等の稀種、及び分布が狭小地域に限られて適当な情報提供者が得られなかったヒナコウモリ、ミヤケアカネズミ等、計22種である。

(2) 今次調査で分布情報が得られた区画を調査地域、得られなかった区画を空白地域とし、調査地域内での分布図完成度を既往知見に照して判定すると次のようになる。

A. 完成に近いと判定されたもの。次の43種は、既知の殆どの小個体群がその存在を点またはその集団で示されていて、分布図から分布の概要を把握できる。

〔食虫目〕アズミトガリネズミ、チビトガリネズミ、カラフトヒメトガリネズミ、オオアシトガリネズミ、オリイジネズミ、ジャコウネズミ、カワネズミ、ヒメヒメズ、ミズラモグラ、〔翼手目〕クビワオオコウモリ、オガサワラオオコウモリ、イリオモテコキクガシラコウモリ、カグラコウモリ、ドーベントンコウモリ、ホオヒゲコウモリ、シナノホオヒゲコウモリ、ヒメホオヒゲコウモリ、カグヤコウモリ、ノレンコウモリ、モリアブラコウモリ、ヒメホリカワコウモリ、コヤマコウモリ、チチブコウモリ、リュウキュウユビナガコウモリ、クチバテングコウモリ、オヒキコウモリ。〔兎目〕ナキウサギ、アマミノクロウサギ、カイウサギ。〔齧歯目〕タイワンリス、ミカドネズミ、エゾヤチネズミ、シコタンヤチネズミ、リシリムクゲネズミ、ミヤマムクゲネズミ、ニイガタヤチネズミ、ワカヤマヤチネズミ、カラフトアカネズミ。〔食肉目〕アライグマ、カワウソ、インドマンゲース、ツシマヤマネコ、イリオモテヤマネコ。

これらのうちカラフトヒメトガリネズミ、オオアシトガリネズミ、ジネズミは空白地にも広く分布するが、残りのものは空白地には殆ど分布せず完成度が一段と高い。

C. 完成から程遠く、調査地域内だけでも分布の概要が把握出来ないもの(56種)。

〔食虫目〕コジネズミ、オナガジネズミ、ジネズミ、ヒメズ、モグラ、コウベモグラ。〔翼手目〕キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、アブラコウモリ、ヤマコウモリ、トウヨウヒナコウモリ、ニホンユビナガコウモリ。〔霊長目〕ニホンザル。〔兎目〕ユキウサギ、ノウサギ。〔齧歯目〕エゾリス、ニホンリス、シマリス、ホンドモモンガ、エゾモモンガ、ムササビ、ヤマネ、スミスネズミ、ハタネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ、カヤネズミ、ハツカネズミ、クマネズミ、ドブネズミ。〔食肉目〕ヒグマ、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、イヌ(野犬)、テン、クロテン、チョウセンイタチ、イタチ、イイズナ、オコジョ、ミンク、アナグマ、ハクビシン、イエネコ(野生化)。〔鰭脚目〕トド、オットセイ、ゴマフアザラシ、ゼニガタアザラシ、ワモンアザラシ。〔偶蹄目〕ニホンイノシシ、リュウキュウイノシシ、ニホンジカ、エゾシカ、ニホンカモシカ。

対馬のコジネズミ、南西諸島のオナガジネズミ、本州のチチブコウモリ、イイズナ、オコジ

ヨ、鰭脚類を別にすると、広域に分布し、且つ個体数密度の高い優占種が多い。

B、AとCの中間のもの(8種)。比較的容易に完成度を高めることができる。

〔食虫目〕シントウトガリネズミ、サドモグラ。〔翼手目〕クビワコウモリ、ウサギコウモリ、テングコウモリ、ニホンコテングコウモリ。〔齧歯目〕トウホクヤチネズミ、カゲネズミ。

完成度の高いAとそれに準ずるBに該当する種は、食虫目ではその65%、翼手目では75%、兎目では60%を占めるが、霊長目、鰭脚目、偶蹄目では0%、齧歯目と食肉目は中間で42%と25%であった。また、齧歯目をリス科+ヤマネ科、及び残りのネズミ類その他に分転すると、前者は13%、後者は56%となり、前者の完成度が顕著に低い。

(3) 今回はじめてとらえられた分布パターンをあらわす種。

① 新しい分布域を示すと思われる。

〔翼手目〕モモジロコウモリの隠岐島、種子島からの情報。テングコウモリの熊本県2地点からの情報。オヒキコウモリの秩父市からの情報。〔齧歯目〕カゲネズミの愛知県と岐阜県からの情報。スミスネズミの紀伊半島からの情報。カヤネズミの伊那付近からの情報。ドブネズミの小笠原諸島からの情報。〔食肉目〕アライグマ(カニクイアライグマを含む可能性がある)の岐阜県からの情報。テンの北海道からの情報。チョウセンイタチの知多半島及び名古屋周辺からの情報。ハクビシンの山形県からの情報。〔偶蹄目〕ニホンジカの宮城県南部からの情報。

② 同処性らしいことが今回はじめて分布図から読みとれた同属近縁種。

間違いなく同処性であれば、両者はニッチを異にする可能性が高く、研究情報として重要である。〔翼手目〕岩手県におけるヤマコウモリとコヤマコウモリ。西表島におけるニホンユビナガコウモリとリュウキュウユビナガコウモリ。〔齧歯目〕奈良県におけるワカヤマヤチネズミとスミスネズミ。〔食肉目〕釧路付近及び根室付近におけるイタチとミンク。根室付近、下北半島の大間付近等におけるイタチとイズナ。根室付近におけるイズナとミンク。下北半島の大間付近等におけるオコジョとイズナ。

(4) 分布域の拡大・縮小の傾向の読みとれる種。

① 拡大傾向を示すと思われるもの。

〔ニホンザル〕宮城県牡鹿半島基部の情報は1923年の長谷部言人による調査以外になく、分布域が回復した例になるかも知れない。〔ハクビシン〕山形県からの情報。

② 縮小傾向を示すと思われるもの。

〔ナキウサギ〕芳賀(1957)は、本種が「夕張岳や芦別岳ではもうほとんど姿をみる事ができない」と述べている。現調査で夕張山系からの情報が欠けているのは、この地域で絶滅したことを示すものかも知れない。〔イタチ〕知多半島と名古屋市周辺からの情報がチョウセンイタチでは比較的多数得られたのに、競合関係にあるイタチではそれが得られていない。これは両者の競合により、イタチの分布域がこの地域で縮小したことを示すものかも知れない。〔オコジョ〕北海道からの情報がないのは、イタチに駆逐され個体数が減少したためかも知れ

ない。

(5) 調査方法等の改善に関する提案。

① 専門分野以外の種に関する情報の提供

哺乳類研究者の専門分野は、採集及び研究方法の違いにより小型哺乳類（食虫目と齧歯目のネズミ類）、翼手類（洞窟棲コウモリと森林棲コウモリ）、中型哺乳類、大型哺乳類、海獣類等に分類されており、各分野の研究者数にかなりの偏りがある。中大型哺乳類、海獣類、及びリス類の分布図完成度が低いのは、主としてこのためと考えられるが、これら、特にウサギ類、リス・ムササビ類、オコジョ、シカ、カモシカ等は小型哺乳類及び翼手類研究者でも目撃する機会があるので、種が同定できた場合はそれらの情報をも提供しよう要請しておく必要がある。

② 鳥類研究者の協力。

モモンガ類とヤマネは越冬等に小鳥用の巣箱を利用することが多く同定も容易であるから、これらの種が巣箱を利用した場合に限って鳥類研究者へも情報提供を呼び掛けることが望ましい。

③ 亜種単位の分布情報の蒐集。

シマリスは北海道に亜種エゾシマリスを原産するが、朝鮮産の別亜種チョウセンシマリスが本州だけでなく北海道にも移入され野生化していると言われる。これらは交配が可能であるから当然交雑し、将来、純粋のエゾシマリスが見られなくなる恐れがある。このような場合は、亜種単位の分布調査が必要である。

④ 海獣類の調査範囲。

オットセイは繁殖地以外では通常接岸することがなく、死体の海岸漂着や魚網へ掛かった情報が得られるに過ぎない。海上のどの地域までを分布図に含めるか、記録法を含めて検討する必要がある。クラカケアザラシもこれに準ずる。

⑤ 野生化したイエネコ（ノネコ）及びイヌ（野犬）の分布。これらの分布図を単なる目撃例に基づいて作るのは問題である。真に野生化した個体かどうか、生態観察等によって確かめる必要がある。

⑥ 情報源として学術調査・研究の結果を取り入れる体制の整備が望まれる。

近年の学術調査・研究に関する論文には種名と共に採集地点、または調査地域が明示されているが、中にはそれを地図上に示したのもあって、分布情報として利用可能なものが少なくない。そのような情報を蒐集する体制が必要である。

⑦ 研究機関等に保管されている標本の中には、研究が一応終了して、採集地点に関する情報を公表しても支障のない段階に達したものが多数含まれていると推察されるが、そのような情報を蒐集する方法を検討する必要がある。

（ 今 泉 吉 典 ）

## 2 食虫目

日本では17種の食虫類が記録されており、それぞれについて分布情報が寄せられた。

アズミトガリネズミの既知の分布は長野県を中心とした本州中部の山岳部(今泉、1970)に限られており、また、チビトガリネズミ(トウキョウトガリネズミ)に関する最近までの正確な記録は北海道内の5箇所(阿部、1961、小宮、1972、近藤、1986、島崎、正富、1986)に限られており、今回の分布情報はほぼそれらを満たしている。

カラフトヒメトガリネズミは礼文島、利尻島を含む北海道のほぼ全域に分布するが、道央の平地や道南部では稀で、道北部、道東部の平地および道央部の高地では普通種である。今回の分布情報はほぼ全道に拡がっているものの上述のような状態になっていないのは調査箇所が不十分なためである(阿部、1984、小原・奈良、1984)。

シントウトガリネズミのうち亜種シコクトガリネズミは愛媛県佐々連尾山、下兜山、徳島県剣山、亜種ホンシュウトガリネズミは本州中部以北の山地、また亜種エゾトガリネズミは北海道本島全域に広く分布している。しかし、今回の調査結果では四国のもおよび本州北部のものを欠いている。北海道では道北、道南の記録の収集を欠いており、調査が進めば分布はさらに連続的に拡がるものと予想される。

オオアントガリネズミは礼文島、利尻島、厚岸大黒島などを含む北海道において最も優勢なトガリネズミで、生息数も多い。今回の結果は道北、道南など広い地域で情報を欠く部分をもつが、調査が進めば少なくとも本島ではほぼ全区域に出現するものと予想される。

コジネズミ(チョウセンコジネズミ)は、わが国では対馬の南北両島にのみ分布しており、今回の情報はまだその一部を示しているにすぎない。河畔や低地林縁では決して少ない動物ではないと思われる。

オナガジネズミ、(ワタセジネズミ)は奄美大島、徳之島、伊江島、与論島、沖縄本島、沖永良部島などから知られており(今泉、1970)、奄美大島などでは生息数が多く、普通種である。今回の情報はまだきわめて不完全である。

ジネズミは日本列島に広く分布している。すなわち、吐喝喇列島中之島、種子島、屋久島、五島、沖の島、九州、四国、山口県見島および相島(宮尾ら、1981)、隠岐島、佐渡、粟島(宮尾ら、1982)、伊豆七島新島、本州、北海道である。今回の調査では離島のものが全く記録されていないこと、本州、四国、九州などの平野部には広く分布すると思われるにもかかわらず記録の空白地帯が非常に大きいことなど、今後埋めていくべき部分が多い。北海道では石狩低地帯周辺以南でごく少数が記録されているだけで(Nakata、1981)、今回の記録はほぼ既知分布の現状を満している。

オリイネズミは奄美大島に限産し、今回の記録は分布の現状を満している。

ジャコウネズミは長崎、鹿児島、五島および兩西諸島に分布するが、今回の調査では奄美大島、沖之永良部島、与論島、宮古列島、八重山列島などの情報を欠いている。兩西諸島には広く分布するものと思われる。

カワネズミは本州、四国、九州に分布するが、今回の調査では四国からの情報を欠き、九州のも

のも不完全である ( Arai et al., 1985 )。本州での分布情報は各地に孤立しており、調査が進めば山岳地にもう少し広く分布するものと思われる。

ヒメヒミズは九州では祖母山と九重山で ( 内田、吉田、1968 )、四国では愛媛県石鎚山、佐々連尾山、下兜山 ( Abe, 1967 )、本州では中部以北の高山 ( 今泉、1970 ) および紀伊半島大台ヶ原山 ( Kobayashi et al., 1970 ) などから知られている。しかし、今回の調査では本州中部を除き情報量は少ない。特に本州北部地方では広く分布する可能性がある。

ヒミズは本州、四国、九州、五島、対馬、山口県見島 ( 宮尾ら、1981 )、隠岐島、粟島 ( 宮尾ら、1982 ) などに分布しているが、今回の結果は離島のものをすべて欠いている。また、本州、四国、九州の山地においては大変優勢な動物であるにもかかわらず、今回の分布情報は偏在しており、まだきわめて不完全である。調査が進めば山岳地帯ではほぼ全区画に出現することが予想される。

ミスラモグラは広島県の山地、本州中部の山岳地、岩手県、青森県の山地など、限られた孤立分布地が知られており ( 今泉、1970 )、今回の分布情報はその主要部を満している。

モグラは長野県附近を境界として本州の中部以北に広く分布し、その他に広島県の山地、紀伊半島の山地、小豆島、愛媛県石鎚山、徳島県剣山などにも小個体群が分布している ( Abe, 1985 )。今回の分布情報はきわめて不完全であり、南部の孤立分布地はもちろん、本州北平部の平野部では連続した分布がみられるものと思われる。

コウベモグラは本州中部以南の大部分と、四国、九州、種子島、屋久島、五島、対馬、隠岐島などに分布しているので、今回の分布情報はきわめて不十分なものである。少なくとも、これらの地域の平野部には連続した分布がみられるものと思われる。

サドモグラは佐渡と新潟平野のうち佐渡寄りの中心部分だけに分布しており、この平野の周辺においてアズマモグラと分布を接している ( Abe, 1967、今泉、1970 )。今回の分布情報はこれらの分布の主要部分を示しているといえる。

( 阿部 永 )

#### 引用文献

- 阿部 永、1961。北海道にて採集された稀種オヒキコウモリ及びトウキョウトガリネズミについて。哺乳学誌。2: 3-7。
- Abe, H., 1967. Classification and biology of Japanese Insectivora (Mammalia). I. Studies on variation and classification. J. Fac. Agr. Hokkaido Univ. 55: 191-265.
- 阿部 永、1984。ネズミ類、トガリネズミ類。北海道の自然。23: 25-29。
- Abe, H., 1985. Changing mole distributions in Japan. Contemporary Mammalogy in China and Japan (Ed. T. Kawamichi). pp. 108-112.
- Arai, S., T. Mori, H. Yoshida & S. Shiraishi, 1985. A note on the Ja-

panese water shrew, *Chimarrogale himalayica platycephala* from Kyushu. J. Mamm. Soc. Japan 10: 191-203.

今泉吉典、1970。日本哺乳動物図説、上巻、新思潮社。

今泉吉晴、今泉忠明、1970。新潟平野におけるコモグラとサドモグラの種間関係。1、地理的分布。哺乳学誌。5: 15-18。

Kobayashi, T., H. Abe & K. Maeda, 1970. Faunal survey of the Mt. Ohdaigahara Area. JIBP supplementary area-IV. Report of the small mammal fauna of the Mt. Ohdaigahara Area, Kii Peninsula. Ann. Rep. JIBP /CT-S Fisc. Year 1969. pp. 317-320.

小宮輝之、1972。北海道産トウキョウトガリネズミの採集記録。哺乳学誌。5: 195。

近藤憲久、1986。哺乳類、道立自然公園総合調査(厚岸道立自然公園)報告書。北海道自然保護協会。pp. 129-139。

宮尾嶽雄・花村肇・酒井英一・植松康・子安和弘・高田靖司、1981。山口県見島および六島諸島の哺乳動物相。哺乳学誌。8: 203-210

宮尾嶽雄・高田靖司・酒井英一・植松康・子安和弘・花村肇、1982。新潟県粟島の哺乳動物相。哺乳学誌。9: 37-91

小原良孝・奈良典明、1984。青函トンネル及び津軽海峡沿岸部の食虫類、ネズミ類(I)分布調査。昭和55-58年度特定研究報告書。青函海底トンネル開通が陸上生態系に与える影響に関する調査研究(弘前大学教養部) pp. 5-17。

島崎伸子・正富宏之、1986。サロベツ原野長沼周辺のトガリネズミ類。Wildlife Report 4: 49-56。

内田照章・吉田博一、1968。九州のヒメヒミス *Dymecodon pilirostris* True. とくに分布と形態について。哺乳類科学。16: 17-26

### 3 翼手目

コウモリ類はわが国では 35 種が記録されており、その中今回は 27 種の分布情報が寄せられた。クビワオオコウモリは吐喝喇列島、沖縄群島、八重山列島、大東列島など（前田、1986）から記録されているが、絶滅したと思われる地域も多く、今回の情報は分布の現状をほぼ満していると思われる。

オキナワオオコウモリ（沖縄本島）については、今回は分布情報を欠いている。

キクガシラコウモリは日本列島に広く分布しているが、四国や北海道の情報を全く欠いているほか、本州のものもきわめて少ない。洞穴性のため、分布は点在していると思われるが、それでも現在の情報は過少である（前田、1986）。

コキクガシラコウモリは八重山諸島を除く日本列島に広く分布しており、前種と同様、今回の情報はきわめて不完全である（前田、1986）。調査が進めば前種に似た分布を示すものと思われる。なお、石垣島の今回の分布情報はイリオモテコキクガシラコウモリの可能性が高い。

イリオモテコキクガシラコウモリとカグラコウモリは八重山諸島に分布し、今回の情報はほぼそれを満している（前田、1984）。

モモジロコウモリは北海道、本州、四国、九州、佐渡、対馬などから知られていたが、今回は四国、佐渡、対馬などからの情報を欠いている（前田、1986）。しかし、一方、隠岐島や種子島のものは新しい分布情報である。

ドーベントンコウモリは北海道内の各地から知られており、今回の情報はまだ不十分なものである（前田、1984）。

シナノホオヒゲコウモリは本州中部と東北地方で知られており、今回の情報はその主要部を示している。

ヒメホオヒゲコウモリは北海道に分布し、今回の情報はほぼ既知の分布を満している。本州中部にある一つの情報はシナノホオヒゲコウモリを本種のシノニムとする意見に従ったものと思われる。しかし、ここではそれらを分ける方の意見を採用しているため、これはシナノホウヒゲコウモリとすべきであろう。

カグヤコウモリは本州中部以北と北海道から知られており、現情報は少ないが、その主要部分を満している（前田、1984）。

ノレンコウモリは北海道、本州、四国、九州の少数地点から知られており、今回の情報はその大部分を満している。

アブラコウモリは本州、四国、九州、佐渡、奄岐、対馬、奄美大島などに広く分布しているが、今回の情報はきわめて限られており、調査が進めば多くの平野部に連続分布をする可能性がある。

モリアブラコウモリは、本州と四国の少数地点から記録されているが、今回の情報は、その主要部を満たしている。

ヒメホリカワコウモリは北海道東部の少数地点から知られており、今回の情報はほぼその地域を代表している。

ヤマコウモリは北海道、本州、四国、九州、宍粟、対馬などに広く分布しているが、今回の情報はきわめて限られており、四国や離島のものを欠いている（前田、1984）。

コヤマコウモリは本州の一部から知られているのみで、今回のものはほぼ既知の主要分布を満している。

トウヨウヒナコウモリ、チチブコウモリ、ウサギコウモリなどはいずれも北海道、本州、四国から記録されているが、今回の情報は四国のものを欠くなどきわめて不完全である（前田、1984）。

ニホンユビナガコウモリは本州、四国、九州に広く分布しているが、今回の情報は本州、四国のものを欠くなど、きわめて不十分である（前田、1986）。このコウモリは比較的移動性の強い種と思われるので、調査が進めば各地に出現するものと思われる。なお、今回南西諸島から得られた情報は検討の結果次のリュウキュウユビナガコウモリの分布図に加えた。

リュウキュウユビナガコウモリは南西諸島に分布しており、前項で指摘したものを加えれば既知の分布の大部分を満しているものと思われる。

テングコウモリは北海道、本州、四国、九州の多くの地点から知られているが、今回の情報は北海道や四国のものを欠くなど、まだきわめて不十分である（前田、1984）。

コテングコウモリは北海道、本州、四国、九州、対馬、屋久島などから知られているが、今回の情報は前二地区以外のものを欠いており、特に北海道において採集記録が多いにもかかわらず、それらが反映されていない（前田、1979、1984）。

オヒキコウモリは北海道、本州、九州の8箇所から記録されており（前田、1984 および私信）、今回報告のあった秩父市のものは新記録であると思われる。

その他クロアカコウモリ、ウスリ-ホオヒゲコウモリ、オゼホオヒゲコウモリ、フジホオヒゲコウモリ、コホオヒゲコウモリ、オオアブラコウモリ、ヒナコウモリなどは、わが国では分布が比較的限定されているか、あるいは分類学的に異説のある種である。これらについて、今回は全く分布情報が寄せられなかった。

以上のように、コウモリ類の分布情報およびその収集はまだきわめて不十分であり、各地の博物館所蔵標本等を含めた調査が必要である。

（ 阿 部 永 ）

#### 引 用 文 献

- 前田喜四雄、1979。日本の哺乳類（16）、翼手目、テングコウモリ属、コテングコウモリ。哺乳類科学。37：1-16。
- 前田喜四雄、1984。日本産翼手目の採集記録。（1）。哺乳類科学。49：55-78。
- 前田喜四雄、1986。日本産翼手目の採集記録（2）。哺乳類科学。52：79-97。

#### 4 霊長目

日本列島にはオナガザル科 (*Cercopithecidae*) に属する霊長類が2種生息する。一つは固有種のニホンザル (*Macaca fuscata*) であり、他は移入種のタイワンザル (*M. cyclops*) である。両種の属する *Macaca* 属はカニクイザル属 (今泉、1970)、あるいはマカク属 (河合他、1968) と呼ばれている。

本調査ではニホンザルの分布に関する1 km区画情報合計175件、これらによる10 km区画の分布合計38区画が得られた。ニホンザルの分布情報は東北、関東、中部地方と九州南部および屋久島から得られ、ニホンザルの分布域の南限 (屋久島、北緯30度20分) と北限 (下北半島、北緯41度31分) の情報も得られている。

ニホンザルの全国分布についての調査は、この半世紀の間に6回にわたって行われた (長谷部による1923年の調査、岩野、1974; 岸田、1958; 竹下、1964a、1964b; ニホンザルの現況研究会、1977、1978; 哺乳類分布調査会科研グループ、1979; 環境庁、1979)。これらの調査によってニホンザルの分布について詳しい情報が得られている。しかし、ニホンザルの現況研究会 (京都大学霊長類研究所共同利用研究会) の調査を除いては聞きとりやアンケートによる間接的情報であり、本調査のような直接観察にもとづいた分布情報の蓄積が必要と考えられる。

本調査によって新しく得られた分布情報として注目されるのは、宮城県の牡鹿半島基部のものである。牡鹿半島の東に位置する金華山にニホンザルが生息していることはよく知られているが、半島部での本種の生息は、1923年の長谷部言人による調査以外には知られていなかった。1923年には牡鹿・桃生両部でのニホンザルの生息情報が事実ならば、半世紀を隔ててニホンザルの分布域が回復した例と考えられる。

また、本調査では北アルプスの常念岳 (標高2857 m) でのニホンザルの生息情報がある。泉山 (1985 ms.) は中部山岳地帯の高山帯標高3,000 mの主稜線にもニホンザル野生群は分布するが、2,000 m以上での目撃例は6月から10月の期間に限られるとしている。ニホンザルは木本植物の亜寒帯林要素をおもな食物としてとり入れていないとされており (上原、1977)、またニホンザルの低温適応能力からみても、中部地方の標高2,000 m以上でのニホンザルの生息は季節的に限られているものと考えられる。

なお、本調査ではタイワンザルの分布に関する情報は得られなかったが、伊豆大島では移入されたものが野生化している (今泉、1960)。

( 岩野泰三 )

#### 引用文献

- 哺乳類分布調査科研グループ (文責: 古林賢恒・岩野泰三・丸山直樹) 1979. カモンカ・シカ・ヒグマ・ツキノワグマ・ニホンザル・イノシシの全国的生息分布ならびに被害分布. 生物科学, 31 (2): 96-112.
- 今泉吉典、1960. 原色日本哺乳類図鑑. 保育社、196 pp.

今泉吉典、1970。日本哺乳動物図説。新潮社。350 pp。

岩野泰三、1974。ニホンザルの分布。にほんざる、1:5-62。

泉山茂之、1985 ms.。日本アルプスに棲息するニホンザルの垂直分布。第29回プリマーテス研究会講演抄録。

環境庁、1979。第2回自然環境保全基礎調査、動物分布調査報告書(哺乳類)、全国版。

河合雅雄・岩本光雄・吉場健二、1968。世界のサル。毎日新聞社、東京、253 pp。

岸田久吉、1953。代表的林棲哺乳動物ホンザル調査報告、鳥獣調査報告第14号。農林省林野庁。  
ニホンザルの現況研究会、1977。東北地方のニホンザルの分布、関東甲信越地方のニホンザルの  
分布。にほんざる、3:9-10、23-26。

ニホンザルの現況研究会、1978。中部・近畿地方のニホンザルの分布、中国・四国地方のニホン  
ザルの分布、九州地方のニホンザルの分布。にほんざる、4:1-4、32-34、47-48。

竹下 完、1964 a。野生ニホンザルの分布及びポピュレーション(上)。野猿、19:6-13。

竹下 完、1964 b。野生ニホンザルの分布及びポピュレーション(下)、野猿、20-21:12  
- 21。

上原重男、1977。食性からみたニホンザルの適応に関する生物地理学的研究。加藤他編、形質・  
進化・霊長類、今西錦司博士古稀記念論文集。中央公論社。pp.187-232。

## 5 ウサギ目・齧歯目

はじめに

当自然環境保全基礎調査は、昭和48年度第1回調査が開始されたが動物分布についてはわずかに「すぐれた自然」の調査中で文献等により主要な生息地等について調査を行ったにすぎない。昭和53年度の第2回調査では一応主要な動物についての分布調査を実施したが、哺乳動物については大型8種に限定して行われた。

今回は全哺乳動物を対象として専門家による分布調査が行われた。このように五年を周期として調査を実施する背景には、各動物の分布が四囲の環境変化に伴ってどのように変化していくかを探ることにある。しかし、筆者が担当したウサギ目とげっ歯目に属する動物は、過去の調査では対象となっていなかったため、経年的な分布域の変動については比較できなかった。そこで狩猟動物については、環境庁発行の鳥獣統計を中心に、その他の動物については関連文献をそれぞれ参考にしながら考察を行った。

考察の視点は、帰化種については分布の現状と、これと生態的地位を同じくするものとの競合、捕食/被食関係について、在来種については環境との関連から分布域の拡大、縮小に注目してそれぞれ考察を行った。考察は紙面の都合上、特筆すべきものに重点を置いた。

### 5-1 ウサギ目

#### (1) ナキウサギ科

##### ① ナキウサギ

本種は北海道にのみ生息する種で、過去の文献によれば、大雪山系の黒岳、旭岳、忠別岳、十勝岳、富良野岳などの高山帯とそれらの周辺の置戸、然別湖付近、夕張山系の夕張岳、芦別岳、日高山系の幌尻岳、札内岳などに分布している(芳賀、1957、内田、1960)。今回の調査では、大雪山系と日高山系から報告があるが、夕張山系からの情報は無い。芳賀(1957)は「ナキウサギの分布は一般的には原産地である置戸をはじめ、然別湖、大雪山一帯、夕張岳、芦別岳、日高山脈その他といわれているが、夕張岳や芦別岳ではもうほとんど姿をみることができない」と述べている。このことから、夕張山系では絶滅したとも考えられるが、現調査では分布していないこと、情報が得られなかったこととの区別が明確でないところから絶滅と断定することはできない。この点を明確にするための追跡調査が必要である。

#### (2) ウサギ科

##### ① アマミノクロウサギ

本種は1属、1種からなり、奄美大島と徳之島にのみ分布している。筆者らが1972年に両島を調査したとき、奄美大島の湯湾岳、ヤクガチョボシ岳などを中心に、徳之島では剝岳、井之川岳、犬田布岳などを中心に、それぞれ広い範囲にわたって生息していることが確認されている。

桐野(1977)によると、標高695mと646mの湯湾岳と井之川岳の山頂部は3,000～

4,000年ほど前に、日本列島の一部分が水没した際に海上に残ったところで、アマミノクロウサギはここに生育した薄暗い原始林地帯に生息していると述べている。ただ、本種は奄美大島全島に分布しているのではなく、島の北部に位置する笠利町のように、標高が低く、原生林が存在しない地域には分布していない。アマミノクロウサギはこのような低標高地には元来分布していなかったのか、分布していたが、人為の影響で絶滅したのかが定かでない。この点に関しては、歴史的に追跡する必要がある。

アマミノクロウサギは、奄美大島、徳之島に生育する原生林に好んで生息しているが、昨今はパルプ材として原生林の伐採が進んでおり、分布域に変動が生じている可能性が高い。また、昨今はリュウキュウマツ、スギなどの造林木に対する食害が両島の各所でクローズアップされるに至った。それは原生林の伐採跡地、即ち、アマミノクロウサギの生息圏内に植林が行われるため、ここでも林木の生産と野生鳥獣との競合がみられる。早い時期にアマミノクロウサギの存続のための方策が検討される時期にきている。

② ユキウサギ

エゾユキウサギは北海道にのみ分布することが知られているが、その周辺に散在している利尻、礼文、天売、焼尻、奥尻、渡島大島、同小島などの離島からの生息報告はない。今回の調査では、日高、大雪両山系のほか根釧地方から分布情報が得られているに過ぎない。しかし、本種は広域分布種であるところから、今回の結果は情報提供の不足によるものと考えられる。

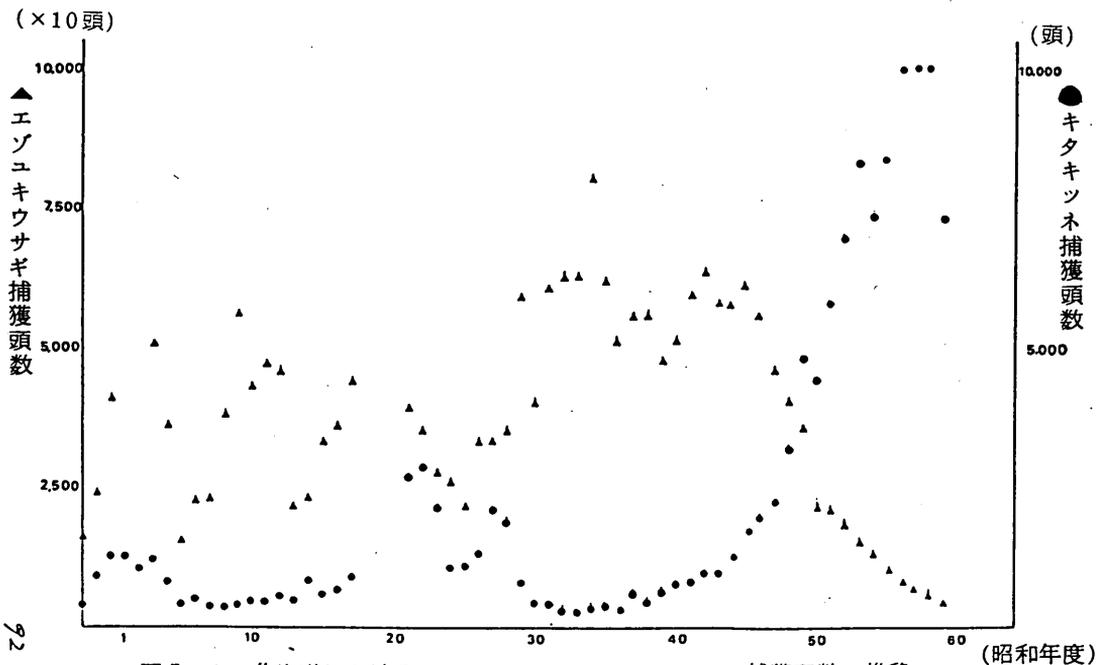


図 II - 1 北海道におけるエゾユキウサギとキタキツネの捕獲頭数の推移

過去の分布情報がないので、分布域の拡大、縮小について論じる訳にはいかないが、環境庁発行の鳥獣統計(1923、1986)によると、1959年には81,860個体の捕獲がみられたが、これをピークにその後徐々に下降し、1984年には4,496個体にまで減少した。この原因は明らかではないが、エゾキウサギの有力な捕食者であるキタキツネの増加も一因ではないかと考えられる。この捕食者と被食者の数の関係を鳥獣関係統計でみると、図II-1のようになり(図II-1)、両者の間に相関関係がみられた( $n=39$ 、 $p \ll 0.01$ )。

今回の調査ではエゾキウサギもキタキツネも細部地域にわたる分布情報がないので、地域別の相互関係は明らかではない。しかし、今後情報が増えればこの関係はより明確になる筈である。

キタキツネは北海道に多い風土病であるエキノコックスの媒介者として駆除の対象となっており、今後の個体数の変動と、被食者であるエゾキウサギの個体数の変動を追跡していく必要がある。

### ③ ノウサギ

ノウサギは北海道と沖縄県を除く地域に分布しているが、隠岐にはオキノウサギが、佐渡にはサドノウサギが、本州、四国、九州にはトウホクウサギとキュウシュウノウサギが各々分布している。今回の調査では、四国、佐渡、隠岐の各島からの分布情報は全くなかったが、鳥獣関係統計その他の情報により生息が確認されているので、情報提供不足に起因するものである。また、本州でも広域に分布しているが、今回の調査では、東北の一部、関東、中部に情報が集中している。情報提供が皆無の地域は9県に及ぶので、今後の精度向上のため、情報提供者の発掘が必要である。サドノウサギについては豊島ら(1970)の報告がある。

ノウサギとキツネの捕獲頭数の推移を図II-2に示した(図II-2)。この場合も北海道と同様に両者の間に相関がみられた。 $(n=23 \quad p < 0.01)$ 。

### ④ カイウサギ

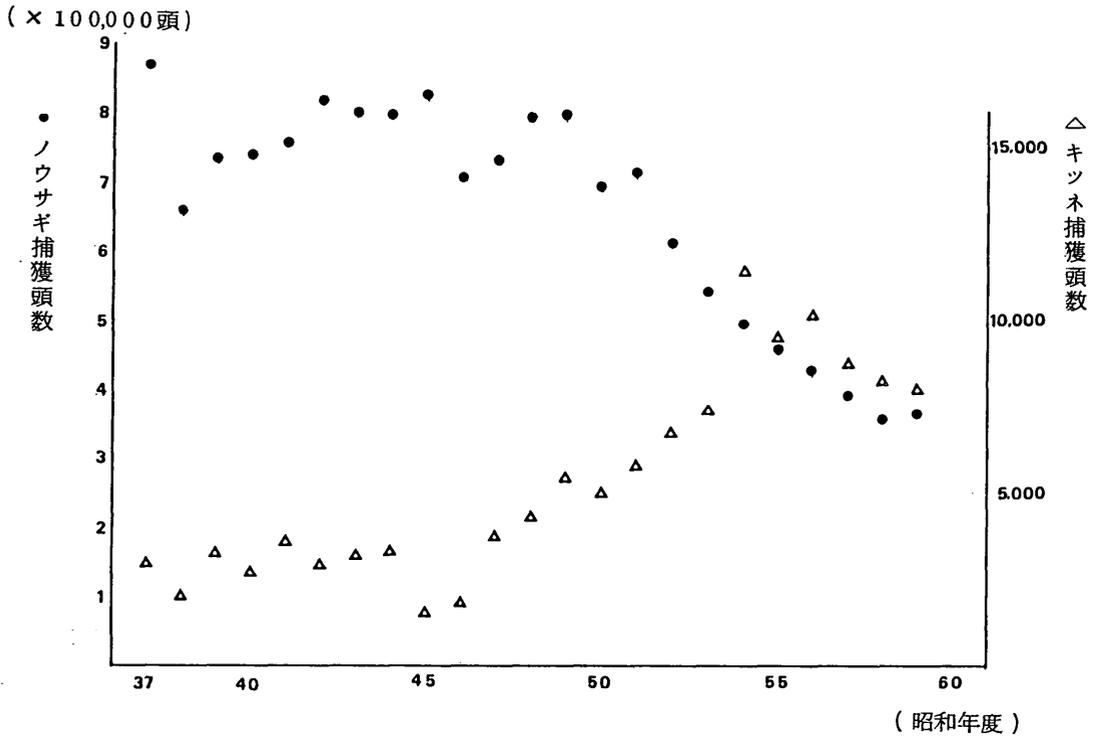
本種は元来わが国には分布しないウサギであるが、毛皮動物、実験動物、ペットその他の目的で外国から移入されたものである。

今回の調査では北海道の渡島大島からのみ報告があるが、実際には渡島小島(1984年7月20日放獣)、岡山県の茂床島に生息していることが知られている(豊島ら、1968)。また、奄美諸島のさる小島にも放獣されているともいわれているが明らかではない(柴田義春、私信)。

本種が離島に放獣された理由は明らかではないが、恐らく毛皮や肉を必要とした時代にこれを目的として放飼されたものと思われる。渡島大島で筆者らが1966年に調査した結果では、野生化した多数のカイウサギが元来貧弱な島の植生を食い荒らしている上に、地中に穴を掘って生活するカイウサギと、同じく地中に穴を掘って営巣するオオミズナギドリとが生活の場をめぐる競争し、オオミズナギドリが全く営巣できないという事実があった。

天敵不在の新天地に移入された鳥獣が数を増やし、自然植生を破壊したり、在来の野生鳥獣を絶滅させた例は多い(Temple 1978)。わが国では小笠原諸島父島、ナマード島、ムコ島等のヤギ、宮城県金華山のニホンジカ、本州西部、九州地方のチョウセンイタチなどが知られている。わ

が国の自然環境保全上、動植物のみだりな移動を制限する何らかの法的措置が望まれると共に、現存する帰化動物に対する早急な対策が必要である。



図Ⅱ-2 本州におけるノウサギとキツネの捕獲頭数の推移

## 5-2 齧歯目

### (1) リス科

#### ① タイワンリス

本種は1933年に台湾から伊豆大島の動物園に移入された動物であるが、これが逃げ出し、数を増したものである。

今回の調査では伊豆大島と瀬戸内海の友ヶ島からの分布情報があるが、実際には瀬戸内海の沖ノ島、神奈川県江ノ島、鎌倉、東京の新井薬師、石神井公園、姫路城公園、神戸のロックガーデンにおける生息が知られている(宇田川、1954、朝日、1967、尾崎、1986)。

本種が動物公園から逃げ出したことを除いて、各地に分布しているものがどのような目的で放されたかは不明であるが、鎌倉ではペットとして給餌しているタイワンリスが樹皮を噛り枯

損させるという弊害が出ている。また友ヶ島では樹木に相当な被害が出ているという（朝日、1967）。

一方、台湾リスと類似した生態的地位を持つニホンリスとの競合から在来種を駆逐する危険性も高く、移動の制限、現存個体の除去などの対策が望まれる。ただ、本種は気象条件の厳しい亜高山帯における分布が知られていないところから、ニホンリスの生息を根底から脅やかすことはないものと考えられる。

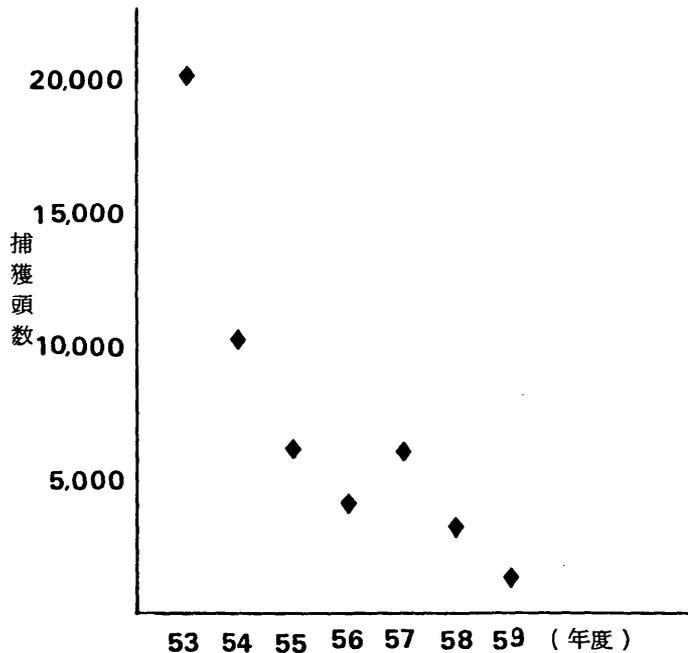
鳥獣統計によると、東京都では毎年1,000~2,000頭前後のリス類が捕獲されていることになっているが、これらの中には伊豆大島における台湾リスが大きな比重を占めている。都が狩猟者に対して行ったアンケート調査によると、昭和60年度の全捕獲数1,196個体のうち99.5%に当たる1,190個体が伊豆大島で捕殺された台湾リスである。今後、都以外の府県でも台湾リスの分布拡大の動向を知る手段として、狩猟又は有害獣駆除、或いは学術研究用として捕獲されたものについて、種を明らかにした報告を義務づけることは有効なことである。

## ② エゾリス

本種は北海道にのみ分布する種であるが、それに付随する島嶼からの報告はない。

今回の調査では、大雪山系、日高山系、斜里、網走、札幌近郊からの情報提供があったが、これは情報提供者の分布と一致しているに過ぎず、実際の分布域は明らかにもっと広いものである。従って、今後の情報提供者の発掘が必要である。

鳥獣統計では、狩猟による捕獲数は1980年には21,422頭であったものが、1986年には1,299頭にまで激減しており、何らかの保護対策が望まれる（図Ⅱ-3）。



図Ⅱ-3 エゾリスの年度別捕獲頭数

③ ニホンリス

本種は北海道を除く本州、四国、淡路島、九州に分布していることが知られている（今泉、1960）が今回の調査では本州の一部からの報告しかない。

鳥獣統計によると、西日本では捕獲個体数は極めて少ないのに対して、長野、山梨、岩手などでは非常に多くなっている。特に、宮崎県、岡山県などでは捕獲個体数は年によって0か1ヶ台である。従って、このような地域においてこそ分布の動向を知る必要があると同時に、その結果に基づいた対策を立てる必要のある地域ということになり、この意味から詳細な情報の収集が望まれる。

台湾リスの項でも触れたが、ニホンリスとの競合の結果、相互に分布域の変動が予想されることから、両種についての情報収集は5年周期よりも短いことが望ましい。また、年々の分布域の変動を記録することは意味のあることである。

④ シマリス

わが国には北海道にのみ分布する在来亜種のエゾシマリスと朝鮮半島、台湾などから移入されたチョウセンシマリスや台湾シマリスが生息している。しかし、移入された2種については情報不足からその実態は明らかではない。

今回の調査では、シマリスとして情報の提供を求めたいという経緯から、上記3種の明確な識別はなされていない。しかし、実際に情報が得られたのは北海道のみである。北海道におけるエゾシマリスの分布は情報よりも広域であることは確かで、今後、より一層の情報収集が望ましい。

チョウセンシマリスと台湾シマリスの輸入の実態が明らかでない上に、両種の分布調査も行われていないのでどちらの種か分らないが、これまでの情報では札幌の北大植物園内に過去9年間にわたり外来種のシマリスが放獣されていたという。本州方面では山梨県南都留郡鳴沢村の富士山麓にあるスバルランド森林公園から逃げ出したと思われるシマリスが生息しているほか、新潟県の弥彦山、角田山にも生息していたという（風間辰夫、私信）が、その後のことは不明である。

外来種は北海道のエゾシマリスとの交雑が懸念されており、外来種の移動に対して何らかの制限措置の取られることが望ましい。

⑤ ホンドモモンガ

本種は本州、四国、九州などに広く分布していると考えられるが、今回の調査では関東、中部地方、東北地方の極く一部からしか情報が得られていない。

本種は夜行性である上に冬眠するところから人目に触れる機会が少ないので、情報数が少ないものと思われる。本種は狩猟獣でないところから、当調査以外の資料による情報収集が困難である。

⑥ エゾモモンガ

本種は北海道にのみ生息する種である。今回の調査では十勝、網走、根室地方からわずかに

報告があるが、もっと広域に分布している筈で、より一層の情報収集に努めるべきである。ホンドモモンガと同様、非狩猟獣であるところから、資料が乏しく考察が難しい。

⑦ ムササビ

本種は北海道を除く本州、四国、九州に分布しているが、生息する地方によってニッコウムササビ、ワカヤマムササビ、キュウシュウムササビの3亜種に分類されている。

今回の調査では、東北、関東、中部地方と九州からの報告はあるが、中国、四国方面からは皆無である。この方面の実態把握のためにも情報の収集が必要である。本種は夜行性であるが、独特の鳴声と夜間滑空することから比較的人目につき易いこともあり、夜行性にしては目撃情報の多い動物といえる。

(2) ヤマネ科

① ヤマネ

本種は1科、1属、1種の日本固有種で北海道を除く本州、四国、九州地方に生息しているが、今回の調査では極く限られた情報しか得られていない。夜行性である上に冬眠するという不利な条件により情報が少ないものと考えられる。

(3) キヌゲネズミ科

① ミカドネズミ

本種は北海道にのみ分布する種で、北海道内では比較的広く分布すると考えられている。今回の調査では道北と道央部からの情報が少ないが、これは研究者の分布の偏りや採集の有無を反映しているように思われるが、詳細は不明である。

② エゾヤチネズミ

本種は北海道にのみ分布する種で、本州におけるハタネズミと同様に若齢造林木を食害するところから、その被害防止のための研究が良く行われている。従って、ネズミの仲間でも分布や生態が非常に良く解明されている種といえる。

③ リシリムクゲネズミ

北海道北部の利尻、礼文両島に分布していることが知られている(Imaizumi, 1971)が、両島内における分布や個体数に関する情報は乏しい。

④ ミヤマムクゲネズミ

本種は北海道の日高山系からの分布情報があるが、これまでも詳細な分布調査が行われていないので、分布の精度などについては考察できない。

⑤ ニイガタヤチネズミ

本種は本州の中央部から分布情報が寄せられているが、これまでの知見でも、本州中部及び関東地方の高山及び亜高山となっており妥当なものと考えられる。

⑥ トウホクヤチネズミ

本種は青森、岩手、福島の各県に分布していることが知られているが、今回の調査では山形県、宮城県からも報告があった。

⑦ ワカヤマヤチネズミ

紀伊山地から2例の情報が寄せられているが、これまでの採集例も少なく、詳細は不明である。

⑧ カゲネズミ

本種は関東及び中部地方に分布していることが知られているが、今回の調査では既知見を下回る情報しか得られていない。

⑨ スミスネズミ

本種は富山県以西の本州、四国、九州及び隠岐島に分布していることが知られているが、今回の調査では四国、隠岐島から報告がないほか、本州西部も欠如しており正確な分布図とはいえない。

⑩ ハタネズミ

本種は本州及び九州に広く分布していることが知られているが、今回の調査では分布情報が極端に片寄っている。ハタネズミは北海道におけるエゾヤチネズミと同様に造林木を食害するため、分布、生態に関する調査は他のネズミに比べて良く行われているが、その割には情報提供が少ない。佐渡にも分布していることが知られている(宮尾ら、1968)。

⑪ マスクラット

本種は北米産であるが、毛皮として日本に輸入されたのち、逃げ出して野生化し、1947年頃から東京都江戸川付近でみられるようになったほか、埼玉県でも捕獲された例がある。

今回の調査では1件の情報もみられなかった。

(4) ネズミ科

① アカネズミ

本種は本州、四国、九州、奄岐、五島に分布していることが知られている。北海道を含む佐渡、伊豆大島などの島しょのものはそれぞれ別亜種とされている。

全国的に分布している割には分布情報が少ない。

② カラフトアカネズミ

北海道に分布することが知られており、今回の分布情報は比較的妥当なものと考えられる。

③ ヒメネズミ

本種は全国に広く分布しているが、島に分布しているものは各々別亜種とされている。今回の調査は情報数が少なく、正確な分布とはいえない。

④ カヤネズミ

本州の関東以西に広く分布していることが知られているが、今回の調査では西日本で情報量が少なくなっている。本種が淡路島にも生息していることが報告されている(宮尾ら、1983)。

⑤ ハツカネズミ

本種は日本全国に分布していることが知られているが、島しょに生息するものはそれぞれ亜種に分けられている。今回の調査では総体的に分布情報に乏しいが、徳之島、沖縄本島、小笠

原など島しょからの情報の多いことが特徴である。淡路島からの分布情報もある(宮尾、1983)。

⑥ クマネズミ

本種は全国的に分布する筈であるが、北海道から1件、本州からは8件の報告しかない。これに対し、西表島、沖縄本島、小笠原諸島などから報告があった。このほか八丈島(今泉、1967)と鳥島(Yabe, 1982)からも記録がある。

本種は人類の移動に伴って世界各国に分散した種であるが、ドブネズミと共に島しょに上陸して在来種を捕食し、大きな打撃を与えることが知られている。セイシエルメジロは侵入してきたネズミ(*Rattus* sp.)によって殆んど絶滅させられたと考えられている(Temple, 1978)。

⑦ ドブネズミ

本種は全国的に分布していることが知られているが、四国、九州、琉球列島から全く情報がないなど、普通種に共通した傾向を示している。ただ、本種は一般国民に参加を呼びかけても、クマネズミとの識別が困難なので研究者の協力に頼る以外に方法がない。

(5) カプロミス科

① ヌートリア

ヌートリアは明治末期にわが国に移入されたといわれている(三浦、1976)が、詳細は不明である。その後、毛皮獣として本格的に移入されたのが1930年代といわれ、今では野生化している。

今回の調査では、どの府県からも報告がなされていないが、1963年以降狩猟獣に指定されている。鳥獣統計によれば、岡山、広島、兵庫、京都、神奈川などで捕獲記録がある。

本種は農業被害、たとえばそ菜類の食害、水田の畦に穴を掘るなど、が各地で報告されている。今後の分布の動態を把握していく必要がある。

5-3 むすび

ウサギ目、げっ歯目の分布調査結果を通じての特徴の一つは、情報が偏在していることである。例えば、ノウサギ、ニホンリス、ムササビなどに見られるように集まった情報を見ると、長野、宮城、東京、千葉、愛知の各県に集中しており、日常茶飯事に遭遇しているであろう府県からの情報が少なく、情報源の偏在傾向が著しい。ことに、9府県からは、他の哺乳類も含めて1件の情報提供もないのは残念なことである。これは調査を担当した研究者の分布や研究者が持つ調査地の分布とよく一致しているように思われる。今後、全国的規模で精度を上げていくためには、まずこの問題を解決しなければならない。これに反して、対象種が特殊なものや、分布が特定の島嶼やごく限られた地域の場合、例えば、ナキウサギ、タイワンリス、ミヤマクゲネズミなどは、比較的情報数も多くかつ確度の高い情報が得られている。これは研究者の関心が高いため調査等がよく行われ、報告書が出ているためと、古くから既知の事実となっており分布域の把握が容易なためと考えられる。これに対し、ごく普通に数多く分布しているノウサギ、ユキウサギ、ニホンリスなどは意外と情報が少ない。これら普通種の情報数を増すためには情報源の拡大を図る以外にない。今回の情報提供者となった研究者が今後調査地を拡大していかない限り、この形式の

情報収集を図っても、飛躍的に情報量が増加することは期待できない。従って、今後は情報が確かな小中高の教員をはじめ、博物館、郷土資料館、都道府県鳥獣関係職員等への協力要請も検討すべきである。今後、当調査が継続されるに従って、特定の種については順調に情報数が増えるのに対し、ハツカネズミのような研究者の関心の薄い普遍種の情報は集まりが悪いものと考えられる。例えば最も身近に住んでいるドブネズミ、クマネズミであっても専門の研究者以外の人が目視によってこれを識別し、情報を提供するという可能性は極めて薄いことから、この方面の情報数を増やし、精度を高めるためにはどうしても研究者の協力が必要である。従って、上記3種を含めたネズミの仲間の分布図作成の成否は、いかに研究者の協力を取り付けるかにかかっているよう。

今回の調査で、げっ歯目、キヌゲネズミ科のマスクラット、ネズミ科のアマミトゲネズミ、カプロミス科のヌートリアに関する情報提供は皆無であったが、いずれも現存する種であるので、何らかの情報収集の手段を講ずべきである。

今回の全種を対象とした分布図作成の試みは、わが国では最初のことであり性急に多くを望むことは無理であるが、この試みはわが国の野生鳥獣の合理的な保護並びに管理を推進する上で極めて重要な資料を提供するものであり、今後ともより積極的に取り組む価値がある。

そこで本調査をより効率的に進めるための手段として、過去に出版された種々の文献や資料を引用することを提言したい。今回担当したウサギ目とげっ歯目の考察を行うに当り、身近な文献をひもといただけでも、今回の調査を補完するデータに数多く遭遇することができた。文献は学術誌に限らず、各都道府県の刊行物、博物館、資料館等の出版物、自然保護協会等の財団による出版物、さらには開発事業主体の行うアセスメントのための調査報告書等々、有用な資料は数多い。次回の調査実行までの間に全国的規模での資料の収集、解析を実施すると共に、それらの調査資料を集中管理するシステム(データバンクシステム)の確立を提言したい。

( 阿 部 学 )

#### 引 用 文 献

朝日 稔ら、1967、友ヶ島のタイワンリス、日本哺乳動物学会誌、3(6):152-157.

芳賀良一、1957、ナキウサギの生態と林木被害、北方林業、9(11):334-336.

今泉吉典、1960、原色哺乳類図鑑、保育社、196pp.

今泉吉典、1967、住家性クマネズミの分類、特に八丈島の亜種について、日本哺乳動物学会誌、9(2):128-143.

IMAIZUMI, Yoshinori. 1971. A new vole of the *Clethrionomys rufocanus* group from Rishiri Island, Japan. J. Mamm. Soc. Japan. 5(3):99-103.

環境庁、1923-1986、鳥獣関係統計、野生生物課.

桐野正人、1977、アマミノクロウサギ、汐文社、214pp.

- 三浦慎吾、1976、分布から見たヌートリアの帰化、定着、岡山県の場合、日本哺乳動物学会、6(5/6):231-237.
- 宮尾嶽雄ら、1968、佐渡における小哺乳類の採集結果、日本哺乳動物学会誌、4(1):29-32.
- 宮尾嶽雄ら、1983、淡路島南部の哺乳類、日本哺乳動物学会誌、9(2):128-143.
- 日大農獣医学部、1969、小笠原諸島の調査、日大農獣医学部誌、1969(3):12-51.
- 尾崎研一、1986、タイワンリスの食物と採食行動、日本哺乳動物学会誌、11(3/4):165-172.
- TEMPLE, Stanley A., 1978. *Endangered Birds*. Univ. of Wisconsin Press.
- 豊島重造ら、1968、野生化した家兎の生息数の推定と生態に関する2、3の試みと考察、新大農演報 3:1-5.
- 豊島重造ら、1970、サドノウサギの生態に関する収集資料の検討、新大農演報、4:69-76.
- 内田 映、1960、北海道におけるナキウサギの分布、北方林業、12(7):235-239.
- 宇田川竜男、1954、伊豆大島におけるタイワンリスの生態と駆除、林試研報、67:93-102.
- YABE, Tatsuo, 1982. *Habitats and habits of Roof rat, Rattus rattus on Torishima, the Izu Islands*. J. Mamm. Soc. Japan. 9(1):20-24.

## 6. 食肉目

### (1) 各種の分布情報と区画数

日本産の食肉目21種(環境庁自然保護局、1983)のうち20種の分布情報(1km区画単位)合計674(地点の不明情報を除く)が本調査によって得られた。イタチ科のラッコ(*Enhydra lutris*)の分布情報は得られなかった。

分布区画数の多いものは、キツネ(*Vulpes vulpes*)76区画、タヌキ(*Nyctereutes procyonoides*)68区画、イタチ(*Mustela itatsi*)74区画、テン(*Martes melampus*)50区画などであるが、これらはいずれもそれらの種の分布域の一部を明らかにしたにとどまった。

これに対して、分布域の局限された以下の4種については本調査でその分布域のほぼ全域を示しえたとして評価できる。これらは移入種のアライグマ科(アライグマ*Procyon lotor*とカニクイアライグマ*P. cancrivorus*の2種?)、イタチ科のカワウソ(*Lutra lutra*)、ジャコウネコ科のインドマングース(*Herpestes edwardsi*)およびイリオモテヤマネコ(*Mayailurus iriomotensis*)である。

### (2) 分布域の全域が明らかとなった評価できる種とその分布域

アライグマは岐阜県犬山市の動物園などから逃亡し、野生化したもので木曾川流域で繁殖し、分

布域を拡大していると言われる。北米産のアライグマと南米産のカニクイアライグマの2種が同所的に生息しているという情報もある。

カワウソの生息については数件の情報が寄せられたが、直接観察にもとづく確実な情報は1979年に得られた1件にとどまった。カワウソの分布域は北アフリカからヨーロッパ、アジア中北部と日本や台湾にまで広がっているが、その全域で分布域の縮小が伝えられている (Nowak and Paradiso, 1983)。1979年以降の情報が得られていないので、わが国では本種の絶滅も懸念される。

インドマングースは沖縄諸島でのハブ対策のために移入され、野生化したものである。本調査では沖縄から1件の分布情報が寄せられている。

イリオモテヤマネコは1960年代に発見され、1967年に新属新種と同定された (Imaizumi, 1967)。イリオモテヤマネコは八重山諸島の西表島の全域に分布する (安間, 1976)。本種の現状について環境庁は1974年より調査を実施している (今泉他, 1975; 環境庁, 1985)。本調査で得られた分布情報は1件である。

### (3) クマ科 (Ursidae) の分布

日本列島には北海道にヒグマ (*Ursus arctos*) が、本州、四国にはツキノワグマ (*Selenarctos thibetanus*) が生息する。両種の分布については、哺乳類分布調査科研グループ (1979) および第2回自然環境保全基礎調査 (環境庁, 1979a) の調査結果が詳細を示している。

ヒグマについて本調査では4区画の分布域が知られているが、根室半島基部のものは定住し、繁殖している個体群とは考えられない。第2回自然環境保全基礎調査ではこの地域はヒグマの絶滅した地域であるとの情報が得られていた。

ツキノワグマは東北地方で4区画、関東、中部地方で21区画の分布域が明らかとなったが、中国、四国、近畿地方では情報が得られなかった。このうち中国地方については環境庁の調査が進んでいる。このような隔離された個体群については、早急に実態を明らかにする調査が望ましい。

### (4) イヌ科 (Canidae) の分布

日本にはタヌキ、キツネと家畜の野生化したイヌ (*Canis familiaris*) が生息する。タヌキとキツネの全国分布については第2回自然環境保全基礎調査 (環境庁, 1979) によって詳細が明らかにされている。野生化したイヌ (ノイヌ) の分布情報が全国的に収集されたのは本調査が最初と考えられる。イヌは北海道で4区画、東北地方で3区画、中部地方で6区画、近畿地方で1区画の分布域が明らかとなった。

タヌキは日本の哺乳類の中で最も分布域が広いものの一つで、四大島の他周辺の小島にも広く分布する。本調査ではいくつかの小島での分布情報が集められたものの、タヌキの分布域の全容を明らかにするには至らなかった。本種だけではなく、他の種の分布をも明らかにするために小島での分布情報の収集を組織立てて実施することは、非常に有意義であると考えられる。

キツネもタヌキと同様広く分布するが、第2回自然環境保全基礎調査では関東地方南部、四国お

よび九州南部に分布の空白域や絶滅域が広いことが明らかとなった。本調査でもこれらの地域での分布情報は得られなかった。

(5) イタチ科 ( Mustelidae ) の分布

日本列島にはラッコを含めて 10 種のイタチ科が生息している。このうちチョウセンイタチ ( *Mustela sibirica* ) とミンク ( *M. vison* ) の 2 種は移入種である。

チョウセンイタチはユーラシア大陸北部からタイまで分布し、日本固有種のイタチときわめて、近縁である。本種は 1930 年代に北九州と近畿地方に移入され、次第に東方へ分布域を広げていることが知られている。本調査では中部地方 (9 区画) 等の分布域が確認された。本種と日本固有種のイタチとの競合は、生物地理学上また動物生態学上注目される。本種は毛皮獣として捕獲されているので、本種の猟師や毛皮商などの調査によって、分布域の変化を明らかにすることができると思われる。

ミンクは北アメリカ大陸北部に分布する著名な毛皮獣であるが、飼育されていたものが野生化して北海道全域に分布している。本調査では道東部を中心に 20 区画の分布域が確認された。本種はカワウソと同様水辺に生息し、生態的地位が似ているので、戦前におこったと考えられる北海道のカワウソの絶滅後にカワウソの生態的地位に侵入したのであろう。

テン ( *Martes melampus* ) は本州、四国、九州に分布するホンドテンと対馬に分布するツマテンの 2 亜種に分類される。テンは北海道と佐渡に移入されたことが知られていたが ( 環境庁、1983 )、本調査によって北海道札幌周辺の分布域が確認された。

クロテン ( *M. zibellina* ) は北海道全域に分布するが、本調査では中央部山岳地帯で 8 区画の分布域が確認された。

イタチは本州、四国、九州に分布するホンダイタチ、大隅諸島のコイタチ、伊豆大島のオオシマイタチの 3 亜種に分類される。本種はタヌキと並んで日本では最も分布域の広い哺乳類の一つであるが、ネズミの駆除のために各地に放獣されてきた ( 表 II-1、今泉、1986a による )。本調査結果は北海道に移入されたイタチが、競合種とみられるオコジョを駆逐して、北海道全域にその分布域を拡大したといわれる状況と矛盾しない。また、イタチは移入された沖永良部島や喜界島でも定着していることが確認された。

イズナ ( *Mustela nivalis* ) は食肉目の中で最小のものであり、ユーラシア大陸の北部に分布するが、日本列島では北海道全域と本州の限られた地域に生息している。本州での分布域は下北半島、津軽半島、山形県月山 ( 今泉、1960 ) および石川県小松市 ( 今泉、1986b ) とされてきた。本調査では下北半島の 3 区画の分布域が確認された。

オコジョ ( *M. erminea* ) は日本では北海道と本州北部に分布する。オコジョは移入されたホンダイタチに駆逐されて、北海道では少なくなっていると考えられている。また本州での分布域も下北半島と中部山岳地帯でそれぞれ数区画の確認にとどまった。

アナグマ ( *Meles meles* ) は日本では本州、四国、九州と瀬戸内諸島に分布する。その全体

表Ⅱ-1 ニホンイタチが移入された主な時期と地域

(今泉、1986aによる)

1920年(大正9年)	鹿児島県吐噶喇列島。
1932年(昭和7年)	サハリン。
1933年(昭和8年)	北海道の利尻島。
1934年(昭和9年)	大分県の久住山。
1940年(昭和15年)	北海道の礼文島。
1942年(昭和17年)	鹿児島県の喜界島。
1948年(昭和23年)	北海道の奥尻島。
1949年(昭和24年)	鹿児島県の沖永良部島。
1950年(昭和25年)	北海道の焼尻島。
1954年(昭和29年)	鹿児島県の奄美大島、徳之島、枝手久島。
1956年(昭和31年)	鹿児島県の与論島。
1957年(昭和32年)	沖縄県の座間味島、阿嘉島。
1958年(昭和33年)	宮城県のサギ島(ただし、チョウセンイタチ)
1959年(昭和34年)	東京都の八丈島。
1961年(昭和36年)	北海道の大雪山。
1965年(昭和40年)	沖縄県の石垣島、西表島、北大東島。
1966年(昭和41年)	沖縄県の南大東島、伊江島、伊良部島、下地島。
1967年(昭和42年)	沖縄県の宮古島、沖永良部島。
1975年(昭和50年)	東京都の三宅島。

像は第2回自然環境保全基礎調査(環境庁、1979)の結果に詳しい。本調査では中部地方以北の分布域を明らかにしたにとどまったが、聞きとり調査では、本種はタヌキなどと混同されていることが多いので、専門家によって確認された本調査の分布情報は有意義であると考えられる。

(6) ジャコウネコ科(*Viverridae*)の分布

日本にはジャコウネコ科の動物はハクビシン(*Paguma larvata*)とインドマングースの2種が生息する。インドマングースは沖縄諸島に移入されたことが明らかであるが、ハクビシンについては日本に移入されたものが、否かについて両論がある。

ハクビシンは1950年代には、東北、関東、中部、四国地方にそれぞれ隔離した分布域をもつことが知られていた(今泉、1960)。ハクビシンは近年分布域が拡大し、果樹などに被害を与えており、1981年には福島、静岡、高知の3県で30~169頭が捕獲されている。しかし、この捕獲個体の中には、タヌキなどとの混同もあると言われる(長野県教育委員会・日本野生生物研究センター、1984)。本調査では東北、関東、中部地方での15区画のハクビシンの分布域が確認されたが、このうち東北地方南部での情報は、本種の分布域の拡大を示すものとして注目される。

(7) ネコ科(*Felidae*)の分布)

日本に分布するネコ科はイリオモテヤマネコ、ツシマヤマネコと家畜の野化したイエネコ(*Felis catus*)である。

ツシマヤマネコについては、1985年以降長崎県対馬の21区画において29の情報が得られている。その約90%(26情報)が上県町と上対馬町で得られたものであり、西海岸の井口浜から田ノ浜(上県町)に情報が集中している(20情報)。

対馬の自然環境は人為の影響を強く受けているため、ツシマヤマネコの生息環境はイリオモテヤマネコの場合よりも悪いと推定されている。対馬の中央部から南部でのツシマヤマネコの生息情報が少ないことは、これらの地域でのツシマヤマネコの生存条件の悪化を示す可能性がある。中部地方イエネコは北海道東部、中部地方等でそれぞれ数区画の分布域が確認されている。イエネコは集落周辺だけではなく、山中にも侵出しており、他の小動物に対する影響も大きいので、その実態を明らかにすることが必要である。

( 岩 野 泰 三 )

#### 引 用 文 献

- 哺乳類分布調査科研グループ(文責:古林賢恒・岩野泰三・丸山直樹)、1979。カモシカ・シカ・ヒグマ・ツキノワグマ・ニホンザル・イノシシの全国的生息分布ならびに被害分布。生物科学、31(2):96-112。
- 今泉忠明、1986a。イタチとテン。自由国民社、126pp。
- 今泉忠明、1986b。オコジョ、自由国民社、134pp。
- 今泉吉典、1960。原色日本哺乳類図鑑。保育社、196pp。
- Imaizumi, Y., 1967. A new genus and species of cat from Iriomote, Ryukyu Islands. 哺乳学誌、3:74-105。
- 今泉吉典、今泉忠明、茶畑哲夫、1975。イリオモテヤマネコの生態及び保護に関する研究 第一次報告。環境庁。
- 環境庁、1979。第2回自然環境保全基礎調査、動物分布調査報告書(哺乳類)、全国版。
- 環境庁自然保護局、1983。第3回自然環境保全基礎調査、動物分布調査のためのチェックリスト(下)。環境庁、126pp。
- 環境庁自然保護局、1985。昭和59年度イリオモテヤマネコ生息環境等保全対策調査報告書、環境庁、135pp.+V。
- 長野県教育委員会・(財)日本野生生物研究センター、1984。昭和58年度長野県天然記念物ハクビシン調査報告書。13pp。
- Nowak, R. M. and J. L. Paradiso, 1983. Walker's Mammals of the World, 4th ed., vol. II. The Johns Hopkins University Press. 1362pp.+XXV。
- 安間繁樹、1976。イリオモテヤマネコ、I分布の現状。にほんざる、2:51-69。

## 7. 鰯脚目

日本近海で知られている鰯脚類には8種があり、そのうち5種の分布情報が寄せられた。

トドは北海道周辺に現在でも毎年来遊しており、それにはサハリン沿岸系のものと千島系の2群があるとされている(山中ら、1986)。前者は北海道北部オホーツク海側沿岸および日本海側積丹半島までの沿岸域に来遊し、後者は知床から噴火湾までの海域に来遊している。このような状況から考えると、今回の調査結果はきわめて不完全なものである。但し、海上のものとはかく、上陸地は限定されているので、海獣研究者等から情報を得ることによって今回の分布空白域を埋める必要がある。

日本近海に回遊するオットセイはロベン島およびコマンドルスキー諸島系のもので、宗谷海峡を通過して日本海に入るものの大部分は前者である。また、太平洋側では北海道東部沖から常盤沖の海域に回遊している(和田、1971)。しかし、通常は接岸することなく、死体の海岸漂着や魚網への羅網による死亡があると思われるが、記録は少ない。本種に関しては海上のどの地域までのものを分布図に含めるかという問題があり、記録法を含めた再検討が必要である。

ゴマフアザラシには知床など、北海道東部沿岸に定着している少数のものと、流氷期に回遊してくる比較的多数からなる個体群があるが、今回の分布記録は定着性のものについてもまだきわめて不完全である(大森司、斉藤、1981)。北海道東部沿岸域ではかなり広範囲の分布があるものと思われる。

ゼニガタアザラシは北海道の根室半島から襟裳岬にかけての太平洋岸にきまった定着地をもち、その生息地はかなり詳しく調べられている(伊藤・宿野部、1986)。したがって、今回の記録はきわめて不完全である。伊藤・宿野部(1986)等の報告により、日本におけるほぼ完全な分布域の現状を知ることができる。

ワモンアザラシ(フィリアザラシ)は北海道や本州北部沿岸に回遊するが、回遊数はゴマフアザラシより少なく、流氷と共に移動するので、正確な記録に乏しい。今回の調査結果は本州東北のもの1例のみで、北海道沿岸のものがなく、不完全である。

今回報告のなかったもののうち、ニホンアシカについてはすでに絶滅したという考えもあり、それにはまだ疑問が残っているものの、現在、日本沿岸での生息、繁殖がないことは事実である(伊藤、1979)。

クラカケアザラシは流氷と共に北海道東部沿岸に回遊し、氷上で出産する。接岸することがほとんどないため海岸での記録を欠いているものと思われる。これも記録法に問題がある。

アゴヒゲアザラシは日本近海に来遊するアザラシ類の中で最も数が少なく、したがって情報も乏しいが、稀に北海道東部海岸に接岸することがある(大森司・斉藤、1981)。

以上、日本沿岸に生息する鰯脚類の分布情報またはその収集はきわめて不完全であり、今後は現存情報の追加収集と、乏しい情報の蓄積を継続することが必要である。

(阿部 永)

## 引用文献

- 伊藤徹魯、1979。ニホンアシカ雑感。哺乳類科学。39:27-40。
- 伊藤徹魯、宿野部猛、1986。ゼニガタアザラシの生息数と生息状況。和田一雄ほか編。ゼニガタアザラシの生態と保護。東海大学出版会 pp. 18-58。
- 大泰司紀之、斉藤隆、1981。知床半島沿岸海域の鰭脚類。知床半島自然生態系総合調査報告書(動物篇)。北海道、pp. 165-181。
- 和田一雄、1971。オットセイの回遊について。東海区水産研究所報告。67:47-80。
- 山中正実・大泰司紀之・伊藤徹魯、1986。北海道沿岸におけるトドの来遊状況と漁業被害について。和田一雄ほか編。ゼニガタアザラシの生態と保護。東海大学出版、pp. 274-295。

### 8. 偶蹄目

日本列島に分布する偶蹄目3科7種のうちツシマジカ (*Cervus pulchellus*) とヤギ (*Capra hircus*) の2種を除く5種について、合計187の分布情報が得られた。ツシマジカは対馬に、ヤギは野生化したものが小笠原諸島や沖縄諸島に分布する。

#### (1) イノシシ科 (*Suidae*) の分布

日本に産する2種のイノシシはいずれも固有種で本州、四国、九州と淡路島、五島列島にニホンイノシシ (*Sus leucomystax*) が、奄美、沖縄、八重山諸島にリュウキュウイノシシ (*S. riukiuanus*) が分布する。これらのイノシシの全国分布については、哺乳類分布調査会科研グループ(1979)と自然環境保全基礎調査(環境庁、1979a)の調査結果に詳しい。本調査ではニホンイノシシについて22件、リュウキュウイノシシについて2件の分布情報が得られている。

#### (2) シカ科 (*Cervidae*) の分布

日本列島には、北海道にタイリクシカ (*Cervus hortulorum*) が、本州、四国、九州とその周辺諸島にニホンシカ (*C. nippon*) が、対馬にツシマジカが分布している。これらのシカの分布については哺乳類分布調査科研グループ(1979)と第2回自然環境保全基礎調査(環境庁、1979a)の調査によって詳しく知られている。本調査ではタイリクシカについて道東を中心に28区画、ニホンシカについて東北地方で6区画、関東、中部地方で8区画、近畿地方で2区画、屋久島で2区画、合計18区画の分布域が確認された。屋久島のものはニホンシカの亜種ヤクシカである。ニホンシカの第3の亜種ケラマジカについては分布情報が得られなかった。

本調査でニホンシカについて得られた宮城県中央部の分布情報は、繁殖している個体群であれば、新しく知られた分布域である。

#### (3) ウシ科 (*Bovidae*) の分布

日本産のウシ科はニホンカモシカ (*Capricornis crispus*) と野生化したヤギの2種である。ニホンカモシカについては東北、関東、中部地方から52件の分布情報が得られ、28区画の分布域が確認された。ニホンカモシカの分布域については哺乳類分布調査科研グループ(1979)

と環境庁(1979b)の調査によって全国的状況が明らかになっている。これらと比較すると、本調査結果では近畿、四国、九州地方の分布情報がまったく欠けている。これらのニホンカモシカの隔離個体群については、各地で調査が実施されており、本調査の情報源としてそのような学術調査の結果をとり入れる体制の整備が望まれる。

( 岩 野 泰 三 )

#### 引 用 文 献

- 哺乳類分布調査科研グループ(文責:古林賢恒・岩野泰三・丸山直樹)、1979。カモシカ・シカ・ヒグマ・ツキノワグマ・ニホンザル・イノシシの全国的生息分布ならびに被害分布。生物科学、31(2):96-112。1
- 環境庁、1979a。第2回自然環境保全基礎調査、動物分布調査報告書(哺乳類)、全国版。
- 環境庁、1979b。ニホンカモシカの分布域、生息頭数の推定について、48pp。

## 第4 まとめ

第3回自然環境保全基礎調査における動植物分布調査の全種調査は、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、淡水魚類、昆虫類（トンボ類、チョウ類、セミ類、ガ類、甲虫類）、貝類（陸産貝類、淡水産貝類）を調査対象に実施した。本調査においては、種の同定に卓越した能力を持つ専門研究者に協力を要請し、分布情報の提供をいただいたもので、結果として約2,200名の協力が得られ、延べ報告件数は、およそ42万件にのぼった。これらの分布に関する原情報は、1キロメッシュの情報であるが、分布図に整理するに際しては10キロメッシュに変換して表示した。分布図は、報告のあった全ての種について作成し、分類群ごとの分冊（哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、淡水魚類、トンボ類、チョウ類、ガ類、セミ類・甲虫類、貝類の9分冊）として取りまとめた。

### 1 全種調査全般について

全種調査は、生物地理学、生態学等の自然科学の基礎資料になるとともに、動植物の保護管理のための施策立案に客観的な情報を提供することを目的に、人為的、自然的要因により変化する我が国の生物相を網羅的に記録する事を目指しているものである。

なお、この調査を通じて、特定の目的に利用が限られていた各種の調査結果や、公開の機会が限られていた個人の観察記録などが有効な分布情報として蘇生されるよう期待した。

今回の調査では、ごく限られた期間の内に、約2,000種についての分布情報が得られ、全て分布図化された。分布情報に空白域があって全ての分布図が全国的な分布状況を表わしているわけではないが、およそ半数の分布図が「分布パターンを表わしている」と判定されたこと、分布に関するいくつかの新しい知見が得られたことなどが今回の全種調査の成果である。なお、今回の調査では、我が国では前例のない調査体制が採られたが、幸い多くの専門研究者の理解と協力が得られ、調査を可能にする基盤となった。これは、今後の全種調査継続に明るい展望を与えるものである。

しかし、今回の調査を顧みれば、いくつかの問題点も指摘される。まず、調査者になりうる人の絶対数が限られ、かつ調査フィールドの地域的な片寄りもあって、収集された分布情報にも地域的な片寄りが見られ、調査の全国的な均一性はまだ確保できていない。このことから、今回の報告書は、全種調査の中間取りまとめとして位置付けられよう。

また、調査者の負担についての問題として、地域メッシュコードの検索・書き写しに多くの時間を要したこと、調査票の控が手元に残せなかったことなどが挙げられる。

今後の調査継続の際には、分布情報の空白の解消とともに、調査員の省力化についての改善策の検討が必要である。

## 2 哺乳類の調査について

哺乳類については、標本採集や接近の困難さから、一つの分布情報を得るにも相当な労力を要する。このたびの調査では、精度の高い貴重な分布情報が集められたが、調査者の人数が少なく、分布情報の空白域の解消は、今後の調査に期待しなければならない状況となっている。

哺乳類についての調査の概況は次のとおりである。

### (1) 調査対象種

我が国に生息する哺乳類の全種・129種を調査対象とした。なお亜種は区分せず、種単位で調査した。

### (2) 調査員と分布情報

調査は、哺乳類分科会検討員より推薦された大学、林業試験場、博物館、高校などの哺乳類の専門研究者の内、41名の参加協力により実施され、107種について3,997件の分布情報が得られた。

### (3) 分布図

分布図は、107枚が作成された。分布図には、それぞれの種の分布がどの程度表現されているか、その程度を判定し短いコメントを付したが、「分布パターンを表わしている」と判定されたものは43枚、「やや情報不足」と判定されたものは8枚、「情報不足」と判定されたものは56枚である。なお、自然分布でないものについては、「家畜・ペット等が野生化したもの」、「増殖・放獣されたもの」のコメントを併せて付した。

# III 資 料



# 1 . 第3回自然環境保全基礎調査検討会及び分科会

## \*\* 自然環境保全基礎調査検討会名簿

座長 宝月 欣二	植物生態学	玉川大学教授
有賀 祐勝	植物生態学	東京水産大学水産学部教授
今泉 吉典	動物生態学	東京農業大学教授
奥富 清	植物生態学	東京農工大学農学部教授
北森 良之助	海洋生物学	元農水省東海区水産研究所水質部 汚濁対策研究室長
玖村 敦彦	作物学	東京大学農学部教授
黒田 長久	鳥類学	(財)山階鳥類研究所副所長
佐々 学	環境生物学	富山医科薬科大学学長
佐藤 大七郎	林学	(財)日本野生生物研究センター理事長
高井 康雄	土壌学	東京農業大学教授
田崎 忠良	植物生態学	東邦大学理学部教授
中島 巖	航測学	千葉大学客員教授
沼田 真	植物生態学	淑徳大学教授
半谷 高久	地球化学	東京都立大学名誉教授
古田 能久	陸水生物学	農水省東海区水産研究所陸水部主任研究官
宮脇 昭	植物生態学	横浜国立大学環境科学研究センター教授
門司 正三	植物生態学	東京大学名誉教授
山本 護太郎	海洋学	東海大学海洋学部教授
吉川 虎雄	自然地理学	東京農業大学教授
(北沢 右三	動物生態学	物 故 )

## \*\* 哺乳類分科会名簿

座長 今泉 吉典	東京農業大学教授
阿部 永	北海道大学農学部助教授
阿部 学	農水省林業試験場保護部鳥獣第二研究室長
岩野 泰三	(財)日本野生生物研究センター主任研究員

## 2. 第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査実施要綱

### 1. 目 的

本調査の目的は、専門研究者のみならず広く一般の自然愛好者の協力も得て、動植物の分布に関する知見を集成することである。なお、本調査によって次のような成果を期待するものである。

#### (1) 生物相に関する記録の収集と保存

人為的または自然的要因により変化するわが国の生物相を一定間隔で網羅的に記録することによって、生物地理学・生態学等の自然科学の基礎資料となる。

#### (2) 動植物の保護管理のための科学的情報の提供

生物種ごとの分布のパターンや分布域の拡大・縮小の傾向等を把握することにより、動植物の保護管理のための施策への客観的判断が可能となる。

#### (3) 環境診断

人間をも含めた動植物の生活の場としての環境が正常に機能しているのかどうかを、特定の生物種を環境指標種として用いることにより、判定することが可能となる。

#### (4) 各種調査データの蘇生

特定の目的に利用が限られていた各種の調査結果や、公開の機会が限られていた個人の観察記録などが、動植物の分布記録に関する体系的・汎用的な方法の提示により、有効な分布情報として蘇生される。

### (5) 環境教育への寄与

多くの人が身の回りの自然を注意深く観察し、自然の多様性、自然の仕組みなどに関心を寄せることになり、環境教育の新たな展開が図られる。

## 2. 調査対象

本調査は、特定の分類群に属するすべての種についての分布情報を収集する全種調査および環境指標種として選定された種の分布情報を収集する環境指標種調査から成る。調査対象種は維管束植物、軟体動物、節足動物、脊椎動物の各群の中から、陸域、陸水域で生活史の一部または全部を過ごすものであって生物学的知見、特に分類学的知見が十分に蓄積されているものを選定する。なお、環境指標種については、多くの人々が識別しやすいものから選定する。

## 3. 調査体制および方法

本調査では、同定能力を有する者の自発的参加を得、調査研究活動や観察活動の際に得られる分布に関する知見の提供を受けるものとする。

### (1) 調査の体制およびその役割は次のとおりとする。

#### ア. 環境庁

環境庁は、自然環境保全基礎調査検討会の下に、分類群別に動植物分布調査のための専門家による分科会を設け、次の検討を行う。

- (ア) 調査の基盤となる分類目録の整備
- (イ) 調査対象種の選定
- (ウ) 分布情報の点検

- (ニ) 情報の分析
- (ホ) 情報の公開・管理基準の策定
- (カ) その他、専門的見地からの各種検討、指導、現地調査等

#### イ. 調査員

調査の主旨に賛同し、情報提供を行行者を調査員とする。

ただし、全種調査の調査員は専門的知見を有する者とする。環境指標種調査の調査員は一般公募による。

調査員は動植物の分布に関する必要な情報を調査票に記入し、環境庁に送付するものとする。

- (2) 調査は次の方法により実施するものとし、詳細は「調査の手引書」等による。

#### ア. 分布情報の収集

調査員は直接野外観察または過去の観察記録に基づき、調査対象種の分布に関する情報についての必要事項を調査票に記入し、環境庁に送付する。

分布に関する情報は、調査員が直接観察または自ら採集した記録に基づくことを原則とするが、博物館、大学、個人等が所蔵している標本で必要な要件を備えている場合にはそれによることができる。

#### イ. 情報の集成、管理

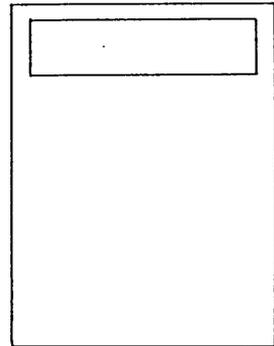
環境庁は調査員から送付された情報を集成し、すみやかに公開するものとする。また、継続的に提供される情報についても整備し、管理に努めるものとする。

### 3. 動植物分布調査票の記入のしかた

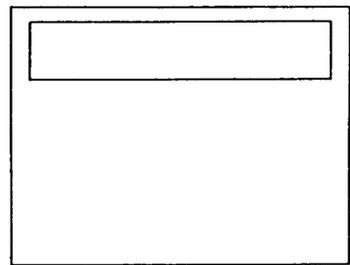
#### 1 調査票の種類と使い方

調査票には、大きく分けて2つの種類があります。ひとつはタテ長のカード(1)で、もうひとつはヨコ長のカード(2)です。

1. この調査票は、ある区画（地形図をタテ・ヨコに分けたもの）の中に、いつ（年月日）、どういう種類が記録されたかを記入するためのものです。したがって、区画が異なる場合、または期間が2つの月以上にまたがる場合は、原則として新しい調査票を使用してください。



2. この調査票は、ある種類がどの場所とどの場所で記録されたかを記入するためのものです。したがって、動植物の種類が異なるごとに新しい調査票を使用してください。



どちらの調査票を使用するかは各々の調査員の自由で、調査方法（場所を定めてそこにいる種をチェックするのか、あるいはいくつかの種を限りそれらの分布を調べるのか）により、使いやすいものを選んでください。

## II 記入のしかた

調査者は太枠内の各項目について、記入してください。

### 1. 調査者名

調査者名を漢字で記入するとともに、その読み方をカタカナで記入してください。

### 2. 調査者コード

調査員証に記載された調査者コードを記入します。調査者コードがない場合は空欄にしておいてください。

### 3. 調査年月日

調査を行った時期を記入します。タテ長の調査票の場合、調査をある期間継続して、あるいは断続的に行ったときは、最初と最後の日付を記入します。

1ケタの月、日のときは、数字の前に必ず0を入れてください。

1	9	8	4	0	5	1	0	—	3	1	1984年5月10日 から31日
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---------------------

過去の記録などで月日が不明の場合は該当欄に — を引いてください。

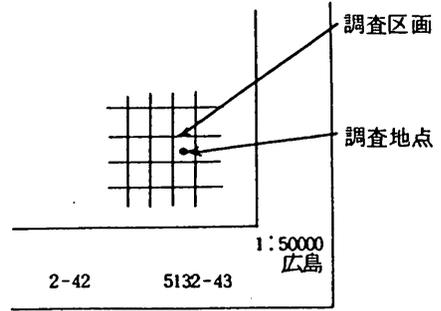
ただし、年が不明の場合はデータとして採用しないものとします。

1	9	8	4	1	0	—	—	1984年10月(日不明)
---	---	---	---	---	---	---	---	---------------

1	9	6	4	—	—	—	—	1964年(月日不明)
---	---	---	---	---	---	---	---	-------------

4. メッシュコード(区画番号)

調査地点が含まれるタテ・ヨコの線で囲まれた小さな区画を番号で表わすには、次のようにします。



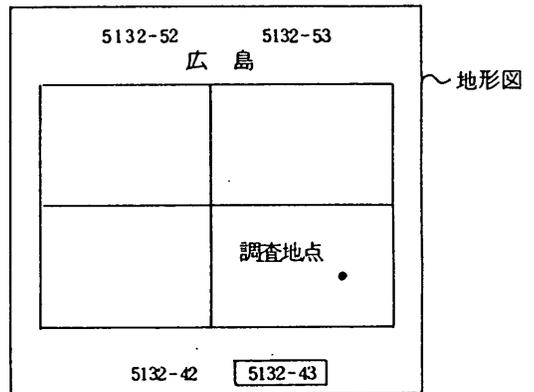
- (1) まず、調査地点が、地図を4等分したどの場所にあるのかを見ます。4等分した大きな区画を表わす数字は地図の上と下に表示されている6ケタの数字です。

たとえば、調査地点が・印の位置とすると、5132-43がその数字です。

したがって調査票にはまず

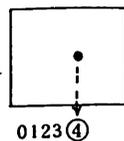
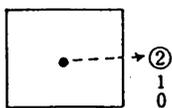
5	1	3	2	4	3		
---	---	---	---	---	---	--	--

と記入します。

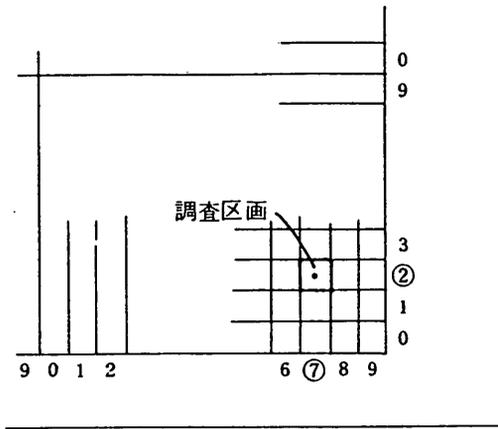


これで、だいたいの位置が決まります。過去の記録に基づいて記入する場合は、基本的には、ここまでの表示で結構ですが、これから調査を行う場合は、さらに詳しい位置を特定するために、次の手順に進んでください。

- (2) タテ軸の番号、次にヨコ軸の番号の順に、地図の周囲に付された0から9の数字を読むことにより決まります。



から9の数字を読むことにより決まります。



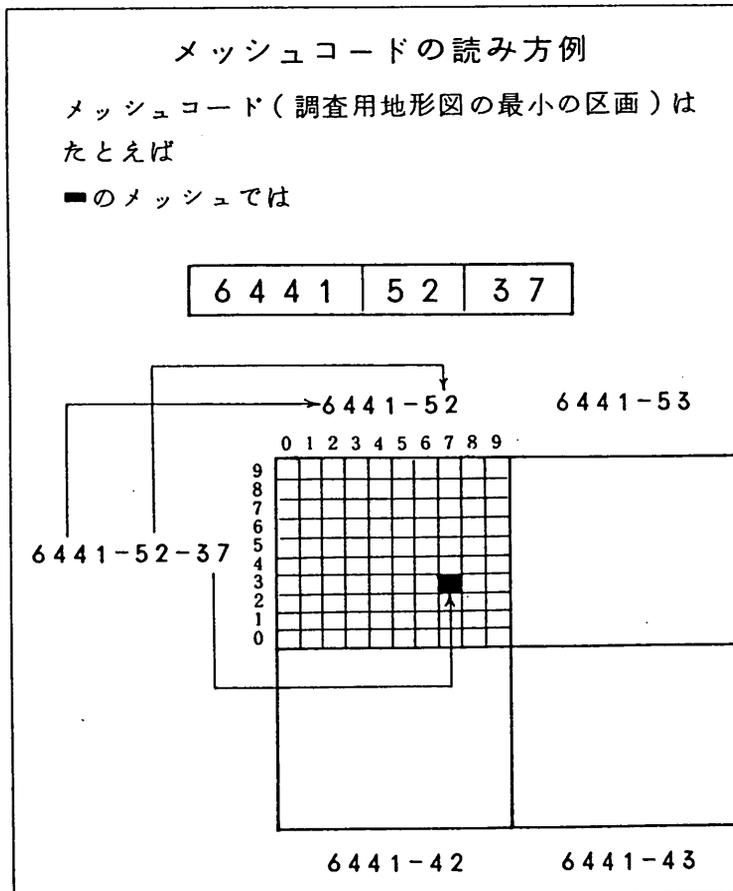
調査区画が左図の場合、タテ軸の番号は2、ヨコ軸の番号は7となり、これでメッシュコードの最後の2ケタが埋まります。

**5 1 3 2 4 3 2 7**

(注意) タテ・ヨコの順が逆になると、位置が全く異なってくるので注意すること。

この最小単位の区画（ほぼ1 km × 1 kmに相当）を確定できない場合は、最後の2ケタに「—」を記入してください。

**5 1 3 2 4 3 — —**



## 5. 調査地

調査を行った位置の都道府県名，市区町村名を確認して記入します。次に，調査用地形図上で，その地点を含む区画（メッシュ）内に地名を表わす文字があれば，市区町村名の後の余白に記入してください。なお，地図上に表示されていなくてもその場所に明瞭な名称がある場合は（ ）書きにして記入してください。

例） （白山神社の森）

調査地が河川（水生昆虫，淡水魚等）の場合は地図上でその地点より川筋を下流または上流に辿り，最初に出会う河川名を（ ）書きにしてください。

## 6. 確認種

### (1) タテ長の調査票

生息または生育を確認した種について，その番号を○で囲んでください。「その他の確認種」欄については，その種名を余白に記入してください。陸産貝類の場合，調査票中に掲げられていないものは，目録中の種名の前の番号を枠内に記入します。陸産貝類以外は「その他の確認種」欄の枠内には何も記入しないでください。

なお，動植物のあるグループでは，種名が印刷されていないものがあります。この場合は，別添の種名目録を参考にして種名コードと種名を記入してください。

### (2) ヨコ長の調査票

タテ長の調査票に記載されている種名と番号，または別添の種名目録を参考にして，種名コードと種名を記入してください。

## 7. 生息環境（ヨコ長の調査票のみ）

調査を行った地点の環境を重要なものについて記入してください。生息環境が確定できない場合は記入しなくても結構です。

8. 採集者名，標本所蔵場所（ヨコ長の調査票のみ）

博物館・大学等に所蔵されている標本を調査した場合は，採集者名，標本所蔵場所を該当欄に記入してください。

9. 個体数欄（鳥類のみ）

調査区画の中で観察した鳥について，個体数がわかれば記入します。

その種の個体数が1の位（0～9羽）か10の位（11～99羽）かといったおおよその数で表わします。

		個 体 数
		— 十 百 千 万
例	0～ 9羽の場合	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	10～ 99羽の場合	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	100～ 999羽の場合	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	1,000～9,999羽の場合	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	10,000～ の 場 合	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>

これらの記入項目のうち，最低限必要なものは，調査者コード（誰が），メッシュコード（どこで），調査年（いつ），種名コード（何を）ですので，注意深く記入してください。

Ⅲ 問い合わせ先

調査の内容または調査票の記入のしかた等で，不明の点がありましたら

100 千代田区霞が関1-2-2

環境庁自然保護局企画調整課自然環境調査室

TEL 03(581)3351(内)6422

までお問い合わせください。

なお，鳥類については(財)日本野鳥の会03(406)7141，その他の分類群については(財)日本野生生物研究センター03(813)8806でも問い合わせに応じております。

( 記 入 例 )

自然環境保全基礎調査動植物分布調査票

E		02	陸産貝類
---	--	----	------

調査者名 (姓) 押谷 (名) 誠

調査者コード 0210012

カタカナ オシタニ マコト

メッシュコード 56397554

調査年月日 年 月 日

198308-- --

調査地 山形 都 小国 市 長者原(小沼)

形 道 国 区 町 村 県 長 者 原 ( 小 沼 )

- |                   |                  |               |
|-------------------|------------------|---------------|
| 2520 ニシキキセルガイモドキ  | 3430 クリグチギセル     | 3900 マルクチコギセル |
| 2530 キカイキセルガイモドキ  | 3450 トノサマギセル     | 3920 エゾコギセル   |
| 2570 キセルガイモドキ     | 3460 オクガタギセル     | 3930 ハナコギセル   |
| 2580 クリイロキセルガイモドキ | 3470 シリオレトノサマギセル | 3980 ヒロクチコギセル |

自然環境保全基礎調査動植物分布調査票

E		09	甲虫類
---	--	----	-----

調査者名 (姓) 押谷 (名) 誠

調査者コード 0210012

カタカナ オシタニ マコト

メッシュコード 56397504

調査年月日 年 月 日

19840610 12

調査地 山形 都 小国 市 温身平

形 道 国 区 町 村 県 温 身 平

種名コード	種 名	種名コード	種 名
0020	クロカタビロオサムシ		
0027	アオオサムシ		
0046	ホソアカガネオサムシ		

その他の確認種

カタカナで種名を  
記入してください。

ここには何も記入  
しないでください。  
(陸産貝類を除く)


環境庁自然保護局企画調整課自然環境調査室

自然環境保全基礎調査動植物分布調査票

N		01	淡水産貝類
---	--	----	-------

調査者名	調査者コード	種名コード
(姓) 押谷 (名) 誠	0210012	1530
カタカナ	採集者名	種名
オシタニ マコト		カワニナ

メッシュコード	調査地	年 月 日	生息環境
56397504	山形県 小国町温身平	19840710	ブナ林中の細流
56397513	〃	19840713	河辺林

## 4. 調査対象種一覧表

### 哺乳類

#### INSECTIVORA 食虫目

##### I. SORICIDAE トカリスミ科

0001 <i>Sorex hosonoi</i>	アスミトカリスミ
<i>S. h. hosonoi</i>	アスミトカリスミ
<i>S. h. shiroumanus</i>	シロウマトカリスミ
0002 <i>S. minutissimus</i>	チビトカリスミ
<i>S. m. kawkeri</i>	トウキョウトカリスミ
0003 <i>S. gracillimus</i>	カラフトヒメトカリスミ
0004 <i>S. shinto</i>	シントウトカリスミ
<i>S. s. shinto</i>	ホンシュウトカリスミ
<i>S. s. shikokensis</i>	シコクトカリスミ
<i>S. s. saevus</i>	エゾトカリスミ
0006 <i>S. unguiculatus</i>	オオアシトカリスミ
0007 <i>Crocidura suaveolens</i>	コジネスミ
<i>C. s. shantungensis</i>	チョウセンコジネスミ
0008 <i>C. horsfieldi</i>	オオカシネスミ
<i>C. h. watasei</i>	ワタセシネスミ
0009 <i>C. dsinezumi</i>	ジネスミ
<i>C. d. dsinezumi</i>	サイコクシネスミ
<i>C. d. chisai</i>	ホンシュウシネスミ
<i>C. d. umbrina</i>	ヤクシマシネスミ
0010 <i>C. orii</i>	オライシネスミ
0011 <i>Suncus murinus</i>	ジヤコウネスミ
<i>S. m. temmincki</i>	リュウキョウシヤコウネスミ
0012 <i>Chimarrogale himalayica</i>	カワネスミ
<i>C. h. platycephala</i>	ニホンカワネスミ

##### II. TALPIDAE モグラ科

0013 <i>Dymecodon pilirostris</i>	ヒメヒミス
0014 <i>Urotrichus talpoides</i>	ヒミス
<i>U. t. talpoides</i>	キョウシュウヒミス
<i>U. t. centralis</i>	シコクヒミス
<i>U. t. adversus</i>	ツシマヒミス
<i>U. t. minutus</i>	オキヒミス
<i>U. t. hondonis</i>	ホンシュウヒミス
0015 <i>Euroscaptor mizura</i>	ミスラモグラ
<i>E. m. mizura</i>	フシミスラモグラ
<i>E. m. ohtai</i>	シノノミスラモグラ
0016 <i>Mogera wogura</i>	モグラ
<i>M. w. wogura</i>	アスマモグラ
<i>M. w. minor</i>	コモグラ
0017 <i>M. kobeeae</i>	コウハモグラ
<i>M. k. kobeeae</i>	コウハモグラ
<i>M. k. kanai</i>	ヤクシマモグラ
<i>M. k. coreana</i>	チョウセンモグラ
0018 <i>M. tokudae</i>	オトモグラ

#### CHIROPTERA 翼手目

##### I. PTEROPIDAE オコウモリ科

0019 <i>Pteropus dasymallus</i>	クビワオコウモリ
---------------------------------	----------

	<i>P. d. dasymallus</i>	イラフ <sup>ノ</sup> オコウモリ
	<i>P. d. inopinatus</i>	オリイオコウモリ
	<i>P. d. yaeyamae</i>	ヤイヤマオコウモリ
	<i>P. d. daitoensis</i>	タ <sup>ノ</sup> イトウオコウモリ
0020	<i>P. loochoensis</i>	オキナワオコウモリ
0021	<i>P. pselaphon</i>	オカ <sup>ノ</sup> サワラオコウモリ

II. RHINOLOPHIDAE キクカ<sup>ノ</sup>シラコウモリ科

0022	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクカ <sup>ノ</sup> シラコウモリ
	<i>R. f. nippon</i>	ニホンキクカ <sup>ノ</sup> シラコウモリ
	<i>R. f. mikadoi</i>	ミカド <sup>ノ</sup> キクカ <sup>ノ</sup> シラコウモリ
0023	<i>R. cornutus</i>	コキクカ <sup>ノ</sup> シラコウモリ
	<i>R. c. cornutus</i>	ニホンコキクカ <sup>ノ</sup> シラコウモリ
	<i>R. c. orii</i>	オリイコキクカ <sup>ノ</sup> シラコウモリ
	<i>R. c. pumilus</i>	オキナワコキクカ <sup>ノ</sup> シラコウモリ
	<i>R. c. miyakonis</i>	ミヤココキクカ <sup>ノ</sup> シラコウモリ
	<i>R. c. perditus</i>	ヤイヤマコキクカ <sup>ノ</sup> シラコウモリ
0024	<i>R. imaizumii</i>	イリオモテコキクカ <sup>ノ</sup> シラコウモリ

III. HIPPOSIDERIDAE カク<sup>ノ</sup>ラコウモリ科

0025	<i>Hipposideros turpis</i>	カク <sup>ノ</sup> ラコウモリ
------	----------------------------	-----------------------

IV. VESPERTILIONIDAE ヒナコウモリ科

0026	<i>Myotis formosus</i>	クロアカコウモリ
	<i>M. f. tsuensis</i>	ツシマクロアカコウモリ
0027	<i>M. macrodactylus</i>	モモシ <sup>ノ</sup> コウモリ
0028	<i>M. daubentoni</i>	ト <sup>ノ</sup> -ヘ <sup>ノ</sup> ントコウモリ
	<i>M. d. ussuriensis</i>	ウスリト <sup>ノ</sup> -ヘ <sup>ノ</sup> ントコウモリ
0029	<i>M. gracilis</i>	ウスリホオヒケ <sup>ノ</sup> コウモリ
0030	<i>M. ozensis</i>	オセ <sup>ノ</sup> ホオヒケ <sup>ノ</sup> コウモリ
0031	<i>M. mystacinus</i>	ホオヒケ <sup>ノ</sup> コウモリ
	<i>M. m. fujiensis</i>	フジ <sup>ノ</sup> ホオヒケ <sup>ノ</sup> コウモリ
0032	<i>M. hosonoi</i>	シナホオヒケ <sup>ノ</sup> コウモリ
0033	<i>M. ikonnikovi</i>	ヒメホオヒケ <sup>ノ</sup> コウモリ
0034	<i>M. pruinosis</i>	コホオヒケ <sup>ノ</sup> コウモリ
0035	<i>M. frater</i>	カク <sup>ノ</sup> ヤコウモリ
	<i>M. f. kaguyae</i>	カク <sup>ノ</sup> ヤコウモリ
0036	<i>M. nattereri</i>	ルンコウモリ
	<i>M. n. bombinus</i>	ホント <sup>ノ</sup> ルンコウモリ
0037	<i>Pipistrellus abramus</i>	アブ <sup>ノ</sup> ラコウモリ
0038	<i>P. endoi</i>	モリアブ <sup>ノ</sup> ラコウモリ
0039	<i>P. savii</i>	オオアブ <sup>ノ</sup> ラコウモリ
	<i>P. s. velox</i>	クロオオアブ <sup>ノ</sup> ラコウモリ
	<i>P. s. corensis</i>	コウライオオアブ <sup>ノ</sup> ラコウモリ
0040	<i>Eptesicus nilssonii</i>	ヒメホリカワコウモリ
	<i>P. n. parvus</i>	ヒメホリカワコウモリ
0041	<i>E. japonensis</i>	クヒ <sup>ノ</sup> コウモリ
0042	<i>Nyctalus aviator</i>	ヤマコウモリ
0043	<i>N. furvus</i>	コヤマコウモリ
0044	<i>Vespertilio superans</i>	ヒナコウモリ
0045	<i>V. orientalis</i>	トウヨクヒナコウモリ
0046	<i>Barbastella leucomelas</i>	チチフ <sup>ノ</sup> コウモリ
	<i>B. l. darjelingensis</i>	チチフ <sup>ノ</sup> コウモリ
0047	<i>Plecotus auritus</i>	ウサギ <sup>ノ</sup> コウモリ

	P. a. sacrimontis	ニホンウサギ`コウモリ
0048	Miniopterus fuliginosus	ニホンユビ`ナカ`コウモリ
0049	M. fuscus	リュウキュウユビ`ナカ`コウモリ
0050	Murina leucogaster	テンク`コウモリ
	M. l. hilgendorfi	ニホンテンク`コウモリ
0051	M. ussuriensis	ニホンコテンク`コウモリ
0052	M. tenebrosa	クチハ`テンク`コウモリ

V. MOLOSSIDAE 牝ヒキコウモリ科

0053	Tadarida insignis	牝ヒキコウモリ
------	-------------------	---------

PRIMATES 霊長目

I. CERCOPITHECIDAE ナカ`サル科

0054	Macaca fuscata	ニホンサル
	M. f. fuscata	ホント`サル
	M. f. yakui	ヤクシマサル
0055	M. cyclopis	タイワンサル

LAGOMORPHA ウサギ`目

I. OCHOTONIDAE ナキウサギ`科

0056	Ochotona hyperborea	ナキウサギ`
	O. h. yesoensis	エゾ`ナキウサギ`

II. LEPORIDAE ウサギ`科

0057	Pentalagus furnessi	アマミノクロウサギ`
0058	Lepus timidus	ユキウサギ`
	L. t. ainu	エゾ`ユキウサギ`
0059	L. brachyurus	ノウサギ`
	L. b. brachyurus	キュウシュウノウサギ`
	L. b. okiensis	オキノウサギ`
	L. b. lyoni	サト`ノウサギ`
	L. b. angustidens	トウネクノウサギ`
0060	Oryctolagus cuniculus	カイウサギ`

RODENTIA げっ歯目

I. SCIURIDAE リズ科

	Callosciurus caniceps	川カ`シラリス
0061	C. c. taiwanensis	タイワンリス
	Sciurus vulgaris	キタリス
0062	S. v. orientis	エゾ`リス
0063	S. lis	ニホンリス
0064	Tamias sibiricus	シマリス
	T. s. lineatus	エゾ`シマリス
	T. s. barberi	チョウセンシマリス
0065	Pteromys momonga	ホント`モモンガ`
	P. volans	タイリクモモンガ`
0066	P. v. orii	エゾ`モモンガ`
0067	Petaurista leucogenys	ムササビ`
	P. l. leucogenys	キュウシュウムササビ`

P. l. oreas  
P. l. nikkonis

ワカヤマササビ  
ニッコウムササビ

II. GLIRIDAE 犴鼠科

0068 *Glirulus japonicus*

犴鼠

III. CRICETIDAE 倉鼠科

*Clethrionomys rutilus*

ヒメヤチネズミ

0069 C. r. mikado

ミカトネズミ

C. rufocanus

タイリクヤチネズミ

0070 C. r. bedfordiae

エゾヤチネズミ

0071 C. sikotanensis

シコタンヤチネズミ

0072 C. rex

リシリムクネズミ

0073 C. montanus

ミヤマムクネズミ

0074 *Eothenomys niigatae*

ニイカタヤチネズミ

0075 E. andersoni

トウホクヤチネズミ

0076 E. imaizumi

ワカヤマヤチネズミ

0077 E. kageus

カゲネズミ

0078 E. smithi

スミスネズミ

E. s. smithi

ホントスミスネズミ

E. s. okiensis

オキスミスネズミ

0079 *Microtus montebelli*

ハダネズミ

M. m. montebelli

ホントハダネズミ

M. m. brevicorpus

サトハダネズミ

0080 *Ondatra zibethicus*

マスカラット

IV. MURIDAE 鼠科

0081 *Apodemus speciosus*

アカネズミ

A. s. speciosus

ホントアカネズミ

A. s. sadoensis

サトアカネズミ

A. s. insperatus

オオシマアカネズミ

A. s. navigator

オキアカネズミ

A. s. tusimaensis

ツシマアカネズミ

A. s. dorsalis

セクロアカネズミ

A. s. ainu

エゾアカネズミ

0082 A. miyakensis

ミヤケアカネズミ

0083 A. peninsulae

カラフトアカネズミ

0084 A. argenteus

ヒメネズミ

A. a. argenteus

ホントヒメネズミ

A. a. sagax

ツシマヒメネズミ

A. a. celatus

オキヒメネズミ

A. a. yakui

ヤクヒメネズミ

A. a. tanei

タネヒメネズミ

A. a. hokkaidi

エゾヒメネズミ

0085 A. agrarius

セシネズミ

0086 *Micromys minutus*

カヤネズミ

M. m. japonicus

ホントカヤネズミ

M. m. aokii

ツシマカヤネズミ

0087 *Mus musculus*

ハツカネズミ

M. m. molossinus

ニホンハツカネズミ

M. m. musculus

ヨウシュハツカネズミ

0088 M. caroli

オキナワハツカネズミ

0089 *Tokudaia osimensis*

アマミトケネズミ

T. o. osimensis

アマミトケネズミ

0090	<i>Rattus rattus</i>	オキナクネズミ クマネズミ
	<i>R. r. tanezumi</i>	ニホンクマネズミ
	<i>R. r. diardi</i>	マレーシアクマネズミ
0091	<i>R. norvegicus</i>	トフネズミ
	<i>R. n. norvegicus</i>	ヨウシュトフネズミ
	<i>R. n. caraco</i>	ニホントフネズミ
0092	<i>R. legatus</i>	カナカネズミ
V. CAPROMYIDAE カマリス科		
0093	<i>Myocastor coypus</i>	ヌートリア
CARNIVORA 食肉目		
I. URSIDAE クマ科		
0094	<i>Urusus arctos</i>	ヒクマ
	<i>U. a. yesoensis</i>	エゾヒクマ
0095	<i>Selenarctos thibetanus</i>	ツキノクマ
	<i>S. t. japonicus</i>	ニホントキノクマ
II. PROCYONIDAE アライクマ科		
0096	<i>Procyon lotor</i>	アライクマ
III. CANIDAE イヌ科		
0097	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	タヌキ
	<i>N. p. viverrinus</i>	ホントタヌキ
	<i>N. p. albus</i>	エゾタヌキ
0098	<i>Vulpes vulpes</i>	キツネ
	<i>V. v. schrenckii</i>	キタキツネ
	<i>V. v. japonica</i>	ホントキツネ
0099	<i>Canis familiaris</i>	イヌ
IV. MUSTELIDAE イタチ科		
0100	<i>Martes melampus</i>	テン
	<i>M. m. melampus</i>	ホントテン
	<i>M. m. tsuensis</i>	ツシマテン
0101	<i>M. zibellina</i>	クロテン
	<i>M. z. brachyura</i>	エゾクロテン
0102	<i>Mustela sibirica</i>	チョウセンイタチ
	<i>M. s. coreana</i>	チョウセンイタチ
0103	<i>M. itatsi</i>	イタチ
	<i>M. i. itatsi</i>	ホントイタチ
	<i>M. i. sho</i>	コイタチ
	<i>M. i. asaii</i>	オオシマイタチ
0104	<i>M. nivalis</i>	イヌタ
	<i>M. n. namiyei</i>	ニホンイヌタ
0105	<i>M. erminea</i>	オコシヨ
	<i>M. e. orientalis</i>	エゾオコシヨ
	<i>M. e. nippon</i>	ホントオコシヨ
0106	<i>M. vison</i>	ミンク
0107	<i>Meles meles</i>	アナクマ
	<i>M. m. anakuma</i>	ニホンアナクマ

0108 <i>Lutra lutra</i>	カワウソ
<i>L. l. whiteleyi</i>	ニホンカワウソ
0109 <i>Enhydra lutris</i>	ラッコ
V. VIVERRIDAE シンコウネコ科	
0110 <i>Paguma larvata</i>	ハクビシン
<i>P. l. subsp.</i>	ハクビシンの
0111 <i>Herpestes edwardsi</i>	イントマンクニス
VI. FELIDAE ネコ科	
0112 <i>Felis catus</i>	イネコ
0113 <i>F. euptilura</i>	ツシマヤマネコ
0114 <i>Mayailurus iriomotensis</i>	イリオモテヤマネコ
PINNIPEDIA 鯨脚目	
I. OTARIIDAE アシカ科	
0115 <i>Zalophus californianus</i>	アシカ
<i>Z. c. japonicus</i>	ニホンアシカ
0116 <i>Eumetopias jubatus</i>	トト
0117 <i>Callorhinus ursinus</i>	オットセイ
II. ODOBENIIDAE テイクチ科	
0118 <i>Odobenus rosmarus</i>	テイクチ
<i>O. r. divergens</i>	テイクチ
III. PHOCIDAE アザラシ科	
0119 <i>Phoca vitulina</i>	コマファザラシ
<i>P. v. stejnegeri</i>	コマファザラシ
0120 <i>P. largha</i>	セニカクダザラシ
0121 <i>P. hispida</i>	ワモンアザラシ(フリアアザラシ)
<i>P. h. ochotensis</i>	ワモンアザラシ(フリアアザラシ)
0122 <i>Histiophoca fasciata</i>	クラカケアザラシ
0123 <i>Erignathus barbatus</i>	アコヒケアザラシ
ARTIODACTYLA 偶蹄目	
I. SUIDAE イノシシ科	
0124 <i>Sus leucomystax</i>	ニホンイノシシ
0125 <i>S. riukiuanus</i>	リュウキュウイノシシ
II. CERVIDAE シカ科	
0126 <i>Cervus nippon</i>	ニホンシカ
<i>C. n. nippon</i>	ホントシカ
<i>C. n. yakushimae</i>	ヤクシカ
<i>C. n. keramae</i>	ケラマシカ
0127 <i>C. pulchellus</i>	ツシマシカ
<i>C. hortulorum</i>	タイリクシカ
0128 <i>C. h. yesoensis</i>	エゾシカ
III. BOVIDAE ウシ科	

0129 *Capricornis crispus*  
0130 *Capra hircus*

ニホンカモシカ  
ヤキ

5. 調 査 協 力 者 名 簿  
(哺乳類)

調査者 コード	氏 名 (五十音順)	居住地 (県名)
0740005	東 滋	愛知
0060092	阿部 東	青森
0740092	阿部 永	北海道
0740126	阿部 学	東京
0740003	有本 誠	東京
0740120	泉山 茂之	愛知
0740102	井上 行雄	埼玉
0740125	今泉 吉典	東京
0740015	岩野 泰三	東京
0740074	大泰 司 紀之	北海道
0740038	大津 正英	山形
0740072	織田 銆一	愛知
0740121	小野山 敬一	北海道
0740036	小原 巖	東京
0740090	片山 一	静岡
0720303	加藤 良	岩手
0740096	川島 由次	沖繩
0740051	川路 則友	鹿児島
0740066	近藤 憲久	北海道
0740124	鈴木 さち子	岩手
0720304	鈴木 秀昭	岩手
0740076	高津 繁三	神奈川
0740040	立花 繁信	宮城
0720302	田村 松見	岩手
0740122	伊達 功	岩手
0740044	遠竹 行俊	東京
0720022	当山 昌直	沖繩
0740106	鳥羽山 照夫	千葉
0740043	鳥居 春巳	静岡
0740029	中田 圭亮	北海道
0740055	芳賀 良一	北海道
0740058	原田 正史	大阪
0720272	星野 善一 郎	大岩手
0740023	前田 喜四 雄	岐阜
0740070	宮尾 嶽雄 郎	愛知
0740028	両角 徹郎	長野
0740047	矢部 辰男	神奈川
0740078	吉倉 真博	熊本
0740077	吉田 博一	福岡
0740127	吉行 瑞子	東京
0740123	渡辺 鋼樹	岩手

6. 第3回 自然環境保全基礎調査

動物分布調査のためのチェックリスト（抜粋）

(1) 分 布 表

地 域 種・亜種 <食虫目>	北	東	關	中	近	中	瀬	四	九	佐	鹿	对	老	五	奄	奄	沖	宮	八	伊	小	其		
	海	北	東	東	畿	國	戸	州	州	岐	岐	馬	岐	島	美	美	繩	古	重	豆	笠	他		
アズミトガリネズミ			○ <sup>1</sup>	○ <sup>1</sup>																			1	
シロウマトガリネズミ				○																				2
トウキョウトガリネズミ	○																							3
カラフトヒメトガリネズミ	○																							4
ホンシュウトガリネズミ		○	○	○																				5
シコクトガリネズミ								○																6
エゾトガリネズミ	○																							7
オオアシトガリネズミ	○																							8
チヨクセンコジネズミ													○											9
ワタセジネズミ																	○	○						10
サイゴクジネズミ					○	○		○	○		○													11
ホンシュウジネズミ	○	○	○	○	○	○				○											○			12
ヤクシマジネズミ															○									13
オリイジネズミ																	○							14
リュウキュウジャコウネズミ									○						○	○	○	○	○					15
ニホンカワネズミ		○	○	○	○	○		○	○															16
ヒメヒミズ		○	○	○	○	○		○	○															17
キュウシュウヒミズ									○						○									18
シコクヒミズ									○															19
ツシマヒミズ									○				○											20
オキヒミズ													○											21
ホンシュウヒミズ		○	○	○	○	○	○															○		22
フジミズラモグラ		○ <sup>1</sup>	○ <sup>1</sup>	○	○ <sup>2</sup>																			23
シナノミズラモグラ		○ <sup>3</sup>	○ <sup>3</sup>	○ <sup>3</sup>																				24
アズマモグラ		○	○	○																				25
コモグラ		○	○	○	○	○	○																	26
コウベモグラ			○	○	○	○	○	○																27
ヤクシマモグラ															○	○								28
チヨクセンモグラ															○									29
サドモグラ														○ <sup>1</sup>										30
<翼手目>																								
エラブオオコウモリ									○ <sup>2</sup>						○ <sup>3</sup>	○ <sup>4</sup>								31
オリイオオコウモリ																	○							32
ヤエヤマオオコウモリ																				○				33
ダイトウオオコウモリ																				○ <sup>5</sup>				34
オキナワオオコウモリ																				○ <sup>6</sup>				35
オガサワラオオコウモリ																						○ <sup>7</sup>		36
ニホンキクガンラコウモリ				○	○	○							○											37
ミカドキクガンラコウモリ	○	○	○	○	○	○			○	○														38
ニホンキクガンラコウモリ	○	○	○	○	○	○			○	○												○ <sup>8</sup>		39
オリイキクガンラコウモリ																	○							40
オキナワキクガンラコウモリ																		○						41
ミヤコキクガンラコウモリ																				○				42
ヤエヤマキクガンラコウモリ																						○		43
イリオモテキクガンラコウモリ																						○		44
カグラコウモリ																						○		45
ツシマクロアコウモリ																								46
モモジロコウモリ	○	○	○	○	○	○			○	○			○											47
ウスリドーベンドコウモリ	○																							48
ウスリホオヒゲコウモリ	○																							49
オゼホオヒゲコウモリ				○ <sup>10</sup>																				50

- 備考
- 北アルプス南部、志賀高原などの高山、亜高山
  - 白馬、立山のみ
  - 沖之島にも産す
  - 飛島にも産す
  - 新島
  - 国外では韓国の新島に産するのみ。ほとんど日本固有種といつてよい。
  - きわめて稀
  - 長崎、鹿児島
  - 淡路島
  - 新潟県糸島
  - 太平洋岸の山地
  - 広島県比和
  - 中央部および日本海岸の山地
  - 対岸の新潟県にも産す
  - 鹿児島で1頭記録
  - 口之水良部島
  - 宝島
  - 南大東島
  - 2頭の記録のみ、絶滅?
  - 佐賀諸島も含む
  - 八丈島、新島
  - 石垣島のみ
  - 西表島のみ
  - 石垣島、西表島、与那国島
  - 尾瀬で1頭記録

種・亜種	地域													備考										
	北海	東	関	中	近	中	瀬戸内諸島	四	九	佐	総	対	宅		五	大	奄	沖	宮	八	伊	小	その	
フジホオヒゲコウモリ				○ <sup>1</sup>																				1 富士山で2頭記録
シナノホオヒゲコウモリ	○	○	○																					2 札幌で2頭記録
ヒメホオヒゲコウモリ	○																							3 青森で1頭記録
コホオヒゲコウモリ		○	○	○	○	○		○																4 殿原で2頭記録
カグヤコウモリ	○	○		○																				5 福岡県大帆島
ホンドノレンコウモリ		○	○	○	○	○		○	○															6 小田原, 秩父
アブラコウモリ		○	○	○	○	○		○	○	○		○	○			○								7 きわめて稀
モリアブラコウモリ		○	○	○																				8 屋久島
クロオオアブラコウモリ	○ <sup>2</sup>	○ <sup>3</sup>																						9 1頭記録
コウライオオアブラコウモリ												○ <sup>4</sup>												10 5頭記録
ヒメホリカワコウモリ	○				○																			
クビワコウモリ					○																			
ヤマコウモリ	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○												
コヤマコウモリ	○																							
ヒナコウモリ			○ <sup>5</sup>						○ <sup>5</sup>															
トウヨウヒナコウモリ	○	○	○	○				○																
チチバコウモリ ?	○	○	○	○				○																
ニホンウサギコウモリ	○	○	○	○				○																
ニホンユビナガコウモリ		○	○		○			○	○	○		○	○											
リュウキュウユビナガコウモリ																○	○		○					
ニホンテングコウモリ	○	○	○	○				○																
ニホンコテングコウモリ	○	○	○	○	○			○				○			○ <sup>8</sup>									
クチバテングコウモリ												○ <sup>9</sup>												
オヒキコウモリ	○			○				○																
<産長目>																								
ホンドサル	○	○	○	○	○	○	○	○	○															
ヤクシマサル															○ <sup>1</sup>									1 屋久島
タイワンサル																			○ <sup>2</sup>					2 伊豆大島(移入・帰化)
<ウサギ目>																								
ナキウサギ	○																							3 嘉屋真島
アマミノクロウサギ															○									4 東京, 江ノ島, 鎌倉
エゾユキウサギ	○																							5 友ヶ島
キュウシュウノウサギ	○	○	○	○	○	○		○	○															6 伊豆大島
オキノウサギ											○													
サドノウサギ											○													
トウホクノウサギ	○	○	○	○	○	○																		
カイウサギ	○					○													○ <sup>3</sup>	○				
<げっ歯目>																								
タイワンリス			○ <sup>4</sup>	○	○ <sup>5</sup>															○ <sup>6</sup>				
エゾリス	○																							
ニホンリス	○	○	○	○	○	○	○	○	○															
エゾシマリス	○																							
チョウセンシマリス	○		○																					
ホンドモモンガ	○	○	○	○	○	○		○	○															
エゾモモンガ	○																							
キュウシュウムササビ								○	○															
ワカヤマムササビ					○																			
ニッコウムササビ	○	○	○																					
ヤマ	○	○	○					○	○															
ミカドネズミ	○																							
エゾヤチネズミ	○																							
シコタンヤチネズミ	○ <sup>7</sup>																							

種・亜種	地域														備考									
	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	瀬戸内諸島	四国	九州	佐賀	熊本	徳島	香取	大隅		奄美	沖縄	宮古	八重山	伊豆	小笠原	その他の島嶼		
リシリムクゲネズミ	○ <sup>1</sup>																							1 利尻
ミヤマムクゲネズミ	○ <sup>2</sup>																							2 日高, 大館, 北見
ニイガタヤチネズミ				○ <sup>3</sup>																				3 高山・亜高山帯 (1500m以上)
トウホクヤチネズミ	○	○																						4 紀伊半島
ワカヤマヤチネズミ				○ <sup>4</sup>																				5 山地・亜高山帯
カゲネズミ		○ <sup>5</sup>	○ <sup>5</sup>																					6 東京都江戸川付近
ホンドスミスネズミ				○	○			○	○															7 三宅島
オキスミスネズミ										○														8 屋久島
ホンドハタネズミ	○	○	○	○	○			○																9 種子島
サドハタネズミ										○														10 尖閣諸島
マスカラット		○ <sup>6</sup>																						
ホンドアカネズミ	○	○	○	○	○			○	○					○	○									
サドアカネズミ										○														
オオシマアカネズミ																				○				
オキアカネズミ										○														
ツシマアカネズミ											○													
セグロアカネズミ														○										
エゾアカネズミ	○																							
ミヤゲアカネズミ																				○				
カラフトアカネズミ	○																							
ホンドヒメネズミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○										
ツシマヒメネズミ											○													
オキヒメネズミ										○														
ヤクヒメネズミ															○ <sup>8</sup>									
タネヒメネズミ															○ <sup>9</sup>									
エゾヒメネズミ	○																							
セスジネズミ																						○ <sup>10</sup>		
ホンドカヤネズミ			○	○	○			○	○	○														1 八丈島
ツシマカヤネズミ											○													2 局地的に産するのみ
ニホンハツカネズミ	○	○	○	○	○	○		○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○			3 絶滅?
ヨウシュハツカネズミ																					○			4 大山市周辺
オキナソハツカネズミ																	○	○	○					5 知夫里島 (移入)
アマミトゲネズミ															○									6 佐渡 (移入)
オキナワトゲネズミ																	○							7 移入
ニホンクマネズミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8 移入
マレーシアクマネズミ																					○			
ヨウシュドブネズミ																○					○			
ニホンドブネズミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
クナガネズミ																○	○							
ヌートリア 2			○	○	○			○																
<食肉目>																								
エゾヒグマ	○																							
ニホンツキノワグマ			○	○	○	○		○	3															
アライグマ				○ <sup>4</sup>																				
ホンドタヌキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○ <sup>5</sup>														
エゾタヌキ	○																							
キタキツネ	○																							
ホンドキツネ		○	○	○	○			○	○					○										
ホンドテン	○ <sup>6</sup>	○	○	○	○			○	○	○ <sup>6</sup>														
ツシマテン											○													
エゾクロテン	○																							
チョウセンイタチ				○				○	○ <sup>7</sup>	○														
ホンドイタチ	○ <sup>8</sup>	○	○	○	○			○	○	○ <sup>8</sup>				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

地域 種・亜種	北	東	関	中	近	中	瀬	九	佐	察	対	色	五	大	奄	宮	八	伊	小	そ	備 考
	海	北	東	部	畿	国	戸	州	渡	岐	馬	後	島	嶺	尾	古	重	豆	笠	他	
コ イ タ ナ														○				○			1 伊豆大島、コイタナとの関係 未詳
オ オ シ マ イ タ ナ																		○			2 移入
ニホンイヌ(コエゾイタナ)	○	○																			3 高知県海西部沿岸
エゾオコジョ(エゾイタナ)	○																				1 1981年に北海道東岸で確認
ホンドオコジョ	○	○	○	○																	5 移入
ミ シ ャ	○	○		○																	6 西表島
ニホンアナグマ	○	○	○	○	○	○	○	○	○												7 絶滅
ニホンカワウソ								△													8 能半沖以北
ラ ッ コ		○																			9 八戸で記録
ハクビシン	○	○	○	○				○													
インドマングース																					(5)
ツシマヤマネコ																					6
イリオモテヤマネコ																					6
<糖類目>																					
ニホンアノカ								?													
ト																					
オットセイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○												3
セイウチ	○	○	○	○	○	○	○	○	○												3
ゴマフアサラン	○																				
ゼニガタアサラン	○																				
ワモン(フィリ)アサラン	○																				
クラカケアサラン	○																				
アゴヒゲアサラン	○																				
<偶蹄目>																					
ニホンイノシシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○							
リュウキュウイノシシ																					
ホンドジカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○							1 移入
ヤクシカ																					2 優良間猪場(移入?)
ケラマジカ																					3 野化
ツシマジカ																					
エゾシカ	○																				
ニホンカモシカ	○	○	○	○				○	○												
ヤギ																					○ <sup>3</sup> ○ <sup>3</sup> ○ <sup>3</sup>



(2) 類 型 表

種・亜種	生物地理的特性						分 布				個 体 数				生 息 地 ( 生 息 環 境 )	食 性	人為的影響	外 来 種	狩 猟 獣	農 林 産 物 「 食 害 」	備 考
	種		亜 種		属 の 北 限	属 の 南 限	本 上 で 局 限	本 土 で 局 限	島 嶼 の み	そ の 他	多 い	普 通	少 い	僅 め て 少							
	固 有 種	固 外 分 布 局 限	固 有 亜 種	固 外 分 布 局 限																	
アズミトガリネズミ						○							○	亜高山～高山までの森林, 高山帯	虫 食						
シロウマトガリネズミ						○							?	高山帯	"					数箇所の記録のみ	
トウキョウトガリネズミ			○			(北) ○							○	サロベツ原野周辺の低木林 など	"					数地点の記録のみ	
カラフトヒメトガリネズミ				○					(北) ○	○				北海道のみ、南部では高地, その他では平地～山地	"						
ホンシュウトガリネズミ			○						○	○				中山～高山までの森林	"						
シコクトガリネズミ		○	○			○							○	中山～高山までの低木林から 森林	"						
エゾトガリネズミ			○						(北) ○	○				低木林から森林、高山では 少ない	"						
オオアシトガリネズミ		○							(北) ○	○				低地～高山までの主として草 原低木林。森林では少ない。	"						
チョウセンコジネズミ			○					○		○				平地の牧草地	"						
ワタセジネズミ	○		○					○	○					平地～低山までの河畔草原, 森林	"						
サイゴクジネズミ									○	○				平地～低山までの低木林	"					国外では韓国の済州島にのみ分布	
ホンシュウジネズミ		○							○	○				平地～中山までの草原, 河畔, 牧草地, 低木林	"						
ヤクシマジネズミ								○					○	低山～中山までの草原, 低木林	"						
オリジネズミ	○							○					○	?	"						
リュウキュウジャコウ ネズミ		○	○						○	○				市街地, 村落, 耕作地	"		○			九州では移入	
ニホンカワネズミ	○		○		○				○				○	低山～中山までの谷川, 水辺	水性昆虫 ヒル, 魚など				養魚地に 出没		
ヒメヒミズ	○								○	○				中山～高山までの低木林から 森林	虫 食 植物食					一属一種(固有属)	
キュウシュウヒミズ									○	○				平地～中山までの 耕作地～森林まで多様	"						
シコクヒミズ									○	○				"	"						

種・亜種	生物地理的特性					分布(北)北海道			個体数				生息地 (生息環境)	食性	人為的影響	外來種	狩猟獣	農林産物 「食害」	備考				
	固有種	国外分布局限	国外分布広	固有亜種	国外分布局限	国外分布広	属の南限	属の南限	本土で局限	本土で局限	島の嶼のみ	その他								多い	普通	少ない	種を
ツシマヒミズ	○									○	○				平地～中山までの耕作地～森林まで多様	虫食 植物食				一属一種(固有属)			
オキヒミズ										○	○				"	"							
ホンシュウヒミズ											○	○			平地～亜高山帯上部までの耕作地～森林まで多様	"							
フジミズラモグラ								○							低山～亜高山上限までの森林								
ツナノミズラモグラ								○							亜高山～高山までの森林から高山帯								
アズマモグラ											○	○			平地～丘陵までの耕作地、草原	虫食	宅地化 道路舗装			農作物、ゴルフ場、庭木			
コモグラ											○	○			平地～丘陵までの森林	"	"						
クウベモグラ				○							○	○			平地～低山までの耕作地など多様	"				農作物、ゴルフ場			
ヤクシマモグラ				○							○	○			海岸線の耕作地	"				"			
チロウセンモグラ											○	○			"	"				"			
サドモグラ											○	○			平地～低山までの耕作地	果実・花食	新潟では宅地化 道路舗装			農作物、ゴルフ場、庭木	1 新潟平野に産す (保護の必要あり)		
エラブオオコウモリ				○	○					○					森林(?)	"							
オリイオオコウモリ	○			○						○					?	"				農作物			
ヤエヤマオオコウモリ				○						○					平地～低山までの森林	"				農作物(パイナップル、バナナなど)	国外分布は台湾の火烧島のみのみ		
ダイトウオオコウモリ				○						○					"	"							
オキナワオオコウモリ	○									○					?	"					標本2点のみ、絶滅?		
オガサワラオオコウモリ	○									○					?(平地の森林)	"							
ニホンキクガシラコウモリ										○	○		(北)○		平地～中山の高湿度の洞窟	"				農薬散布 洞窟減少			
ミカドキクガシラコウモリ				○						○					"	"					"		
ニホンコキクガシラコウモリ										○					"	"							

	生物地理的特性					分 布		個 体 数				生 息 地 (生息環境)	食 性	人為的影響	外 来 種	狩 猟 獣	農林産物 「食害」	備 考	
	種		亜種		属	属	(北):北海道		多	普	少								種
	固 有 種	国 外 分 布 局 限	固 有 種	国 外 分 布 局 限			国 外 分 布 局 限	国 外 分 布 局 限											
オリコキクガシラ コウモリ											○		虫食						
オキナワコキクガシラ コウモリ	○										○		"						
ミヤココキクガシラ コウモリ											○		"					絶滅?	
ヤエヤマコキクガシラ コウモリ											○	平地の洞窟	"						
イリオモテキクガシラ コウモリ	○										○	"	"						
カグラコウモリ	○										○	平地の洞窟	"					タイ南部にのみ近似種を産す	
ツシマクロアカコウモリ				○							○	丘陵の疎林～森林						数頭のみ記録	
モモジロコウモリ	○										○	平地～中山までの 洞窟、水辺に多い	"						
ウスリドーベントン コウモリ		○					(北)				○	人家で捕獲						数頭のみ記録	
ウスリホオヒゲコウモリ				○					(北)		○	森林(?)人家でも捕獲	"						
オゼホオヒゲコウモリ	○										?	森林						一頭のみ記録	
フジホオヒゲコウモリ	○											?						"	
シナノホオヒゲコウモリ	○										○	中山～亜高山までの森林	"						
ヒメホオヒゲコウモリ		○							(北)		○	森林(針葉樹林)	"						
コホオヒゲコウモリ	○										○	山地の森林	"						
カグヤコウモリ		○	○								○	山地の森林 北海道では平地の森林	"						
ホンドノレンコウモリ		○	○								○	山地の森林	"						
アブラコウモリ		○									○	市街地、村落	"						
モリアブラコウモリ	○										○	中山の森林	"						
クロオオアブラコウモリ		○									○	?	"					きわめて稀	

種・亜種	生物地理的特性						分布 (北) : 北海道				個体数				生息地 (生息環境)	食性	人為的影響	外来種	狩猟	農林産物 「食害」	備考
	種		亜種		属の北限	属の南限	本土で局限	本土でのみ	島の他	多い	普通	少ない	極めて少								
	固有種	国外分布局限	国外分布広	固有亜種										国外分布局限							
コウライオオアブラ コウモリ			○					○				○	?	虫食						きわめて稀	
ヒメホリカワコウモリ			○				(北)○					○	?	"						北海道から数例	
クビワコウモリ	○							○				○	中山～亜高山までの森林	"							
ヤマコウモリ			○						○			○	平地～低山までの森林, 樹洞	"							
コヤマコウモリ	○								○			○	低山の森林	"							
ヒナコウモリ			○						○			○	人家付近	"							
トウヨウヒナコウモリ			○						○			○	人家付近	"							
チチブコウモリ			○						○			○	森林(?)	"							
ニホンウサギコウモリ			○	○					○			○	低山～高山までの森林, 洞窟 人家にも入る。	"							
ニホンユビナガコウモリ			○						○			○	海岸の洞窟	"							
リュウキュウユビナガ コウモリ			○						○			○	"	"							
ニホンテングコウモリ			○	○					○			○	低山～中山までの森林, 洞窟	"							
ニホンコテングコウモリ			○	○					○			(北)○	低山～亜高山までの森林	"							
クチバテングコウモリ	○								○			○	丘陵の洞窟	"						1頭のみ記録	
オヒキコウモリ	○								○			○	平地の市街地, 村落	"						数例のみ記録	
ホンドザル									○			○	低山～亜高山までの森林	雑食(主として果実)	森林伐採				農林産物 各種		
ヤクシマザル									○			○	平地～亜高山までの森林	"	"						
タイワンザル					○				○			?	山地の森林	"		○					
エゾナキウサギ			○	○					(北)○			○	低山～高山までの岩場	植物食	登山者の立入り						
アマミノクロウサギ	○								○			○	平地～低山の草原, 低木林, 森林	"				造林木被害	一属一種(固有属)		

種・亜種	生物地理的特性						分布 (北)：北海道				個 体 数	生 息 地 (生息環境)	食 性	人為的影響	外 来 種	狩 猟 獸	農林産物 「食害」	備 考			
	種		亜種		属 の 北 限	属 の 南 限	本 土 で 局 限	本 土 で み	島 嶼 の 他	多 い									普 通	少 な い	僅 め て
	固 有 種	国 外 分 布 局 限	固 有 種	国 外 分 布 局 限																	
エゾユキウサギ		○	○					○	○				平山～高山までの草原、低木林、森林	植物食		○	造林木食害				
キュウシュウノウサギ								○	○				平地～高山までの疎林、低木林	"		○					
オキノウサギ	○							○	○				"	"		○					
サドノウサギ								○	○				"	"		○					
トウホクノウサギ								○	○				"	"		○					
カイウサギ		○						○	○									植生に害			
タイワンリス		○	○				○		○				平地～低山までの森林	果実、種子食		○	農産物被害				
エゾリス		○	○					(北)○	○				平地～亜高山までの森林	"	森林伐採	○					
ニホンリス	○							○	○				平地～亜高山までの森林		狩猟圧	○		九州では生息しない、可能性あり			
エゾシマリス		○	○					(北)○	○				平地～高山までの低木林に多い		チョウセンマリスの放飼	○					
チョウセンシマリス		○					○		○				平地～高山の低木林	果実・種子食							
ホンドモモンガ	○					○			○				低山～亜高山の森林		森林伐採						
エゾモモンガ		○	○					(北)○	○				平地～中山の森林								
キュウシュウムササビ			○					○	○				平地～	植物食	森林伐採						
ワカヤマムササビ	○		○					○	○					"	"						
ニッコウムササビ			○			○		○	○				平地～亜高山までの森林、樹洞	"	"						
ヤマ	○								○				中山～亜高山		"			一属一種(固有属)			
ミカドネズミ		○	○					(北)○	○				平地～高山までの森林(特に針葉樹林)	植物昆虫							
エゾヤチネズミ		○	○					(北)○	○				平地～高山までの草原、低木林に多い	"				造林木食害			
シコタンヤチネズミ	○							(北)○	○	○	○		草原～低木林								

種・亜種	生物地理的特性							分布							生息地 (生息環境)	食性	人為的影響	外来種	狩猟	農林産物 「食害」	備考				
	種		亜種					本土 局限	本土 局限	島嶼 のみ	その他	多 い	普 通	少 な い								優 め て 少			
	固有 分布 局限	国外 分布 局限	固有 亜種	国外 分布 局限	国外 分布 局限	属の 北限	属の 南限																		
リシリムクゲネズミ	○	○							(北)					○	平地～中山までの森林	植物, 昆虫									
ミヤマムクゲネズミ	○	○							(北)					○	中山～高山までの 低木林, 森林, ハイマツ帯	"									
ニイガタヤチネズミ	○								○					○	亜高山～高山までの 森林, 高山帯の岩礫地	"									
トウホクヤチネズミ	○								○					○	平地～亜高山までの草原, 森林	"	平地の 宅地化								
ワカヤマヤチネズミ	○							○						○	平地～中山までの森林	"									
カゲネズミ	○							○						○	低山～亜高山までの森林, 岩礫地	"								スミスネズミとの種の異同 の問題あり	
ホンドスミスネズミ	○									○				○	低山～亜高山までの森林, 林縁	"								造林木食害	
オキスミスネズミ	○									○				○	平地の低木林	"									
ホンドハタネズミ	○										○			○	平地～高山まで	"								造林木食害	
サドハタネズミ	○									○				○	平地	"									
マスカラット			○						○					○	平地の水辺	植物食									ハス池食害
ホンドアカネズミ											○			○	平地～亜高山までの低木林	種子, 昆虫									
サドアカネズミ											○			○	"	"									
オオシマアカネズミ														○	"	"									
オキアカネズミ	○										○			○	"	"									
ツシマアカネズミ														○	"	"									
セグロアカネズミ														○	"	"									
エゾアカネズミ											(北)			○	平地～亜高山上部までの低木林	"									
ミヤケアカネズミ	○										○			○	"	"									
カラフトアカネズミ			○								(北)			○	平地～低山までの二次林 (比較的乾燥した場所)	"									

種・亜種	生物地理的特性						分布 (北) 北海道				個体数				生息地 (生息環境)	食性	人為的影響	外来種	狩猟獣	農林産物「食害」	備考
	種		亜種		属の北限	属の南限	木上での局限	木上でのみ	島の他	多	普通	少ない	極めて少ない								
	固有種	国外分布局限	国外分布局限	固有亜種										国外分布局限							
ホンドヒメネズミ														低山～高山までの森林	種子, 昆虫						
ツシマヒメネズミ														"	"						
オキヒメネズミ														"	"						
ヤクヒメネズミ	○													"	"						
タネヒメネズミ														"	"						
エゾヒメネズミ														"	"						
ホンドカヤネズミ			○	○										平地～低山までの牧草地, 耕作地, 河川敷		河川改修					
ツシマカヤネズミ			○	○										"		河川改修					
ニホンハツカネズミ			○	○ <sub>γ</sub>										村落, 耕作地					畑作物に多少の害		
ヨウシュハツカネズミ			○		○									市街地							
オキナワハツカネズミ			○											村落, 耕作地							
アマイトゲオゾミ														森林, 林縁, 低木林		森林伐採で増加					
オキナワトゲネズミ	○													"						一属一種 (固有属)	
ニホンクマネズミ				○ <sub>γ</sub>										山間部落, 耕作地					衛生害獣 農作物食害		
マレーシアクマネズミ				○										市街地, 耕作地					"		
ヨウシュドブネズミ				○		○								市街地, 耕作地					農作物食害 衛生害獣		
ニホンドブネズミ				○		○								山間部落, 耕作地					"		
ケナガネズミ	○													平地～低山の森林						一属一種	
ヌートリア			○											平地の水辺					農作物被害		
エゾヒグマ			○	○										平地～高山の森林	雑食 (植物質が主)	狩猟圧開発			農作物・果樹, 家畜		

種・亜種	生物地理的特性						分布 (北) : 北海道				個体数				生息地 (生息環境)	食性	人為的影響	外来種	狩猟獣	農林産物「食害」	備考		
	種		亜種		属の北限		属の南限		本土で局限	本土のみ	島の他	その他	多い	普通								少ない	極めて少ない
	固有	国外分布局限	固有	国外分布局限	固有	国外分布局限	固有	国外分布局限															
ニホンツキノワグマ			○	○							○		○			低山～高山の森林	植物食	有害獣駆除		○	農作物・果樹		
ホンドタヌキ			○								○		○			平地～低山	雑食	農薬(特に殺七剤)		○	農作物・果樹		
エゾタヌキ			○								(北)○		○			"	"	"		○			
キタキツネ			○								(北)○		○			平地～高山	"	"		○		エゾライチョウ捕食	
ホンドキツネ			○								○		○			平地～亜高山	"	"		○	エヒノコックス	ライチョウ捕食	
ホンドテン			○								○		○			低山～亜高山までの森林	"	狩猟圧		○		北海道へは移入	
ツシマテン			○								○		○			低山の森林	"			○			
エゾクロテン			○	○							(北)○		○			平地～亜高山までの森林	"					移入したホンドテンと交雑の可能性	
チロウセンイタチ			○								○		○			平地～?	肉食(ネズミ, 昆虫など)			○	○		
ホンドイタチ											○		○			平地～亜高山までの市街地, 森林	"				○	北海道へは移入	
コイタチ	○										○		○			市街地～森林	"				○		
オオシマイタチ											○		○			"	"				○		
ニホンイイズナ			○	○							○		(北)○	○		平地～中山までの村落周辺, 草原, 低木林	"						
エゾオコジョ			○								(北)○			○		中山～高山の岩場	"						
ホンドオコジョ			○								○			○		中山～高山の岩場	"						
ミンク			○								(北)○		○			平地～中山までの河川周辺	肉食(ネズミ, 昆虫)			○		養魚池	
ニホンアナグマ			○	○							○		○			平地～中山	雑食				○	農産物	
ニホンカワウソ			○	○							○			○		水辺	肉食(魚, 甲殻類など)	狩猟圧開発, 魚網					
ラッコ			○								(北)○			○									迷獣?
ハクビシン			○								○		○				雑食				?	農作物・果樹	

種・亜種	生物地理的特性						分布(北):北海道				個体数				生息地 (生息環境)	食性	人為的影響	外来種	狩猟獣	農林産物 「食害」	備考
	種		亜種		属の北限	属の南限	本土で局限	本土で限	島の	その他	多い	普通	少ない	極めて少							
	固有種	国外分布局限	固有種	国外分布局限																	
インドマングース		○										○		Y (平地)	雑食		○				
ツシヤママネコ		○											○	平地～低山までの低木林～森林	肉食						
イリオモテヤマネコ	○													平地～低山までの森林, 川辺	"	開発, 餌の減少 イノシシワナ				一属一種(固有属)	
ニホンアシカ		○	○	Y																絶滅	
トド		○											○							漁業被害	
オットセイ		○											?								
セイウチ		○																		迷獣	
ゴマフアザラン		○										○		流水で繁殖		魚網					
ゼニガタアザラン		○												岩礁で繁殖		狩猟圧, 魚網					
ワモン(フイリ)アザラン		○											○			魚網					
トラカケアザラン		○														"					
アゴヒゲアザラン		○														"					
ニホンイノシシ	○													平地～低山までの低木林～森林	雑食	狩猟圧 豚コレラ	○		農作物食害		
リュウキュウイノシシ	Y													平地～低山までの耕作地～森林	"	狩猟圧	○		"	石垣島, 西表島では最近激減	
ホンドジカ														平地～亜高山	植物食	狩猟圧	○				
ヤクシカ	○													"	"		○				
ケラマジカ														平地	"						
ツシマジカ	○	Y													"	有害鳥獣 駆除	○		造林木食害		
エゾシカ		○	○											平地～中山	"	"	○		"		
ニホンカモシカ	○													低山～高山	"	"			"	四国, 九州では少ない	
ヤギ		○													植物食		○				

## 7. 分布図索引 (和名 50 音順)

### 哺乳類確認種和名リスト

0084 アカスミ	0078 スミスミ
0001 アシトカリスミ	0120 セニカダアラシ
0107 アクマ	0064 タイソリス
0037 アラコウモリ	0097 タヌキ
0057 アマミノクワガキ	0046 チチアコウモリ
0096 アライグマ	0002 チビトカリスミ
0104 イスナ	0102 チョウセンイタチ
0112 イナゴ	0095 ツキノワグマ
0103 イタチ	0113 ツシマヤマネコ
0099 イヌ	0100 テン
0024 イリスモチコキカシラコウモリ	0050 テンクコウモリ
0114 イリスモチヤマネコ	0075 トクホクヤチネスミ
0111 イントマソグース	0045 トクゾウヒナコウモリ
0047 ウサギコウモリ	0116 トト
0128 イゾシカ	0091 トフネスミ
0066 イゾモソカ	0028 トーハソソコウモリ
0070 イゾヤチネスミ	0056 オキワサキ
0062 イゾリス	0074 ニイカダヤチネスミ
0006 スニアシトカリスミ	0124 ニホンイノシシ
0021 スカウラオオコウモリ	0129 ニホンカモシカ
0105 スコジヨ	0051 ニホンコテンクコウモリ
0117 オツトセイ	0054 ニホンツル
0008 オナカシネスミ	0126 ニホンシカ
0053 オヒキコウモリ	0048 ニホンヒナカコウモリ
0010 オリジネスミ	0063 ニホンリス
0060 カイワサキ	0059 ノウサキ
0035 カクヤコウモリ	0036 ノレコウモリ
0025 カクラコウモリ	0110 ハクビシソ
0077 カゲネスミ	0079 ハタネスミ
0086 カヤネスミ	0087 ハツカネスミ
0088 カラフトアカネスミ	0094 ヒクマ
0003 カラフトヒメトカリスミ	0014 ヒミス
0108 カワウソ	0084 ヒメネスミ
0012 カワネスミ	0013 ヒメヒミス
0022 キクダシラコウモリ	0033 ヒメネスヒゲコウモリ
0098 キツネ	0040 ヒメホリカワコウモリ
0052 クチハテソクコウモリ	0031 ホソヒゲコウモリ
0019 クビワスアコウモリ	0065 ホソトモソカ
0041 クビコウモリ	0069 ミカトネスミ
0090 クマネスミ	0015 ミスラモグラ
0101 クロテン	0073 ミヤマクダネスミ
0017 コウモリ	0106 ミソク
0023 コキカシラコウモリ	0067 ムナヒ
0007 コシネスミ	0016 モグラ
0119 コマダアラシ	0027 モモシコウモリ
0043 コヤマコウモリ	0038 モリアアラコウモリ
0018 コーモグラ	0042 ヤマコウモリ
0071 シコタンヤチネスミ	0068 ヤマヌ
0032 シノホスヒゲコウモリ	0058 ヱキワサキ
0009 シネスミ	0072 リシリクダネスミ
0064 シマリス	0125 リュウキユフイノシシ
0011 シヤコウネスミ	0049 リュウキユフヒナカコウモリ
0004 シノトカリスミ	0076 ワカヤマヤチネスミ
	0121 ワモンアラシ(ワイリアアラシ)





